

# 令和3年度 海洋教育「ひろの学」 実践記録集



洋野町教育委員会

# 目 次

## 令和3年度 海洋教育「ひろの学」実践記録集

1 洋野町における海洋教育「ひろの学」について .....	1
・海洋教育「ひろの学」の取組	
・海洋教育「ひろの学」年間実施スケジュール	
2 洋野町立各小中学校海洋教育の位置付け（年間指導計画、全体計画等） および学習指導案等（単元計画及び授業案） .....	13
・洋野町立種市小学校 .....	14
・洋野町立角浜小学校 .....	29
・洋野町立宿戸小学校 .....	43
・洋野町立中野小学校 .....	103
・洋野町立大野小学校 .....	162
・洋野町立林郷小学校 .....	180
・洋野町立帯島小学校 .....	190
・洋野町立向田小学校 .....	196
・洋野町立種市中学校 .....	210
・洋野町立中野中学校 .....	223
・洋野町立大野中学校 .....	235



# **1 洋野町における 海洋教育「ひろの学」に ついて**

1 洋野町における海洋教育「ひろの学」について

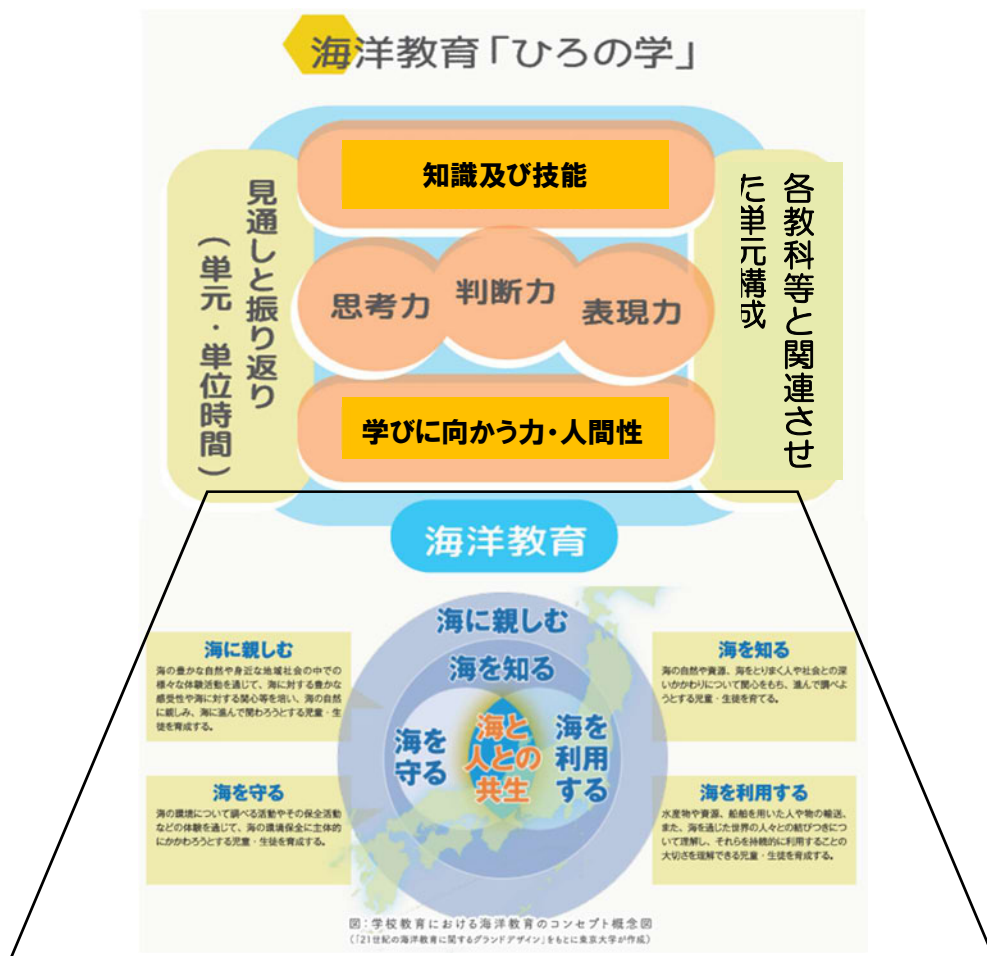
「海洋教育『ひろの学』」のめざすところ

「自分たちの生まれ育ってきた地域に愛情と誇りをもち、たくましく生き抜くことができる子どもを育てること」です。

「海洋教育『ひろの学』」はこれまで各学校で行われてきた教育課程を、「海・海洋」を切り口に見直すことから始まります。各教科・領域で「海・海洋」（＝身の回りの出来事）と関連させることで、実生活を意識し、より主体的な学習が期待できます。また、海洋汚染や海洋ごみ、地球温暖化による豪雨災害や海水温の変化、気候変動などの問題を取り上げることを通して、自然とのつながり、人とのつながり、自然と人とのつながりを意識しながら、海と人との共生について考えていくこともできます。

「海洋教育『ひろの学』」のめざすところ

海の豊かな自然と親しむ活動や身近な地域社会の中で海とのつながりを感じることができるような体験活動、海や地域について調べる活動、その保全活動などの体験を通して、海や地域に対する関心を高めるとともに、海洋環境、水産資源、船舶運輸など海洋と人間の関係及び海を通じた世界の人々との結び付きについて理解させ、社会の形成者としての資質・能力を養う。



**【洋野町の海洋教育「ひろの学」の目標】**

各学年の目標を「学びに向かう力・人間性等」の視点で整理する。小学校は1・2年、3・4年、5・6年、中学校は1年～3年共通で目標を設定する。

「態度」には、生きて働く海や自分たちの住む地域に関する知識・技能を習得すること、理解していること・できることをどのように使うか等、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を育成すること、海や地域、社会や世界とかがわりよりよい人生を送るかを考えていくこと（学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養）を含む。

**目標<小学校・中学校>**

海の豊かな自然と親しむ活動や身近な地域社会の中で海とのつながりを感じることができるような体験活動、海や地域について調べる活動、その保全活動などの体験を通して、海や地域に対する関心を高めるとともに、海洋環境、水産資源、船舶運輸など海洋と人間の関係及び海を通じた世界の人々との結びつきについて理解させ、社会の形成者としての資質・能力を養う。

**【海洋教育「ひろの学」 4つの視点】**

海に親しむ	海を知る	海を守る	海を利用する
海の豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通して、海や地域に対する豊かな感受性や海に対する関心等を培い、海の自然に親しみ、海に進んでかかわる。	海や地域の自然や資源、海や地域をとりまく人や社会との深いかかわりについて関心をもち、進んで調べようとする。	海や地域の環境について調べる活動やその保全活動などの体験を通じて、海や地域の環境保全に主体的にかかわろうとする。	水産物や資源、船舶を用いた人や物の輸送、また、海を通じた世界の人々との結びつきについて理解し、それらを持続的に利用することの大切さを理解し、自分なりの考えをもつ。

**【小学校第1学年から第2学年】**

生活科で行う

**【小学校第3年生及び第4学年】**

海洋教育の4つの視点を意識しながら、洋野町の「人」、「もの」、「こと」をとらえ、海や自分たちの住む地域に愛情と誇りをもち、それらを大切にしていこうという態度を育てる。

**【小学校第5学年及び第6学年】**

海洋教育の4つの視点を意識しながら、洋野町の海を取り巻く課題に目を向け、世界とつながる海や自分たちの郷土を愛する心を育み、海や地域のために主体的に判断し行動し、よりよい未来をめざそうとする態度を育てる。

**【中学校】**

洋野町の魅力を実感するとともに、進んで海や地域に関わり、海洋の機能と役割、海の歴史や民族、産業に関心をもち、自分なりに分析したり解釈したりして表現することを通して、生態系のバランスや海洋環境保全などについて考え、直面している危機を回避し、持続的・発展的な未来に向かって、地域や社会とともに取り組もうとする態度を育てる。

## 「海洋教育 『ひろの学』」で育成する資質・能力

これまでの海洋教育「ひろの学」においては、特に「言葉に力があり伝え合える子ども（言語能力）」を育成することを重点において指導をしてきました。

言語能力は、話すこと、聞くこと、読むこと、書くこと、言葉を正しく使うことにとどまらず、論理的な思考・判断・表現、よりよい人間関係を構築するためのコミュニケーション能力、想像力、仲間と励まし合うこと、お互いに高め合うこと、思いをもって自分の考えを発信すること等を包含するものです。

### 「言葉に説得力がある子ども」

- 洋野町の歴史・文化を尊重し、洋野町、岩手の次代を担う人材としての自覚をもつ子ども
- 温かい言葉で心を通い合わせる子ども
- 自分の考えを進んで発信することができる子ども
- 各教科等で身に付けた知識・技能を積極的に活用・応用し、自分たちの生活や生き方を向上させていくことができる子ども
- 友達の考え、思いを肯定的に受け止め、自分の考えを再構築したり、進化させたりし合える子ども
- 聞く・話す・読む・書くができる子ども
- 学習したことを自分の言葉で発信することができる子ども



海洋教育「ひろの学」で言語能力を育成するためには、他教科や領域での言語活動の充実が必要となります。また、海洋教育「ひろの学」で育成された言語能力が、他教科や領域における学習活動を充実させることが期待されます。

小学校は令和2年度より、中学校は令和3年度より、学習指導要領が全面実施となることを考慮し、学習指導要領の理念をふまえ、海洋教育「ひろの学」で育成する資質・能力を次の3つの柱で捉えることが求められます。

- (1) 知識及び技能 → 「何を理解しているか、何ができるか」
- (2) 思考力・判断力・表現力等 → 「理解していることやできることをどう使うか」
- (3) 学びに向かう力、人間性等 → 「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」

### 【洋野町の海洋教育「ひろの学」の評価規準】

子どもたちの学びの姿を次の視点で整理する。（学習評価の在り方ハンドブック参照）

- (1) 知識・技能
- (2) 思考・判断・表現
- (3) 主体的に学習に向かう態度

## 「海洋教育『ひろの学』」の指導構想

「海洋教育『ひろの学』」の展開にあたって「子どもたちにどんな力を身に付けさせるために、いつ（どの単元で）、どれだけの時数で、何を行うのか」、「その学習を展開することで、子どもたちに力が身についたのか」という指導の構想をもって取り組みます。

「海・海洋」とどのように関連させるかも大事な視点です。

### 単元構想…

- ・学校目標、学年目標とのかかわりは…
- ・単元を通してどんな力を身に付けさせるのか
- ・そのための題材は…
- ・前の学習、その後の学習とのつながりは…

身に付いた  
力は？

どのように

どの単元で

### 手立ては…

- ・導入では見学を…、地域の方のお話を聞かな…
- ・単元の半ばでは発表を位置付けて、
- ・単元の後半では、意見交流と振り返りを
- ・子どもたちの探究の様子はどうか…改善点



小学校・中学校 7 年間（生活科を含めて 9 年間）の探究テーマ 【種市地区】

学 年	探究テーマ	各学校の学習内容
1 年生	【生活科】 海（地域）のすばらしさに気付く	<p>各学校で行われている海洋学習の内容を探究テーマに合わせて位置付ける。 子どもたちの学習の状況に合わせて、柔軟に単元を構成したり、学習活動を位置付けたりする。 海洋科は小学校三年生から六年生は三〇時間（総合的な学習の時間の時数より削減）、中学校は一年生四十時間、二年生四十五時間、三年生四十時間（総合的な学習の時間及び特別活動の時数を削減）とする。</p>
2 年生	海への親しみ ・楽しい海、地域 ・海や地域での遊び	
3 年生 総 30 時間	海への親しみ ・海や地域にあるもの ・生命尊重	
4 年生 総 30 時間	【海洋科・総合的な学習の時間】 海のすばらしさと、暮らしとの かかわりに気付く	
5 年生 総 30 時間	海への親しみ ・地域の海や川にすむ 生き物 ・地域の特産	
6 年生 総 30 時間	水の循環と環境 ・防災 ・安全 ・環境保全	
中 1 年生 総 30 時間 特活 10 時間 計 40 時間	【海洋科・総合的な学習の時間】 地球規模で海洋環境を考え、実 行しようとする	
中 2 年生 総 30 時間 特活 15 時間 計 45 時間	水産業と環境 ・特産物と水産業 ・洋野町の海洋環境、地 域の環境	
中 3 年生 総 30 時間 特活 10 時間 計 40 時間	環境問題と未来 ・環境問題の実態 ・保全の方法 ・自分にできること	
中 1 年生 総 30 時間 特活 10 時間 計 40 時間	【海洋科・総合的な学習の時間】 発展を目指す洋野町の一員とし て、自己の役割の自覚とよりよ い自己実現を目指し、自立して 生きていこうとする態度を育て る。	
中 2 年生 総 30 時間 特活 15 時間 計 45 時間	小学校の学習を基に地 域を考える ・地域の企業 ・自然を活用した様々 な活動	
中 3 年生 総 30 時間 特活 10 時間 計 40 時間	洋野町の未来の姿を考え る ・洋野町の課題やよさ ・他地域との比較 ・世界とのつながり	
中 3 年生 総 30 時間 特活 10 時間 計 40 時間	自己実現を目指す ・キャリアアップ ・未来の洋野町と自分	

小学校・中学校 7 年間（生活科を含めて 9 年間）の探究テーマ 【大野地区】

学 年	探究テーマ	各学校の学習内容
1 年生	【生活科】 地域（海）のすばらしさに気付く	<p>各学校で行われている海洋学習の内容を探究テーマに合わせて位置付ける。 子どもたちの学習の状況に合わせて、柔軟に単元を構成したり、学習活動を位置付けたりする。 海洋科は小学校三年生から六年生は三〇時間（総合的な学習の時間の時数より削減）、中学校は一年生四十時間、二年生四十五時間、三年生四十時間（総合的な学習の時間及び特別活動の時数を削減）とする。</p>
2 年生	地域（海）への親しみ ・ 楽しい地域 ・ 地域や海での遊び	
3 年生 総 30 時間	【海洋科・総合的な学習の時間】 地域（海）のすばらしさと、暮らしとのかかわりに気付く	
4 年生 総 30 時間	地域（海）への親しみ ・ 自分の住む地域にあるもの ・ 生命尊重	
5 年生 総 30 時間	【海洋科・総合的な学習の時間】 地球規模で海洋環境を考え、実行しようとする	
6 年生 総 30 時間	地域（海）の環境 ・ 地域の特産 ・ 川にすむ生き物	
中 1 年生 総 30 時間 特活 10 時間 計 40 時間	【海洋科・総合的な学習の時間】 発展を目指す洋野町の一員として、自己の役割の自覚とよりよい自己実現を目指し、自立して生きていこうとする態度を育てる。	
中 2 年生 総 30 時間 特活 15 時間 計 45 時間	水の循環と環境 ・ 防災 ・ 安全 ・ 環境保全	
中 3 年生 総 30 時間 特活 10 時間 計 40 時間	水産業と環境 ・ 農林水産業と海洋の関係 ・ 地域の環境、洋野の海洋環境	
	環境問題と未来 ・ 環境問題の実態 ・ 保全の方法 ・ 自分にできること	
	小学校の学習を基に地域を考える ・ 地域の企業 ・ 自然を活用した様々な活動	
	洋野町の未来の姿を考える ・ 洋野町の課題やよさ ・ 他地域との比較 ・ 世界とのつながり	
	自己実現を目指す ・ キャリアアップ ・ 未来の洋野町と自分	



【資料：各教科の学習との関連】

◇小学校◇

学 年	社会	理科
3 年生	・もっとしりたいみんなの町	・春のしぜんにとびだそう ・こん虫を調べよう
4 年生	・地震にそなえる ・水はどこから	・物の体積と温度 ・水のすがたとゆくえ ・物のあたたまり方
5 年生	・私たちの暮らしと国土 ・日本にはなぜ四季があるのか ・水産業に生きる ・水産資源を守るために	・天気の変化 ・魚のたんじょう ・台風と天気の変化 ・物の溶け方 ・流れる水のはたらき
6 年生	・大陸に学んだ国づくり ・幕府の政治と人々の成長 ・近代国家への歩み ・新しい時代の夜明け	・動物のからだのはたらき ・生き物の暮らしと環境 ・大地のつくりと変化 ・人と環境

◇中学校◇

	社会	理科	国語	他教科等
中 1	・世界の姿 ・世界各地の人々の生活と環境 ・日本の姿	・火山の姿 ・地震と災害 ・地層のでき方 ・地層がかかわる災害 ・水中ではたらく力	・話し方はどうか な ・鮮やかに表現する ・質問する ・意見文を書く ・順序立てて説明する ・案内や報告文章を書こう ・グループディスカッション	【英語】 The Wonderful Ocean 【美術】 レシピ本づくり 【家庭科】 レシピづくり 【技術】 パソコン操作
中 2	・世界から見た日本の自然環境 ・日本の諸地域 ・北海道地方	・水の循環 ・脊椎動物の出現と進化 ・天気の変化を予想しよう ・気象災害への備え	・問題意識を持って聞こう ・要約する ・説明する ・レポート ・意見文 ・プレゼンテーション ・話合い	【技術】 パソコン操作 【家庭科】 地域の恵みを使った調理実習 【家庭科】 接続可能な社会を考える。
中 3	・現代の日本と世界 ・私たちの暮らしと経済 ・地球社会と私たち	・水溶液とイオン ・炭素の循環 ・自然環境の調査と環境保全 ・地球と私たちの未来のために ・自然の恵みと災害 ・接続可能な社会をつくるために	・評価しながら機構 ・絶滅の意味 ・素材を生かして表現する ・説明する ・条件スピーチ ・メディアと東日本大震災	【技術】 パソコン操作 【家庭科】 地域貢献活動 【家庭科】 保険体験学習 【英語】 Clean Energy Sources

## 令和3年度 海洋教育副読本編集方針

海洋教育副読本編集委員会では、これまでの経緯を踏まえつつ、海洋教育副読本作成方針について、以下のように検討しました。

### 1 編集方針

- (1) 洋野町の海洋教育副読本の編集・作成をする。
- (2) 洋野町の海洋教育全体を示すものとなる海洋教育副読本を作成する。
- (3) 副読本を使って海洋教育「ひろの学」の学習活動を充実させたり、副読本を通して町内の海洋教育の様子について知ったりすることができる資料になるように編集する。
- (4) 指導する先生が、より使いやすいような構成や内容にする。
- (5) 児童生徒にとって、わかりやすい副読本となるよう、児童生徒の視点に立った表現にする。

### 2 編集の視点

- (1) 問題解決的な学習の流れとなるよう、構成を検討する。

◇合本形式で構成する。

- ・「海洋教育ひろの学リテラシー」に応じてテーマごとにページを作成する。
- ・合本にすることで、海洋教育の全体像を理解できるようにする。

#### ① 全体の流れ（1つの話題について）

- 内容を象徴するタイトル→
- 概要（3文～4文で）→
- 資料や体験、情報などを項目ごとに→
- 学習の観点を示す「調べてみよう・考えてみよう」  
（見開き、あるいは1ページで完結するように）

- (2) どの学年でも使うことができるように配慮する。

#### ① 平易な表現※児童が自力で読んである程度意味がつかめるように。

#### ② ルビ

#### ③ グラフ表現の吟味

#### ④ 育てたい三つの資質・能力を意識した構成

（児童生徒の表現した例や、考えを書き込めるスペースを設けるなど）

※三つの資質・能力をそれぞれ分離して編集していくことは不可能なので、あくまでも意識してページを作成していく。

- (3) 写真や資料をできるだけ最新のものにする。

#### ① 写真にはできるだけ人を掲載する

#### ② 資料のねらいをより明らかに

- (4) テーマに基づいた内容を掲載する

例 自然の恵み（サケ、ウニ、ホヤ）

※海洋教育ひろの学リテラシーと海洋教育副読本のページ構成（案）

海洋教育ひろの学リテラシー	副読本として扱いたい内容	各校から提出いただいている資料	key word
洋野の海が生み出す生命	海の生態系、海の生き物、微生物	海となかよし（角浜小） 海の生き物図鑑作り（中野小）	つ二 サケ ホヤ 森林
洋野の海が作り出す大地	海成段丘、ジオパーク	酪農がさかんな大野地区（帯島小）	海成段丘 沿岸部 内陸部 天文台 植樹活動
洋野の海と森の循環	海と森とのつながり、水の循環	バックテストによる川の水質調査（帯島小） 森は巡る（委員会）	サケ放流 バックテスト 森は巡る
洋野の海と気候	気候変動、熱対流	酪農がさかんな大野地区（帯島小）	やませ 瀬田 海流 大野の気候 津波避難訓練
洋野の海と防災	津波、高潮のメカニズム	安心して海とくらそう（中野小）	防災タワー 海成段丘
洋野の海と歴史、伝統芸能	海とともに生まれてきた文化	ふるさと大野大発見（大野小）	海鳴り太鼓 たこ節
洋野の自然と結びつく産業	海や自然を生かした産業	ウニの牧場 増殖溝（委員会） 洋野町の海に広がる「増殖溝」（角浜小） 地域の産業を知る（種市中） 地域の良さを知り・伝える（種市中） おかえりなさい、また来てね！（中野小）	ウニ牧場 サケ加工 大野木工 大野キャンパス
洋野の海と未来	海洋ごみ、海洋汚染、水産資源	角浜地域で長くから続く「磯そうじ」（角浜小） 考えよう！洋野の海と未来のこと（委員会）	海洋清掃 子供サミット 全国サミット

### 3 編集の方法

- (1) 写真には必ず説明を入れる。
- (2) 見開き、1 ページで内容が完結するようにする。
- (3) 内容を一文で示す。（話題の提示）
- (4) 写真は各校で実践したものを使用する。
- (5) イラスト等は、印刷会社委託。趣旨やイメージをメモする。

**かんが ひろの うみ みらい  
考えよう！洋野の海と未来のこと**

**海洋教育全国サミット「洋野町 ちよこつと未来」**

洋野町には大きな海があり、私たちのくらしはこの海とつながり、支えられていることが分かりました。みなさんは未来の洋野町をどうしていきたいですか、洋野の海とどのようなつながっていきたく考えますか。

令和2年2月、東京大学安田講堂で海洋教育全国サミットが開かれました。洋野町を代表して発表した洋野町立中野小学校6年生が「洋野町 ちよこつと未来」という題で、洋野町の海と未来について考えたことを発表しました。



中野小学校6年生は、これまでの海洋学習をふり返り、今の洋野町の海から考えた問題をもとに、3つの提案をしました。提案は、会場のみんさんの心にひびき、中野小学校6年生は、最優秀賞を受賞しました。

案

**中野小学校「洋野町 ちよこつと未来」から考える**

みなさんは、サケが好きですか。今、洋野のサケが危険な状態になっているのを、みなさんは知っていますか。私たちは洋野のサケを守るためにできることを考えましたが、できないこともありました。そこで、「ちよこつと未来」を提案しようと思います。

**提案1：地球温暖化を進ませないために**

地球温暖化を進ませないように、レジ袋の値段を100円に値上げしてエコバックを使う人を増やすこと、海水温を下げる薬品の開発によりサケの稚魚が回復できるようになることさらに、自然の方ではたらく発電機を増やして化石燃料を使わないことを考えました。

**提案2：造ろう！海の牧場～サケのために～**

私たちの洋野町には「ウニ牧場」と呼ばれる増殖溝があります。同じように、サケのための牧場として、プランクトン牧場、稚魚牧場、成魚牧場を造ることを考えました。

プランクトン牧場でえさ不足で死んでしまうサケを減らし、稚魚牧場で環境に強いサケを育て、成魚牧場でよりよい環境でサケが育つようになると思います。

**提案3：サケの命を大切にいたたく「洋野のめぐみサケパイ」**

私たちは、すべて洋野町で生産された特産物で「洋野のめぐみサケパイ」を作りました。「洋野のめぐみサケパイ」を広めることで、地産地消を進めたり、たくさんの人に洋野のサケが好きになってもらえたりするなど、洋野町の未来が明るくなるはずです。

「ちよこつと未来」の実現に向けて、自分ができることを考えていくことが大切です。一人一人が意識すると、洋野町の発展や海洋環境が良くなることにもつながるはずです。

考えてみよう・話し合ってみよう

- 海洋学習をふり返り、洋野の海についてどんな問題を考えますか。
- 洋野の海とつながっていくために、どんなことをしたいと思いますか。

## 令和3年度 洋野町海洋教育「ひろの学」年間スケジュール

### 1 洋野町海洋教育推進委員会等

#### (1) 第1回海洋教育推進委員会

- ① 日 時 令和3年5月11日（火）
- ② 場 所 Zoom ミーティング
- ③ 内 容 令和3年度洋野町海洋教育の取組について、副読本編集の方針について
- ④ 参加者 各校海洋教育推進委員（1名悉皆）

#### (2) 第1回海洋教育副読本編集委員会

- ① 日 時 令和3年7月26日（月）
- ② 場 所 洋野町民文化会館セシリアホール
- ③ 内 容 海洋教育副読本編集の方針、原稿の校正作業について
- ④ 参加者 海洋教育副読本編集委員

#### (3) 第2回海洋教育推進委員会

- ① 日 時 令和3年10月27日（水）（副読本編集委員会②同日開催）
- ② 場 所 洋野町種市庁舎・Zoom ミーティング
- ③ 内 容 教育課程特例校制度、海洋教育海洋教育こどもサミット in 東北等について
- ④ 参加者 各校海洋教育推進委員（1名悉皆）

#### (4) 第2回海洋教育副読本編集委員会

- ① 日 時 令和3年10月27日（水）
- ② 場 所 洋野町種市庁舎
- ③ 内 容 海洋教育副読本原稿の校正、副読本活用の方法について
- ④ 参加者 海洋教育副読本編集委員

#### (5) 第3回海洋教育推進委員会

- ① 日 時 令和4年2月28日（月）（副読本編集委員会③同日開催）
- ② 場 所 Zoom ミーティング
- ③ 内 容 各校の実践交流、次年度の事業計画についてについて
- ④ 参加者 各校海洋教育推進委員（1名悉皆）

#### (6) 第3回海洋教育副読本編集委員会

- ① 日 時 令和4年2月28日（月）
- ② 場 所 Zoom ミーティング
- ③ 内 容 海洋教育副読本の確認、次年度以降の活用について
- ④ 参加者 海洋教育副読本編集委員

## 2 洋野町海洋教育事業

### (1) 海洋教育事業「海はともだち」

- ① 日 時 令和3年7月26日(月)
- ② 場 所 洋野町沿岸部、洋野町民文化会館セシリアホール
- ③ 内 容 磯遊び、種市高校実習船乗船体験、講演
- ④ 対 象 洋野町内希望児童及び引率教員

### (2) 海洋教育事業「森はめぐる」

- ① 日 時 令和3年9月22日(水) ※岩手緊急事態宣言発出に伴い中止
- ② 場 所 洋野町内山林
- ③ 内 容 植林体験、講義
- ④ 参加者 海洋教育副読本編集委員

## 3 海洋教育成果発表会等

### (1) 第9回海洋教育こどもサミット in 東北

- ① 日 時 令和4年11月26日(金)
- ② 場 所 Zoom ミーティング
- ③ 内 容 各校の研究成果の発表
- ④ 参加者 各校発表児童生徒

### (2) 第9回全国海洋教育サミット

- ① 日 時 令和4年2月11日(祝・金)
- ② 場 所 Zoom ミーティング
- ③ 内 容 海洋教育成果発表、全国海洋教育実践校との交流
- ④ 参加者 希望校児童生徒(洋野町立中野中学校)

## **2 洋野町立各小中学校の 海洋教育の位置付け および学習指導案等**

- ・洋野町立種市小学校
- ・洋野町立角浜小学校
- ・洋野町立宿戸小学校
- ・洋野町立中野小学校
- ・洋野町立大野小学校
- ・洋野町立林郷小学校
- ・洋野町立帯島小学校
- ・洋野町立向田小学校
- ・洋野町立種市中学校
- ・洋野町立中野中学校
- ・洋野町立大野中学校

# 洋野町立種市小学校



## 令和3年度「ひろの学」(海洋教育・復興教育)指導計画

### 1 目標

「いわての復興教育 いきる かかわる そなえる」の理念を根底にしながら、海に生き、海とともに歩んできた洋野町の歴史や文化に、「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の4つの観点で目を向け「ひろの学」として統合することで、自分たちの生まれ育ってきた地域に喜びと誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる子どもをはぐくむ。

### 2 重点

- (1) これまでの**生活科, 総合的な学習の時間を中心**に, 教育課程を見直し, 指導の充実に努める。
- (2) **復興教育の理念**をさらに発展させ, 海洋教育の推進に努める。
- (3) **キャリア教育, 環境教育, ボランティア教育**のねらいと関連付け, 計画を統合していく。

### 3 内容

- (1) 各教科・領域
  - ・海洋教育に関わる単元のねらいを確認する。
- (2) 特別の教科 道徳
  - ・指導項目(郷土愛, 自然愛護, 生命尊重)との関わりを確認する。
- (3) 特別活動
  - ・学校行事(海浜清掃, 防災訓練)、児童会活動(ボランティア活動)、学級活動(自然愛護, 生命尊重等)で児童の主体的な活動を仕組んでいく。

### 4 計画

テーマ「ふるさと種市～われら海の子～」

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・磯遊び</li> <li>・海浜清掃</li> <li>・磯遊びで見つけたものを描こう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・磯遊び</li> <li>・海浜清掃</li> <li>・磯遊びで見つけたものを描こう</li> <li>・町探検</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種市の海の生き物を調べよう</li> <li>・海の生き物図鑑を作ろう</li> <li>・種市の特産メニューを作ろう</li> <li>・発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漂着ごみ調査</li> <li>・海洋防災教室</li> <li>・防災マップで調べよう</li> <li>・津波防災出前講座</li> <li>・発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水質調査</li> <li>・植林体験</li> <li>・磯掃除</li> <li>・自分にできることを考えよう</li> <li>・発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・磯掃除</li> <li>・他地域の様子調べ</li> <li>・種市との比較をしよう</li> <li>・種市の町作りを考えよう</li> <li>・学びのまとめ、発信(海洋サミット)</li> </ul>

### 5 その他(留意点等)

- (1) 令和3年度「海洋教育子どもサミット」への参加体制を整えていく。
  - ①課題解決学習と発信・発表活動を計画的に仕組んでいく。
  - ②コミュニケーション能力の育成をめざし, 様々な学習活動を仕組む。
  - ③学習環境整備にあたっては, 洋野町教育委員会や東大海洋アライアンスの協力を積極的に仰ぐ。

\*副読本は令和3年度中に完成・配布予定。

# 「ひろの学」全体構想図



**令和3年度 種市小学校 「生活科」・「総合的な学習の時間」・「海洋科」 年間単元一覧表**

学期 学年	1 学 期				2 学 期				3 学 期			総時数
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	
1 年	みんななかよし【6】 1 みんなであそぼう (6)		おおきなあれ【35】 1 アサガオを育てよう (11) 2 野菜を育てよう (10) 3 動物をみにいこう (5) 4 収穫祭をしよう (6)						みんななかよし【19】 3 なかよし家族 (12) 4 ありがとう6年生 (3) 5 よこそ1年生 (4)		102 関連：国語 図工	
	なかよしたんけんたい【26】 1 学校を探検しよう (13) 2 ぼかぼか春探検 (3) 海遊び		なかよしたんけんたい【13】 3 ぎらぎら夏探検 (3) 4 海となかよし (10)		なかよしたんけんたい【10】 5 はっぱの秋探検 (10)		なかよしたんけんたい【3】					
2 年	みんなあつまれ【6】		生きものをそだてよう【24】 1 野菜を育てよう (14) 2 生き物を探そう (6) 3 生き物を飼おう (4)				めざせあそび名人【15】 1 昔の遊びや外国の遊びを楽しもう 2 お正月楽しかったよ		あしたへ ジャンプ【18】 1 小さい頃のわたし 2 私の物語 3 もうすぐ3年生		105 関連：国語 図工	
	キラキラひまわりたんけんたい【8】 1 通学路でみつけよう 2 町のひみつを教えよう 磯あそび		キラキラひまわりたんけんたい【14】 3 乗り物探検 (8) 4 海となかよし (6)		キラキラ秋まつり【20】 1 まつり博士 2 さあ、まつりだ							
3 年	「ふるさと種市—われら海の子—」 学年テーマ「種市のたからもの」 ※ コンピュータリテラシー・各活動とリンク											
	オリエンテーション (2h)		ぼくらは種市たんけん隊；関連社会【海洋30h】 ・種市の海の生き物を調べよう (10) ・海の生き物図鑑を作ろう (10) (磯あそび発展、海の子絵画) (10)				種市ふるさとのおたからもの①【総合27】 ・教室をとび出そう (町見学・インタビュー・調べ学習) (20) ・心で感じるハンディキャップ (体験学習) (7)				種市ふるさとのおたからもの②【総合13】 ・種市の特産メニューを作ろう (7) ・瀧澤鶏舞を学ぼう (2) ・発信、ふりかえり (4)	
4 年	「ふるさと種市—われら海の子—」 学年テーマ「すみよい町 種市」 ※ コンピュータリテラシー・各活動とリンク											
	オリエンテーション (1h)		すみよい町 種市 ①【総合10h 海洋13h】 ・町民生活の問題 (町内施設見学等) (総10) ・漂着ゴミ調査 (海8) ・海洋防災教室 (海5)				すみよい町 種市 ②【総合20h 海洋12h】 ・広域事業の役割 (総20) (社会科関連 広域連合施設見学) ・防災マップで調べよう (海12) 津波防災出前授業				よりよい種市にしよう【総合0h 海洋5】 ・種市の町づくり提案 (学習のまとめ発表会) (総10 海5)	
5 年	「ふるさと種市—われら海の子—」 学年テーマ「森と海の恵み」 ※ コンピュータリテラシー・各活動とリンク											
	オリエンテーション (1h)		種市の稲作を学ぼう；関連社会【総合40h】 ・稲作農家見学、インタビュー等 (2学期) (20) ・種市の稲作の歴史を調べたり、沖縄との関わり・外国との関わりを調べたりし、種市の風土にあった農業を行う方々の思いを考える。(2学期) (15) ・学びのまとめ、発信 (5)									
種市の森と海【海洋30h】 ・森と海と人間が共存するために自分にできることを考え実行する。(海浜清掃、植林) (23) 「未来に残そう青い海」をテーマに絵を描く。										・学びのまとめ、発信 (7)		
6 年	「ふるさと種市—われら海の子—」 学年テーマ「ふるさと種市再発見」 ※ コンピュータリテラシー・各活動とリンク											
	オリエンテーション (2h)		他地域の海を知ろう【総合10h 海洋10】 ・他地域の様子を調べ、産業・文化・歴史に関心を持つ。(総10) ・種市との比較から、違いや繋がりを考える。(海10)				種市の海・町 再発見【総合15h 海洋20h】 ・他地域との比較から、種市の町づくりを再度見直す。(総15) ・学びのまとめ・発信。(海20) (海洋サミット参加をめぐして)				ありがとうをつたえよう【総合15】 ・今自分ができること。(感謝行動計画) (10) ・これからの自分 (ふりかえり) (5)	

# 「海洋科（ひろの学）」の評価（3～6年）

## 目標

海の豊かな自然と親しむ活動や身近な地域社会の中で海とのつながりを感じることができるよう体験活動、海や地域について調べる活動、その保全活動などの体験を通して、海や地域に対する関心を高めるとともに、海洋環境、水産資源、船舶運輸など海洋と人間の関係及び海を通じた世界の人々との結び付きについて理解させ、社会の形成者としての資質・能力を養う。

## 【海洋教育「ひろの学」 4つの視点】

海に親しむ	海を知る	海を守る	海を利用する
海の豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通して、海や地域に対する豊かな感受性や海に対する関心等を培い、海の自然に親しみ、海に進んでかかわる。	海や地域の自然や資源、海や地域をとりまく人や社会との深いかかわりについて関心をもち、進んで調べようとする。	海や地域の環境について調べる活動やその保全活動などの体験を通じて、海や地域の環境保全に主体的にかかわろうとする。	水産物や資源、船舶を用いた人や物の輸送、また、海を通じた世界の人々との結びつきについて理解し、それらを持続的に利用することの大切さを理解し、自分なりの考えをもつ。

## 【育成を目指す資質・能力】

学年	探求課題	知識・技能	思考・判断・表現				学びに向かう力・人間性
			課題設定	情報収集	整理・分析	まとめ・表現	
3・4年	自然環境と防災	地域には豊かな自然環境があることや自分たちの生活と大きく関わっていることに気づく。	身近な地域の環境や防災に関して、問いをもち解決方法を考える。	既習の方法を生かして、自分の知りたい情報を収集する。	情報を整理・分析して自分の考えをもつ。	目的や相手に応じて分かりやすく表現する。	主体的・協働的に学ぶ。地域に愛情と誇りをもつ
5・6年	ふるさと種市	身近な自然環境や地球規模で起きている環境問題について理解し、持続可能な開発と自分たちの生き方との関わりにつづいていく。	自然環境のつながりや環境保全、未来の町づくりに関して問いをもち、解決方法の見通しをもつ。	適切な方法を考え調査し、得た情報の中から必要なものを取捨選択する。	情報を整理・分析して必要な情報を選びながら自分の考えをもつとともに、実行可能な方法を考える。	目的や相手に応じて、調査・分析をもとにした根拠をもち、自分の考えが伝わるように表現する。	主体的・協働的に学ぶ。未来の種市や地球のために、自分たちができることや地域に広めていきたいことを考えたりに実際に行動したりする。

## 【単元計画（4つの視点：海に親しむ・海を知る・海を守る・海を利用する）】

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
視点	海に親しむ 海を知る	海に親しむ 海を知る	海に親しむ 海を知る	海を知る 海を守る	海を知る 海を守る	海を守る 海を利用する
単元名	磯遊び 環境紙芝居	磯遊び 海の絵	○ぼくらは種市たんけんたい ・磯遊び ・海の生物図鑑 ・海の絵をかこう	○私たちの海 ・海浜清掃 ・漂着ごみ調査 ・海洋環境教室 ○すみよい町種市 ・防災マップで調べよう ・津波防災教室	○種市の森と海 ・海浜清掃 ・水生生物調査（水質調査） （植林体験） ・海、山、川のつながり	○ふるさと種市再発見 ・環境について見直そう ○海洋サミットに参加しよう ・未来の町づくり ・環境によい生活

## 【指導方法】

指導方法	指導体制
○体験的活動の重視	○担当者や学年会における連絡調整と支援体制の確立 ○地域の関係機関、保護者・地域の方との連携（地域CO）
評価計画	
○観点別学習状況を把握するための評価 〈評価の観点〉 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に取り組む態度	
○作成資料・ノートを活用した評価 ○年間指導計画の改善と実施	
家庭・地域との連携	
○海洋関係施設への見学等の要請 ○地域の方や団体への協力要請	
○体験活動や移動の際の保護者の協力 ○教育委員会、その他専門の知識をもつ方の授業援助	
教科との関連	
○海と関わる学習内容、技能を横断的総合的に関連させていく〈カリキュラムマネジメント〉	

**1 全学年共通目標**

「いわての復興教育 いきる かかわる そなえる」の理念を根底にしながら、海に生き、海とともに歩んできた洋野町の歴史や文化に「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の4つの観点で目を向け「ひろの学」として統合することで、自分たちの生まれ育ってきた地域に誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる子どもを育む。

**2 3学年の重点目標**

「種市のたからもの」をテーマに身近な地域の自然、社会、文化の様子やそこに住む人々の良さを知る。


学期	1 学 期				2 学 期			3 学 期			備考	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1		2
<b>単元名</b>	「ふるさと種市—われら海の子—」 学年テーマ「種市のたからもの」 ※ コンピュータリテラシー・各活動とリンク											
<b>親しむ</b>	オリエンテーション(2) ぼくらは種市たんけん隊(30) 【*海洋】 ・種市の海の生き物を調べよう (10) ・海の生き物図鑑を作ろう (10) ・海の絵をかこう (10)				種市ふるさとのたからもの① (27) 【*総合】 ・教室をとび出そう (町見学・インタビュー・調べ学習) (20) ・心で感じるハンディキャップ (体験学習) (7)			種市ふるさとのたからもの② (13) 【*総合】 ・種市の特産メニューを作ろう (7) ・瀧澤鶏舞を学ぼう (2) ・発信、ふりかえり (4)				
<b>知る</b>	・磯遊びで発見 (体験学習) * 地域の方と交流しながら活動させたい。				・町に出よう(探検計画 関連:社会科) * 町の自慢、行ってみたいところ、お薦めの場所をポイントに計画させる。			・特産品を調べる(取材・紹介) ・GTによる出前授業等(郷土食試食)				
<b>守る</b>	・探検、見学(漁協、栽培センター、産直等) ・海の生き物調べ(図書館、インターネット、漁協等)				・探検、見学、インタビュー(公共施設、商店、観光施設等) * 施設の機能や景観だけでなく、そこで働く人々の様子や思いを捉えさせたい。 * 関連してボランティア体験も入れたい。			・特産メニューを考える。 * 地元の方に手伝ってもらいながら、実現可能なメニューを考案する。 ・調理、試食(体験学習) * 生ものはGTが扱い、児童は見学する。 * 海産物だけでなく、様々な食材を教 * 食と「資源を守る」を関連づけて考えさせる。				
<b>活用する</b>	・海の子絵画展作品に取り組む * 海の良さを表現させたい。 * 生き物の絵はリアルに描かせたい。 ・生き物図鑑、絵画集作成				・見学、インタビューを新聞にまとめる。 * 町の良さ、海の大切さに気付かせたい。 ・新聞掲示、感想交流等 * 今後の課題追求につながるよう交流させたい。			・特産品メニューのPR (新聞、ポスター、お礼状等) * 食と「資源を守る」ことを関連づけて考えさせる。				

**1 全学年共通目標**

「いわての復興教育 いきる かかわる そなえる」の理念を根底にしながら、海に生き、海とともに歩んできた洋野町の歴史や文化に「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の4つの観点で目を向け「ひろの学」として統合することで、自分たちの生まれ育ってきた地域に誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる子どもを育む。

**2 4学年の重点目標**

「すみよい町 種市」をテーマに自分たちができる防災や町づくりについて考える。

学期	1 学 期				2 学 期			3 学 期			備考		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1		2	3
単 元 名	「ふるさと種市—われら海の子—」 学年テーマ「すみよい町 種市」 ※ コンピュータリテラシー・各活動とリンク												
	オリエンテーション(1)	すみよい町 種市 ①(10) *【総合】 ・町民生活の問題 (町内施設見学等) (10)				すみよい町 種市 ② (20) *【総合】 ・広域事業の役割 (社会科関連 広域連合施設見学) (20)			よりよい種市にしよう(10) *【総合】 ・種市の町づくり提案 (学習のまとめ発表会)				
		わたしたちの海 ①(13) *【海洋】 ・漂着ゴミ調査 (8) ・海洋防災教室 (5)				追求	すみよい町 種市 ② (12) *【海洋】 ・防災マップで調べよう (12)			学んだことを広めよう (5) *【海洋】 ・発信しよう (3) ・まとめ (2)			
親 し む					<ul style="list-style-type: none"> <li>・津波防災教室①(種市高校海洋開発科の出前授業) *防災とともに、種市高校海洋開発科の取り組み方や、学科の特性についても学ばせたい。</li> <li>・津波防災教室②(消防署、広域連合の出前授業) *実際に防波堤や水門、被災の様子を見学することで、防災意識を高めたり、具体的な防災技能を学ばせたい。</li> </ul>								
知 る					<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活ごみ調査(関連:社会科)</li> <li>・ゴミ集積所、町民生活科見学</li> <li>・海洋環境教室、海浜清掃、漂着ゴミ調査 *八戸海上保安庁の出前授業から、課題を見つけて活動する。</li> </ul>							<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習したことを発表原稿、ポスター等にまとめる。</li> <li>・発表を聞き合い、感想を交流することで学習成果を確かめさせる。</li> <li>・保護者、他学年等、相手意識をもたせて発表内容を考えさせえる。</li> <li>・防災以外(町づくり)にも、視点を広げたい。</li> </ul>	
守 る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海の子絵画展作品に取り組む(関連:図工) *海の良さを表現させたい。</li> <li>・海浜清掃活動と関わらせ「いつまでも残そう 青い海」というテーマを意識させる。</li> <li>・海浜清掃、漂着ゴミ調査結果を新聞にまとめ、地域に啓蒙する。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災マップの活用 *既成の防災マップを活用し、自分の家、学校、遊び場等の状況の確認し、防災の趣味レーションをする。</li> <li>・新聞掲示、感想交流等 *今後の課題追求につながるよう交流させたい。</li> </ul>								
活 用 す る								<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習成果発表会 *誰に発表するかも含めて計画させる。</li> <li>・GT等、学習に関わった方々に成果をお知らせすることで感謝を伝える。</li> </ul>					



**1 全学年共通目標**

「いわての復興教育 いきる かかわる そなえる」の理念を根底にしながら、海に生き、海とともに歩んできた洋野町の歴史や文化に「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の4つの観点で目を向け「ひろの学」として統合することで、自分たちの生まれ育ってきた地域に誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる子どもを育む。

**2 5学年の重点目標**

「森と海の恵み」をテーマに、地形、気候等の自然環境との関りで海を捉えななおし、洋野町の種市地域（海側）と大野地域（山側）をつながりとして学習する。

学期	1 学 期				2 学 期			3 学 期			備考	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1		2
	「ふるさと種市—われら海の子—」 学年テーマ「森と海の恵み」 ※ コンピュータリテラシー・各活動とリンク											
単元名	<p>オリエンテーション(1)</p> <p>種市の農業を学ぼう(関連;社会)(20) *【総合】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農家農家見学、インタビュー等 (2学期)</li> <li>・種市の農業の歴史を調べたり、外国との関わりを調べたりし、種市の風土にあった農業を行う方々の思いを考える。</li> </ul>				<p>種市の林業を学ぼう(関連;社会)(20)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・林業に関わる工場見学、インタビュー等 (2学期)</li> <li>・種市の林業の仕組みを調べ、環境に配慮して林業を行う方々の思いを考える。</li> <li>・植林体験</li> </ul>							
	<p>種市の森と海(23) *【海洋】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森と海と人間が共存するために自分にできることを考え実行する。(海浜清掃)</li> <li>・「未来に残そう青い海」をテーマに絵を描く。</li> <li>・水生生物調査</li> </ul>				<p>種市の森と海(7) *【海洋】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海、山、川のつながりを考えよう。</li> <li>・まとめ</li> </ul>							
親しむ	<p>・雑穀、米粉を使った「こびる」(郷土食)を試食する。(GT)</p> <p>・全国の特産品について調べる。</p> <p>* 郷土食から、土地の自然環境や文化のちがいに興味をもたせたい。</p>											
知る	<p>・ひろのまきば天文台「天文教室」に参加</p> <p>・海浜清掃</p> <p>* 洋野町を地形・自然環境・産業等の観点から大まかに捉えさせ、「海」と「森」のつながりを追究すべき課題とする。</p>				<p>・「森は巡る」事業に参加</p> <p>* 植林体験を通し、植物・生物・水・土・川・、、、多様な視点で種市(海側)と山側がつながっていることを捉えさせたい。</p>			<p>・やませ対策、水管理、品種改良について調べる(関連;社会科)</p> <p>* 稲作の苦労・工夫をとらえさせたい。</p>				
守る	<p>・「未来に残そう青い海」をテーマに作品を作る。(関連;図工)</p> <p>・海と森のつながりをレポートにまとめる。</p> <p>* 海浜清掃、植林のように、自然環境を守るために自分ができることを考えさせる。</p>											
活用する	<p>・学習したことを発表原稿、ポスター等にまとめる。</p> <p>・発表会を行う。</p> <p>* 発表を聞き合い、感想を交流することで学習成果を確かめさせる。</p> <p>* 保護者、他学年等、相手意識をもたせて発表内容を考えさせえる。特に、4年生に引き継いでもらうための発表とさせたい。</p>											



**1 全学年共通目標**

「いわての復興教育 いきる かかわる そなえる」の理念を根底にしながら、海に生き、海とともに歩んできた洋野町の歴史や文化に「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の4つの観点で目を向け「ひろの学」として統合することで、自分たちの生まれ育ってきた地域に誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる子どもを育む。

**2 6学年の重点目標**

「ふるさと種市 再発見」をテーマに、これまでの学習をふまえ、ふるさと種市を見つめ直す学習をするとともに、学習のまとめとして自分ができる活動を計画・実践する。

学期	1 学 期				2 学 期			3 学 期			備考		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1		2	3
「ふるさと種市 ―われら海の子―」 学年テーマ「ふるさと種市 再発見」 ※ コンピュータリテラシー・各活動とリンク													
単 元 名	オリエンテーション(2) 他地域の海を知ろう(10) *【総合】 ・他地域の海の様子を調べる(地理・産業・歴史等) (10)				環境について見直そう(10)【海洋】 ・磯掃除 ・地球環境調査 (海洋サミット参加をめざして)			種市の町作りを考えよう 15【総合】 ・他地域との比較から、種市を見つめ直す (10) ・「種市 再発見」学習課題追究。(5) (海洋サミット参加をめざして)			感謝の気持ちをもとう(15) *【総合】 ・今自分ができること。(感謝行動計画) ・これからの自分(ふりかえり)		
	親しむ ・修学旅行の学習計画を立てる ・事前学習(自然環境、産業、観光等) ↓ *種市との比較で他地域の概要・特徴をつかませる。				海洋サミットに参加しよう(20)【海洋】 ・学習したことをまとめ、深めよう(再調査・インタビュー) (10) ・発信準備 (10) ・海洋サミット参加			知る ・修学旅行(漁業・海洋施設見学、観光地散策) *実際に見学、散策して気づいたことや疑問に思ったことを追究課題につなげる。			守る ・修学旅行での学習をもとに「種市再発見」の課題を立てる。 *他地域との比較をポイントに、共通点と相違点に着目させる。 ・「種市再発見」をテーマに課題追究する。(調べ学習) *海洋サミットでの発表をめざす。 *種市の活性化、防災、PR、等から、グローバルな視点につながる追究をさせたい。		
活 用 す る					・海洋サミット参加する(代表者) ・海洋サミット報告会(4~6年) *自校の学習成果を確かめるとともに、他地域の実践から刺激を受けたり、学びとったりさせたい。			・学習のまとめとして自分に出来ることを実践する計画を立てる。 *実践の根底に学習できたことへの感謝、地域・学校への感謝を据えるように助言する。 ・感謝行動を実践。 ・実践のまとめを発表原稿、ポスター等にまとめる。 ・発表会を行う。 *発表を聞き合い、交流することで学習成果や自分たちの成長を確かめさせる。 *保護者、他学年等、相手意識をもたせて発表内容を考えさせる。					

## 第4学年 ひろの学（海洋科）時間指導案

洋野町立種市小学校

### 1 単元名「すみよい町 種市① ～漂着ごみ調査～」

### 2 単元の目標

- ・身近な地域の環境問題に目を向け、自然環境を守ろうとする意欲を高める。
- ・ごみ調査の体験を通して、どんな問題があるか知り、自らが環境改善に対してできる取り組みを考え、発信・実践しようとする態度を育てる。

### 3 単元について

#### （1）児童について

児童は、1年生から3年生で磯遊びや海の生き物図鑑作成などを通して、海に親しみながら生き物や自然を大切にしようという思いを深めてきた。また、1年生の時は、八戸海上保安部の協力のもと、海を守る取り組みについての学習も行っている。

ただ、海に関わる経験は学校生活に限定される児童も多く、海と接する機会は多くはない。

#### （2）教材について

現在世界中で、地球温暖化や大気汚染、食料廃棄など多くの問題が挙げられている。中でも、近年話題に多く取り上げられるのは海洋プラスチック問題である。人類にとってプラスチックは非常に便利なものでありながらも、ごみとして放置してしまうことにより、巡り巡って最終的には人間に害を与えるものでもある。


身近な地域のごみを調査することにより、環境問題に対してより意識を向けさせていきたい。

#### （3）指導について

海を身近に感じながらも、直接的な経験が乏しい児童に、意図的に海に親しむ経験と、海の大切さを知り、海を守ろうとする気持ちを育てる活動を行わせたい。また、実際に海浜清掃とごみの分別調査を実施することで、環境問題に目を向けさせ、自分にできることを考えさせるとともに、実践していこうとする意欲の増長を図りたい。さらに、八戸海上保安部さんと連携したり、世界環境デーに合わせて行ったりすることで、海洋に対する視野を種市から世界へと広げさせたい。

4 指導と評価の計画

単元計画 8時間【4年 海洋科 漂着ごみ調査】 + 関連行事3) 計11時間

過程	主な学習内容	育てたい力（評価規準と方法）			
		親しむ	知る	守る	利用する
つかむ	①漂着ごみについて予想する。 ②漂着ごみ調査について知る。 ③漂着ごみ調査の準備をする。		・生活経験から予想する。 ・生活ごみと比較する。（関連；社会科）	・自然環境の大切さを想起（1年時の海洋教室想起）	
調べる・体験する （学校行事含む）	④八戸海上保安部出前授業（海洋環境教室）  ⑤～⑦ 海浜清掃（行事3） ・4～6年が全員で行う。 （八戸海上保安部、保護者、地域ボランティアの協力あり）  ⑧⑨ 漂着ごみ調査 ・回収したごみを分別し、調査シートに記録する。	・海浜がきれいになったことを確かめ、これからの海の大切にする気持ちを育てる。	・海洋環境保全について理解する。 ・海洋環境が様々な影響を及ぼすことを理解する。  ・漂着ごみの様子（場所、量、種類等）に気をつけながら、海浜清掃をする。  ・漂着ごみ調査の仕方を知る。 （分別、記録方法等）	・海洋環境保全に努める。  	
まとめる <b>本時</b>	⑩学習したことを発信。 ・調査シートから気づいたことを共有する。 ・発信する（発表会、新聞、通信等）		・友達と交流し、環境保全に関わる知識や考えを深める。	・環境保全に関わる決意表明や提案をする。	・漁業への影響に気づき、関係者に発信する。
ひろげる	⑪次年度への展望 ・次年度へ向け活動の視点をもつ。 ・さらに調べてみたいことへの意欲付け。		・今後の学習につながる課題を見つける。（住みよい町づくり）		

5 本時の指導（10/11時間）

(1) 目標 ・ごみ調査のデータから、問題点をみつける。

(2) 展開

段階	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価
導入 10分	<p>1 海浜清掃の様子を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみがたくさんあった。</li> <li>・調査が大変だった。</li> </ul> <p>2 ごみ調査のデータを提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○ごみ調査のデータから、問題点をみつけよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真等を用い、想起しやすくする。</li> <li>・特徴的なデータを全体で確認する。</li> </ul> <p>◇データから、課題を見つけている。</p>
展開 25分	<p>3 調査から分かったことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・缶やペットボトルが多かった。</li> <li>・ビニール、プラスチックが多かった。</li> <li>・ガラス等危険物があった。</li> <li>・生活ごみ（陸からでたもの）が多い。</li> </ul> <p>4 どんな問題があるのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海が汚れ、生き物に害がある。</li> <li>・魚がとれなくなる。</li> <li>・海が汚れると温暖化等にも影響がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別学習の後で、班ごとに交流し考えをまとめる。</li> <li>・班ごとで考えをまとめ発表する。</li> </ul> <p>◇データを見ながら、生活経験やこれまでの学習をもとに、問題点を考えようとしている。</p>
まとめ 10分	<p>5 調べてみたいことの交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋汚染の影響について</li> <li>・ごみを減らす取り組みについて</li> </ul> <p>6 次時の確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題点として出されたことから、調べてみたいことをたくさん出させる。</li> <li>・本やインターネットを使い、海とごみに関する調べ学習を行うことを確認する。</li> </ul>

# 第6学年 ひろの学（海洋科）指導案

洋野町立種市小学校

## 1 単元名「種市の町 再発見」

## 2 単元の目標

- ・これまでの体験や学習してきたことを振り返り、現在の地球規模や地域の問題に再び目を向けながら、その解決策や種市の未来について考えをまとめる。
- ・相手意識をもち、明確に伝わる表現方法の工夫をして発表する。

## 3 単元について

### （1）児童について

児童は、1年生から3年生で磯遊びや海の生き物図鑑作成などを通して、海に親しみながら生き物や自然を大切にしようという思いを深めてきた。また、4年生から6年生では、浜清掃の活動を行っている。他にも、植林体験や水質調査、地域の漁業に関わる施設見学などを通して、海洋についての知識を深めてきた。

ただ、現在の問題や取り組みに目を向けることは多かったものの、今後のことについて考える機会や表現する機会は必ずしも多くなかった。

### （2）教材について

今回の学習は、小学校での学習のまとめとして位置づけられる。また、国語科の学習においても、未来の町づくりについて考える単元がある。それらを統合しながら、小学校での海洋のまとめを、未来の町づくりをテーマにしながら考えさせていく。

### （3）指導について

国語科の「町の幸福論」と関わらせて、種市の海や町の未来を考えさせていきたい。その際、他の地域が実践していることだけに目を向けさせるのではなく、地域の実態を再度見直し、「種市だからこそできること」や、「この地域の住民であるからこそ願い」なども取り入れながら考えさせたい。また、海洋サミットや海洋カンファレンス、校内の下級生に伝えていくことなど、相手意識を持たせながら表現方法の工夫の仕方も指導していきたい。

#### 4 指導と評価の計画

##### 単元計画

過程	主な学習内容	育てたい力（評価規準と方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性
つかむ 1	①これまでの海洋について体験したことや学んだことを出し合う。	・環境、防災、資源、森や川とのつながりなどを想起する。		
調べる・まとめる 7	②テーマを決める  ③④テーマに沿って、再調査を行う。  ⑤⑥⑦発表資料にまとめる。 ・発表原稿の作成  ⑧発表練習・表現の工夫	・環境保全の取り組みについて再調査する。  ・考えを伝えるための説明手順や資料を工夫する。	・学習してきたことを基に、伝えたいテーマを考える。  ・他地域での取り組みや工夫していることの情報を集める。 ・町づくりの視点から海との共存をさぐる。  ・まとめる過程を通して、自分の考えを深め整理する。  ・友達の発表を聞き、自分の発表を振り返り修正する。	・海と関わる産業や町づくりに目を向けてテーマを考える。  ・自分事として捉え、意欲的に調査を行う。  ・友達の発表を聞き、自分の発表をよりよいものにするために工夫や修正を行う。
まとめる 3	⑩～⑫学習したことを発信。 ・発信する（校内発表・海洋サミット・海洋カンファレンス）		・根拠をもち、相手に伝わりやすい発表をしている。	
ひろげる 1	⑬振り返り	全体を振り返りながら、海との共存していくために、振り返りを行う。		

5 本時の指導（8/12時間）

（1）目標 ・発表の仕方を工夫しよう

（2）展開

段階	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価
導入 3分	1 グループと発表手順を確認する。  ○発表の仕方を工夫しよう。	・発表を聞き合い、内容や表現の改善点を出し合うことを確認する。
展開 35分	2 発表・交流 ・順に発表する。 ・改善点を出し合う。  3 友達の発表や意見をもとに、自分の発表の改善を行う。	・改善点は、表現内容や発表の仕方の両面に目を向けさせ、どのようにしていけばよいものになるかを具体的に話させるようにする。  ・提示資料や発表原稿を修正し、交流する。
まとめ 7分	4 振り返り	・どのような改善点についての話題やアドバイスがあったか、全体で交流する。



# 洋野町立角浜小学校

日本国憲法  
教育基本法  
学校教育法  
学習指導要領  
岩手県教育指導指針  
洋野町学校教育目標

【児童の実態】  
○明るく素直な児童が多く、物事に対して真面目に取り組む  
○地域を素材とした体験活動には興味をもって取り組む  
○少人数のため、学年を超えてお互いをよく知る  
●自分の思いを表現することを苦手としている  
●自分で決定することや判断することを苦手としている

【本校の教育目標】  
心豊かにたくましく生きる子どもの育成  
徳：心豊かで思いやりのある子  
知：進んで学び考える子  
体：健康でたくましい子

【校訓】**地域即学校 大人即教師**  
・地域との連携を保ちながら子ども達の人格形成に努める

【地域の実態】  
○三世同居の割合が高い  
○地域としてのつながりや連携性が高い  
○学校教育に対する理解があり、協力的である  
○地理的環境や指導者となる人材が豊富である

【地域との連携】  
○地域住民及び関係機関の協力による体験活動の実施

【保護者・地域の願い】  
○思いやりのある人間関係をつくる  
○基礎的・基本的な知識及び技能の定着  
○思考力、判断力、表現力の育成  
○健康で安全な生活  
○豊かな人間性を身に付けている  
・豊かな体験を通して、郷土を愛する心を持つ  
・自分たちの地域や文化、歴史等に誇りをもつ  
・地域と積極的に関わり、行事等にすすんで参加する

【海洋教育「ひろの学」目標】  
海の豊かな自然と親しむ活動や、身近な地域社会の中で海とのつながりを感じ取れるような体験活動、海について調べる活動、その保全活動等の体験を通して、海に対する豊かな感受性を培い海に対する関心を高めるとともに、海洋環境、水産資源、船舶運輸など海洋と人間の関係及び海を通じた世界の人々との結びつきについて理解させ、持続可能な社会の形成者としての資質、能力、態度を養う。

海洋教育「ひろの学」で目指す子どもの姿  
○洋野町の歴史・文化・自然環境をよく理解し、尊重できる子ども  
【知識及び技能】  
○洋野町について学んだことや考えたことを伝え合える子ども  
【思考力、判断力、表現力等】  
○次代を担う人材としての自覚をもち、洋野の学習材に主体的に関わろうとする子ども  
【学びに向かう力、人間性等】

目標	知識・技能	思考力 判断力 表現力等	学びに向かう力 人間性等
低学年 (1・2年)	探究的な学習の過程において、角浜地区について興味関心をもち、角浜地区にある自然や社会、人々と触れ合いから、大切な情報に気付くなど、探究の過程に応じた技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解することができる。	角浜地区にある自然や社会、人々の生き方の中から自己の課題(問い)を見出し、その追求過程において、自分に必要な情報を収集選択し、自分の思いや考えを絵や文章でまとめ・表現することができる。	地域の方々とふれあう楽しさや地域を見直し大切にしていこうとする気持ち高め、自ら進んで地域社会に関わろうとする態度を育てる。
中学年 (3・4年)	探究的な学習の過程において、自己の課題の解決に必要な角浜地区にある自然や社会、人々の工夫や努力を理解しながら、情報を比較・分類するなど、探究の過程に応じた技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解することができる。	角浜地区にある自然や社会、人々の生き方の中から自己の課題(問い)を見出し、その追求過程において、自分に必要な情報を収集選択し、集めた情報の事実や関係を、事象を比較したり分類したり、数量などで客観的に比較したりして問題状況における特徴を見付け、まとめ・表現することができる。	地域の方々とふれあう楽しさや地域の環境を見直し大切にしていこうとする気持ち高め、角浜地区が人々の努力や工夫によって支えられていることに気付きながら、自ら進んで地域社会に関わろうとする態度を育てる。
高学年 (5・6年)	角浜の産業の良さや課題、地域の願い、自分たちの生活との関わりを理解しながら、情報を比較、分類する・関連付けする、多面的・多角的にみるなど、探究の過程に応じた技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解することができる。	角浜地区の人々の「思い」をふまえて自己の課題(問い)を見出し、見通しを持った追求過程において、目的に応じて手段や情報を収集選択し、集めた情報の視点を明確にして整理し、問題状況と事実を関連付けたり、多面的に考察したりして情報の中にある特徴を見付け、相手や目的、意図に応じ、まとめ・表現することができる。	地域の方々とふれあう楽しさや地域の環境を見直し大切にしていこうとする気持ち高め、角浜地区が人々の努力や工夫によって支えられていることに気付きながら、自ら進んで地域社会に関わり、自分と実生活・実社会の問題の解決に取り組もうとする態度を育てる。

<<目標を実現するにふさわしい探究課題と探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力については、総合的な学習の時間の全体計画に準ずる>>

学年	教科・領域/ねらい	大単元名	学習テーマ	視点	内容 <<今年度までの実績>>	共通
1年	【生活科】	海と仲よし ～角浜の よさを伝えよう～	海への親しみ ・楽しい海、地域 ・海や地域での遊び	親しむ 知る	・磯遊び ・海の生き物と触れ合う ・海の作品作り	校内 海洋 発表会 (7月) (2月)
2年	海のすばらしさに 気づく		海への親しみ ・海や地域にあるもの ・生命尊重	親しむ 知る	・絵や文章でまとめる ・海産物販売商店見学 ・気になることを調べる	
3年 総30h	【ひろの学】 【総合的な学習の時間】	角浜調査隊 ～角浜に ついて知ろう～	海洋生物と環境 ・地域の海や川にすむ生き物 ・地域の特産	親しむ 知る	・防災(避難所)について知る。 ・エモーション活動 ・海岸マップ ・角浜を探索する。(生物調査・景観)	
4年 総30h	海のすばらしさと暮らし とのかかわりに気づく		水の循環と環境 ・防災 ・安全 ・環境保全	知る 守る	・角浜の文献等を調べる ・課題探究活動	
5年 総30h	【ひろの学】 【総合的な学習の時間】	ふるさと角浜 ～角浜の未来に ついて考えよう～	水産業と環境 ・特産物と水産業 ・洋野町の海洋環境 ・地域の環境	知る 守る	・地域の未来について考える ・南部潜り見学 ・増殖溝見学 ・乗船体験	
6年 総30h	地球規模で海洋環境を考 え、実行しようとする		環境問題と未来 ・環境問題の実際 ・保全の方法 ・自分にできること	知る 守る	・角浜の文献等を調べる ・課題研究活動 ※ <input type="checkbox"/> は個人・グループによる探究的学習	
海洋教育 ひろの学 4つの視点	海に「親しむ」 海の豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通して、海や地域に対する豊かな感受性や海に対する関心等を培い、海の自然に親しみ、海に進んでかわる。	海を「知る」 海や地域の自然や資源、海や地域をとりまく人や社会との深いかかわりについて関心を持ち、進んでしらべようとする。	海を「守る」 海や地域の環境について調べる活動やその保全活動の体験を通じて、海や地域の環境保全に主体的にかかわろうとする。	海を「利用する」 水産物や資源、船舶を用いた人や物の輸送、また海を通じた世界の人々との結びつきについて理解し、それらを持続的に利用することの大切さを理解し、自分なりの考えをもつ。		

【学習活動】  
・地域の実態、児童の実態を踏まえ、探究課題を設定する。  
・地域の自然や社会、人々の生き方を生かした学習活動を行う。  
・学習成果を全校や地域に表現する場を設定する。  
・地域学習の取り組みを基本とする。  
※情報活用に関わる活動は主に総合的な学習の時間で行う。

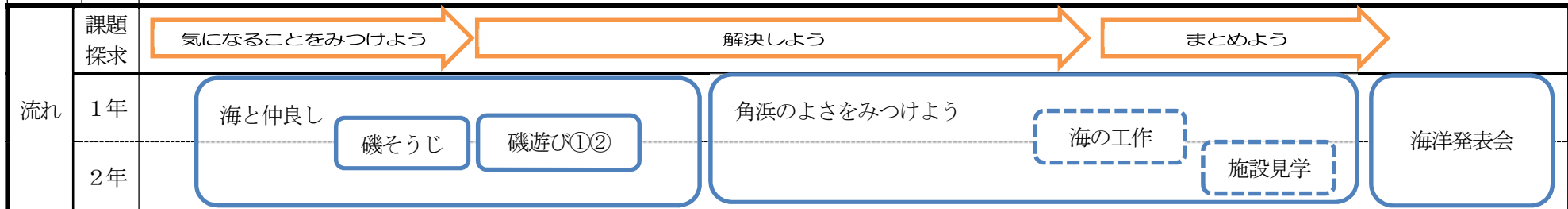
【指導方法】  
・児童の課題意識を連続、発展させる支援と工夫を行う。  
・個に応じた指導の工夫を行う。  
・体験活動を重視する。  
・各教科等との関連を重視した指導を行う。  
・言語により整理、分析したり、まとめ、表現したりする学習を重視する。  
・協働的な学習を充実させるため、思考ツールを積極的に活用する。

【指導体制】  
・全校指導体制を組織する。  
・校内の連絡調整と指導体制を確立する。  
・メディアセンターとしての余裕教室及び学校図書館の整備・充実を図る。  
・地域の教育資源をデータ化するとともに、日常的な関わりを行う。  
・海洋教育パイオニアスクールプログラムの講師派遣等を利用し、専門的な知識を得る機会の充実を図る。  
・地域人材の活用を行う。

【学習評価】 ※別紙詳細  
・ポートフォリオを活用した評価の充実を図る。  
・観点別学習状況を把握するための評価規準を設定する。  
・個人内評価、パフォーマンス評価を重視するため基準となる可視化された課題を設定する。  
・指導と評価の一体化を充実する。  
・期末、学年末には指導計画を評価・改善し、次年度の計画に生かす。

大単元名	角海と仲よし ～角浜のよさを伝えよう～				
学年 目標	(1) 探究的な学習の過程において、角浜地区について興味関心を持ち、角浜地区にある自然や社会、人々と触れ合いから、大切な情報に気付くなど、探究の過程に応じた技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解することができる。 (2) 角浜地区にある自然や社会、人々の生き方の中から自己の課題（問い）を見出し、その追究過程において、自分に必要な情報を収集選択し、自分の思いや考えを絵や文章でまとめ・表現することができる。 (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組む中で、地域の方々とふれあう楽しさや地域を見直し大切にしていこうとする気持ち高め、自ら進んで地域社会に関わろうとする態度を育てる。				
学習 テーマ	1年 [海への親しみ]	・楽しい海、地域	・海や地域での遊び	ねらい	海(角浜地域)のすばらしさに気づく
	2年 [海への親しみ]	・海や地域にあるもの	・生命尊重		

月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
角浜の自然	畑作業【通年】		磯掃除【行事】		海の絵を描こう						
地域の伝統	駒踊り				角小まつり [令和3年度実施なし]				駒踊り		
生活科 関連	1年	学校大好き きれいにさいてね 夏だ遊ぼう 生き物となかよし 楽しい秋いっぱい 作ろう遊ぼう 自分でできるよ 冬を楽しもう もうすぐ2年生									
	2年	春だ今日から2年生 大きくなあれわたしの野菜 どきどきわくわく町探検 生き物なかよし大作戦 うごくうごくわたしのおもちゃ みんなでつかう町の施設 もっとなかよしまちたんけん 伝わる広がるわたしの生活 あしたへジャンプ									

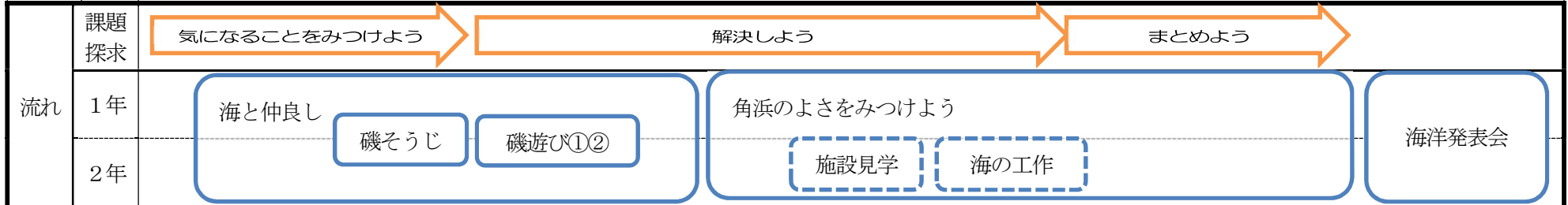


計画 (実施内容)	<p><b>夏だ 海であそぼう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海で遊ぶ計画を立てる。</li> <li>・海で遊ぶ。</li> <li>・活動を振り返る。</li> </ul>	<p><b>つくろうあそぼう 海のたからで</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海のたからものを使ってどんなおもちゃができそうか考える</li> <li>・集めた自然物を使っておもちゃ作りをする。</li> <li>・作ったおもちゃの遊び方を工夫する。</li> <li>・おもちゃ大会をする。</li> <li>・活動を振り返る。</li> </ul> <p>※海に関わる人・もの・こと</p>
--------------	---	--

関連教科	
------	--

大単元名	角海と仲良し ～角浜のよさを伝えよう～			
学年 目標	(1) 探究的な学習の過程において、角浜地区について興味関心を持ち、角浜地区にある自然や社会、人々と触れ合いから、大切な情報に気付くなど、探究の過程に応じた技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解することができる。 (2) 角浜地区にある自然や社会、人々の生き方の中から自己の課題（問い）を見出し、その追究過程において、自分に必要な情報を収集選択し、自分の思いや考えを絵や文章でまとめ・表現することができる。 (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組む中で、地域の方々とふれあう楽しさや地域を見直し大切にしていこうとする気持ち高め、自ら進んで地域社会に関わろうとする態度を育てる。			
学習 テーマ	1年 [海への親しみ]	・楽しい海、地域	・海や地域での遊び	ねらい 海(角浜地域)のすばらしさに気づく
	2年 [海への親しみ]	・海や地域にあるもの	・生命尊重	

月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
角浜の自然	畑作業【通年】		磯掃除【行事】		海の絵を描こう						
地域の伝統	駒踊り				角小まつり [令和3年度実施なし]				駒踊り		
生活科 関連	1年	学校大好き きれいにさいてね 夏だ遊ぼう 生き物となかよし 楽しい秋いっぱい 作ろう遊ぼう 自分でできるよ 冬を楽しもう もうすぐ2年生									
	2年	春だ今日から2年生 大きくなあれわたしの野菜 うごくうごくわたしのおもちゃ どきどきわくわく町探検 生き物なかよし大作戦 もっとなかよしまちたんけん みんなでつかう町の施設 伝わる広がるわたしの生活 あしたへジャンプ									



計画 (実施内容)	<b>どきどきわくわく角浜探検</b> ・町探検の計画を立てる。 ・町探検をする。 ・					<b>もっとなかよし角浜探検</b> ・町探検の計画を立てる。 ・町探検をする。 ・体験したこと、見つけたことから「すてきな角浜」を伝える準備をする。 ・「すてきな角浜」を伝え合う。 ・学習を振り返る。  ※海に関わる人・もの・こと					
--------------	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--

関連教科											
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--



大単元名	角浜調査隊 ～角浜について知ろう～			
学年 目標	(1) 探究的な学習の過程において、自己の課題の解決に必要な角浜地区にある自然や社会、人々の工夫や努力を理解しながら、情報を比較・分類するなど、探究の過程に応じた技能身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解することができる。 (2) 角浜地区にある自然や社会、人々の生き方の中から自己の課題（問い）を見出し、その追求過程において、自分に必要な情報を収集選択し、集めた情報の事実や関係を、事象を比較したり分類したり、数量などで客観的に比較したりして問題状況における特徴を見つけ、まとめ・表現することができる。 (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組む中で、地域の方々とふれあう楽しさや地域の環境を見直し大切にしていこうとする気持ち高め、角浜地区が人々の努力や工夫によって支えられていることに気付きながら、自ら進んで地域社会に関わろうとする態度を育てる。			
学習 テーマ	3年 [海洋生物と環境]	・地域の海や川にすむ生き物	・地域の特産	ねらい 海のすばらしさと暮らしとのかかわりに気づく
	4年 [水の循環と環境]	・防災 ・安全 ・環境保全		

月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
角浜の自然	畑作業【通年】	田植え	磯そうじ【行事】		稲刈り						
地域の伝統	駒踊り				角小まつり [令和3年度実施なし]				駒踊り		



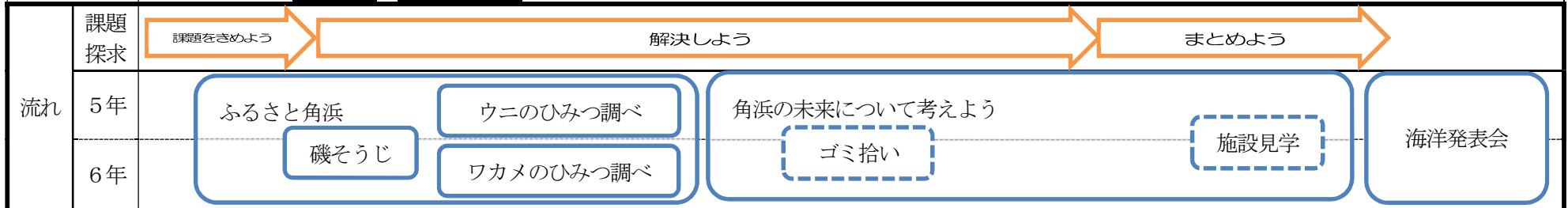
### 角浜調査隊 ～角浜について知ろう～ (30時間)

学習活動  ・前学年の海洋学習をふりかえる。 ・今年度の学習内容を知り、見通しをも <b>オリエンテーション(1)</b>	<b>①「角浜レストラン」(8)</b> ・海岸散策の計画を立てる。 ・小子内地区の海を散策し、海や海岸の様子を知る。 ・海岸散策を振り返り、見つけた不思議を共有する。 ・磯掃除(ツブの駆除)をする。 ・ツブ貝を使ったメニューを考える。 ・作ったメニューを発表する。 ・学習を振り返る。 ※4年生は防災施設の学習も含む。	<b>②「角浜生き物図鑑」(8)</b> ・図鑑を作る計画を立てる。 ・磯掃除で見つけた生き物や、植物(シイタケ)について詳しく調べる。 ・調べたことを整理し、図鑑にまとめる。 ・学習を振り返る。	<b>③「角浜エモーション」(8)</b> ・洋野エモーションが生まれた理由について調べる。 ・角浜のアピールしたいところを入れた旗のデザインを考え、制作する。 ・角浜エモーションをする。 ・学習を振り返る。	<b>海洋発表会に向けて(5)</b> <b>1年間の学習をまとめよう</b>
---	--	--	--	--

関連教科	
------	--

大単元名	ふるさと角浜 ～角浜の未来について考えよう～		
学年 目標	(1) 角浜の産業の良さや課題、地域の願い、自分たちの生活との関わりを理解しながら、情報を比較、分類する・関連付けする、多面的・多角的にみるなど、探究の過程に応じた技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解することができる。 (2) 角浜地区の人々の「思い」をふまえて自己の課題（問い）を見出し、見通しを持った追求過程において、目的に応じて手段や情報を収集選択し、集めた情報の視点を明確にして整理し、問題状況と事実を関連付けたり、多面的に考察したりして情報の中にある特徴を見つけ、相手や目的、意図に応じ、まとめ・表現することができる。 (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組む中で、地域の方々とはふれあう楽しさや地域の環境を見直し大切にしていこうとする気持ち高め、角浜地区が人々の努力や工夫によって支えられていることに気付きながら、自ら進んで地域社会に関わり、自分と実生活・実社会の問題の解決に取り組もうとする態度を育てる。		
学習 テーマ	5年 [水産業と環境]	・特産物と水産業 ・洋野町の海洋環境・地域の環境	ねらい 地球規模で海洋環境を考え、実行しようとする
	6年 [環境問題と未来]	・環境問題の実際 ・保全の方法 ・自分にできること	

月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
角浜の自然	畑作業【通年】	田植え	磯そうじ【行事】			稲刈り					
地域の伝統	駒踊り					棒舞い	角小まつり [令和3年度実施なし]			駒踊り	
学年		修学旅行	ヒーローの旅	《各年》							



学習活動	<b>ふるさと角浜 ～角浜の未来について考えよう～ (30時間)</b>		
	オリエンテーション① ・前学年の海洋学習をふりかえる。 ・今年度の学習内容を知り、見通しをもつ。	①「発見！角浜のウニのひみつ」(12) ・洋野町(角浜)のウニの美味しさについて問いをもち、学習計画を立てる。 ・潮風トレイルで地域の海を散策する。 ・ウニ栽培センター、本、インターネット等でウニの秘密を調べる ・伝えたいテーマを中心にウニ新聞を作り、発表する。 ・学習を振り返る。	②「ウニの未来・角浜の未来」(12) ・ウニが置かれている問題について課題意識をもち学習計画を立てる。 ・北三陸ファクトリーを見学し、ウニを取り巻く環境の変化を調べる。 ・ウニを守るために、自分たちができることを考える。 ・学習をまとめ、発信する。 ・学習を振り返る。

関連教科	5年生…国語「環境問題について報告しよう」 社会「水産業のさかんな地域」 6年生…国語「町の未来をえがこう」
------	--

令和3年度 第3・4学年 単元計画 「角浜調査隊～角浜について知ろう～」

<p>○海洋科の主な学習活動  <b>学習課題</b> 【学習段階】</p>	<p>・指導上の留意点  <b>◆評価規準&lt;観点・方法&gt;</b></p>
<p><b>オリエンテーション</b>                      ○海洋学習について知る。(3年)                      ○今年度の内容を知り、学習の見通しをもつ。                      (1)</p>	<p>・海洋学習の概要を知らせ、今後の学習への期待感をもたせる。                      ◆海洋学習に関心をもち、学習の見通しをもっている。                      &lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; [観察]</p>
<p><b>1. 「角浜レストラン」</b>  <b>海の不思議を見つけよう。</b>                      ○海岸散策の計画を立てる。(1)                      【課題の設定】                      ○地域の海を散策し、海の様子を知る。(2)                      (○磯掃除(ツブの駆除)をする。(学校行事))                      【情報の収集】                      (○防災施設を知る。(4年))</p>	<p>・海の生き物を探したことを想起させる。                      ◆主体的に計画を立てている。                      &lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; [発言・記述]                      ・小子内漁港付近を散策し、様々な視点から海を眺め、海への関心を高めさせる。                      ・磯掃除の目的を確認し、駆除ではあるが特産物にもなることを意識して作業させる。また今後の学習につなげられるよう、磯掃除をしながら生き物を探させる。                      ◆見つけたことを整理して記録している。                      &lt;知識・技能&gt; [観察・記述]</p>
<p><b>レストランのメニューを考えよう。</b>                      ○クボ貝(ツブ)を使ったメニューを考える。(2)                      【整理・分析】</p>	<p>・グループ毎にテーマを決め、クボ貝と洋野町の特産品を取り入れた料理を考え、メニュー表にまとめさせる。                      ◆必要な情報を選び、整理してまとめている。                      &lt;思考・判断・表現&gt; [記述]</p>
<p><b>角浜レストランを発表しよう。</b>                      ○クボ貝メニューの発表をする。(1)                      【まとめ・表現】</p>	<p>・クボ貝の美味しさを伝えるための発表の仕方を考えさせ、発表させる。                      ◆クボ貝と洋野町の特産品のよさを伝えたいという思いをもって発表している。                      &lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; [観察]                      ◆相手意識をもって、学習したことをまとめた発表したりしている。                      &lt;思考・判断・表現&gt; [観察・記述]</p>
<p>○学習を振り返る。(1)                      【振り返り】</p>	<p>◆洋野町の海のよさに気付き、大切にしていこうとしている。                      &lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; [記述]</p>

<p><b>2. 「角浜生き物図鑑」</b></p> <p><b>角浜生き物図鑑を作ろう</b></p> <p>○図鑑を作る計画を立てる。 (1) 【課題設定】</p> <p>○見つけた生き物について詳しく調べる。 (3) 【情報収集】</p> <p>○調べたことを整理し、図鑑にまとめる。 (3) 【整理・分析】</p>	<p>◆主体的に学習計画を立てている。 ＜思考・判断・表現＞[観察・記述]</p> <p>・観点を決め、磯掃除で見つけた生き物について詳しく調べさせる。</p> <p>◆角浜漁港の生き物について、自分なりの方法で調べている。 ＜思考・判断・表現＞[観察・記述]</p> <p>・調べたことの中から、図鑑に必要な情報を選び、整理してまとめさせる。</p> <p>◆必要な情報を選び、整理してまとめている。 ＜思考・判断・表現＞[観察・記述]</p>
<p>○学習を振り返る。 (1) 【振り返り】</p>	<p>◆洋野町の海のよさに気づき、大切にしていこうとしている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞[記述・発言]</p>
<p><b>3. 「角浜エモーション」</b></p> <p><b>エモーションはなぜ生まれたのだろう。</b></p> <p>○洋野エモーションが生まれた理由や歴史について調べる。 (1) 【情報収集】</p>	<p>◆エモーションについて調べ、復興との関わりがあることに気付いている。 ＜知識・技能＞ [発言・記述]</p>
<p><b>角浜の旗を作ろう。</b></p> <p>○角浜のアピールしたいところを取り入れた旗のデザインを考え、制作する。 (4) 【整理・分析】</p>	<p>・洋野町の特産物や角浜生き物図鑑に入れた生き物を、列車のお客さんへアピールできるような旗を制作させる。</p> <p>◆相手意識をもち、旗を制作している。 ＜思考・判断・表現＞[観察・記述]</p>
<p><b>角浜エモーションをしよう。</b></p> <p>○エモーション活動をする。 (2) 【まとめ・表現】</p>	<p>◆相手意識をもち、活動をしている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞[発言・記述]</p>
<p>○学習を振り返る (1) 【振り返り】</p>	<p>◆洋野町の海のよさに気づき、大切にしていこうとしている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞[発言・記述]</p>
<p><b>海洋発表会</b></p> <p>○海洋教育発表会向けに、発表内容を整理し、練習して発表する。 (4)</p>	<p>・小単元の学習内容をまとめ、他学年、保護者に向けて発表させる。</p>
<p><b>1年間のまとめ</b></p> <p>○学習したことを振り返り、思いや願い・新たな問い・生かしたいことなどについてまとめ、発表し合う。 (1)</p>	<p>◆1年間の学習を振り返り、次学年での海洋学習への意欲をもっている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞[記述・発言]</p>



令和3年度 第5・6学年 単元計画 「ふるさと角浜～角浜の未来について考えよう～」

<p>○海洋科の主な学習活動  <b>学習課題</b> 【学習段階】</p>	<p>・指導上の留意点  <b>◆評価規準&lt;観点・方法&gt;</b></p>
<p><b>オリエンテーション</b>                      ○前学年の海洋学習を振り返る。                      ○今年度の内容を知り、学習の見通しをもつ。                      (1)</p>	<p>・前年度の学習との関連づけを明確にしてストーリー性のある計画を立てさせる。                      ◆前学年との関連に気づき、今年度の海洋科学習への問いをもつことができる。                      &lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; [観察・記述]</p>
<p><b>1. 「発見！角浜のウニのひみつ」</b>  <b>角浜のウニにはどんなひみつがあるのだろう。</b>                      ○洋野町のウニの漁獲量の多さや美味しさについて問いをもち、学習計画を立てる。                      (1)                      【課題の設定】</p>	<p>・洋野町のガイドブック等を参考に、特産品であるウニに関心をもたせる。                      ◆洋野町角浜のウニの秘密について問いをもち、進んで海や地域に関わろうとしている。                      &lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; [発言・記述]</p>
<p><b>洋野町のウニのひみつを調べよう。</b>                      ○小子内漁港付近の海岸を散策する。                      (2)                      ○ウニ栽培センター見学，本，インターネット等でウニの秘密を調べる。                      (4)                      【情報の収集】</p>	<p>・地形や砂が海岸によって違うことを知り、海への関心をさらに高めさせる。                      ・ウニの生態や水産業，流通など，視点をもって調べさせる。                      ◆調べ学習を通してウニの生態や成長に適した海洋環境，働く人々の工夫や努力に気付いている。                      &lt;知識・技能&gt; [発言・記述]</p>
<p><b>ウニのひみつを伝えよう。</b>                      ○学んだことを振り返り，何をどのように伝えるのか考える。                      (1)                      【整理・分析】                      ○伝えたいテーマを中心に，新聞やプレゼンテーションを作り，発表する。                      (3)                      【まとめ・表現】</p>	<p>・今まで学習したことを整理し，どのようにまとめるのか考えさせる。                      ◆学んだことを振り返り，何をどのように伝えるのか考えている。                      &lt;思考・判断・表現&gt; [発言・記述]                      ・相手意識をもち，写真や図を用いて分かりやすく新聞やポスター等にまとめさせる。                      ◆相手意識をもって，学習したことをまとめたり発表したりしている。                      &lt;思考・判断・表現&gt; [観察・記述]</p>
<p>○学習を振り返る。                      (1)                      【振り返り】</p>	<p>・小単元での学びを自覚させ，次の学びに活用させる。                      ◆学びを振り返り，進んで海や地域に関わろうとしている。                      &lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; [記述]</p>

<p><b>2. 「ウニの未来・角浜の未来」</b></p> <p><b>ウニが直面している問題とは？</b></p> <p>○ウニが置かれている問題について課題意識を持ち、学習計画を立てる。 (1)</p> <p style="text-align: right;"><b>【課題設定】</b></p>	<p>・最近のウニの課題について知らせ、課題意識をもたせる。</p> <p>◆主体的に学習計画を立てる。        &lt;思考・判断・表現&gt; [観察・記述]</p>
<p><b>最近の海の環境を調べよう</b></p> <p>○ウニを取り巻く環境の変化を調べ、様々な問題があることを知る。 (3)</p> <p style="text-align: right;"><b>【情報収集】</b></p>	<p>・北三陸ファクトリーの見学や調べ学習をし、海の環境問題について学ばせる。        (ゴミ問題、温暖化、生態系の乱れ等)</p> <p>◆環境問題について知る。        &lt;知識・技能&gt; [発言・記述]</p>
<p><b>わたしたちができることは何だろう</b></p> <p>○ウニを守るために、自分たちができることを考える。 (3)</p> <p style="text-align: right;"><b>【整理・分析】</b></p>	<p>・ウニの成長に適した環境を守るために自分でもできることについて考え整理する。</p> <p>◆海洋環境を守り、洋野町のウニを守るために自分たちができることを考える。        &lt;思考・判断・表現&gt; [発言・記述]</p> <p>◆洋野町のよりよい海洋環境について自分の考えをもつ。&lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; [発言・記述]</p>
<p><b>わたしたちの思いを伝えよう。</b></p> <p>○ウニを守るために、自分たちができることを考え発信する。 (4)</p> <p style="text-align: right;"><b>【まとめ・表現】</b></p>	<p>・これまでの学習を振り返り、テーマを決めて海洋サミットに向けた内容を作成し、発表させる。</p> <p>◆海を活用し発展してきたふるさとへの誇りをもち、海との共生共存のために自分たちにできることを実践しようとする。        &lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; [発言・記述]</p>
<p><b>学習したことを振り返ろう</b></p> <p>○洋野町の海洋環境を守ろうという意識をもつ。 (1)</p> <p style="text-align: right;"><b>【振り返り】</b></p>	<p>・これから自分たちが取り組んでいけそうなことを確認し、意識を高めさせる。</p> <p>◆環境を守るために実行できそうなことを考える。        &lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; [発言・記述]</p>
<p><b>海洋発表会</b></p> <p>○海洋教育発表会に向けて、発表内容を整理し、練習して発表する。 (4)</p>	<p>・海洋サミットでまとめた内容をさらに精査し他学年、保護者に向けて発表させる。</p>
<p><b>1年間のまとめ</b></p> <p>○学習したことを振り返り、思いや願い・新たな問い・生かしたいことなどについてまとめ、発表し合う。 (1)</p>	<p>◆海を守るためにこれから自分たちができることを考えている。        &lt;思考・判断・表現&gt; [観察・発言]</p>

## 第3・4・5・6学年 海洋科見学 実施計画書

洋野町立角浜小学校

### 1 目的

- (1) ・地域の海岸を歩き、海岸付近の地形等を観察し、これからの海洋学習への意欲を高める。【3年】
  - ・地域の海岸を歩き、海岸付近の地形等や防災設備等を観察し、海洋学習への意欲を高める。【4年】
  - ・地域の海岸を歩き、海岸付近の地形や水による地形の変化等を観察し、海洋学習への意欲を高める。【5・6年】
- (2) 異学年との関わりを通して、互いの交流を深める。
- (3) 集団行動のきまりや乗り物の乗り方のマナーを守って行動する態度を育てる。

### 2 教育課程における位置づけ及び時数

3・4年 単元名 「角浜レストラン」(全8時間)

- ・海岸散策の計画を立てる。
- ・地域の海を散策し、海や海岸の様子を知る。
- ・海岸散策を振り返り、見つけた不思議、防災設備について共有する。
- ・磯掃除をする。
- ・海のメニューを考え、発表する。
- ・学習を振り返る。

5・6年 単元名 「発見！角浜のウニのひみつ」(全12時間)

- ・学習計画を立てる。
- ・地域の海の散策し、海や地形の様子を知る。
- ・ウニの秘密を調べる。
- ・伝えたいテーマを中心にまとめ、発表する。
- ・学習を振り返る。

### 3 期日

令和3年5月28日(金)

### 4 見学箇所

- ・洋野町小子内付近

### 5 日程等

- 9:00 学校発(小子内まで海岸の道路を通り、海岸の様子を観察)
- 9:30 竜の口(小子内)で児童下車→10分くらい散策  
バスは小子内漁港で待機  
10分後に降りた場所に迎えに来てもらう
- 9:45 竜の口発
- 9:55 小子内漁協で児童下車(バスは漁協空き地で待機)  
防潮堤見学  
海岸散策
- 10:40 小子内漁協駐車場発
- 11:20 学校着
- 11:30 解散

- 6 参加学年人員、参加率  
3年児童3名（男1名 女2名）  
4年児童3名（男1名 女2名）  
5年児童5名（男4名 女1名）  
6年児童5名（男2名 女3名） 100%
- 7 引率者の職、指名、事務分担  
教諭 貴田 靖子（3・4年担任 児童引率・安全指導）  
教諭 山口 有希子（5・6年担任 児童引率・安全指導）
- 8 幹旋業者（交通手段等）及びその連絡先  
町バスを利用
- 9 所要経費と拠出方法  
（1）経費 0円  
（2）拠出方法 なし
- 10 服装、持ち物  
（1）動きやすい服装、紅白帽子  
（2）探検バッグ、筆記用具、水筒
- 11 実施のための安全計画  
（1）朝の健康観察の際、具合の悪い児童がいた場合、家庭に連絡し、参加・不参加の相談をする。  
（2）救急薬品、児童名簿、笛、携帯電話を携帯する。  
（3）事故などの緊急の場合は、学校に連絡し、適切な対応をする。  
（4）感染症予防のため、マスクを着用して行動する。
- 12 事前、事後指導  
（1）集団行動の規律を守って安全に行動できるように事前指導する。  
（2）実施後、学習のまとめができるよう指導する。

# 令和3年度 磯掃除 [ツブ拾い] 実施計画

教務部

## 1. 目的

- (1) 海藻の害になるヒトデやツブの除去や磯のゴミ拾いを行うことで、地域産業への理解や環境教育の推進を図る。
- (2) 作業を通して、海に生き物を観察させ、自然への関心を高める。
- (3) ボランティア活動を通して、奉仕の心や地域環境美化の意識を高める。

2. 期日 令和3年6月25日(金)【行3】 ※予備日 7月9日(金)
3. 場所 角浜漁港の北側の磯
4. 対象学年 全学年
5. 日程並びに内容

6月25日(金)	【干潮 9:34(-93cm)】
7月9日(金)	【干潮 9:06(-70cm)】

◇始めの式(司会:教務)  
場所:漁協前

- (1) 始めの言葉
- (2) 校長先生のお話
- (3) 作業の説明[教務]  
※漁協さん紹介含む
- (4) 漁協さんからの諸注意**
- (5) 作業開始(教務指示)  
※学年ごと移動

実働40分間

集合し、ツブを学年ごと置く。  
ごみ拾い15分間程度

◇終わりの式(司会:教務)  
場所:漁協前

- (1) 校長先生のお話
- (2) 漁協さんから**
- (3) お礼の言葉(児童会長)
- (4) 終わりの言葉

内容	時程
朝の会	8:20～ 8:35
1校時【教科】	8:35～ 9:20
2校時【総合・生活】	9:25～ 10:10
はつらつタイム	休憩 10分
集合・出発(バス)	10:20
漁協前集合	10:30
始めの式(事前指導)	10:35～10:45
移動・準備	10:45～11:00
ツブ拾い	11:00～11:50
集合・人員確認	11:50
ごみ拾い	11:55～12:10
昼食	12:15～12:45
自由遊び	12:45～13:15
集合・人員確認	13:20
漁協へ移動	
終わりの式	13:25～13:35
解散	13:40

## 6. 事前・事後指導について

《主に始めの会で行うこと》(教務)

- ・グループで行動するようにする。(単独行動をしない。)
- ・波打ち際に近寄らない。(立っている先生より後ろへ行かない。)
- ・足元に注意する。(コケ等で滑りやすい。)
- ・石やツブ等生き物を投げたりしない。
- ・アワビやウニは採らない。
- ・回収したごみは分別し、学校へ持ち帰る。

《主に担任が行うこと》

- ・目的を学年に応じて指導する。  
(地域産業への理解、勤労生産・ボランティア教育、環境教育との関わり)
- ・事後指導として、体験作文等、発表・発信(掲示)を計画する。

## 7. 服装及び持ち物

長そで、長ズボン、半そで、短パン、濡れても良いズック、バケツ、手袋、タオル等、弁当、水筒（水かお茶）、レジャーシート

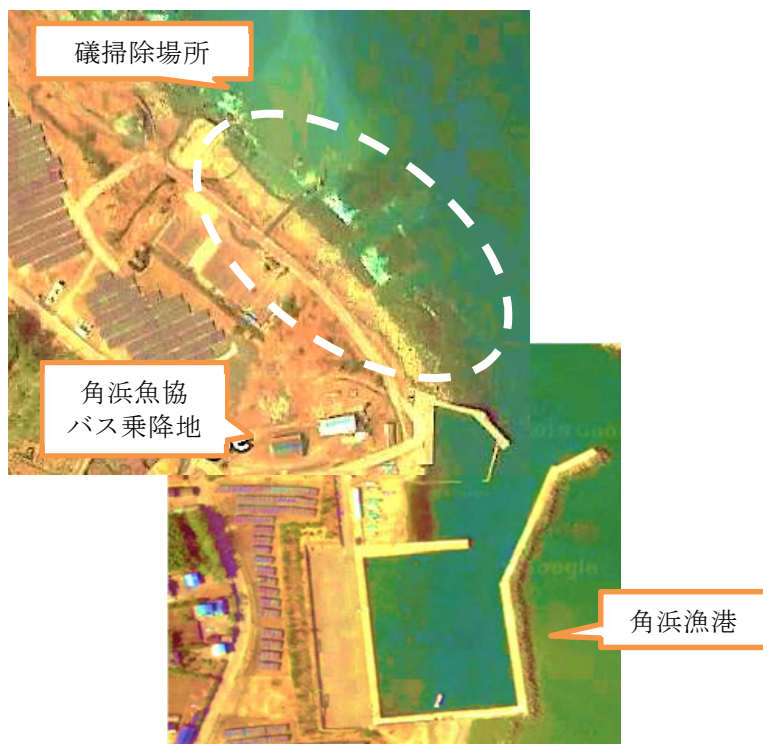
## 8. 下校について

- (1) 各地区ごとに整列する。
- (2) 各地区担当を先導に漁協を出発する。
- (3) 途中家が近い子から帰宅する。

地区	担当
渋谷上	加藤・太田
渋谷下	岩脇
浜通り	貴田・三浦
横丁	富山
学童・伝吉	山口、福田

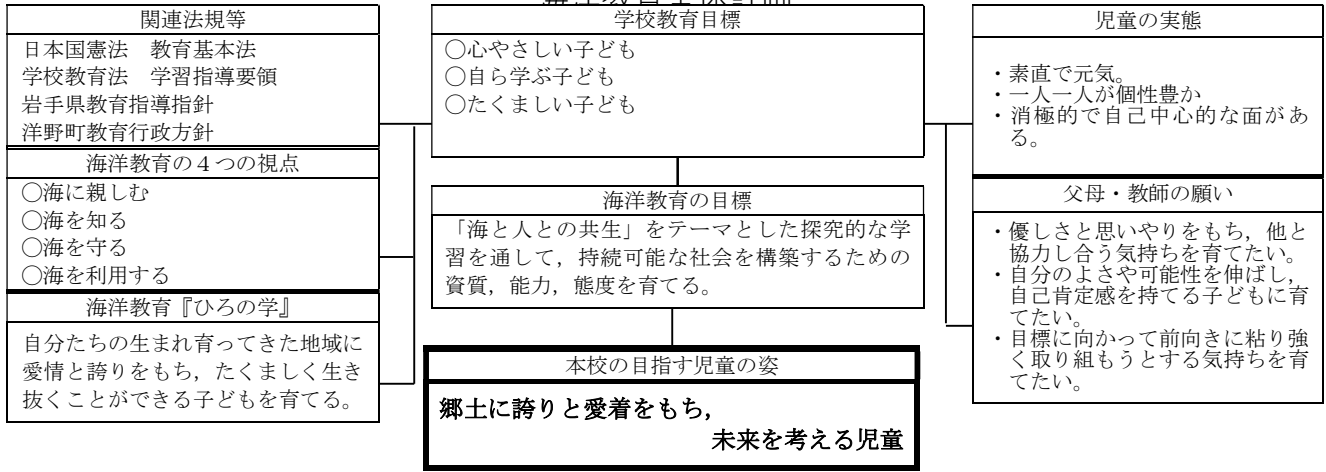
## 9. その他

- (1) 磯掃除当日、予備日とも給食なしで、弁当持参とする。
- (2) 当日は、持ち物が多くなるので、学習用具は前日に学校に置いて帰らせるか、プリントやドリルなど、教科書などを使わない学習を行う。
- (3) 時数は【1校時：教科】【2校時：総合・生活】【3～5校時：学校行事】とする。
- (4) 漁協への依頼は三浦、バス予約は副校長が行う。〔文書・電話連絡〕
- (5) 緊急車両として副校長号、物品運搬車両として下芋坪号を用意する。



# 洋野町立宿戸小学校

海洋教育全体計画

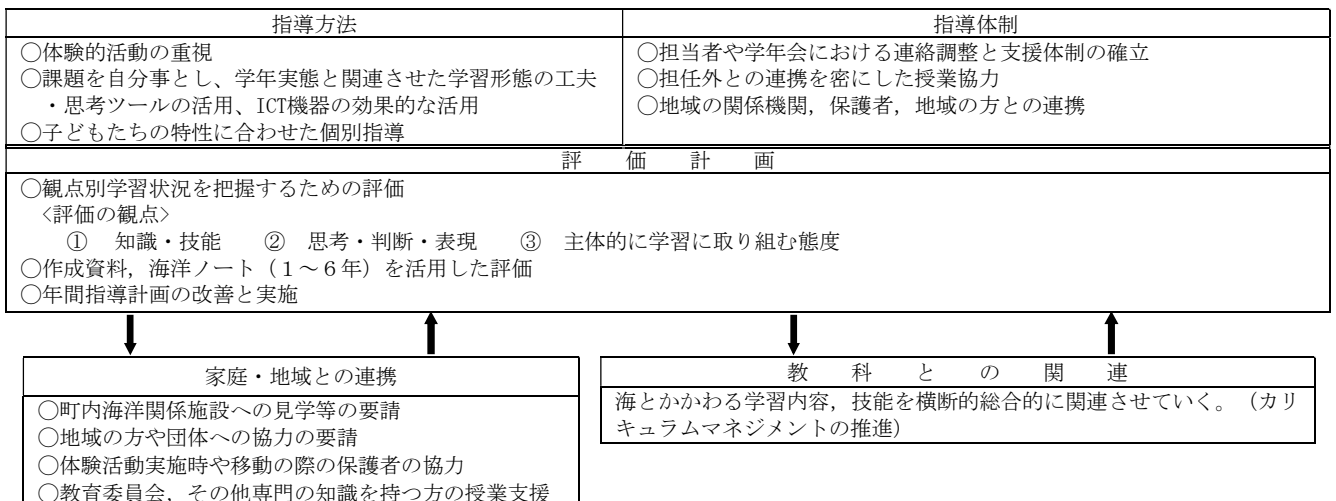


◎ 育成を目指す資質・能力

探究課題	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等			学びに向かう力・人間性等
		思いや願い	かかわる	ふりかえる	
生活科 〈1, 2年〉 身近な海のすばらしさ	身近な海のすばらしさに気づいたり親しみをもちたりする。	対象との関わりをもとに思いや願いをもつ。	対話を通じて気づきの質を高める。気づきや思いを表現する。	対象との関わり方や自分の成長、よさに気づく。	進んで対象に関わる。自分の成長やよさを自覚し意欲や自信をもつ。
海洋科 〈3, 4年〉 海のすばらしさと暮らしとの関わり	地域が豊かな自然環境に支えられていることや自分たちの生活と大きな関わりがあることに気づく。	課題設定の力	情報収集の力	整理・分析の力	主体的・協働的に学ぶ。地域に愛情と誇りをもち。
		問いをもち、解決方法を考える。	既習の方法を活かして情報を収集する。	情報を整理・分析し自分の考えをもつ。	
海洋科 〈5, 6年〉 海洋環境と自分の生き方	身近な自然環境とそこに起きている環境問題を理解し持続可能な開発と自分たちの生き方との関わりに気づく。	問いをもち、解決の見通しをもつ。	適切な方法を考え、情報を収集する。	情報を整理・分析し自分の考えをもつとともに、実行可能な方法を考える。	主体的・協働的に学ぶ。持続可能な開発のために、考えたり行動したりする。

◎ 単元計画

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
視点	海に親しむ・海を知る	海に親しむ・海を知る ・海を守る	海に親しむ・海を知る	海を知る・海を守る	海を知る・海を守る	海を知る・海を守る
単元名	・ごみゼロ運動 ・八木浜遠足 ○うみであそぼう	・ごみゼロ運動 ・稚ウニ放流 ・八木浜遠足 ○なかよしまちたんけん ○宿戸のすてきを見つけよう	・ごみゼロ運動 ・種市海浜公園徒歩遠足 ○宿戸の自慢探検(ウニ、岡谷神社、しいたけ)	・ごみゼロ運動 ・ウニの森植樹祭 ・種市海浜公園徒歩遠足 ・海の生き物探検 ○森と海のつながり調査隊!	・ごみゼロ運動 ・ウニの森植樹祭 ・海の生き物探検 ○洋野町の水産業調査隊～洋野町のウニのひみつとは?～	・ごみゼロ運動 ・ウニの森植樹祭 ・海の生き物探検 ○宿戸の海を守る!～私たちにできること～





# 宿戸うみプロジェクト 全体ストーリーマップ 2021

	種市中学校	3年 販売、PR 2年 荒巻鮭づくり、鮭とぼづくり、ウニ染め販売、PR 1年 ウニとり、塩ウニづくり、内間木洞見学	自己実現を目指す 洋野町の未来の姿を考える 小学校の学習をもとに地域を考える
	テーマ	地域の願い：宿戸の海を知り、大切にし、共存しながら活かして行ってほしい。	
6年	地球規模で海洋環境を考え、実行しようとする 環境問題と未来 ・海と共に生きる ・環境問題の実態	<p>洋野の海は世界とつながっている～海・地球・環境～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋環境、マイクロプラスチック、温暖化、SDGS、海との共生</li> <li>・生活排水と海の世界（川崎光博さん）</li> <li>・水の循環と海洋（東北大学、サミット、カンファレンス）</li> </ul> <p>夢をもって生きる（南部ダイバー）</p>	<p>まとめ、発信</p> <p>「海洋子どもサミット」 「カンファレンス」</p> <p>修学旅行：仙台、松島方面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城の海</li> <li>・被災地を学ぶ</li> </ul>
5年	水産業と環境 ・洋野の海洋環境 ・海産物と水産業	<p>ウニの森植樹祭</p> <p>530ゴミゼロ運動</p> <p>洋野のウニ、海の秘密とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水産教室（吹切守さん）</li> <li>・増殖溝</li> <li>・ウニの年齢（川崎光博さん）</li> </ul> <p>洋野の水産業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培漁業センター</li> <li>・サケマス孵化場</li> <li>・海の世界</li> </ul>	<p>まとめ、発信</p> <p>移動教室：県北青少年の家</p>
4年	水の循環と環境 ・防災・安全・歴史 ・森と海の世界	<p>津波を知り、そなえる（防災マップを作ろう）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防潮堤見学（津波供養塔、避難路）</li> <li>・津波防災教室（宇部義治さん）</li> <li>・津波出前授業（種市高校）</li> <li>・防災マップづくり</li> </ul> <p>森と海つながり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・植樹体験（阿部先生）</li> </ul>	<p>まとめ、発信</p> <p>3・4年徒歩遠足：種市海浜公園</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ拾い</li> <li>・海浜公園で遊ぶ</li> </ul> <p>3・4年校外学習</p> <p>：ひろのまきば天文台</p>
3年	宿戸の自慢 ・地域の特産物 ・海洋生物と環境	<p>宿戸探検隊・名人探し隊</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウニ漁、荷捌き場見学（種市南漁協）</li> <li>・岡谷稲荷神社見学（上岡谷ユミ子さん）</li> <li>・シイタケ栽培場見学（高屋敷さん）</li> <li>・地域の名人探し、インタビュー</li> <li>・郷土料理</li> </ul> <p>大野の自慢は？牛乳、木工、星空...</p>	<p>まとめ、発信</p>
2年	海に出よう ・海の生き物 ・船で稚ウニ放流	<p>宿戸のすてきをつたえよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・船に乗って、沖で稚ウニ放流（吹切守さん）</li> <li>・磯遊び（種市南漁協 吹切安蔵さん）</li> </ul>	<p>まとめ、発表</p> <p>1・2年徒歩遠足：八木漁港</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ拾い</li> <li>・八木漁港の砂浜で遊ぶ</li> </ul>
1年	楽しい海 ・磯遊び ・水槽の世話	<p>うみであそぼう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・磯遊び（種市南漁協 吹切安蔵さん）</li> </ul> <p>水槽の生き物に餌やりの世話をを行う・生き物の観察をする</p>	<p>絵で表現</p> <p>1・2年校外学習</p> <p>：おおのキャンパス</p>
<p>○宿戸小学校の伝統（「宿小音頭」「ソーラン節」「四季の海」）</p> <p>○町事業「海はともだち」（8月 5・6年）</p> <p>○地域事業「海辺の生き物探検」（8月）</p> <p>○子ども会でのゴミゼロ運動、海岸清掃</p> <p>○子ども会でのB&amp;G体験</p>			

※単元名・内容は、実態に合わせて年度ごとに修正・変更を加えていくものとする。

【テーマ】海に親しむ ・海の生き物 ・海での遊び

【目標】海で遊ぶことを通して、海のすばらしさに気づくことができる。

	生活科（うみプロジェクト）の活動の流れ	関連
4月	○がっこうだいすき（20） ・学校生活を支えている人々や友達 ・安心安全で楽しい遊びや生活、登下校	○国語「ひととつながることば」 挨拶・返事
5月	○きれいにさいてね（8） ・植物の種まき、世話、観察、種をとる	○国語「こえをとどけよう」 声のものさし
6月	○なつがやってきた（8） ・校庭で草花や虫探し ・（みんなの公園で遊ぶ）	○国語「みんなにはなそう」 クイズ ○ゴミゼロ運動
7月～8月	・水で遊ぶ ・楽しかったことを伝える	○国語「きいてつたえよう」 ○国語「こんなことしたよ」 ○徒歩遠足：八木漁港
9月	○いきものとなかよし（6） ・虫さがし、観察、世話 ・おおのキャンパス遠足 （動物ふれあい館）	○地域事業 海辺の生き物探検 ○国語「えにっきをかこう」 絵日記
10月	○たのしいあきいっぱい（21） ・秋探し ・葉っぱや実で遊ぶ	○国語「うみのえをかこう」（海の子絵画展） ○国語「かいがら」
11月	・秋のことを伝える ・おもちゃ作り ・一緒に遊ぶ	○国語「はなしたいな ききたいな」 スピーチ、感想・質問
12月	○じぶんでできるよ（12） ・自分の一日を見つめる ・できることをする ・これからも続ける ・昔から伝わる遊びを楽しむ	○国語「なにに見えるかな」 ○国語「はっけんしたよ」 発見メモ ○国語「いろいろなふね」
1月	○ふゆをたのしもう（9） ・冬探し	○国語「すきなきょうかはなあに」 わけ
2月	・雪や氷で、外で遊ぶ ・冬のことを伝える	○国語「おもい出してかこう」 順序を表す言葉
3月	○もうすぐ2ねんせい（18） ・新しい1年生を招待し、話し合う ・1年間をふりかえる	○国語「小学校のことをしょうかいしよう」 時間を表す言葉 ○国語「1年かんをふりかえろう」 よみかえす

**「うみであそぼう」**  
**（生活科の中から全9時間）**  
 ○磯遊びの計画を立てる（1）  
 ・写真などを見ながら海の生き物のことを話し合う。  
 ○海の生き物となかよしになろう（4）  
 ・磯遊びをする。  
 ・感想を話し合う。  
 ○作品にあらわそう（図工から4時間）  
 ・「うみのえをかこう」（4）  
 ※絵画指導ゲストティーチャー  
 ：竹高朝子さん  
 ○作品を発表しよう（3）  
 ・発表の練習をする。  
 ・発表会をする。  
 ○学習をふりかえろう（1）

【テーマ】海に親しむ ・海の生き物 ・海での遊び

【目標】磯遊びや稚ウニ放流、乗船体験を通して、海のすばらしさに気づくことができる。

	生活科（うみプロジェクト）の活動の流れ	関連
4月	○春だ 今日から2年生（6） ・春探し ・春のまちを歩く	○国語「すきなこと、なかに」 対話 ○国語「いくつあつめられるかな」 メモ ○国語「こんなことをしているよ」
5月	○ぐんぐんそだて わたしの野さい（10） ・野菜の種まき、苗植え、世話、観察、収穫	はじめ・中・おわり ○国語「外国の小学校について聞こう」
6月	○どきどきわくわく まちたんけん（10） ・町探検 ・見つけたことを伝え合う	聞き取る ○国語「かんさつしたことを書こう」 メモ・観察
7月	○生きもの なかよし 大作せん（10） ・生き物探し、観察、世話 ・生き物のことを伝え合う	○国語「ことばで絵をつたえよう」 説明 ○ゴミゼロ運動
8月	○うごくうごく わたしのおもちゃ（12） ・動くおもちゃを作る ・遊び方を工夫する	○国語「サツマイモのそだて方」 ○徒歩遠足：八木漁港 ○図工「たのしかったよ ドキドキしたよ」 （海の子絵画展） ○地域事業 海辺の生き物探検
9月	○みんなであそぶ わたしのまち（12） ・動くおもちゃを作る ・遊び方を工夫する	○国語「うれしくなることばをあつめよう」 話をつなぐ
10月	○みんなであそぶ わたしのまち（12） ・動くおもちゃを作る ・遊び方を工夫する	○国語「ピーバーの大工事」 ○国語「あそび方をせつ明しよう」 メモ、カード、説明する文章
11月	○もっとなかよし まちたんけん（12） ・町探検 ・おおのキャンパス遠足 （動物ふれあい館） ・分かったことを話し合う	○国語「たからものをしょうかいしよう」 発表 ○国語「同じところ、ちがうところ」 比べる
12月	○つながる広がる わたしの生活（12） ・もっと詳しく調べる ・まちのすてきを伝える	○国語「「ありがとう」をつたえよう」 手紙
1月	○つながる広がる わたしの生活（12） ・もっと詳しく調べる ・まちのすてきを伝える	○国語「おばあちゃんに聞いたよ」 ○国語「この人をしょうかいします」 組み立てカード
2月	○あしたへ ジャンプ（27） ・自分の成長をまとめる ・感謝の気持ちを伝える	○国語「すきな場しよを教えよう」 声の大きさ、話す速さ
3月	○あしたへ ジャンプ（27） ・自分の成長をまとめる ・感謝の気持ちを伝える	○国語「「ことばのアルバム」を作ろう」 ○道徳「わたしの学校」 ○道徳「絵がすき 海がすき」 ○道徳「見つけたよ」

**「宿戸のすてきをつたえよう」  
（生活科の中から全14時間）**  
  
 ○稚ウニ放流の計画を立てる（1）  
・稚ウニ放流について知り、活動の見通しを持つ。  
 ○稚ウニ放流、乗船体験をしよう（3）  
・稚ウニ放流、乗船体験をする。  
※ゲストティーチャー：吹切守さん  
 ○磯遊びに行こう（4）  
・磯遊びで生き物探しをする。  
※ゲストティーチャー：吹切安蔵さん  
 ○体験したことを伝えよう（5）  
・伝える相手に適した表現方法を話し合う。  
・発表の練習をする。  
・発表会をする。  
 ○学習をふりかえろう（1）

【テーマ】海と地域 ・地域の特産

【目標】海と宿戸の人たちの関わりを調べ、地域の良さを理解し、ふるさとに対する誇りと愛情をもつことができる。

	うみプロジェクトの活動の流れ	関連
4 月	<p>○オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海について知っていることをイメージマップに書き出してみる。海洋学習についての見通しを持つ。</li> <li>・宿戸にはどんな自慢があるのかを知り、学習の見通しを持つ。</li> </ul>	<p>○社会「わたしたちのまち みんなのまち」 土地の様子・使い方・地図</p> <p>○国語「メモを取りながら話を聞こう」 メモ</p>
5 月	<p>(ウニ、アワビ、シイタケ、岡谷稲荷神社など)</p> <p>○自慢探検 その1：ウニ、アワビ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知っていることを話し合い、問いを持つ。</li> <li>・自分の課題を持ち、調べる。</li> </ul>	<p>○国語「調べて書こう、わたしのレポート」 レポート</p> <p>○ゴミゼロ運動</p>
6 月	<p>(本、インターネット、人に聞く)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べて分かったことを交流する。</li> <li>・見学に行って取材する。(6月-7月 馬場等さん)</li> </ul>	<p>○徒歩遠足：種市海浜公園</p>
7 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かったことをまとめる。</li> <li>・表す。→国語と関連させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ウニの自慢ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・甘くておいしい品質のよいウニがたくさんとれる。</li> <li>・ウニのエサとなる天然コンブがたくさんある。</li> <li>・ウニを育てる工夫(増殖溝)がある。</li> </ul> <p>→特産になるように努力してきた宿戸の人たちは、すごい。</p> </div> <p>※以降、問いを持つ、調べる、交流する、見学に行って取材する、まとめる、表す、を繰り返すことで学び方を身につける。</p> <p>※インターネットで調べるには、漢字が読めること、言葉の意味を知っていること、ローマ字入力が必要なこと等、やってみてうまくいかない経験をさせながら、国語の力が必要であることを実感させる。</p>	<p>○国語「ローマ字」 ローマ字入力</p> <p>○社会「はたらく人とわたしたちの暮らし」 農家の仕事</p>
8 月	<p>○自慢探検 その2：岡谷稲荷神社(8月 上岡谷ユミ子さん)</p>	
9 月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>岡谷稲荷神社の自慢ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古くから海の安全と大漁を祈願し、遠方からもお参りに来る。</li> <li>・病気や災いから皆を守ってくれている。</li> <li>・静かで穏やかな気持ちになれる場所。(神様の木、石)</li> </ul> <p>→毎年の例大祭に児童も参加。この神社を守り続ける宿戸の人たちは、すごい。</p> </div>	<p>○国語「パラリンピックについて調べよう」 事典や図鑑</p> <p>○国語「話したいな、わたしの好きな時間」</p>
10 月		<p>○国語「案内の手紙を書こう」 手紙</p> <p>○国語「外国のことをしょうかいしよう」 ポスター</p>
11 月	<p>○自慢探検 その3：シイタケ(10月-11月 高屋敷さん)</p>	<p>○国語「自分の考えをつたえよう」 図や表</p> <p>○国語「言葉でつたえ合う」</p>
12 ~ 3 月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>シイタケの自慢ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「どんこ」品質の良さで何度も岩手県1位。</li> <li>・地域の特性、やませ(冷涼な気候)を生かしている。</li> <li>・シイタケを育てるよい環境がある。</li> </ul> <p>(豊かな山林、コナラ・アカマツが多く自生)</p> <p>→特産になるように試行錯誤してきた宿戸の人は、すごい。</p> </div> <p>○学びのふりかえり</p>	<p>○社会「市のうつつりかわり」</p>

【テーマ】海と環境 ・津波と防災 ・水の循環

【目標】津波と防災について調べ、地域での取り組みを理解し、自分たちに何ができるかを考えることができる。

	うみプロジェクトの活動の流れ	関連
4月	○オリエンテーション ・これまでの学びを振り返る。 ・地震、津波の備えについての問いを持ち、学習の見通しを持つ。	○社会「水はどこから」 浄水場見学
5月	○自分たちの課題を持ち、調べる。 ・復興教育副読本から	○社会「ごみのしよりと利用」ゴミ処理見学 ○国語「ヤドカリとイソギンチャク」
6月	・町の防災マップから	○ウニの森植樹祭 ○ゴミゼロ運動
7月	・本、インターネットから ・家の人や地域の人への取材活動	○徒歩遠足：種市海浜公園 ○国語「たしかめながら話を聞こう」 メモ ○国語「みんなで新聞を作ろう」 新聞 ○国語「お願いやお礼の手紙を書こう」手紙
8月	□防潮堤見学（県北広域振興局土木部） ・小子内防潮堤のしくみ、役割と限界を知る。 ・津波供養塔を調べる。 ・避難路を調べたり、実際に歩いたりする。	○地域事業 海辺の生き物探検
9月	ポイント ・明治、昭和にも大津波があった。 ・防潮堤の高さ 12mは過去の津波の高さをもとに。 ・水門と陸こう。遠隔操作で安全を確保。 ・防潮堤は、避難する時間を稼ぐためのものなので、避難が大事。	○社会「地震からくらしを守る」防災・減災 自助、公助、共助 ○国語「学校についてしょうかいすることを考えよう」
10月	□津波防災教室（宇部義治さん） ・津波の歴史 ・東日本大震災の被害状況 ・自主防災組織	○理科「自然の中の水のすがた」水の循環 ○社会「きょう土の伝統・文化と先人たち」 南部もぐりの開祖 磯崎定吉
11月	・津波防災施設と避難の大切さ などについてお話を聞く。	○国語「聞いてほしいな、心に残っている出来事」
12月	□津波出前授業（10月 種市高等学校） ・津波がおこるしくみ ・津波の速度実験 ・避難の大切さ などについて講義を受ける。	○国語「「ふるさとの食」を伝えよう」 リーフレット ○国語「言葉で考えを伝える」 ○国語「調べたことをほうこくしよう」 アンケート
3月	○防災マップづくり（2020年度は、宿戸・大浜～戸類家・玉川方面） ・フィールドワークで危険個所とその理由を調べ、写真に記録する。 ・写真をもとに話し合い、危険個所の写真と危険な理由を記入した付箋を地図に貼る。  ○学びのふりかえり	○理科「水のすがたと温度」 地球温暖化
	※防災マップづくりは、2020年度で一段落とする。次年度からは、植樹祭をうけての森・川・海の間を（社会、理科と関連させて）学習することも考えられる。	



【テーマ】海と産業 ・水産業 ・海で働く人々

【目標】海と仕事の関わりを調べ、地域でつなげている取り組みを理解し、ふるさとに誇りをもつことができる。

	うみプロジェクトの活動の流れ	関連
4月	○オリエンテーション ・これまでの学びを振り返る。 ・地域の水産業についての問いを持ち、学習の見通しを持つ。	○社会「わたしたちの国土」 海洋
5月	□水産教室（6月 吹切守さん）@宿戸漁港 ・海の生き物観察 ・増殖溝でのウニとり体験 ・荷捌き場でのウニの殻むき体験 ・ウニの年齢調べ（川崎さん）	○国語「知りたいことを聞き出そう」 インタビュー ○国語「動物たちが教えてくれる海の中のくらし」 ○ウニの森植樹祭 ○ゴミゼロ運動 ○移動教室：県北青少年の家
6月	○自分の課題を持ち、調べる。	○国語「環境問題について報告しよう」 資料活用・報告文
7月	・本、インターネットから ・町パンフレットから ・海に携わる人へのインタビュー	○理科「魚のたんじょう」 ○国語「問題を解決するために話し合おう」 原因と結果・意図
8月	ポイント ・宿戸にある海に携わる仕事は大きく5つ 漁業者、漁協、市場、種苗生産、販売者 ・宿戸で行われている漁業 漁船漁業、定置網漁業、採介藻漁業 ・インタビュー 漁業者、漁協、市場、栽培漁業協会、宏八屋 など （仕事内容、仕事に対する思い、仕事に就いた理由、工夫や努力、東日本大震災当時の話や現在の思い など）	○地域事業 海辺の生き物探検 ○町事業 海はともだち
9月		○社会「水産業のさかんな地域」 水産業 ○国語「和の文化について調べよう」 パンフレット
10月	□サケの採卵見学（10月 さけますふ化場） ・サケの一生 ・さけますふ化場の役割	○国語「伝えたい、心に残る言葉」 ○国語「反対の立場を考えて意見文を書こう」 意見文 ○国語「資料を見て考えたことを話そう」 事実と感想
11月	○「海洋教育サミット」へ向けての校内発表会に参加する。 ・6年生の発表を聞いて、今後の学習に生かす。	○社会「わたしたちの生活と環境」 環境
12月～3月	○学びのふりかえり ・修学旅行での洋野紹介に向けて、これまでの学びをふりかえる。	

【テーマ】海と世界 ・海流 ・環境

【目標】地球規模で海洋環境を考えることを通して、海を守るために自分たちができることを考えることができる。

	海プロジェクトの活動の流れ	関連
4月	○オリエンテーション ・これまでの学びを振り返る。	○理科「地球と私たちの暮らし」 環境 ○国語「イースター島にはなぜ森林がないのか」 ○国語「友達の意見を聞いて考えよう」
5月	・学習の見通しを持つ。	
6月	□サケの放流（さけますふ化場） ・サケの習性 ・サケや海流、海洋環境についての問いを持つ。 世界規模でみた海洋…海流、プラスチックごみ、消えゆく島、生き物への影響、漁業の未来 等	○ウニの森植樹祭 ○ゴミゼロ運動 ○修学旅行：仙台・松島方面
7月	○自分の課題を持ち、調べる。 ・本、新聞から ・町パンフレットから	○国語「防災ポスターを作ろう」 図表やグラフ・ポスター ○理科「生き物の暮らしと環境」 生命・環境
8月	・家の人や地域の人へのイタインタビュー	○地域事業 海辺の生き物探検隊 ○町事業 海はともだち
9月	□環境教室（岩手県さけ・ます増殖協会 川崎光博さん） ・宿戸の海の現状 ・直面している環境問題 ・これまでの取り組み ・これから私たちができること	○国語「話し合って考えを深めよう」 ○国語「海の命」 ○理科「大地のつくりと変化」 土地のつくり・ジオパーク
10月	□サケの採卵体験（さけますふ化場） ・サケやサケを取り巻く海洋環境、これまでの学びの理解を深める。	○国語「町の未来をえがこう」 プレゼンテーション
11月	○調べてわかったことをまとめ、発信する。（視点がある程度しぼる。） ・海洋教育こどもサミットに向けての取り組み →国語と関連	○国語「世界の未来をえがこう」 ○国語「世界に目を向けて意見文を書こう」 意見文・説得力
12月	○「海洋教育サミット」での発表	○国語「言葉の学習をふり返る」 ○国語「聞いてほしい、この思い」 スピーチ
～3月	□荒巻サケづくり ○学びのふりかえり	○社会「世界の中の日本」 ○理科「地球に生きる」 環境

## 第1学年 生活科学習指導案

日時 令和3年6月16日(水) 2校時  
児童 男子4名 女子5名 計 9名  
指導者 柴田 直美

### 1 単元名 「うみであそぼう」

### 2 単元について

#### (1) 教材について

学習指導要領第1学年及び2学年の目標(2)は、「身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、それらを工夫したり楽しんだりすることができ、活動のよさや大切さに気づき、自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。」である。また、本単元の主たる内容(5)は、「身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることにも気づくとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。」である。本単元では、地域の海と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付け、身近な自然の様子や面白さに気づくとともに、身近な海への親しみを感じ、遊びや生活を楽しむことができるようにすることをねらいとしている。

#### (2) 児童について

本学級の児童は、入学時から外遊びを好む児童が多く、校庭の木々の変化や草花の様子を友達や教師に伝える姿が見られる。児童は、これまでに、身近な自然に関わる活動としては、学校内や校舎の周りの探検、宿戸漁港でのごみゼロ運動や磯遊び、八木漁港での製氷工場見学や砂遊びを行ってきた。昇降口にある水槽の生き物に興味を示し、じっと観察していることもある。観察して気付いたことや体験して思ったことなどの発表は意欲的に行い、友達の話聞いて豊かに反応できる。また、非常にマイペースな児童や、言葉による理解や表現が苦手な児童が数名いるため、個に応じた支援や視覚的な支援が常に必要である。本単元では、地域の海の様子や海の生き物の面白さについて、工夫して表しながら、友達との交流の楽しさを広げたいと考える。

#### (3) 指導について

学習を進めるにあたり、ごみゼロ運動や砂遊び、磯遊び等の体験を想起させ、楽しかったことや気付いたことを確かめる。国語・図工と関連させて、地域の海で見つけたものをクイズにしたり、海の生き物を工夫して作ったりすることで、身近な海への親しみを実感させながら、自分たちの生活や遊びを楽しめるようにしていきたい。

### 3 単元の指導計画

#### (1) 単元の目標

- ・地域の海と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付け、身近な自然の様子や面白さに気づくとともに、地域の海への親しみを感じ、遊びや生活を楽しむことができるようにする。

#### (2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度
地域の海と関わる活動を通して、身近な自然の様子や面白さに気付いている。	地域の海と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付けている。	地域の海と関わる活動を通し、身近な海への親しみを感じ、遊びを楽しもうとしている。



(3) 単元計画 単元名「うみであそぼう」(全9時間 本時 7/9)

<p style="text-align: center;"><b>学習課題</b></p> <p style="text-align: center;">○主な学習活動</p>	<p style="text-align: center;">・指導上の留意点 ◇教科等の関連 ◆評価規準 &lt;観点&gt; [方法] ※ゲストティーチャー</p>
<p style="text-align: center;">うみについて 知っていることを はなそう</p> <p>○海について知っていることを話し合う。 ○どんな活動をしていくのかを知る。 (1)</p>	<p>・地域の海について知っていることを話し合わせ、活動に見通しを持たせる。 ◆地域の海や海の生き物との触れ合いについて関心をもっている。 &lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; [発言・観察]</p>
<p style="text-align: center;">えんそくの めあてを きめよう</p> <p>○活動の内容を知り、学習課題と約束を確認する。 ○チームごとに遠足のめあてを決める。 (学活1)</p>	<p>・ごみゼロ運動についても触れながら、八木漁港でゴミ拾いと砂遊びをすることを伝え、約束やめあて等を確認させる。 ◆地域の海や砂遊びについて関心をもっている。 &lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; [発言・観察]</p>
<p style="text-align: center;">「ごみゼロうんどう」を がんばろう</p> <p>○宿戸漁港のゴミを拾う。 ○分別して捨てる。 (行事1)</p>	<p>・宿戸漁港に落ちているごみの様子を観察させる。 ◆地域の海の様子に関心をもっている。 &lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; [発言・観察]</p>
<p style="text-align: center;">「ごみゼロうんどう」を ふりかえろう</p> <p>○感想を話し合う。 (1)</p>	<p>・ごみゼロ運動で気付いたことを話し合わせる。 ◆地域の海の様子に気付いている。 &lt;思考・判断・表現力&gt; [発言・観察]</p>
<p style="text-align: center;">えんそくを たのしもう</p> <p>○八木漁港まで歩く。 ○製氷工場を見学する。 ○八木漁港のゴミを拾う。 ○砂浜で遊ぶ。 (学校行事5)</p>	<p>・交通ルールや海で安全に遊ぶためのマナーを守らせる。 ※種市南漁協 吹切 安蔵 さん ◆安全に気をつけながら、地域の海に親しみ、砂遊びを楽しんでいる。 &lt;知識・技能&gt; [観察]</p>
<p style="text-align: center;">えんそくを ふりかえろう</p> <p>○感想を話し合う。 ○カードにかく。 (1)</p>	<p>・遠足で気付いたことや楽しかったことを話し合わせる。 ◆八木漁港の様子や特徴に気付いている。 &lt;思考・判断・表現力&gt; [発言・観察]</p>
<p style="text-align: center;">いそあそびの けいかくを たてよう</p> <p>○写真などを見ながら、カニや海のことを話し合う。 ○活動の内容を知り、学習内容の見通しを持つ。(1)</p>	<p>・海の生き物について、知っていることを話し合わせる。 ◆地域の海や海の生き物との触れ合いについて関心をもっている。 &lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; [発言・観察]</p>
<p style="text-align: center;">うみのいきものと なかよしになろう</p> <p>○海で働く人の話を聞き、磯遊びをする。 (2)</p>	<p>・海で安全に遊ぶためのルールやマナーを守らせる。 ※種市南漁協 吹切 安蔵さん ◆安全に気をつけながら、地域の海に親しみ、海の</p>

	<p>生き物との遊びを楽しんでいる。          &lt;知識・技能&gt; [観察]</p>
<p><b>いそあそびを ふりかえろう</b></p> <p>○感想を話し合う。          ○イメージマップに整理する。</p> <p>本時(1)</p>	<p>・磯遊びで気付いたことや楽しかったことを話し合わせる。          ◆宿戸漁港の様子や生き物の特徴に気付いている。</p> <p>&lt;思考・判断・表現力&gt; [発言・観察]</p>
<p><b>うみのいきものを つくろう</b></p> <p>○海の生き物を粘土で作ったり折り紙で表したりする。</p> <p>(図工3)</p>	<p>・粘土や折り紙を工夫して使って、海の生き物の様子を表すようにさせる。          ◆海の様子や生き物の特徴に気付いている。</p> <p>&lt;思考・判断・表現力&gt; [発言・観察]</p> <p>◇図工「ねんどと なかよし」          ◆海の生き物を粘土で作ることを楽しんでいる。          ◇図工「チョッキン パツで かざろう」          ◆海の生き物を折り紙で作ることを楽しんでいる。</p> <p>&lt;知識・技能&gt; [発言・観察・作品]</p>
<p><b>うみのいきものの くいずたいかいを しよう</b></p> <p>○見つけた生き物について、クイズを出す。</p> <p>(国語1)</p>	<p>・磯遊びで見つけた生き物について、簡単なクイズを作って発表し合うようにする。          ◇国語「みんなに はなそう」          ◆見つけた海の生き物について、クイズ形式で発表したり答えたりしている。</p> <p>&lt;思考・判断・表現力&gt; [発言・観察]</p>
<p><b>たのしかったことを おおきく かこう</b></p> <p>○磯遊びや砂遊びで楽しかったことを描く。</p> <p>(図工3)</p>	<p>・ゲストティーチャーとの対話を通して気付いたことを絵に描くようにさせる。</p> <p>※小室 圭稔先生          ◇図工「うみの えを かこう」          ◆海の学習で楽しかったことを絵に描き、その様子について友達に伝えている。</p> <p>&lt;思考・判断・表現力&gt; [発言・観察・作品]</p>
<p><b>うみがくしゅうの おはなしかいを しよう</b></p> <p>○海の学習について、話したり聞いたりする。</p> <p>(国語1)</p>	<p>・海の学習について、相手に伝わるように話すようにさせる。          ◇国語「きいてつたえよう」          ◆大事なことを落とさないように聞く。</p> <p>&lt;知識・技能&gt; [発言・観察]</p>
<p><b>いえのひとに しらせたいことを かこう</b></p> <p>○海の学習について、語と語の続き方に気を付けて文章を書く。</p> <p>(国語1)</p>	<p>・海の学習について、相手に伝わるように書くようにさせる。          ◇国語「こんなことしたよ」          ◆伝えたいことが明確になるように書いている。</p> <p>&lt;知識・技能&gt; [発言・観察・ノート]</p>

<p>たのしかったことを えにつきに かこう</p> <p>○海の学習について、絵日記に書く。 (国語2)</p>	<p>・海の学習について、絵と文(3文程度)で表すようにさせる。</p> <p>◇国語「えにつきをかこう」</p> <p>◆自分が伝えたいことについて、絵や文章で表現している。</p> <p>&lt;思考・判断・表現力&gt; [発言・観察・絵日記]</p>
<p>うみのがくしゅうを ふりかえろう</p> <p>○活動や作品について、感想を話し合う。</p> <p>○海洋ノートに整理する。</p> <p>(2)</p>	<p>・これまでの活動を振り返り、身近な自然の様子や面白さに気付かせる。</p> <p>◆学習を通して感じたことやできるようになったことに気付いている。</p> <p>&lt;主体的に学ぼうとする態度&gt; [発言・ノート]</p>

#### 4 本時のねらい

磯遊びを振り返り、地域の海の様子や生き物の特徴に気付くことができる。

#### 5 本時の指導計画

配時	学 習 活 動	・指導上の留意点
5分	<p>1 海での学習について想起する。</p> <p>○今までの活動を振り返り確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿戸漁港でゴミゼロ運動をした。</li> <li>・遠足で八木漁港に行って、製氷工場を見学したり砂遊びをしたりした。</li> <li>・宿戸漁港で、磯遊びをした。</li> </ul> <p>○今日の学習を確かめる。</p> <p>いそあそびを ふりかえろう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各活動について、写真や動画等で確かめる。</li> <li>・磯遊びで楽しかったことや気付いたことを、友達と話し合うことを伝える。</li> </ul>
35分	<p>2 磯遊びで楽しかったことや、見つけた生き物の様子や特徴について気付いたことを、グループで話し合う。</p> <p>3 発表する。</p> <p>4 イメージマップから気付いたことを交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで交流する場を設定する。</li> <li>・個別の支援が必要な児童については、対話を通して話をつなぎながら支援する。(担任・支援員)</li> <li>・児童の発言を、イメージマップに整理していく。</li> <li>・全体で交流する場を設定する。</li> <li>◆宿戸地域の海の様子や生き物の特徴に気付いている。</li> <li>&lt;思考・判断・表現力&gt; [発言・観察]</li> </ul>
5分	<p>4 本時の振り返りをする</p> <p>○今日の学習の振り返りをする。</p> <p>○図工の時間に作品作りをすることを知らせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の海への気付きや友達との交流について振り返らせる。</li> <li>・本時の気付きを作品作りにつなげる。</li> </ul>

## 6 本時の実践

<成果>

### □導入段階

- ・ 遠足や磯遊びの動画や写真を見て、海の生き物の様子や楽しかったことを想起させる時間を確保した。

<磯遊びの様子>



<楽しかったことを話す児童>



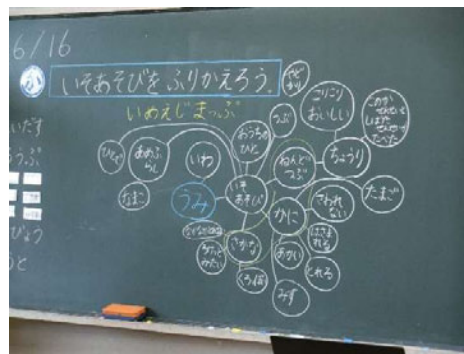
### □展開段階

- ・ 3人組の3グループで、磯遊びで楽しかったことや、見つけた生き物の様子などを交流した。担任や支援員が話をつなぎながら、一人一人が自由に発言し合った。
- ・ 児童の発言をイメージマップとして板書していき、全体で交流した。

<グループ交流の場面>



<イメージマップ>



### □終末段階

- ・ 本時の学習活動について、海洋科ノートに「ふりかえり」を書くことができた。

- ・ うみのことをすることができて、うれしかったです。いそがに、やどかり、あめふらし、なまこ、ひとでがいました。(1年男子)
- ・ かにのうでがとれたのに、うごいていた。すごいでかいいわを、ふたりでうごかしたら、ちょっとちいさいかにと、すごいでかいかにかいた。(1年女子)

<課題>

- ・ イメージマップの活動では言葉でのやりとりだけではなく、写真を使ってのやり取りも有効である。
- ・ 気付きの質を高めるために、体験活動の他者との交流や多様な表現活動（言葉や絵・動作）への繋ぎ方を工夫していく。
- ・ 子どもたちが話し合う際の方向性があるとよい。

## 7 単元の実践記録

### (1) 活動の様子

単元名「うみであそぼう」

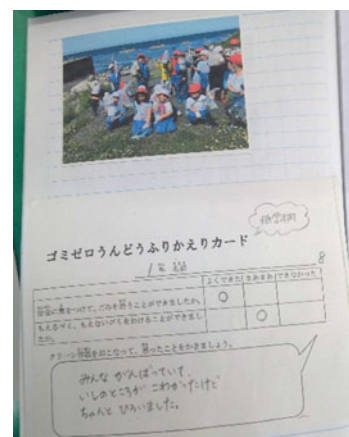
うみについて知っていることをはなそう (生活科) (1時間)

- ① 海について知っていることを話し合う。
- ② どんな活動をしていくことかを知る。
  - ・地域の海について知っていることや、海での楽しい体験を話しながら、その様子の絵をミニカードに描いた。



えんそくのめあてをきめよう。(学活) (1時間)

- ① 活動の内容を知り、学習課題と約束を確認する。
- ② チームごとに遠足のめあてを決める。
  - ・1・2年生合同のチームを作り各チームごとに話し合った。



「ゴミゼロうんどう」をがんばろう (行事) (1時間)

- ・2年生と一緒に宿戸漁港まで歩き、「燃やせるゴミ」「燃やせないゴミ」に分けながらごみ拾いを行った。

「ゴミゼロうんどう」をふりかえろう (生活科) (1時間)

- ・一人一人から感想を聞き取り、担任が「ふりかえりカード」に記入した。

えんそくをたのしもう (行事) (5時間)

- ① 八木漁港まで歩く。
  - ② 製氷工場を見学する。
  - ③ 八木漁港のゴミを拾う。
  - ④ 砂浜で遊ぶ。
- ・八木漁港まで、約45分の道のりをチームごとに歩いた。
  - ・製氷工場を見学の後は、分別しながら時間いっぱいごみ拾いを行い、きれいになった砂浜で砂遊びを楽しんだり、まだ冷たい海水の感触を楽しんだりした。



【製氷工場の見学】



【砂遊びの様子】



【海水の感触を楽しむ様子】

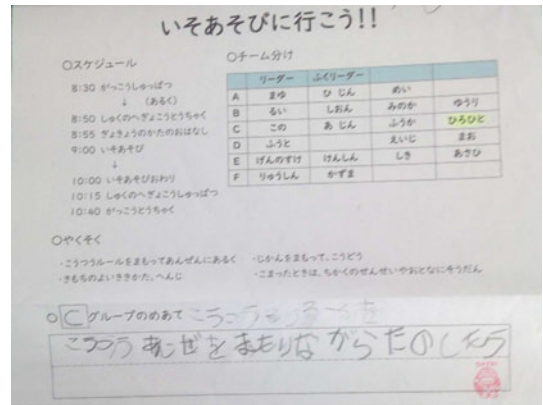
えんそくをふりかえろう (生活科) (1時間)

- ・写真を見ながら、「この時に〇〇さんが、～～していたね。」等と遠足の感想を話し合った。



いそあそびのけいかくをたてよう (生活科) (1時間)

- ① 写真などを見ながら、カニや海のことを話し合う。
- ② 活動の内容を知り、学習内容の見直しをもつ。



うみのいきものとなかよしになろう (磯遊び) (2時間)

- ① 海で働く人の話を聞き、磯遊びをする。

・種市南漁協の吹切安蔵さんから、大人の目が届かない場所に行かないこと、海は急に深くなるので油断しないこと、小さいウニを捕らないこと等を教えていただいた。その後は、ライフジャケットを着用してから磯に移動し、岩を動かしてカニや魚を捕まえたり、アメフラシやヤドカリ、ツブを捕ったりするなど、友だちや保護者と関わりながら、時間いっぱい海の生き物と触れ合った。



【宿戸漁港で磯遊びを楽しむ1年生】

いそあそびをふりかえろう (生活科) (1時間)

・海の学習について写真や動画で振り返り、グループ交流の後に、全体で確認しながらイメージマップに整理した。

うみのいきものをつくろう (図工) (4時間)

- ① 海の生き物を粘土で作ったり折り紙で表したりする。
- ・「石をどけたら小さい魚がいたんだよ。」等と話しながら、思い思いに作品作りを行った。



たのしかったことをおおきくかこう (図工) (3時間)

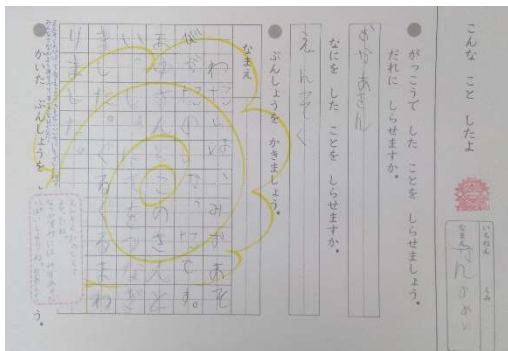
① 磯遊びや砂遊びで楽しかったことを描く。

- ・かつて宿戸小学校で勤務されていた小室圭稔先生をお迎えして、絵画指導をしていただいた。小室先生は、「磯遊びのとき、どんな生き物を見つけましたか？」と話し、対話を通して子どもたちの思いを引き出してくださった。磯遊びの楽しさを思い出した子どもたちは、のびのびと絵を描くことができた。



うみがくしゅうおはなしかいをしよう (国語) (1時間)

- ・海の学習について、語と語の続き方に気を付けて文章を書いたあとに、学級で発表会を行い、保護者からもコメントをもらった。



たのしかったことをえにっきにかこう (関連教科:国語) (1時間)

- ・海の学習も含め、楽しかったことについて絵日記に書いた。

うみがくしゅうをふりかえろう (生活科) (1時間)

- ① 活動や作品について、感想を話し合う。
- ② 海洋ノートに整理する。

【写真を貼って活動をまとめた海洋ノート】

- ・体験学習を様々な形に表現したり交流し合ったりして、地域の海への親しみを深めたことを確認できた。

(2) 活動の振り返り

○地域の特色を実感できる体験活動『磯遊び』について、国語や図工と関連させながら、生活科のねらいに沿った単元づくりを行うことができた。

△体験活動から表現活動に繋げる際に、気付きの質を高めるための工夫が必要である。

## 第2学年 生活科学習指導案

日 時 令和3年9月24日(金) 2校時  
児 童 男子9名 女子2名 計11名  
指導者 深澤 好花(T1) 谷川 晶子(T2)

1 単元名 「もっとなかよしまちたんけん/もっと宿戸のすてきをみつけよう！」(12時間)

### 2 単元について

#### (1) 教材について

学習指導要領第1学年及び2学年の目標(2)は、「身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、それらを工夫したり楽しんだりすることができ、活動のよさや大切さに気づき、自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。」である。また、本単元の主たる内容(3)は、「地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。」である。

1学期の町探検では、稚ウニ放流・乗船体験、磯遊びの活動から地域の人々や海に対して親しみや愛着をもち、宿戸のよさをみつける学習をした。本単元では、地域の人々と関わる活動を通して、地域で生活したり、働いたりしている人と自分たちの生活との関わりをみつけ、自分たちの生活はさまざまな人や場所と関わっていることや、地域の人々が地域に寄せる思いに気付くとともに、地域の人々に親しみや愛着をもち、適切に接したり、安全に生活したりすることをねらいとしている。

#### (2) 児童について

本学級の児童は生活科の学習に意欲的に取り組む姿が見られる。児童はこれまでに稚ウニ放流・乗船体験、磯遊び体験から、自分たちの住む地域や海の生き物に対して興味をもって学習を進めてきた。漁協組合の人や地域のゲストティーチャーに海や自然について教えてもらい、安全に楽しく活動した経験がある。しかし、漁協組合の人が普段どのような仕事をしているのか、地域の店の場所、地域で生活したり働いたりしている人にはあまり目が向いていない。本単元では、町探検を通して地域の海の素晴らしさや、地域に住む人や働く人の思いや工夫などに気づき、地域の人や場所に親しみをもてるようにしたいと考える。

#### (3) 指導について

本単元では、稚ウニ放流や磯遊び、これまで体験した地域での出来事などを友達と伝え合う中で、宿戸の素敵などころについて調べたいという思いから町探検について計画を立てることで、子どもの思いを含めた体験活動を図る。1学期に教えてもらった漁協組合の方や、地域で生活する人、働いている人と関わる活動を通して、その人たちの地域への思いや工夫などに気づき、地域の人や場所に親しみをもつことができるようにする。みつけたことを紹介し合う際には、探検でみつけた友達に伝えたいことを付箋に書いて整理することで、発表が不得手な児童も主体的に活動できるようにする。また、共通点や相違点に着目して分類する方法を学び、思考スキルを身に付けていきたい。

### 3 単元の指導計画

#### (1) 単元の目標

- ・地域の人々と関わる活動を通して、地域で生活したり、働いたりしている人と自分たちの生活との関わりをみつけ、自分たちの生活はさまざまな人や場所と関わっていることや、地域の人々が地域に寄せる思いに気付くとともに、地域の人々に親しみや愛着をもち、適切に接したり、安全に生活したりすることができるようにする。



(2) 単元の評価規準

単元 の評価 基準		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		地域の人々と関わる活動を通して、自分たちの生活は、地域のさまざまな人や場所と関わっていることや、地域の人々が地域に寄せる思いに気付いている。	地域の人々と関わる活動を通して、地域で生活したり、働いたりしている人と自分たちの生活との関わりをみつけている。	地域の人々と関わる活動を通して、地域の人々に親しみや愛着をもち、適切に接したり、安全に生活したりしようとしている。
小単元 における 評価基準	1		① 探検に行って実現できそうなことを予想し、探検する場所や調べることを決めている。	
	2	① 地域にある場所には、働く人や生活している人がいることに気付いている。	② 地域でみつけたことを自分のこれまでの経験と関連付けながら、地域の場所や人の役割を探している。	
	3		③ 友達のみつけたことと自分のみつけたことの共通点や相違点を探しながら、地域のことを伝え合っている。	① 探検で分からなかったことを調べたいという思いや、もっと詳しく知りたいという思いをもち、もう一度探検に行こうとしている。
	4	② 探検で関わった地域の人々の、地域に寄せる思いに気付いている。 ③ (習慣や技能) 地域の人々と接する際、相手や場に応じた挨拶や適切な言葉遣いをしている。		② 地域で関わった人々の、地域に寄せる思いから共通点を見出し、地域の人々のよさについて話している。
	5	④ 地域には自分たちのくらしを豊かにしてくれる人々がたくさんいることに気付いている。	④ 自分や友達が関わった地域に寄せる思いから共通点を見出し、地域の人々のよさについて話している。	

(3) 単元計画 (全12時間 本時7/12)

小単元名 (時間)	学習活動	評価基準	評価方法
1 「たんけんの計画を立てよう」(2)	○探検に行きたい場所や話したい人、聞きたいことなどについて話し合い、探検先ごとのグループをつくる。 ○グループごとに探検場所や聞きたいこと、コースや持ち物など、探検の計画を立て、計画書に記入する。	思①	・行動観察 ・発言内容や表現物の分析
2 「もういちどたんけんに行こう」(3)	○グループごとに探検に行く。 ○探検活動を振り返り、気付いたことを記録カードに書く。	知① 思②	・行動観察 ・表現物の分析
3 「みつけたことをしようかいしよう」(3) (本時)	○探検でみつけたことを、グループごとに整理し、全体の場で紹介しあう。 ○グループごとに、次の探検の計画を立てる。	思③ 態①	・行動観察 ・発言内容や表現物の分析
4 「まちの人に聞こう」(2)	○各グループで前時の学習活動を踏まえて探検の内容を検討し、計画を仕上げ、調べる準備をする。 ○グループごとに調べる。	知② 態②	・行動観察 ・表現物の分析
5 「分かったことを話し合おう」(2)	○探検で分かったことを、グループごとに整理してまとめ、ほかのグループの友達に紹介するための準備をする。 ○町探検で分かったことを紹介し合う。	知④ 思④	・行動観察 ・発言内容や表現物の分析

4 本時のねらい

友達と自分のみつけたことの共通点や相違点を探しながら地域でみつけたことを伝え合うことができる。

5 本時の指導計画

配時	学習活動	指導上の留意点
5分	1 前時の学習を振り返り、学習の見通しをもつ。 ○前時までの学習を振り返る。 ○今日の学習を確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">まちたんけんでみつけたことをせいりして、しようかいしよう。</div>	・これまでの活動を振り返ることで、活動の見通しをもつことができるようにする。 ・「これを伝えたい」ということをグループで整理して学級みんなに伝え合うという目的・課題を意識させる。

<p>30分</p>	<p>2 町探検でみつけてきたことを整理し、紹介することを決める。</p> <p>○発表の仕方について確認する。</p> <p>○グループごとに前時までに書いた町探検でみつけたことの付箋を分類する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・磯遊びの時は海に漁協の人が来てくれたけれど、仕事している場所は学校の近くだ。</li> <li>・消防の屯所と駐在は安全を守る仕事で似ている。</li> <li>・郵便局と美容室はお客さんを笑顔にしていた。</li> </ul> <p>3 町探検でみつけたことを紹介する。</p> <p>○記録カードや写真を示しながら紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話型を意識しながら発表をする。</li> <li>・発表の際は、探検時に撮影した画像や動画を活用する。</li> <li>・聞く側の児童は、質問や感想、気付いたことを発言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通点や相違点ごとに分類する。操作の途中で分類の理由を聞き、思いの言語化を図る。仲間分けごとにタイトルをつけ、新たな気付きにつなげる。</li> <li>・個別の支援が必要な児童については、対話を通して話の内容を整理したり、言葉を教えたりする。(T2)</li> <li>・「みつけたこと」「聞いたこと」「感じたこと」などの違いが分かるように文末を意識して話すよう指導する。</li> <li>◆友達のみつけたことと自分のみつけたことの共通点や相違点を探しながら、地域のことを伝え合っている。〈思考・判断・表現〉[発言内容や表現物の分析]</li> </ul>
<p>10分</p>	<p>4 学習を振り返る。</p> <p>○2つのグループの発表を振り返り、もっと知りたい・調べたいなどの思いを引き出す。</p> <p>○次時はグループごとに相談し、もっと知りたい・調べたいことを町の人に教えてもらうという学習活動への見通しをもたせ、意欲につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2つのグループの発表を比べて似ているところや違うところを見付けることを確認する。</li> <li>・振り返りを書く際に個別指導にあたる。(T2)</li> </ul>

## 6 本時の実践

### 〈成果〉

#### □導入段階

- ・町探検に行った時のことを振り返り、宿戸のすてきについて考えていくことを全体で共有したことで、自分事の課題として学習に入ることができた。

#### □展開段階

- ・調べてきて分かったことを付箋に書き、似ているものや同じもので付箋を分けて情報を整理する活動をした。整理することで、グループの考えを可視化でき、調べてきたことをグループで共有することにつながった。また、仲間分けごとにタイトルを付けることで、複数の情報を関連付けて考えることにつながり、調べてきたことを発表する際に自分たちの考えを伝わりやすく文章化してまとめることができた。

〈友だちと話し合いながら付箋を整理する場面〉



このことから、共通点や相違点に着目して分類する方法を学び、児童が思考スキルを身に付けることは有効であると考えられる。

#### □終末段階

- ・本時の終末では、「もっと知りたいこと・調べたいこと」の観点で振り返りを行った。さらに、次時に、もっと詳しく調べたいことについて考えていくことを終末で伝えたことで、学習への意欲を持たせることができた。

#### 〈振り返りの発言〉

##### 児童①

付箋を仲間分けするときに、1つになった付箋があったため、次は仲間に入れたいです。そして、休みの日にお店に行って宿戸のすてきをまとめてみたいです。

##### 児童②

発表ができたし、まとめられてすごく楽しかったです。まとめてみてもっと気になることがみつかったの、町の人に聞いてみたいです。

このことから、考えを整理し、まとめていく活動を通して、子どもたちが課題を自分事と捉え主体的に活動していくことにつながったと考える。

### 〈課題〉

- ・子どもの学びが深まるようICT機器の取入れ方を工夫していきたい。
- ・気付きの質を高める（①無自覚な状態からの自覚化②バラバラの状態がつながり関連づくこと③対象との関係を見直し自分自身を捉えること）ためには、活動の中での教師側の意図的なかかわりをしていく必要がある。

## 7 単元の実践記録

### (1) 活動の様子

単元名 「もっとなかよしまちたんけん/もっと宿戸のすてきをみつけよう！」(12時間)

#### たんけんの計画を立てよう(2時間)

- ①探検に行きたい場所や話したい人、聞きたいことなどについて話し合い、探検先ごとのグループをつくる。
  - ・1学期の町探検を想起し、宿戸の海にはすてきがいっぱいあったことを思い出す時間を設定した。身近な町(学校の周り)について知らないことがあるという子どもの考えから、宿戸の町(場所や人)について、調べる課題を決定した。
- ②グループごとに探検場所や聞きたいこと、コースや持ち物など、探検の計画を立て、計画書に記入する。
  - ・宿戸の町について行ったことのないところや気になるところを子どもたちに考えさせることで、子どもの自主的な思いを優先し、見学先を決めていった。

#### もういちどたんけんに行こう(3時間)

- ①グループごとに探検に行く。
  - ・全員で1学期にお世話になった南漁協に見学に行った後、Aグループが、農漁村センター、屯所、ビューティーサロンマキ、Bグループが、駐在所、岡本整備自工、高屋敷商店に見学に行った。それぞれの見学先で、子どもたち全員で決めた質問事項を聞くようにした。
  - ・見学先では、質問する係、写真係、メモ係と役割分担をし、全員で調べた。



【町探検の様子】



③ 探検活動を振り返り、気付いたことを記録カードに書く。

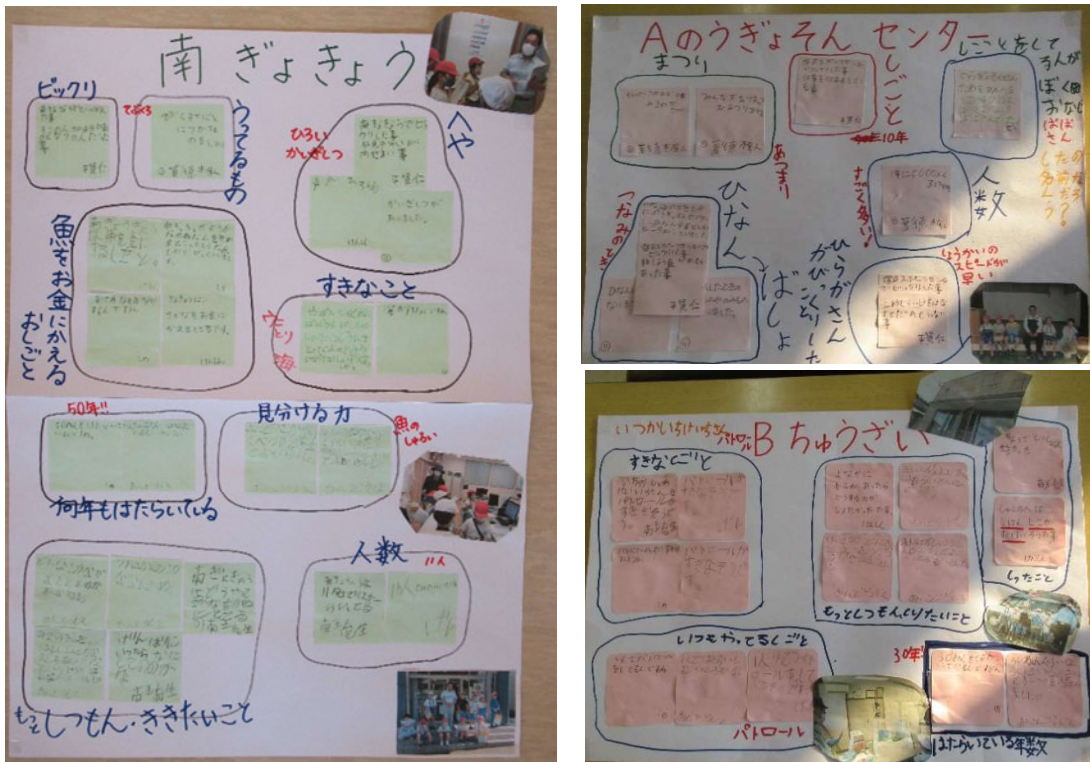


【児童の記録カード】

みつけたことをしょうかいしよう (3時間) 関連教科：国語「うれしくなることばをみつめよう」

①探検でみつけたことを、グループごとに整理し、全体の場で紹介しあう。

- ・南漁協について見学してきて分かったことを付箋に書き、全体の場で整理をした。同じものや考えが似ているもので分類をするよう教師側から働きかけることで、少しずつ子どもたちからも意見が出るようになった。
- ・それぞれのグループごとに見学してきて分かったことを付箋に書き、整理をした。前時に分類の仕方を全体で共通確認していたため、スムーズに整理、名前付けができた。
- ・整理したことを全体の場で発表をした。見学していなくても気になることや宿戸のすてきなどところについて学ぶ場や気づきの場を設けた。



【情報を整理した様子】

②グループごとに、次の探検の計画を立てる。

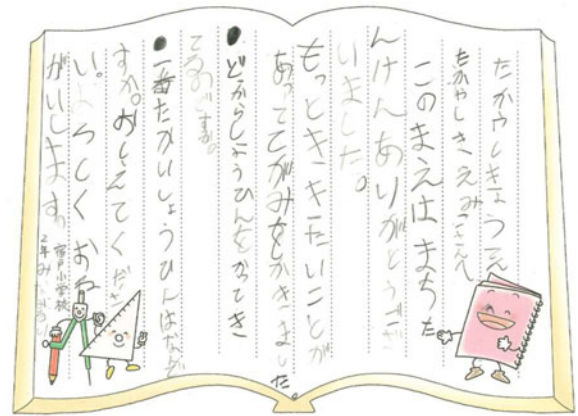
**まちの人に聞こう**（2時間）

①各グループで前時の学習活動を踏まえて探検の内容を検討し、計画を仕上げ、調べる準備をする。

- ・調べてきた情報を整理すると、もっと気になることや質問したいことが出てきた。調べる方法を考えると、子どもたちから「手紙で聞く」という方法が出たため、それぞれの見学先に手紙を書き、質問をした。

②グループごとに調べる。

- ・帰ってきた返事を参考にしながら、「もっと宿戸のすてきを見つけよう！」で分かったことをまとめた。情報を整理した時の用紙を使いながら、新しく分かったことも付け加えて、調べるようにした。



【児童の手紙】

**分かったことを話し合おう**（2時間） 関連教科：国語「うれしくなることばをみつめよう」

①探検で分かったことを、グループごとに整理してまとめ、他のグループに紹介するための準備をする。

②探検で分かったことを紹介し合う。

- ・探検で分かったことと、手紙を出して分かったことをまとめて、グループごとに紹介をした。実際に探検に行っていない場合でも、友だちの発表を聞き、気になることを質問したり、感想を言ったりすることができ、自分事として考えることができた。

(2) 活動の振り返り

○地域の方にご協力いただいたことで、自分たちが調べたいことを課題に設定し、見学することができたため、自分事の課題とすることができ、学びの深まりが見られた。

○生活科と国語科を関連させながら学習を進めることができた。国語科ではインタビューの仕方を学習したり、まとめ方の学習をしたりできたため、教科横断的な指導、単元づくりを行うことができた。

○調べてきた情報を整理することで、見学して終わりにならず、また、情報の可視化により、もっと調べたいこと気になることを考えることで、活動を発展させることができた。

△整理することが目的とならないように活動を設定する必要がある。

△子どもの気づきの質を高める工夫を単元設定の段階で考えていきたい。

### 第3学年 総合的な学習の時間学習指導案

日 時 令和3年9月24日(金) 3校時

児 童 男子7名 女子6名 計13名

指導者 鶴嶋 恵里子

#### 1 単元名 「宿戸の自慢探検 その2： すごいぞ！ 岡谷神社」(18時間)

#### 2 単元について

##### (1) 教材について

本学年の総合的な学習の時間のテーマは「発見 宿戸自慢探検隊」であり、地域の特産物3つ(「ウニ」と「しいたけ」と「岡谷神社」)の調査を通して探究活動を行う。子どもたちが挙げた3つの「もの」に関わり合い、本地域の良さを見つけたり、社会に広めたりしていきたいという意欲をもつことができる学習材であると考えます。

本単元は、宿戸自慢を探る2つ目である。洋野町のパンフレットに掲載されていた時もあり、自分たちの地域にある立派な岡谷稲荷神社を学習材として、探究的活動を行う。しかし、自分たちが住んでいる地域のものであっても、実際はその良さを知らない児童が多い。そのため、地域の「もの」に触れながら宿戸の環境(海の仕事)と地域の人々が関係していることを探り、地域への誇りと愛情を高めるとともに、地域の人の思いや熱意、姿勢など、人の生き方を学ぶことをねらいとしている。

##### (2) 児童について

3年生の児童は、宿戸の自慢を3つ挙げている。1学期には、宿戸の自慢の1つ「ウニ」について、荷捌き場で仕事をする方の姿を見ることをきっかけに、さらに調べたいことを図書室の資料で調べたり、見て分かったりしたことを国語のレポートとしてまとめた。1つ目の教材では、日程等の関係で十分な探究活動ができなかった。総合的な学習の時間で行う学習活動をほとんどしていないと言っている。

そこで、本小単元では、課題意識をもち続けながら、探究的な学習ができるよう子どもたちの声を拾い、導き、総合的な学習の流れに沿って進めていきたい。そして、話し合いの中で、自分と友達の考えで同じところ、違うところなど比べさせることで、考えを広げさせていきたい。

##### (3) 指導について

3年生の総合的な学習の時間を通して、インタビューやゲストティーチャーを招いての学習を取り入れ、探究する楽しさや喜びを感じられるようにしたい。

本単元では、洋野町の古くからあることで有名な岡谷神社について知っていることを交流し、なぜ自慢だと考えたのか、宿戸にあるこの岡谷神社をどのように広めていきたいのか考えさせながら、児童と単元の学習過程をつくっていくことで、課題意識をもつことができるようにする。見学をとおして、情報収集活動を行う。得た情報の整理・分析の際には、思考ツールを活用して学習を行い、情報を分類したり、関連付けたりしながら、宿戸の岡谷神社がすごいと思うじまんを考えさせていきたい。学習のまとめとして、分かった自慢を発信する活動を考え、主体的に宿戸の岡谷神社を学ぶことができるようにする。



### 3 単元の指導計画

#### (1) 単元の目標

宿戸に建つ伝統ある「岡谷神社」を調査する活動を通して、神社の歴史や宿戸の恵まれた自然環境や関わる人々の努力や工夫を知り、地域に対する誇りや愛情をもち、自己の生き方について考えることができる。

#### (2) 単元の評価規準

単元名	単元の評価基準		
	評価の観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
われら宿戸じまん探検隊	① 宿戸の自慢（ひと・もの・こと）について詳しく知り、それらが自分たちの生活と関わりがあることを理解している。 ② 日常的にインタビュー等の過程において相手や場面に応じた適切さで実施している。 ③ 宿戸のすばらしさを地域に広めることは、自分たちの地域の魅力を探究的に学んだことによる成果であると気付いている。	① 身近な地域のことであっても、知らないことがあることから、課題を設定し、解決に向けて具体的に考えている。 ② 課題の解決に必要な情報を、手段を選択して多様な方法で収集したり、種類に応じて蓄積したりしている。 ③ 宿戸の自慢を広めるために、必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係づけたりしながら理解に向けて考えている。 ④ 伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。	① 課題解決に向け、自分のよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとする。 ② 見学やインタビューを通して得た知識や自分と違う友達の考えを生かしながら、協働して課題解決により組もうとしている。 ③ 課題解決の状況をふり返り、地域のすばらしさの理由を見つけることに取り組もうとしている。

#### (3) 単元計画（全50時間／本時11時間）

小単元	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
宿戸のじまん ①ウニについて (12時間)	・宿戸のウニの自慢について、問いをもち、見学したり、インタビューしたりしながら、じまんの理由を調べる。	②		①	・記述内容 ・発言内容
	・海で働く人・地域の自然について地域の特性を考える。		①	③	・発言内容
②岡谷神社について (18時間)	・宿戸の岡谷神社の自慢について、問いをもち、課題を設定する。		①		・記述内容
	・見学したりインタビューしたりし、必要な情報を収集する。		②		・行動観察
	・岡谷神社の特徴を整理し、その背景を分析することで、長い間大切にされてきた理由について考		③	②	・発言内容 ・発言内容

	える。				
	・自分たちが考えた岡谷神社のじまをパンフレットにまとめる。	③	④	③	・記述内容
③しいたけについて (20時間)	・地域の特産である「原木しいたけ」のすばらしさの理由に問いをもち、学習課題を設定する。			①	・記述内容
	・栽培場を見学・インタビューする活動を通して、必要な情報の収集を繰り返しながら、自慢の理由を追求する。		② ③		・発言内容 ・記述内容
	・地域も自然と関わる人の思いや工夫を知り、地域に広めることを働きかける。	①	④		・記述内容

4 本時のねらい

インタビューを通して分かったことをもとに、学んだことを比較・分類・関連付けながら協働的に整理し、宿戸の岡谷神社のじまんをとらえることができる。

5 本時の指導計画

配時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
5	<p>1 既習を想起し、本時の学習内容につなげる。 ○これまでの活動を写真をもとに振り返る。</p> <p>○メモしたことをどうすればよいか</p> <p>2 本時の学習活動を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>岡谷神社の伝えたいじまんを出し合おう。</p> </div>	<p>・これまでの学習の振り返りを取り上げることで、思いを共有し活動の見通しをもつことができるようにする。</p>
3 3 3	<p>2 自分の考えを付箋に書く。 ○これまでの調べた内容の中で、伝えじまを付箋に書く。 ・集めたメモの中で、自分がこれは伝えたいと思うものを書き出す。 ・グループで、理由付けしながら伝え合う。</p> <p style="text-align: right;">(15分)</p> <p>3 グループで発表し合った内容を全体で共有する。 ○グループで伝え合った情報を発表しあう。</p> <p>4、出し合ったものを項目に分けて気付いたことを考える。 ・人々の工夫がなければ宿戸自慢の自慢にならない。 ・もののじまや、思いなど、いろいろな自慢がある。</p>	<p>・付箋に書くことで、一人一人の伝えたい内容を明らかにできるようにする。また、聞く側も主体的に学習できるようにする。</p> <p>・個人での時間を短くすることで、協働的にかかわる時間を設定し、苦手な児童も取り組めるようにする。</p> <p>・付箋の内容が何のまとまりのことなのか、意識させることで傾向をとらえやすくする。</p> <p>◆学んだことを整理し、宿戸の岡谷神社のじまん考えている。 ＜思考・判断・表現＞〔発言・観察〕</p>
7	<p>5 本時の振り返りをする。 ○今日の学習で考えたことを振り返る。 ○次時はパンフレット作りを確認する。</p>	<p>・「今日分かったこと」「考えの変容」という観点を示し、書く内容を焦点化する。</p> <p>・本時の学びを自覚できるようにするとともに、次時への活動へつなぐことができるようにする。</p> <p>・メモしたことをどうすればよいかを問うことで、単元の解決に向けて「整理する」ことの必要感をもつことができるようにする。</p>

## 6 本時の実践

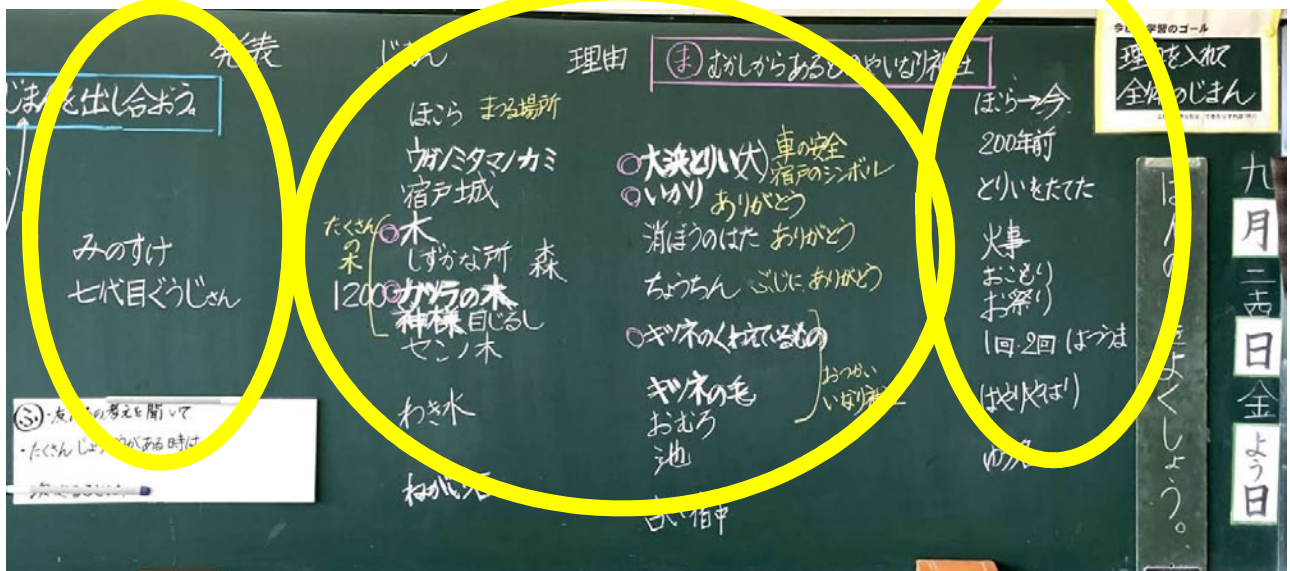
<成果>

□導入段階

- ・ 前時までの学習をふり返ることで、これまでに個人で情報収集してきたことを発表し学級全体の思いを把握するという学習の主な流れが分かっており主体的に流れた。自分が追求してきた内容を伝えたり、友達の思いを聞いたりして自慢のすごさは何かという課題を意識して学習に入ることができた。

□展開段階

- ・ それぞれが情報収集してきた「もの・こと・人」を、理由と合わせて発表する中で、教師対全体での対話的な活動を意図して位置づけた。その際、「もの・こと・人」の3観点で板書していることは告げず、終末で気づきがあるように構造化した。また、児童の意見が多いものが視覚的にわかるように重ねて書く板書方法を工夫した。その結果、たくさんの意見が集まった「もの・こと・人」の意見は重ねていく方法を実感させることができた。学級として伝えたいことが見える化したことで、次時に学習する内容が分かり期待をもって探究しようとする意識が強まった



- ・ タブレットを使って、岡谷神社のすてきを写真に記録することをを行い、学習シートに貼り付けする活動を行った。発表が苦手な児童には、電子黒板に写し出すことで、児童の思いを引き出した。数枚の画像ではあったが、発表の合間に見せることで、どの児童も集中して学習に参加することができた。

<本時の児童の発表>

児童の様子①

わたしの自慢は、「いかり (碇)」。最初は太くて立派だったけど今は細くなった。神様にプレゼントされ (奉納され)、ずっと飾られていたから、雨や風で細くなった。たくさんの人が感謝してい

<タブレットを活用した発表>



児童の様子②発表が苦手な児童はタブレットの写真を活用  
 教師：これは何が自慢なの？  
 児童T：きつねがくわえていたり、くわえていなかったりするものがあった。



このことから、現段階の児童には、ペアやグループでの思考ではなく全体でのやり取りで進めていくことで視覚的な板書となり、共有することができた。教師対全体で対話的な学習が有効であった。

#### □終末段階

本時の終末では、「学習して分かったこと」という観点で振り返りを行った。

##### <振り返りの発言>

###### 授業の振り返り

- ・理由を入れながら全体の自慢をまとめられたのでよかった。
- ・たくさん情報がある時はまとめるとよいとわかった。
- ・友達と意見が違うことがあったけど、みんなの考えを聞いているうちに考えはつながっていることがわかった。



今回は発表した内容を整理したが、別な方法として付箋で書いた

た

内容の整理の仕方（同じものは重ねていく）を学ぶことができた。また、分析（仲間を一言でまとめると）なども一緒に行うことができた。このことから、「全体での対話的活動」をすることで、この段階における児童にとっては整理・分析の仕方を学ぶことができた。

##### <課題>

- ・学習課題を岡谷神社の「すてき・自慢」としたが、言葉が抽象的すぎて焦点化されなかった。言葉の吟味が必要であった。
- ・集めた情報を整理することが指導するねらいであったが、たくさんの情報でも方法によっては、わかりやすく整理することができるまで気付かせたかったが、教師主導で進めた形となってしまった。どのような発問をすれば、児童が自ら気付くことができたのか、工夫が必要であった。
- ・自分が見つけた「自慢」と「理由」の発表を分けて行った。「理由」を聞くことで自分との相違点に気付けると考えてたが、時間を十分にとることができず、「理由」の大切さまでは考えさせることができなかった。



## 7 単元の実践記録

### (1) 活動の様子

単元名「宿戸のじまん探検 その2： すごいぞ！ 岡谷神社」（18時間）

#### 課題設定（1時間）

宿戸の岡谷神社の自慢には何があるのか岡谷神社について問いをもつ。

#### 情報の収集（2時間）

◇社会「わたしたちの町」 ◇国語「メモを取りながら話を聞こう」・大事なことを落とさずに聞く

岡谷神社を見学して、じまを調べよう。

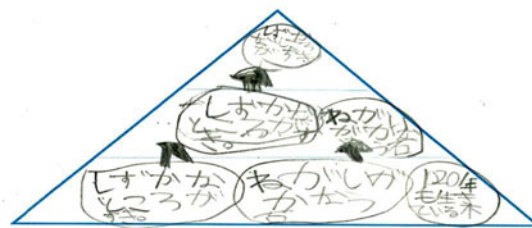
○岡谷神社のじまを調べる。 ※神社従事者 上岡谷 ユミ子さん

・KWL シートを活用し、岡谷神社について知りたいことを明確にし、自然環境、人々の工夫と努力など、視点をもって調べさせる。

#### 整理・分析（1時間）

宿戸の岡谷神社について、これまでの情報を整理し、学んだことを振り返る。

岡谷神社 1 回目の見学を通して得た情報の中から、分かったことをノートにまとめた。しかし、はっきりわからなかったことや理解できなかったことが児童から出された。「有名な木について知りたいな。」「どうやって200年守り続けてきたのか。」などの内容を知るために、もう一度、インタビューして解決したいということから次の時間の計画を立てた。



2. 1回目の見学を終えて、さらに、調べたいことは何ですか。

- どうしておどるのか
- おはらいのぼつ
- 大はまのしんはなぜ大きいか
- 200年前からずっと大事にしているのか
- なせまはこうやって作るのか
- 死んでいるのか

**課題設定**(1時間)

岡谷神社見学を振り返ろう。

○見学を振り返ることを通して、これからもっと自慢につながることにについて知りたいことについて話し合う。

○学習課題を立てる。「自分たちがすごいと思ったことをたくさんの人に伝えよう。岡谷神社自慢動画を作ろう。」にきまった。さらに調べたいことについて次への課題をもつ。

**情報の収集**(3時間)

①宿戸の岡谷神社について、自慢についてくわしく聞いてみよう。

○もう一度見学に行く。そして、自慢と考えている「もの・こと」をタブレットで記録してくる。(2)

②これまでの学習でまだ解決できていないことをインタビューする。(1)

○地域の歴史に詳しい馬場賢一さんにお話を聞く。



・4月に社会科の町の様子を学習した際に見つけた、ところどころにある小さな神社について、お聞きすることができた。子どもたちは知りたいことが解決でき納得していた。本校職員で地域コーディネーター安藤先生のおばあさんのお話も出てきて、ますます岡谷神社について、伝えたいことが膨らんだ児童であった。

**児童のつぶやき**

- ・岡谷稲荷神社の「稲荷」について、古い言い伝えや昔の人たちの考えていたことなど知ることができた。
- ・見学・インタビューをとおして岡谷神社は古い歴史でつながっているからこそ、今の上岡谷さんでも知らないことがあるんだと思う。

**整理・分析**(1時間) 本時

① 岡谷神社のじまんを出し合おう。

○岡谷神社のじまんについて調べた情報を出し合う。(1)



まとめ・表現(5時間)

○宿戸の岡谷神社の見つけたじまんを分かりやすく「動画」にまとめる準備をしよう。

・ステップシートを活用し、どのような順序で活動を進めていったらよいのか考える。

・その中で児童の新しい発言があった。

・動画では、自分たちが見つけた自慢を実物を見せながら発表し、劇では岡谷神社が建てられた前までのお話を発表することになった。

① 宿戸の岡谷神社の見つけたを分かりやすく台詞にまとめる。(1)

・動画を作成するために、これまでインタビューしたことをもとに台詞を考えた。

児童のつぶやき

・動画でもやりたいし、学習発表会だから短い劇にしても発表するのはどうかなという発言があった。

カツラのオ	おかやじんじやにある200年のネ申さまかやどっている木です。
いかり	ちいきの人がいネ申さまに「ありがとう」といってほづのうしたものです。
大はまのとりい	うみのあんせんや津のあんせんをまるとためにちいきの人がお金を出しあて作ったとても大きなおみです。

【岡谷の神社の物語のナレーション】

② 動画用の台詞の分担や練習を行う。(2) ※ 学校行事練習と合わせて、関連教科でも練習した。

③ 動画用の素材を集めるために、現地に出かける。(2)



整理・分析(1)

① よりよい内容にするために見直しをしよう。

○学級の中で発表しあい、感じたことを交流したり、見直しをしたりする。

○インタビューしてきたことをもとに、自分たちが情報収集したことを、どうやったら会場の皆さんへ伝わるかアイデアを出し合い練習をしていた。劇と動画をつなぐシーンも児童が相談し作成した。



学習発表会 寸劇と動画発表



### 振り返り(1)

- ①単元を通して学んだこと、考えたことを振り返る。
- これまでの活動を振り返り、活動のまとめをする。
- ・一人一人の考えを聞くことで一人の児童の気づきから全体の見方が広がった。
- ・知りたいことを解決するために情報収集(お話を聞くこと)ができて楽しかった。一度見学に行ったからもう終わりではなく、さらに学習できたので楽しかった。

### 児童のつぶやき(単元をとおして)

- ・たくさん出たことをまとめる力がついた。
- ・新しいことに取り組めた。たとえばタブレットで撮影したり、自分たちで台詞を考えたりしたことです。
- ・動画を作るために、自慢だと思ふことを絞って伝えることが必要である。

### (2) 成果と課題

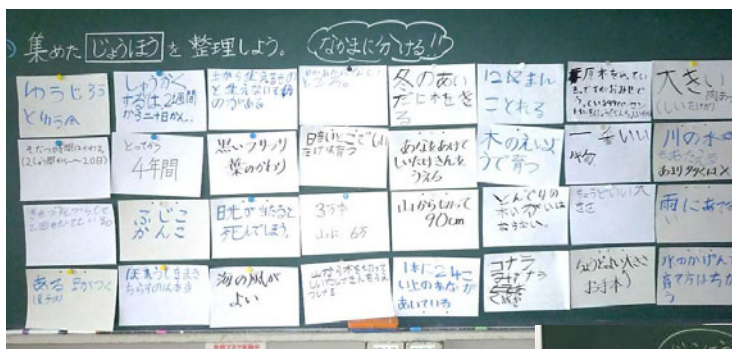
- この単元も探究する活動を2段階(1次では見学、2次でさらに探究したいことについて聞く)で実施することで、児童の主体的な思考で進めることができた。
- 宿戸の地域の方からお話を聞くことで、仕事に対する思いや大変さを感じることができ、キャリア教育とも関連させることができたり、宿戸の素晴らしい自然・歴史に触れることができ、地域を愛する心を深めたりすることができた。



- 学習発表会の場で動画を発表することができ、また地域の方からの感想も聞かせることができたので、達成感を味わうことができた。発信する方法も大事である。
- 児童の次への探究心を大切にし、学習のゴールも主体的に決定させていくことが必要であり、児童の思いを尊重していくことが探究にも大事であった。これまでの校内研で単元のゴール設定は早い段階で行う方が良いという助言をいただいていたので、同じように進めたことは深い学びにつながった。
- いくつかの思考ツールを活用した。様々な思考ツールを活用することで、自分の考えをしっかりと視点にあった考え方を指導していかななくてはならない。活用したことがあるツールを他の教科でも活用しようとする態度が見られた。
- 自慢という言葉は抽象度が高い。子どもの視点が個々に違っていたので「自分が」という主語があると自分事の自慢になる。
- 自分たちで調べる（インターネット・本）活動は行わず、インタビュー形式で学習を進めてきている。調べる力の育成も必要であると感じる。
- 整理分析する力については、段階を経て進めていかなければいけない。3年生は学び方を学ぶ段階ということで、次の単元で、全体で整理分析を行った。わかりやすい内容で思考できるようにしていくことが必要であった。
- 一つの素材を多面的に見ていく力も必要。

〈教科を通して〉

※次の小単元「しいたけ」では、全体で紙に書き出した情報を整理・分析した。理由を聞くことで整理の仕方が違うことに納得したり、逆に違う仲間分けをしたりする場面もあり、見方がいろいろあることを学習することができた。



## 第4学年 総合的な学習の時間学習指導案

日時 令和3年11月29日(月) 2校時

児童 男子4名 女子6名 計10名

指導者 箱石 駿太郎

### 1 単元名 「森と海のつながり調査隊！」

#### 2 単元について

##### (1) 教材について

本単元では、森と海のつながりについて探究活動を行っていく。洋野町は海産物が豊富であり、特にウニが有名である。

森と海のつながりについて調査することを通して、おいしいウニ・品質の良いウニが育つことができるのは、森があることで可能になっていることを知り、森や海への愛着を深めるとともに自分たちの住んでいる洋野町へ誇りをもつことができる学習材であると考ええる。

##### (2) 児童について

本学級の児童は、総合的な学習に意欲的に取り組む姿が見られる。しかし、複数の物事に対し、共通点や相違点などを見つけ、収集した情報を整理したり分析したりすることが苦手な児童も多い。

これまでの総合的な学習では、「だれもが暮らしやすい宿戸」の探究活動を行い、キャップハンディ体験や手話学習から、目や耳が不自由な人への関わり方について学んだことを劇で表現する活動を行ってきた。その中で、課題意識をもって活動したり、講義を通して情報を収集したりすることはできるようになってきている。

そこで、本小単元でも、課題意識をもち続けながら、探究的な学習ができるよう子どもたちの声を拾い、導いていきたい。そして、全体で交流する中で、複数の物事に対し、共通点や相違点を見つけ、収集した情報を整理したり分析したりする力を育成していく必要がある。

##### (3) 指導について

本単元では、3年生の時に学習した、洋野町の土地としての特徴やウニについて想起し、洋野町でおいしいウニを育てることができるのはなぜなのかを問うことから学習をスタートしていく。その中で、洋野町で行われている「ウニの森植樹祭」からなぜ漁師の人が植樹をしているのか、ウニは海の物なのに森という言葉がついているのか問うことで、森と海が繋がっているのかもしれないと考え、「森と海のつながり」について調査していきたいという課題意識をもつことができるようにする。また、ひろのまきば天文台の台長である阿部俊夫先生や種市南漁協の馬場等さんをゲストティーチャーに招いて情報収集活動を行う。収集した情報を整理・分析していく際には、思考ツールを活用して、比較したり、分類したり、関連付けたりすることができるようにさせたい。さらに、整理・分析した情報から森や海、川をどれも大切であることに気付かせ、そこからそれらを守っていくために自分たちができることを発信することで、森や海への愛着を深めるとともに自分たちの住んでいる洋野町へ誇りをもつことができるようにしていく。

### 3 単元の指導計画

#### (1) 単元の目標

森と海のつながりを調査する活動を通して、海は森によって育まれていることを知り、それらに愛着

を深めるとともに、自分たちが生活している洋野町への誇りを高め、自分にできることを考えることができるようにする。

(2) 単元の評価規準

単元名	単元の評価規準		
	評価の観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
森と海のつながり調査隊！	<p>①森と海がつながっていることについて詳しく知り、それらが自分たちの生活と関わりがあることを理解している。</p> <p>②日常的にインタビュー等の過程において、相手や場面に応じた適切さで実施している。</p> <p>③森や海への愛着をもち、それらを守るために自分にできることを考えることは、森と海のつながりを探究的に学んだことによる成果であると気付いている。</p>	<p>①「どうして洋野町ではおいしいウニが育つことができるのか」という問いから、課題を設定し、解決に向けて具体的に考えている。</p> <p>②課題の解決に必要な情報を、手段を選択して多様な方法で収集したり、種類に応じて蓄積したりしている。</p> <p>③「森と海のつながり」について自分にできることを考えるために、必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係づけたりしながら理解に向けて考えている。</p> <p>④伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。</p>	<p>①課題解決に向け、自分のよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとする。</p> <p>②インタビューを通して得た知識や自分と違う友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。</p> <p>③課題解決の状況をふり返り、森と海がつながっている理由を見つけることに取り組もうとしている。</p>

(3) 単元計画 (全12時間/本時7時間)

小単元	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
森と海のつながりを調査しよう。 (8時間)	・どうして洋野町ではおいしいウニが育つか、問いをもち、課題を設定する。(2)		①		・記述内容
	・調べ学習をしたり、インタビューしたりし、必要な情報を収集する。(3)	②	②		・行動観察
	・森と海のつながりについて、収集した情報を整理する。(2)		③	②	・発言内容 ・記述内容
	・自分たちが調査してきた「森と海のつながり」を基に、これからの森と海の関わり方に気付き、まとめる。(5)	①		③	・記述内容

#### 4 本時のねらい

森と海のつながりについて調査してきた情報をもとに、協働的に情報を整理・分析することを通して、洋野町でおいしいウニが育つ理由を考えることができる。

#### 5 本時の指導計画

配時	学 習 活 動	・指導上の留意点
5分	<p>1 前時までを振り返り、活動の見直しをもつ。</p> <p>○これまでの活動を写真をもとに振り返る。</p> <p>○メモしたことをどうすればよいのか考える。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>メモしたことを整理して、洋野町でおいしいウニが育つことができる理由を考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの活動を振り返ることで、単元の課題意識をもって活動を行うことができるようにする。</li> <li>メモしたことをどうすればよいのかを問うことで、単元の課題解決に向けて「整理する」ことの必要感をもつことができるようにする。</li> </ul>
33分	<p>3 情報を観点に沿って整理・分析する。</p> <p>○グループごとに情報を観点に沿って整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>枯れた葉っぱが栄養分になることは「森」だと思う。</li> <li>流れてきた栄養をコンブなどが食べて、そのコンブなどをウニなどが食べることは「海」だと思う。</li> </ul> <p>4 グループで整理した情報を全体で共有する。</p> <p>○グループごとに整理した情報を発表する。</p> <p>5 共有したものをもとに理由を話し合う。</p> <p>○共有したものをもとにして、洋野町でおいしいウニを採ることができる理由を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>森で栄養がつくられて、その栄養が川を流れて海まで届くからおいしいウニがたくさん育つことができるのだと思います。</li> <li>鉄が溶けた栄養分をコンブが食べて、そのコンブをウニが食べるから、おいしいウニが育つのだと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>整理する時間を観点ごとに分けることで、児童が思考しやすい状況をつくる。</li> <li>思考ツール(Yチャート)を用いたワークシートを活用することで、思考の可視化を図り児童が主体的に整理・分析することができるようにする。</li> <li>構造的な板書にすることで、児童が考えを再構成する際の手掛かりとなるようにする。</li> <li>事実と考えをつなげたり、友達の考えと比較・分類したりする発問をすることで、本時の課題解決に向けた意識をもつことができるようにする。</li> </ul> <p>◆収集した情報を比較したり、分類したり、関連付けたりしながら森と海のつながりについて自分の考えを整理している。</p> <p>&lt;思考・判断・表現力&gt; [発言・観察]</p>
7分	<p>6 本時の振り返りをする。</p> <p>○洋野町でおいしいウニを採ることができる理由をまとめて、「交流して分かったこと」や「これからやりたいこと」を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>洋野町でおいしいウニを採ることができる理由をまとめて、「交流して分かったこと」や「これからやりたいこと」という観点を示すことで、本時の学びを自覚するとともに児童の思いを次時の活動へつなぐことができるようにする。</li> </ul>

## 6 本時の実践

### <成果>

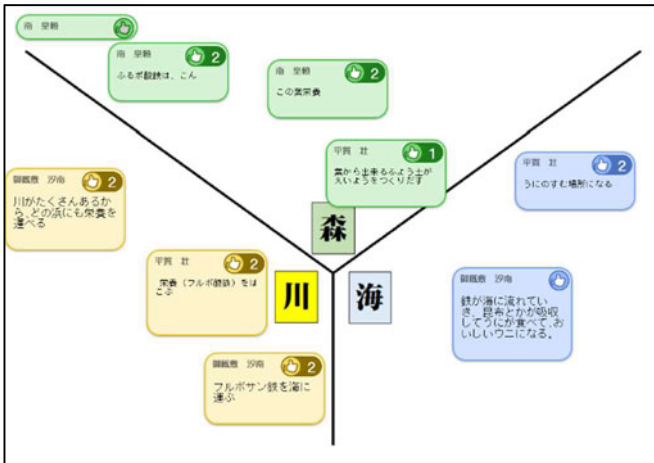
#### □導入段階

- ・これまでの単元の学習を振り返ることで、何のために学習しているのか単元の課題を意識して学習に入ることができた。

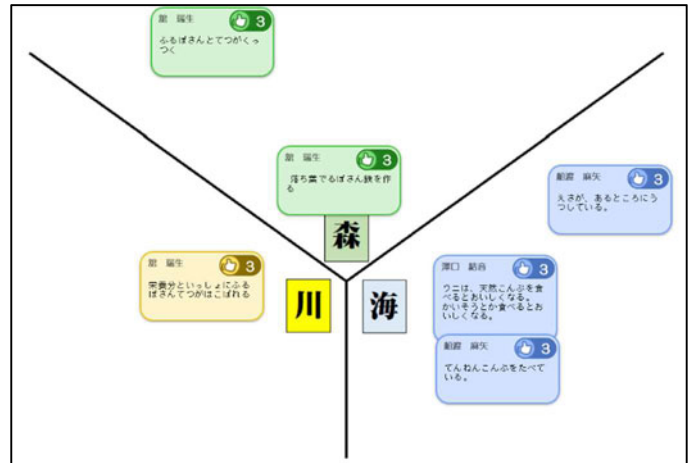
#### □展開段階

- ・思考ツールを活用することで、思考の可視化を図り児童が主体的に整理・分析することができた。

#### <AグループのYチャート>



#### <BグループのYチャート>



このことから、整理していくために考えていく技法の一つとしてYチャートという方法を知り、収集した情報を比較したり、分類したり、関連付けたりしながら森と海のつながりについて自分の考えを整理することができたと考える。

#### □終末段階

本時の終末では、交流して分かったことから、「森・川・海で一番大切なことは何か」という観点で振り返りを行った。

#### <振り返りの発言>

##### 児童①

海だと思います。理由は、海はウニの住むところだし、海がないとウニの育つ場所がないから、

##### 児童②

森で作られた栄養が川で運ばれて、その栄養が入ったコンブをウニが食べるから、森も川も大切だと思います。

##### 児童③

全部大切だと思います。森が栄養素を作って、川がそれを運び、海に栄養がいくことでおいしいウニが育つから。

このことから、全体で振り返りを交流することで、個人では感じたり見つけたりすることができなかつた見方や考え方を広げることができたと考える。



<全体での交流場面>

## <課題>

- ・ICT では思考が残りにくいいため、必要に応じて、児童の考えなど黒板に残すものは考えていく必要がある。
- ・「一番大切なものは何か」という発問であると、森と海のつながりに迫れなかった。Yチャートで整理したのち、相違点をグループで考えるなど、活動の吟味や発問の精選をしていきたい。

## 7 単元の実践記録

### (1) 活動の様子

単元名「森と海のつながり調査隊！」(19時間)

**課題設定** (2時間) 関連教科：社会科「わたしたちの岩手県」

- ①洋野町の地形や特産物について話し合う。
  - ②特産物の中でも、海産物(ウニ)が有名であることに気付き、どうして洋野町ではおいしいウニが育つのかという課題を設定し、今後の見通しをもつ。
- ・地形の特徴として、海が近いということ。特産物としては、ウニ・しいたけなどが挙げられた。中でも、どの特産物が洋野町で有名なのか話し合い、ウニが全国の水揚げ量や生産量において上位など既習の学習を元に話し合った。

**情報収集** (4時間) 関連教科：社会科「水はどこから」 理科「雨水のゆくえと地面の様子」

国語科「たしかめながら話を聞こう」

- ①洋野町ではおいしいウニが育つ理由を自分で情報を集める。
  - ②おいしく育つために必要な情報を知っている人から情報を集める。
- ・はじめに、自分たちの力でインターネットや本を使い、情報収集をした。その中で、児童から「中々調べても出てこない。自分たちで情報を集めるのは厳しい」という声上がり、実際にウニの生産に携わっている人に聞きたいとなった。そこから、阿部俊夫先生や岡本正善さん、馬場等さんの三名からお話を聞いた。



【阿部俊夫先生からの講義】



【岡本正善さんからの講義】



【馬場等さんからの講義】

- ・この三人の講義からは、森と海のつながりについて学んだ。「腐葉土からフルボ酸鉄という栄養素が作られ、それが雨水と一緒に川に流れていく」「洋野町の川は短いけれど、15本とたくさんあることで、栄養素が十分に海に流れていく」「海を綺麗にするには、山を綺麗にしないとイケない」「フルボ酸鉄がコンブやワカメを成長させ、その海藻を食べることでウニに甘みが出ておいしくなる」など自分たちが疑問と思っていることをたくさん聞くことができたようだ。



**整理・分析**（2時間）関連教科：「グループにまとめて整理しよう」

①整理する時の観点を決める。

②調べてきたことを観点ごとに整理する。

- ・整理するための方法を話し合う場面では、掲示してある思考ツール表から「色々な情報があるから異なる視点で分類する時にはX・Yチャートがいいと思います」「くま手チャートは一つのテーマから広げるやつだから集めた情報を整理するには違うかな」「前使ったからこれが使いやすい」など、児童なりの理由を持ち、思考ツールを選択していた。結果、X・Yチャートと決まった。観点となる言葉を話し合う場面では、「おいしいウニが育つための情報だからそれに関係することが観点になると思います」「そして、海は必要そう」「森や川も大事じゃない？」など、意見が出された。結果、観点は「海」「川」「森」の三つの観点で、Yチャートとなった。
- ・観点毎に整理する際には、ICTを用いた。ICTを用いることで、多様で多量の情報を瞬時にまとめることができた。また、画面共有しながら、実際に対話する様子も見られた。「自分だけでは気付くことができなかったことも、グループで意見を出し合うことで、新しい考えを見つけることができた。」と話す児童もいた。



【各グループでの話し合い場面】

**まとめ・表現**（5時間）

①自分自身の考えをまとめ、ノートにまとめる。

②学習したことをお礼の手紙として表現する。

- ・整理したことをもとに、洋野町でおいしいウニが育つために大切なことをノートにまとめた。「森は栄養素を作り出している」「川は栄養素を海に届けている」「短い川が15本あって栄養を直接海に届けている」「海で自然の海藻を食べることで甘みが出る」など、「森」「海」「川」の観点から、自分が一番大切だと考えているところを中心にまとめた。また、感謝の気持ちとして、お礼の手紙を届けた。手紙の内容の中には、「はじめは、海が良ければおいしいウニが育つと思っていたけど、お話を聞いて、山を綺麗にすることが海を綺麗にするにつながるのだと初めて知りました。山を豊かにするためにも植樹祭に参加してみたいと思いました。」など、学習したことを踏まえて、これからやってみたいことも内容に書かれていた。



【ノートに考えをまとめている様子】

(2) 活動の振り返り

○児童が必要感を持ちながら学習を進めていくことができた。

○ICTを活用しながら、協同的に学習を進めることができた。

△まとめ・表現を自分事として捉えることができるよう、活動を工夫したい。

△ICTの良さもありつつ、学習や思考したものを残していくよう学びの過程を大切にしたい。

## 第5学年 海洋科学習指導案

日 時 令和3年6月16日(水) 3校時

児 童 男子2名 女子6名 計8名

指導者 大内 智子

1 単元名 「洋野町の水産業調査隊～洋野町のウニのひみつとは?～」(18時間)

2 単元について

(1) 教材について

5年生では、たくさんの海産物がとれる洋野町の水産業について探求活動を行う。本単元は、洋野町の水産業を探る1つ目である。恵まれた自然環境によって洋野町がウニの豊富な漁場となっていることや、おいしいウニを安定してとるための工夫など、洋野町の特産物であるウニがおいしくたくさん育つひみつを学び、地域の人々が自然とともに生きるために築きあげてきたものについて探求することを通して、自分たちの生まれ育ってきた地域に愛情と誇りをもち、自らの生き方を考え見つめることをねらいとしている。

(2) 児童について

5年生の児童は、2年生で「稚ウニ放流」、3年生で「ウニ漁見学」を行い、洋野町の特産品としてウニが有名であることや、ウニの生態について多少の知識をもっている。また、4年生では、「森と海のつながり探検隊!」の学習で、洋野町でおいしい海産物がとれるのは、森と川と海のつながりが関係していることを学んでいる。

海産物の中でもウニに関しては、親や親戚など身近な人が水産業に関わっている児童も多く、洋野町の自慢の特産物であるということからも愛着をもっている。しかし、洋野町のウニ生産の特徴である増殖溝での育てる漁業については、その歴史や役割を詳しく知っている児童はいない。そこで、本単元では、洋野町のウニがおいしくたくさん育つひみつを知り、ウニの栽培や地域の人々の工夫や努力について視点をあて、探究活動を進めていきたい。

(3) 指導について

本単元では、洋野町の水産業について知っていることを交流し、ウニが有名で自慢だが、どうしてたくさんとれるのか、おいしいのかを考えさせ、児童と単元の学習過程をつくっていくことで、課題意識をもつことができるようにする。水産教室での体験や、栽培漁業センターの見学をとおして、情報収集活動を行う。得た情報の整理・分析の際には、思考ツールを活用して学習を行い、情報を分類したり、関連付けたりしながら、洋野町のウニがおいしくたくさん育つひみつを考えていきたい。学習のまとめとして、分かったひみつを発信する活動を考え、主体的に洋野町のウニのひみつを学ぶことができるようにする。

3 単元の指導計画

(1) 単元の目標

洋野町の特産であるウニがおいしくたくさん育つひみつを調査する活動を通して、ウニの成長を支える恵まれた自然環境や関わる人々の努力や工夫を知り、地域に対する誇りや愛情をもち、自己の生き方について考えることができる。



(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・ウニの生態やとりまく環境を理解し、ウニを特産物とするための人々の思いや工夫に気付いている。</p>	<p>・「洋野町では、なぜウニがおいしくたくさん育つのか」という課題意識をもとに、学習計画を立てている。</p> <p>・見学や講義等の調査によって、ウニのひみつの情報を収集している。</p> <p>・情報を比較分類、関連付けしながら「おいしくたくさん育つウニのひみつ」について自分の考えをもっている。</p> <p>・相手意識や目的意識をもって表現している。</p>	<p>・課題意識をもち、見通しをもって学習している。</p> <p>・協働的に学び、地域に対する誇りと愛情をもつとともに、自分の学びや生活に生かしていこうとしている。</p>

(3) 単元計画 (全18時間/本時11時間)

学習課題 ○主な学習活動 【学習段階】	・指導上の留意点 ◇教科等との関連 ◆評価規準 <観点> 【方法】 ※ゲストティーチャー
<p>オリエンテーション</p> <p>○活動全体の概要を知り、活動の見通しをもつ。(1)</p>	<p>・今までの学習と関連させ、学習への見通しをもたせる。</p> <p>◆5年生の学習内容に関心をもち、学習への問いをもっている。</p> <p>&lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; [発言・記述]</p>
<p>洋野町のウニにはどんなひみつがあるのだろう。</p> <p>○洋野町のウニのおいしさやたくさんとれる理由について問いをもつ。(1)</p> <p>【課題設定】</p>	<p>・これまでの学習をもとに知っていることを交流し、特産品であるウニに関心をもたせる。</p> <p>◆洋野町のウニがおいしくたくさん育つひみつについて問いをもち、進んで海や地域に関わろうとしている。</p> <p>&lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; [発言・記述]</p>
<p>洋野町のウニがおいしくたくさん育つひみつを調べよう。</p> <p>○増殖溝やウニ栽培センターを見学したり、インタビューをしたりして、ウニが品質よく育つひみつを調べる。</p> <p>・水産教室(殻剥き体験・増殖溝見学)(3)</p> <p>・ウニ栽培漁業センター見学(3)</p> <p>・増殖溝について学ぶ。(1)</p> <p>・本や新聞で調べる(1)</p> <p>【情報の収集】(8)</p>	<p>・ウニがおいしくたくさん育つためのひみつについて、生態、自然環境、人々の工夫と努力など、視点をもって調べさせる。</p> <p>◇理科「魚のたんじょう」</p> <p>◇社会「日本の国土とわたしたちの暮らし」</p> <p>◇国語「知りたいことを聞き出そう」</p> <p>※漁師 吹切 守さん</p> <p>※ウニ栽培漁業センター 箱石 和裕さん</p> <p>◆調べ学習を通し、ウニの生態や成長に適した海洋環境、働く人々や先人の工夫や努力に気付いている。</p> <p>&lt;知識・技能&gt; [発言・記述]</p>

<p>洋野町のウニがおいしくたくさん育つひみつについて、メモしたことを整理しよう。</p> <p>○学んだことを振り返り、伝えたいウニのひみつを整理する。</p> <p>【整理・分析】(1)(本時)</p>	<p>・自然環境、人々の努力・工夫などの視点をもとに、情報を整理し、おいしくたくさん育つひみつについて考える。</p> <p>◆学んだことを整理し、自分なりのウニがおいしくたくさん育つひみつを考えている。</p> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;〔発言・記述〕</p>
<p>洋野町のウニがおいしくたくさん育つひみつをまとめ、伝えよう。</p> <p>○洋野町のウニがおいしくたくさん育つひみつをどのように発信するか考える。</p> <p>【整理・分析】(1)</p> <p>○考えた方法でまとめる。</p> <p>【まとめ・表現】(3)</p>	<p>・まとめ方を考えさせることにより、相手意識、目的意識をもつことができるようにする。</p> <p>◇国語「事実と考えを区別しよう」</p> <p>◆自分の伝えたい品質よく育つひみつを、相手意識をもって分かりやすくまとめている。</p> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;〔観察・記述〕</p>
<p>洋野町のウニの養殖・加工について、調べよう。</p> <p>○ウニの養殖・加工について調べる。</p> <p>・ウニの加工見学(2)</p> <p>【情報の収集】</p>	<p>・ウニの養殖や加工について調べ、特産品であるウニのブランド化を広める活動について知る。</p> <p>◆見学学習を通し、洋野町のウニを特産品として広めようとする人々の工夫に気づいている。</p> <p>&lt;知識・技能&gt;〔発言・記述〕</p>
<p>洋野町のウニがおいしくたくさん育つひみつについて振り返ろう。</p> <p>○単元を通して学んだこと、考えたことを振り返る。</p> <p>【振り返り】(1)</p>	<p>・単元を通しての自分の学びを自覚させ、次の学びにつなげる。</p> <p>◆学びを振り返り、地域の水産業や流通について、新たに考えたり、問いをもったりしている。</p> <p>&lt;主体的に学習に取り組む態度&gt;〔発言・記述〕</p>

#### 4 本時のねらい

見学や講義を通して学んだことを比較・分類・関連付けながら協働的に整理し、洋野町のウニがおいしくたくさん育つひみつをとらえることができる。

#### 5 本時の指導計画

配時	学 習 活 動	指導上の留意点
5	<p>1 既習を想起し、本時の学習内容につなげる。</p> <p>○前の時間までにどんなことを調べてきたか振り返る。</p> <p>・水産教室や栽培漁業センターで地形のことや、洋野町でとれるウニの種類やウニの育て方を知った。</p> <p>○今日の学習を確かめる。</p>	<p>・これまでの見学の写真、ノートにメモしたものをもとに学習を振り返る。</p> <p>・洋野町のウニがおいしくたくさん育つひみつを考えるという課題を意識させる。</p>
	<p>学んだことを整理し、洋野町のウニがおいしくたくさん育つひみつを考えよう。</p>	
35	<p>2 情報を整理・分析する。</p> <p>○今までの調べたメモの中で、どんなことを選んで整理すればよいか確かめ、付箋に書き出す。</p> <p>・おいしくたくさん育つひみつについて書き出す。</p> <p>○班の中で付箋を関連あるものどうし項目ごとに整理する。</p> <p>・3～4年で大きくなることは、「ウニの特徴」</p> <p>・栽培漁業センターで稚ウニを育てているのは「人々の工夫努力」だ。</p> <p>・昆布が豊富な海であることは「自然環境」だ。</p> <p>3 整理したものを発表し、学んだことを活用して考える。</p> <p>○班ごとに項目ごとに整理したことを発表する。</p> <p>○調べてきたことを項目に分けて気付いたことを考える。</p> <p>・すべてがつながっていることで洋野のおいしいウニができた。</p> <p>・人々の工夫・努力がなければ洋野町自慢のウニにはならなかった。</p>	<p>・短い言葉で書き出させる。</p> <p>・思考ツール「Yチャート」を活用して分類させる。</p> <p>「ウニの特徴」「自然環境」「人々の工夫・努力」</p> <p>・分類に困った付箋について、みんなで考える。</p> <p>◆学んだことを整理し、自分なりのウニがおいしくたくさん育つひみつを考えている。</p> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p>
5	<p>4 本時の振り返りをする。</p> <p>○今日の学習で考えたことを振り返る。</p> <p>○次時はひみつを伝えるまとめ方を考えることを確認する。</p>	<p>・「今日分かったこと」「考えの変容」という観点を示し、書く内容を焦点化する。</p>

## 6 本時の実践

### <成果>

#### □導入段階

- ・これまでの学習を壁面の掲示を使って、学習計画や今までの活動を振り返ることで、単元のねらいを確かめ、本時の課題にスムーズにつなげることができた。

#### □展開段階

- ・課題解決に向けた思考ツールとして、担任からYチャートを提示した。Yチャートを活用することで、観点を関連付けて考えることができた。
- ・観点は、自分たちで決めることは難しいと感じたため、教師からの観点を示した。社会科「自然条件と人々の暮らし」の単元のまとめで行った際の観点である「自然条件」「人々の暮らし」「産業」をもとに「自然条件」「人々の工夫」「ウニの特徴」3つを提示した。社会での学習をいかし、課題にそった情報を付箋に書き出すことができた。
- ・班ごとにまとめたものをそれぞれ発表し、その後、全体で交流した。質問し合う中で、他の見方や考え方があることに気付くことができた。

#### <付箋に書き出す場面>



#### <Yチャートへの整理>



#### <全体での交流場面>



#### □終末段階

- ・授業の終末段階では、「一番大切なのは何か。」という観点で交流した。その後、授業が終わったあと、同じ観点でふりかえりを書いた。

#### <授業後に書いたふりかえり>

##### 児童①

自然環境やウニの特徴に合わせて、人々が努力や工夫をしてきて、今のようにウニが育ちます。ここまでくるのに、岩盤を掘ったり、自然環境のことを理解して、今のウニができたことが分かりました。

##### 児童②

自然環境やウニの特徴、人々の努力や工夫があることによっておいしくたくさんウニが育つと分かりました。友達の考えで、自然環境にダイナマイトで爆破したことや、ウニは早めにとった方がいいことに納得できました。

- ・このことから、Yチャートでの全体の交流を経て、一番大切なものを考えることで、自分の考えへの広がりや深まりが見られたと考える。

#### <課題>

- ・観点を与えるタイミング…整理分析の際の観点を本時で与えたが、事前に児童と話し合い、設定した上で情報収集を積み重ねた方がよかった。

- ・付箋の使い方…付箋の良さもあるが、見えない等の欠点もある。ICTを活用するなどの工夫も考えられる。
- ・思考ツールの選び方…教師から与えるのではなく、児童が必要感をもって選択できるようになるとよい。ベン図、ブレインストーミングやKJ法も活用できた。
- ・発表の必要性…整理分析が目的であるため、発表会はなくてもよかった。発表をさせる際には、その目的を明確にして行う。

## 7 単元の実践記録

### (1) 活動の様子

単元名「洋野町の水産業調査隊～洋野町のウニのひみつとは?～」(20時間)

**課題設定** (1時間) 関連教科：社会科「国土の地形と気候の特色」「自然条件と人々の暮らし」

- ①洋野町の水産業について知っていることや知りたいことを話し合う。
- ②洋野町のウニがおいしくたくさん育つひみつについて問いをもつ。
  - ・「洋野町の水産業といえばウニ」ということから、おいしくたくさん育つひみつについて話し合った。4年生で学習した「森と海のつながり」から、森からの栄養がたくさん海に入ってコンブが育つからという考えが出た。そこで、「森から栄養がたくさん海に入る地域は他にもあるのに、なぜ、洋野町はウニがおいしくたくさんとれるのか?」と働きかけ、「気候や地形かな?」「くふうがあるのかな?」と、社会の学習も想起させることで、他のひみつを探っていくという課題意識がうまれた。

**情報収集** (3時間) 関連教科：知りたいことを聞き出そう

- ①水産教室(殻剥き体験・増殖溝見学)
  - ・漁師の吹切守さんから、宿戸でのウニ漁業について教えていただく。「育てる漁業」をしていることや、「増殖溝で育てていること」「増殖溝は世界で初めて宿戸で誕生したこと」などを教えていただく。
  - ・ウニ剥き体験するのは初めてという児童がほとんどであった。実際に体験し、剥きたてのウニを食べる体験をすることで、ウニのおいしさを実感したり、漁業への興味関心を高めるたりすることができた。



【水産教室で増殖溝について聞く】



【水産教室でのウニ剥き体験】

**課題設定** (1時間)

- ①水産教室を振り返り、これからもっと知りたいことについて話し合う。
  - ・水産教室をとおして「育てる漁業」を行っていることや、稚ウニは別の場所からきていることを教えていただく。ウニの誕生については、守さんも分からないということで、「栽培漁業センターに行って

聞いてみて」とアドバイスをいただいたことで調べに行きたいという声があがった。担任は、事前に見学予定を組んでいたが、学習計画には、児童からの声が出てから組み込んだ。また、増殖溝については、まだよく分からないという声があったため、調べることにした。

**情報収集** (5時間) 関連教科：理科「魚のたんじょう」

- ①ウニ栽培漁業センター見学 (3)
- ②増殖溝について学ぶ。(2)

- ・ウニ栽培漁業センターでは、ウニのたんじょうの仕組みや、稚ウニ栽培について教えていただいた。
- ・増殖溝については、昔の新聞の記事や、図書室にある本、北三陸ファクトリーのパンフレットをもとに調べ学習を行った。新聞記事の言葉は難しかったが、分からない言葉については、担任が意味を説明しながら、増殖溝の歴史や役割について学んだ。



【栽培漁業センター見学】



【ウニの生態についての説明】

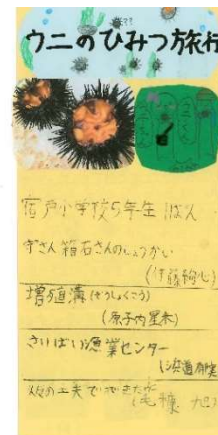
**整理・分析** (2時間)

- ①おいしくたくさん育つひみつについて、メモしたことを整理・分析する。
- ②おいしくたくさん育つひみつについてどのようにまとめるか考える。
  - ・個人でひみつを付箋に書き出した後、班ごとにYチャートに整理した。社会科との関連を考え、教師側から観点を提示した。児童からは、「社会の学習と似ているな。」というつぶやきが聞かれた。大量の情報から必要な物を選ぶことができたことから、力を関連させることができたと考える。
  - ・分かったことをどのようにまとめるか、さまざまな考えが出された。自分たちも分からない言葉が多く、歴史も関わる難しい内容であるということから、全校にはではなく3階に掲示して見てもらうこと、Yチャートに分けた観点を生かしてまとめるにはパンフレットがよいという考えにまとまった。

**まとめ・表現** (5時間) 関連教科：国語科「事実と考えを区別しよう」「環境問題について報告しよう」

よう」「環境問題について報告しよう」

- ① 洋野町のウニがおいしくたくさん育つひみつをパンフレットにまとめる。
  - ・整理したことをもとに班ごとにパンフレットにまとめた。班の中で項目や内容について再び話し合うことで、より深く理解することができた。また、アイデアを出し合い、キャラクターを考えたり、吹き出しを使ったりと、ウニに親しみをもてるよ





うに工夫していた。

- ・書いたパンフレットを保護者や、他の学年にも見てもらいたいということから、廊下に掲示したり、家に持ち帰り、保護者に見ていただいたりした。

#### 情報収集（2時間）

##### ①北三陸ファクトリー見学

- ・導入で出ていた児童の「ウニの養殖をしていると聞いた。」「ウニバターを作っていて全国放送の番組で紹介されていた。」「なぜそのようなことをしているのか。」という疑問を解決するために、見学した。
- ・洋野町のウニを世界へ発信していること、ウニをブランド化して洋野町を発展させたいという強い思い、ウニ栽培を年中できるようにしたいという、洋野町への強い思いをもって開発をすすめていることを知った。

#### 振り返り（1時間）

##### ①単元をとおして学んだこと、考えたことを振り返る。

- ・単元の振り返りでは、「ウニのことを知るために、昔はどんなふうになっていたのか、今はどんなふうになっているのか比べる力がついた。」「ウニへの歴史は長い時間を通してできたので、この先も長い時間をかけて何かができるんだと思った。」「他の水産物のパンフレットも作ってみたい。」などの振り返りがあった。

##### （2）活動の振り返り

- 地域の人材や施設をいかして学習を進めることができた。見学や体験をすることで、なるほどという実感を持った理解につなげることができた。
- 社会科との関わりを教師が見通しをもって進めることで、本単元では、整理分析の際、他教科との関わりについての見方に気付く姿が見られた。
- △単元での学びは児童の声から作っていったが、単元のゴールは明確ではなかった。ゴールを明確にすることでより主体的に学習を進められたのではないか。
- △まとめたパンフレットをもっとより広く発信できればよかった。漁協においてもらう、ウニ井の時期に飲食店に置いてもらうなど、担任から促していけばよかった。



## 第6学年 総合的な学習の時間学習指導案

日時 令和3年11月29日(月) 3校時

児童 男子5名 女子6名 計11名

指導者 今松 尚志

1 単元名 「宿戸の海を守る！～私たちにできること～」(40時間)

2 単元について

(1) 教材について

今年度の総合的な学習の時間は、児童の「宿戸地域のために何かしたい」という思いをもとに構成したものである。児童が考える宿戸の魅力は、これまでの総合的な学習の時間における学びをもとに、しいたけや岡谷神社、さげやウニ、そのウニを育てる海など多岐にわたる。その中でも特に魅力と感じているのは、有名なウニを育てる海である。しかし、国語科の学習で学んだ環境問題、昨年度の海洋サミットに参加したことで学んだ環境問題によって、海に悪影響な状態が続いていることが分かってきた。そこで、「宿戸の海を守る」というテーマを掲げ、自分たちにできることはどのようなことなのかを考え、発信していく。

環境問題解決に向けて地域のためにできることを発信していくという課題意識をもつことで、現在の海洋問題やその問題に対する取り組み、そこから自分たちにできることについての情報を収集する必要性が生まれてくる。課題意識をもって情報を収集し学級全体で話し合っ、自分たちにできることを決定していくことで課題に即して情報を収集したり、話し合いの中で考えを深めたりするなどの力を育成することが期待できる教材である。

(2) 児童について

児童は、これまでに1年生のころから海洋教育に取り組んできた。3年生からは総合的な学習の時間の中で、「宿戸の自慢」や「洋野のウニ」など自分たちが住む宿戸地域について学び、宿戸地域に愛着と誇りをもっている。しかし、環境問題により海へ悪影響な状態が続いていることを学んだことから、自分たちが住む宿戸地域のために何かしたいという思いをもっている。そのことから、児童の「宿戸の海を大切にするとともに、地域のために何かをしたい」という思いを実現し、その思いをさらに深めていきたい。

これまでの学校生活や学習の様子を見ていると、自分たちがしたいことについて積極的に意見を出すことができず、指示を受けてから活動するという姿が多く見られる。また、友達との話し合いにおいては、収集した情報や友達の考えをもとに自分の考えを深めていく力が不足しているという実態もある。そこで、「自分が」という自分事の課題意識をもって地域のためにできることについて自分の考えをもつことができるようにしていくこと、また考えを深めていく話し合いの在り方を考えていく必要があると考え

(3) 指導について

本単元においては、6年生という学年の特性から、5年間の海洋教育や総合的な学習の時間で学んだ宿戸地域の魅力を再確認することから始める。

地域の魅力を確かめたあとで、5年生で学んだ環境問題における学びや海洋サミットに参加したことでの学びを関連付けて学習課題を設定できるようにしていく。また、海洋汚染はプラスチックごみによる環境問題の中で特に深刻となっていることから自分たちの生活に大きく影響することを確かめ、より

自分事として目的意識や相手意識をもって探究活動を進めることができるようにしていく。

環境問題解決に向けた様々な取組を整理したり自分たちにできる活動を考えたりする際には、熊手チャートで分類したり、ピラミッドチャートで焦点化したり、思考ツールを活用することで自分の考えを可視化しながら整理することができるようにする。また、板書や発問を工夫することで友達の考えと比較・分類しながら協働的に学び、考えを深めることができるようにする。

一度の表現活動を実行したことで課題解決が図られたという考え方ではなく、実行したことによって地域の人たちに伝えたいことは伝わったのか、課題解決に向けて自分たちにできることは他にないのか、持続可能な活動、自分たちの思い、地域の人たちの思いを踏まえて再度課題設定をして表現をする活動まで行う。本単元における学習問題を解決していくための考え方や方法について学ぶことができるようにしていくとともに、それらの過程を経ることで、これからの自己の生き方についてもつなげられるようにしていきたい。

### 3 単元の指導計画

#### (1) 単元の目標

海における環境問題を調査することを通して、プラスチックごみは宿戸の海産物や漁業に影響があることに気づき、宿戸の海を守るために自分たちにできることを考えるとともに、海の恩恵を受ける一人としてこれからも宿戸地域のためにできることを考えながら生活していくことができるようにする。

#### (2) 単元の評価規準

単元名	単元の評価規準		
	評価の観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「宿戸の海を守る！」～私たちにできること～	① 自然環境は様々な要因で常に変化する可能性があり、一定ではないことを理解している。 ② インターネットを利用して環境問題に向けた取組に関する情報を収集している。 ③ プラスチック問題などの環境問題と自分たちの生活がつながっていることへの理解は、環境問題解決に向けて自分たちにできることを探究的に学んだことによる成果であることに気付いている。	① プラスチック問題などの環境問題への関わりを通して感じた関心をもとに課題を設定し、解決の見通しをもっている。 ② 環境問題解決の解決に必要な情報を、手段を選択して多様な方法で収集したり、種類に応じて蓄積したりしている。 ③ 必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けしたりしながら解決に向けて考えている。 ④ 地域の人に環境問題についての意識を高めてもらうために自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。	① 課題解決に向け、自分のよさに気づき、自分の意思で探究的な活動に取り組もうとしている。 ② 課題解決に向けた探究的な活動を通して、自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとしている。 ③ 地域との関わりの中で宿戸の海を守るために自分のできることに取り組むことを通して、自分と身近な環境との関わりを見直そうとしている。

(3) 単元計画 (全40時間/本時29時間)

小単元名 (時数)	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
① オリエンテーション (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの総合的な学習の時間において学んできた宿戸の魅力を話し合う。</li> <li>5年生での環境問題や海洋サミットに参加したことで学んだ環境問題を想起し、課題設定する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">宿戸の海を守ろう！</div>	①	①	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>発言内容</li> <li>記述内容</li> </ul>
② 世界や日本にはどのような海洋問題が起きているのだろうか (5時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界や日本で起きている海洋問題について、現状を調べ、学びなおす。</li> </ul>	②	②		<ul style="list-style-type: none"> <li>記述内容</li> <li>発言内容</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>海洋問題における現状を分析することで自分たちの生活におけるつながりを見出す。(漁獲量や食生活、観光業など)</li> </ul>	②	③		<ul style="list-style-type: none"> <li>発言内容</li> <li>記述内容</li> </ul>
③ 世界や日本では海洋問題解決に向けてどのような取組みをしているのだろうか。 (6時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>今起きている海洋問題解決に向けて世界や日本ではどのような取組が行われているのか調べる。</li> </ul>		②		<ul style="list-style-type: none"> <li>記述内容</li> <li>発言内容</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>洋野町では、海洋問題解決に向けて、どのような取組が行われているのか調べる。</li> </ul>		②		<ul style="list-style-type: none"> <li>記述内容</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>海洋問題解決に向けた取組を整理・分析することで、自分たちの生活の中で取り入れることができるか考える。</li> </ul>		③	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>記述内容</li> <li>発言内容</li> </ul>
④ 宿戸の海を守るために自分たちには何ができるのだろうか。 (15時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿戸の海を守るために、海洋問題解決に向けて、どのようなことができるのか話し合う。</li> </ul>		③	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>発言内容</li> <li>記述内容</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>手作りエコバッグ・ポスター制作に取り掛かる。</li> <li>ユニバース種市店にて、学習課題解決に向け作成してきた手作りエコバッグを配付したりポスターを説明・掲示したりする。(課題解決に向けた表現①)</li> <li>表現活動を振り返る。</li> </ul>		④	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>発言内容</li> <li>行動観察</li> <li>記述内容</li> </ul>
④ 宿戸の海を守るために、他にできることはないのだろうか	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現活動の振り返りをもとに、問題解決に向けて、これから自分たちにできることは何かを話し合う。(本時)</li> </ul>		①	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>記述内容</li> <li>発言内容</li> </ul>

うか。 (12時間)	・ 課題解決に向けて必要な情報を収集する。		②		・ 記述内容
	・ 体験活動を経て収集した情報や, 課題解決に向けて収集した情報を整理・分析する。		③	②	・ 発言内容 ・ 記述内容
	・ 1回目の表現活動を経て話し合った取り組みを表現する。 (課題解決に向けた表現②) ・ これまでの体験活動や活動を通して, 考えたことや学んだことを作文でまとめる。	③	④	③	・ 記述内容 ・ 行動観察 ・ 発言内容

#### 4 本時のねらい

表現活動や海洋サミット発表動画を観た活動をもとに、これからの活動について理由や根拠を示しながら話し合い、課題解決に向けて、より良い活動を見出すことができる。

#### 5 本時の指導計画

配時	学 習 活 動	指導上の留意点 ◆評価規準
導入 5分	1 既習を想起し、本時の学習内容につなげる。 ・ 前時の振り返りをもとにこれからの学習について考える。 2 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">             宿戸の海を守るために、さらに自分たちにできることは何だろう。           </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時の振り返りを紹介し、本時の学習に向けた見通しをもつことができるようにするとともに、本時課題の必要性を感じることができるようにする。</li> <li>・ 学級掲示や表現活動の際の写真などを確認し、単元の目的意識を確認することができるようにする。</li> </ul>
展開 33分	3 今後の取組みについて個人で考える。 ・ ユニバース種市店での活動をもとに、これから課題解決に向けてどのような活動をしていくのか考える。 ○ごみ箱づくり      ○ごみ拾い      ○キーホルダー作り ○木製スプーン作り      ○ポスター 4 今後の取組について全体で話し合う。 ・ 「地域の声が含まれているか」「広く地域の人に伝えられるか」等の観点に沿って焦点化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表現活動後の海洋サミットの学習を想起すること で、他校の子どもたちの取組なども参考にしながら、自分の考えをもつことができるようにする。</li> <li>・ 自分の考えを基に、どのような方法で話し合えば よいのか子どもたちに問うことで、主体的に話し合い活動を行うことができるようにする。</li> <li>・ 話し合う際の視点を明確にすることで、自分の考えの理由や根拠をもとに話し合うことができるようにする。</li> <li>・ 思考ツールを活用して可視化を図り、自分の考えと友達の考えを比較しながら協働的に学ぶことができるようにする。</li> </ul> <p>◆ 環境問題解決に向けた表現活動を通して感じた関心をもとに、新たな課題を設定し解決の見通しをもっている。</p> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;〔発言・記述〕</p>
まとめ 7分	5 本時の振り返りをする。 ・ 「話し合いの方法と話し合いを通して分かったこと」「これからやりたいことや考えたこと」の観点に沿って振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「話し合いの方法と話し合いを通して分かったこと」「これからやりたいことや考えたこと」という観点を示すことで本時の学びを自覚し、これからの活動に対する思いと見通しをもつことができるようにする。</li> </ul>

## 6 本時の実践

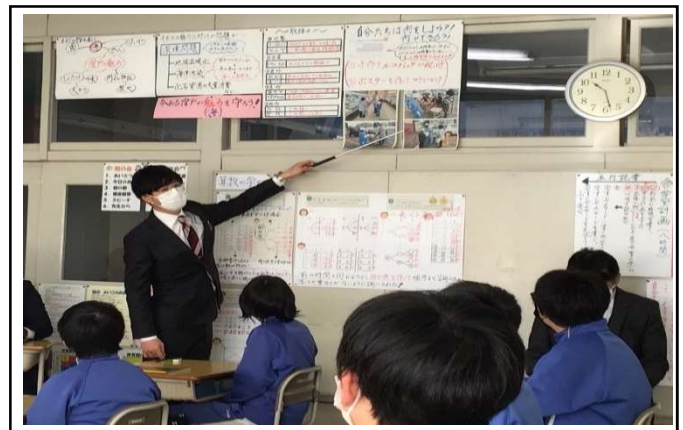
### <成果>

#### □導入段階

- ・ 前時における児童の振返を紹介し、単元としての活動のつながりをもたせると同時に、児童の思いをこれから解決していくという見通しをもたせることができた。
- ・ これまでの活動の流れを示した掲示を活用することで、これまでの活動について確かめることができた。



<児童の振返を紹介している様子>



<これまでの活動の掲示を示している様子>

#### □展開段階

- ・ 課題解決に向けて、どの思考ツールを活用するとよいのかを児童に問い、教師とやりとりをしながら進めた。また、観点を決めていく必要性についても確認することができた。
- ・ 教師側で話し合う形態を決めずに、児童に決めさせた。協働的に学ぶことに対して主体的に臨むことができた。

T:どの方法で解決していくか決めていきます。どの方法にしますか？

C:ピラミッドチャートがいいと思います。

T:なぜ？

C:観点を決めて選んでいく必要があるから最適だと思うからです。

T:どんな方法をとると伝えたいことを広めることができるか話し合おう。一人？グループ？

C:グループがいいです。

T:では、グループで話し合しましょう。時間は？

C:7分がいいです。



<グループで話し合っている様子>

<児童の発言の様子>

児童はこれまでに習得し活用してきた思考ツールの中から、本時の活動に適切な方法を選択することができた。また、個人では難しいと感じたことから、グループで話し合うことの必要性を感じていることが分かる。このことから、主体的に課題解決に向かい、必要感をもちながら協働的に学ぶことができたと言える。

#### □終末段階

- ・ (展開部分の話合いが続いている状況で) 改めて、海洋問題を解決するために、地域に伝えていきたいという児童の問題意識を再確認した。そうすることで本時の中で「方法」と「内容」について決められな

かったが次時に考えていく際の視点を確かめることができた。

#### <課題>

- ・ 観点を児童が決めることの難しさがある。観点の設定の仕方はねらいに即して教師側で決めていくこともある。(ブレインストーミングやKJ法を活用していく方法もある)
- ・ 自分で解決していく問題か地域全体で解決していく問題か、どちらかの視点を持ちながら話し合う必要もあった。

## 7 単元の実践記録

### (1) 活動の様子

単元名「宿戸の海を守る！～わたしたちにできること～」(40時間)

**課題設定** (2時間) 関連教科：国語科「環境問題について報告しよう」(5年生) 総合的な学習の時間「海洋」(5年生)

- ① これまでに総合的な学習の時間や海洋教育で学んできたことをもとに宿戸の魅力について話し合う。
- ② 5年生での学習(国語や海洋)を振り返ることで日本を含む世界では海洋問題が深刻になっていることを確かめる。
  - ・ これまでに学んできたことをもとにして、海やウニ、しいたけや岡谷神社などが魅力あるものとして挙げられた。それらの魅力の中でも特に魅力と感じているのは海であった。しかし現在、海洋問題が生じていることから、魅力を守っていきたいという思いのもと、これからの活動について考えた。

**情報収集** (3時間)

- ① 改めて、現在起きている海洋問題について調べなおす。
  - ・ 世界や日本では海洋プラスチックによる問題が山積みであることを情報収集する中で気付く。(カメの体にゴミ袋が絡まったり、牛などの動物が餌と間違えて誤飲や誤食をしたりすること。)



【現在起きている海洋問題】

**整理・分析** (2時間)

- ① どのような海洋問題が挙げられるのか世界と日本で区別しながら整理した。
  - ・ 整理する中で、世界・日本どちらにも生き物が死んでしまうほどの影響が出ていることが分かってきた。この状況が続くことで、いずれは自分たちが住む洋野町にも影響が出て、魚やウニなどの海産物を食べられなくなる可能性があることを確かめた。

**情報収集** (3時間) 関連教科：国語科「町の未来をえがこう」

- ① 海洋問題解決に向けて、世界や日本ではどのような取組が行われているのか調べる。
  - ・ 世界や日本(県内や県外)、企業や宿戸地域など様々な取組が行われていることに気付く。





【他県（秋田県）での取組】



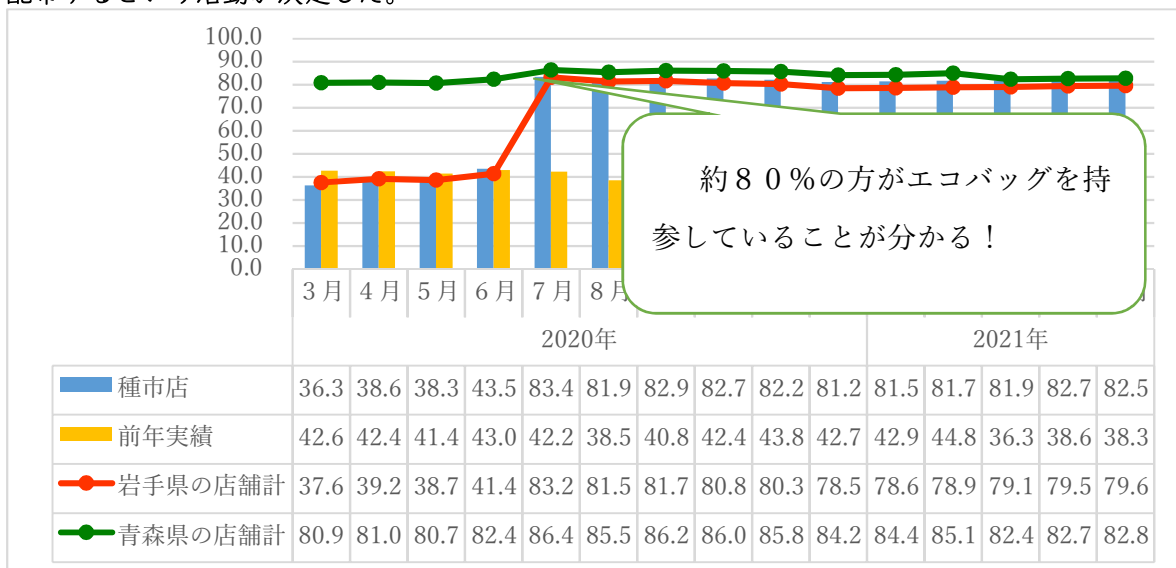
【自分たちのこれまでの取組】

**整理・分析** **課題設定** (3時間)

- ①世界や日本（県内や県外）、企業などの取組について整理した。
- ②様々な取組をもとに自分たちができることはどのようなことなのか話し合った。
  - ・ 生活を送る中で種市のユニバースでエコバッグを使っていない人がいたことを思い出し、「エコバッグの使用」に方向性を定める。

**情報収集** (3時間) 関連教科：算数科「データの特徴を調べて判断しよう」

- ①ユニバース種市店に依頼し、エコバッグ所持率のデータを受け取る。
  - ・ ユニバース種市店でのエコバッグ所持率は約80%という割合だった。子どもたちは思ったよりも多いという感想を持ったが、20%の方に意識してもらう必要があるということから、エコバッグを作り、配布するという活動が決定した。



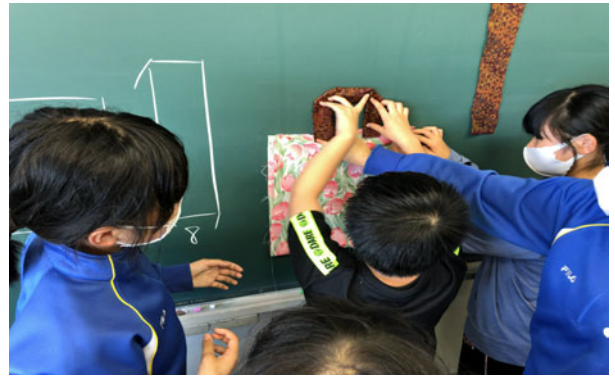
【エコバッグ所持率のデータ】

**整理・分析** (9時間) 関連教科：家庭科「生活を豊かに ソーイング」

- ① どのようなエコバッグにするのか話し合った。
  - ・ 「受け取る方はサイズが二つあった方が用途に合わせて使えるから良いだろう」「持ち手は広めの方が使いやすいだろう。」などの考えを出し合いながら製作活動に取り組んだ。
  - ・ エコバッグに付け加えて、「ポスターで環境問題について考えてもらうようにしたい」という考えが出さ

れ、ポスターによる紹介も追加した。

②話し合ったことをもとに、エコバッグやポスター製作に取り掛かった。



【エコバッグのサイズや作りについて話し合っている様子】



【エコバッグ製作中の様子】



【ポスター製作中の様子】

**まとめ・表現**（3時間）関連教科：国語科「気持ちよく対話を続けよう」

①ユニバース種市店に行き、手作りエコバッグの配布とポスターの紹介を行った。

- ・ 時間は1時間半ほどだったが、66枚のエコバッグを全て配布することができた。エコバッグを受け取った方にインタビューするなどして、配布するだけでなく海洋問題解決に向けて進んで活動することができた。



【エコバッグを配布する様子】



【受け取った方にインタビューする様子】

**課題設定**（3時間）

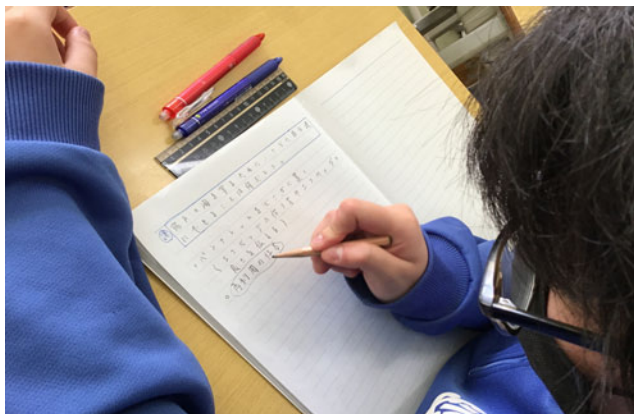
①表現活動の振り返りをもとにこれからの活動について話し合った。

- ・ ユニバース種市店では、時間が限られていたことや、高齢の方々が中心だったため、より多くの方々に広めることができなかったという振り返りが出たため、今後は「地域の方に広める」ためには何をし

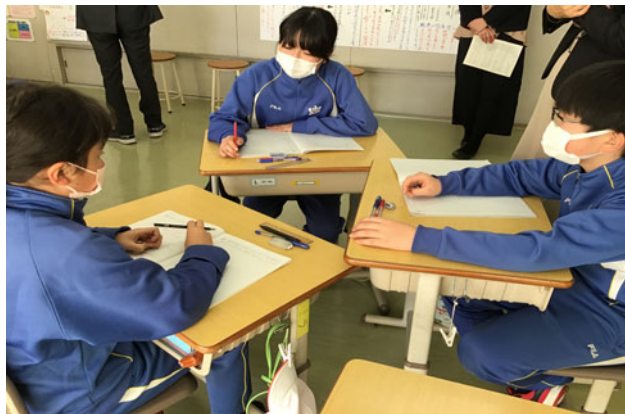


ていく必要があるのかを話し合った。

- ・ 「広報ひろの」を活用していくことで、より多くの方々に知らせることができると考え、「広報ひろの」に別紙というかたちでチラシを挟み地域に配布する活動に決まった。



【今後の活動について個人の考えを書いている様子】



【今後の活動について話し合っている様子】

### 整理・分析 (5時間)

①チラシには、どのような内容を書くのか、どれくらいの情報を書くのかを話し合った。

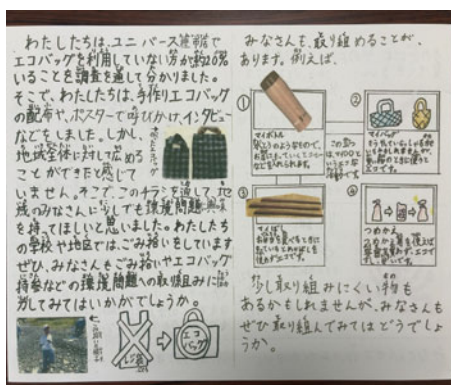
- ・ 「現在、海で起きている海洋問題」や「海洋問題解決に向けた取組」を書く自分たちが伝えたいことが伝わると決まった。
- ・ すぐに解決できることではないため、「小さな子どもでも内容が分かるようにして将来に生かせるようにしたい。」「お年寄りの方も見ると思うので字は大きめがいいのではないか。」などの考えが出され、どのようなチラシを書いていくのか方向性が定まった。



【ポスター作成の様子】



【完成したチラシ】



### まとめ・表現 (4時間)

①海洋問題の現状や解決策を考え、実際に発信する活動を経て、これまでの活動についての振り返りと今後の自分の生活について作文でまとめた。

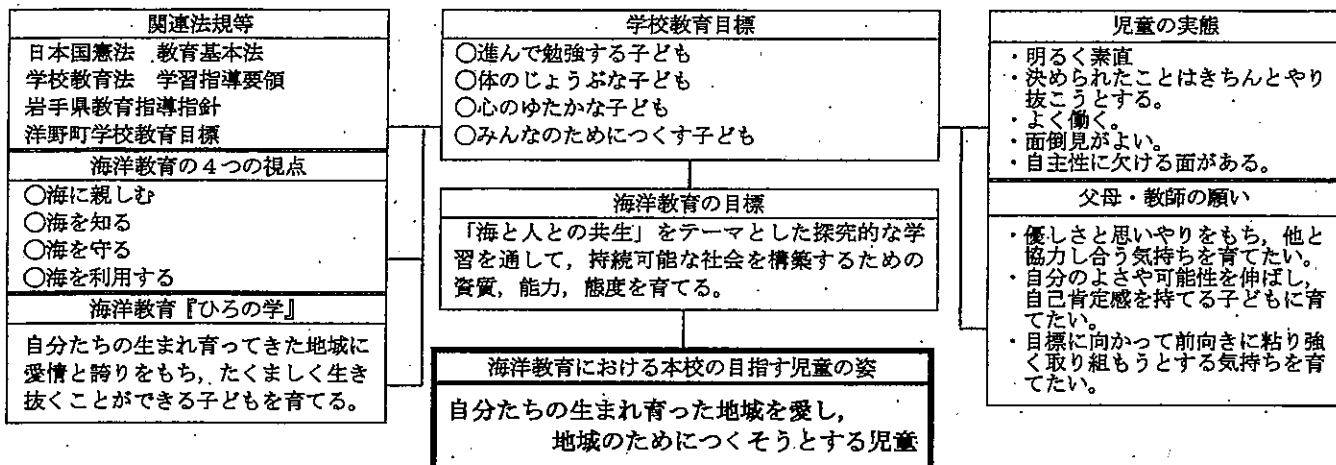
(2) 活動の振り返り

○3学年から5学年までに探究的学習をとおして学んだことを生かすことができた。そのことにより、これまでの学習と今年度の学習がつながっていることを実感させ、子どもたちにとって自分事の課題設定とすることができた。

- まとめ・表現の活動を終えたあとに、自分たちの探究課題は達成されたのかを問うことで、「もっとできることがある」という意識を子どもたちが持ちながら探究的な活動を進めることができた。
- △子ども自身が解決していく課題か、地域を巻き込んで解決していく課題か、区別をした上で単元を進めていく必要があった。大きな課題であり、持続可能な取組としての必要性についても考えさせていければ、より現実的な考え方になった部分がある。
- △コロナ渦ということもあり、体験活動を十分に行うことができなかった。新たな体験活動ではなくても環境問題についての情報をインターネットに加え、地域の人材をもっと活用して行えればよかった。

# 洋野町立中野小学校

# 海洋教育全体計画

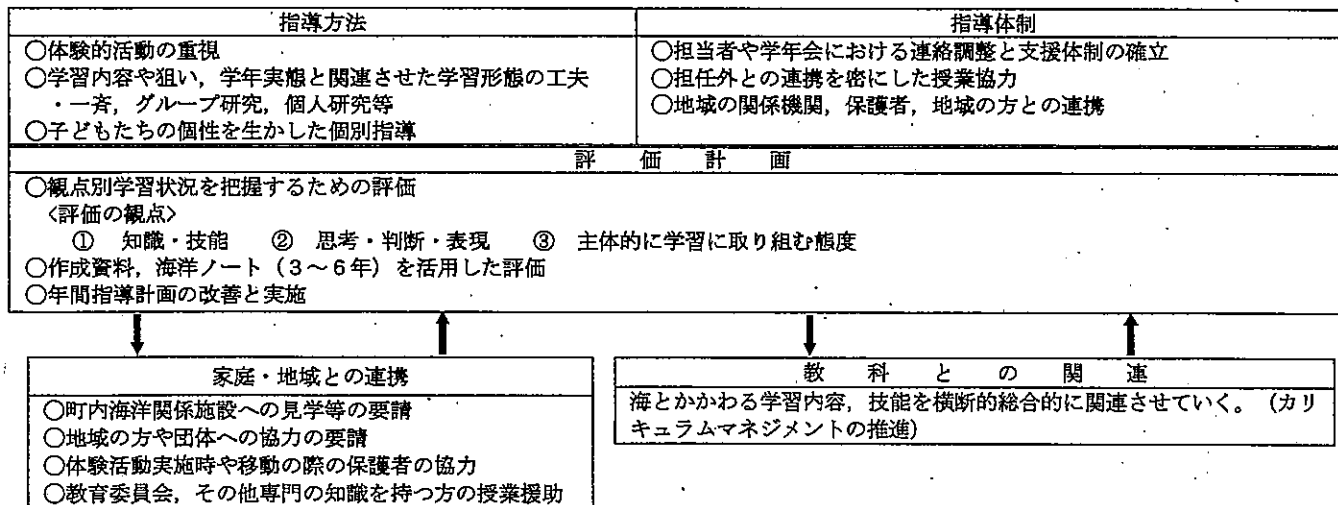


## ◎ 育成を目指す資質・能力

探究課題	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等			学びに向かう力・人間性等	
		思いや願い	かかわる	ふりかえる		
生活科 (1, 2年) 身近な海のすばらしさ	身近な海のすばらしさに気づいたり親しみをもちたりする。	対象との関わりをもつ。	対話を通じて気づきの質を高める。気づきや思いを表現する。	対象との関わり方や自分の成長、よさに気づく。	進んで対象に関わる。自分の成長やよさを自覚し意欲や自信をもつ。	
海洋科 (3, 4年) 海のすばらしさと暮らしとの関わり	地域が豊かな自然環境に支えられていることや自分たちの生活と大きな関わりがあることに気づく。	課題設定の力 問いをもち、解決方法を考える。	情報収集の力 既習の方法を生かして情報を収集する。	整理・分析の力 情報を整理・分析し自分の考えをもつ。	まとめ・表現の力 目的や相手に応じて分かりやすく表現する。	主体的・協働的に学ぶ。地域に愛情と誇りをもち。
海洋科 (5, 6年) 海洋環境と自分の生き方	身近な自然環境とそこに起きている環境問題を理解し持続可能な開発と自分たちの生き方との関わりを気づく。	問いをもち、解決の見通しをもつ。	適切な方法を考え、情報を収集する。	情報を整理・分析し自分の考えをもつとともに、実行可能な方法を考える。	目的や相手に応じて根拠をもって表現する。	主体的・協働的に学ぶ。持続可能な開発のために、考えたり行動したりする。

## ◎ 単元計画

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
視点	海に親しむ・海を知る	海に親しむ・海を知る	海に親しむ・海を知る	海を知る・海を守る	海を知る・海を守る	海を知る・海を守る
単元名	○つくろうあそぼうなかののたからで	・サケの稚魚放流 ○生きものなかよし大作せん	○有家浜生き物ずかんを作ろう	○水の旅～山から川へ、そして海へ～	○ぼくたち・わたしたちの海のひみつを探ろう ・有家浜清掃 ・海洋自由研究 ・サケの飼育	・サケの稚魚放流 ○私たちのふるさと洋野～洋野から世界へ～ ・有家浜清掃 ・海洋自由研究 ・卒業論文





# 洋野町立中野小学校 第1学年 ストーリーマップ

主な関連機関	内容
地域ボランティア	児童の安全・見守り

【テーマ】海への親しみ ・楽しい海 ・海での遊び

【目標】・身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、それらを工夫したり楽しんだりすることができ、活動のよさや大切さに気づき、自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。

【海洋教育の視点】 「海に親しむ」 「海を知る」

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1・2・3月	
活動の流れ	<b>単元名 「つくろう あそぼう なかのの たからで」 (28時間)</b>										
			A (体験) ○うげはまに いこう ・有家浜の砂浜で 遊び、砂遊びを楽 しむ。(4)		A (体験) ○がっこうの まわりで あ きをさがそう ・秋の自然の様 子に気づく。(4)		A (体験) ○うげはまに また いこう ・流木、シーグラス、貝 殻など遊びの道具に なりそうな物をさが す。(3)		D (表現・活動) ○つくってみよう。 ・学校の周りでとれた物や 有家浜で見つけた物を使 って、遊ぶ道具を作る。 (5)		
					D (表現・活動) ○はっぱや みで あそぼ う ・学校の周りで見 つけた木の実や 葉っぱをつかっ て遊ぶ。(2)		B (思い・願い) ○どんなあそびが できるかな ・学校の周りや有家浜 で見つけた物を使っ て、どんな遊びができる か考える。(1)		D (表現・活動) ○あそんでみよう。 ・遊びを交流し、更に楽し い遊びになるために意見 の交換し、改善する。(3)		
									B (思い・願い) ○こどもえんのみん など おもちゃたい かいをしよう ・園児が楽しく遊べるよ うに工夫する。(4)		
									E (振り返り) ○学習をふりかえる ・活動を通して、楽しかったことや中野の自然 について感じたことをまとめる。(2)		
関連				・「えにつきを か こう」(国語)			・「おしらせしま す！にっこりニ ュース」(図工)	・「おもい出して かいこう」(国語)		・おにぎりの日	

# 洋野町立中野小学校 第2学年 ストーリーマップ

【テーマ】 地域の自然と生き物

- 【目標】
- ・生き物を探して捕まえる活動を通して、生物が育つ場所、変化や成長の様子が分かり、自分たちと同じように生命をもっていることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようすることができる。(1学期)
  - ・海・川・山などへ行き、生き物や草花、水や砂などを見たり、触ったりする活動を通して、それぞれの場所の違いや特徴を見付けたり考えたりすることができる。(2学期)
  - ・体験したことを伝え合う活動を通して、それらを伝える相手のことを想像したり、伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、伝えたいことが相手に伝わるよさや楽しさが分かるとともに、進んで伝える相手と触れ合い、交流することができる。(2学期)

【海洋教育の視点】 「海に親しむ」「海を知る」「海を利用する」

○主な関連機関	・内容
○種市南漁協組合	・海や川の生き物の取り方や自然のことについて教えてもらう。
○ひろのまきば天文台	・山の生き物の取り方や自然のことについて教えてもらう。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	主な関連機関 種市南漁協		内容 地域の海の生き物を調べる。		種市南漁協 種市南漁協 種市南漁協		種市南漁協 種市南漁協 種市南漁協		種市南漁協 種市南漁協 種市南漁協		種市南漁協 種市南漁協 種市南漁協	
海洋科へつなげる生活科の学習の流れ	<b>単元名「生きものと なかよし 大作せん」(7時間)</b>				<b>単元名「ほく、わたしのお気に入り」〇〇～海・川・山との触れ合いを通して～(22時間)</b>							
	<b>A(体験)</b> <b>〇生き物を探しに行こう。</b> ・学校の周りの生き物を探す。(1)		<b>A(体験)</b> <b>〇生き物と仲良しになろう。</b> ・有家浜へ行き、海の生き物を探したり、捕まえたりする。(2)		<b>A(体験)</b> <b>〇海や川、山へ行き、自然と触れ合おう。</b> ・前単元「生きものと なかよし 大作せん」を振り返る。(1) ・海・川・山へ行き、諸感覚を働かせながら、それぞれの場所の違いや特徴を見付ける。(6)				<b>D(表現・活動)</b> <b>〇ほく、わたしのお気に入り伝える準備をしよう。</b> <b>〇ほく、わたしのお気に入り伝えよう。</b> ・誰に、何を、どのように伝えるのか考えたり、選んだりする。(2) ・相手意識をもちながら、発表の準備をする。(4) ・相手意識をもちながら、グループごとに発表をする。(1)		<b>E(振り返り)</b> ・学習したことを振り返り、自然に対する思いや願い・新たな問いなどについて考え、発表し合う。(1)	
	<b>B(思い・願い・気付き)</b> <b>〇どんな生き物がいたかな。</b> <b>〇他にはどこに、どんな生き物がいるのかな。</b> ・学校の周りの生き物探しを振り返る。(1) ・海には、どんな生き物がいるのか考え、話し合う。(1)		<b>B(気付き)</b> <b>〇どんな生き物がいたのか振り返ろう。</b> ・海にはどんな生き物がいたのか振り返る。(2)		<b>B(思い・願い・気付き)</b> <b>〇海や川、山へ行き、気付いたことを整理しよう。</b> ・海や川、山へ行行って、気付いたことを書き出したり、伝え合ったりする。(6) ・海と川、山の中から1番のお気に入りを決める。(1)							
	<b>サケの稚魚を放流しよう</b> ・有家川にサケの稚魚を放流する。(学活)											
関連	・国語科 「すきなこと、なあに」 「いくつあつめられるかな」 ・生活科 「春だ今日から2年生」	・国語科 「としょかんへ行こう」 「たんぼぼ」 「こんなことしているよ」 「外国の小学校について聞こう」 ・道徳科 「しぜんいのち」 「見つけたよ」	・国語科 「かんさつしたことを書こう」 「ことばで絵をつたえよう」 ・生活科 「どきどき わくわく まちたんけん」	・国語科 「サツマイモのそだて方」 ・音楽科 「ぶっかりくじら」	・国語科 「うれしくなることばをあつめよう」	・音楽科 「虫のこえ」 「いるかはざんぶらこ」 「山のポルカ」 ・生活科 「みんなであつかうまのしせつ」	・国語科 「ビーバーの大工事」 「あそび方をせつ明しよう」 ・生活科 「もっと なかよし まちたんけん」 「つながる 広がる わたしの生活」	・国語科 「たからものをしようかいしよう」 「同じところ、ちがうところ」 ・道徳科 「ごめんね、みなみ」 ・海洋教育子どもサミット	・国語科 「すきな場しよを教えよう」 ・音楽科 「はるがきた」 「海とおひさま」 ・図画工作科 「しぜんからのおくりもので」 ・道徳科 「ころきちのバイオリン」			

# 洋野町立中野小学校 第3学年 ストーリーマップ

【テーマ】 海洋生物と環境 ・地域の海洋生物 ・地域の特産

【目標】 潮風トレイルを散策する活動を通して、地域の海が豊かな自然環境に支えられていることや自分たちの生活と大きな関わりがあることに気づき、見つけた課題について探究するとともに、地域の海に誇りと愛情をもって大切にしようと考えられるようにする。

(ア) 地域が豊かな自然環境に支えられていることや自分たちの生活と大きく関わりがあることに気付く。【知識・技能】

(イ) 地域の海に対する問いをもち、それらを解決する方法を考え、学んだことを分かりやすく伝えることができる。【思考・判断・表現】

(ウ) 探究活動に進んで取り組もうとする。

地域の海の豊かさに気づき、大切にしていこうとしている。【学びに向かう力・人間性】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1・2・3月
海洋科の活動の流れ	<b>単元名「海の不思議を調べてまとめよう」 (30時間)</b>									
	<p>・オリエンテーション ・海洋学習について知る。 ・学習の見直しをもつ。</p>	<p><b>【A 体験】</b> <b>潮風トレイルで海のふしぎを見つけよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○潮風トレイルの計画を立てる。(1)</li> <li>○地域の海を散策し、海の様子を知る。(2)</li> <li>○潮風トレイルをふりかえり、見つけた不思議を全体で共有する。(1)</li> </ul>	<p><b>【B 疑問・問題】</b> <b>見つけた不思議から、詳しく調べることを選ぼう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○課題を設定し、調べる項目を選ぶ。(1)</li> </ul>	<p><b>【C 探究】</b> <b>見つけた不思議について詳しく調べよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○計画を立てる。(2)</li> <li>○情報収集。(10) <ul style="list-style-type: none"> <li>・潮風トレイルに探しに行く</li> <li>・インターネット</li> <li>・図書室</li> <li>・詳しい人に尋ねる</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>【D 表現・活動】</b> <b>調べたことを図鑑にまとめよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○調べたことを整理し、まとめる。(9)</li> </ul> <p><b>調べた不思議について発表しよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○調べた不思議について紹介する。(2)</li> </ul>	<p><b>【E 振り返り】</b> ・学習を振り返る(1)</p>				
関連		<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科「わたしたちのまちと市」</li> <li>・おにぎりの日</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科「こん虫を調べよう」</li> <li>・国語「インタビューをしてメモを取ろう」</li> <li>・道徳「ひきがえるとるば」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報教育 <ul style="list-style-type: none"> <li>◎インターネットにアクセスすることができる。</li> <li>◎プリンターを使って印刷できる。</li> <li>○キーボードで文字入力ができる。</li> </ul> </li> <li>・海はともだち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語「文字やさくいを活用しよう」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語「調べて書こう、わたしのレポート」</li> <li>・社会科「働く人とわたしたちの暮らし」</li> <li>・道徳「心をつないだ合言葉」</li> <li>・総合「シイタケを育てよう」</li> <li>・わたしたちの洋野 p34～37, p64, 65</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おにぎりの日</li> <li>・海洋教育子どもサミット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋教育カンファレンス</li> <li>・おにぎりの日</li> <li>・東大サミット</li> </ul>	

【海洋教育の視点】 「海に親しむ」「海を知る」

# 洋野町立中野小学校 第4学年 ストーリーマップ

主な関連機関	内容
県北広域振興局	水生生物調査をして有家川の水質を調べる。
久慈地域森林組合	植林体験を通して山の環境が川や海へ影響を与えることを知る。
まきば天文台 阿部俊夫さん	森の役割と森川海のつながりについて知る。

【テーマ】 水の循環と環境 ・防災 ・安全 ・環境保全

【目標】 地域の自然について誇りと愛情をもち、環境を守ることができる。

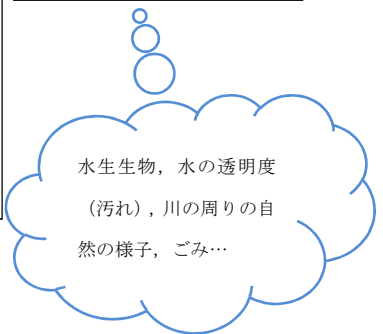
(ア) 地域の自然の様子を知り、具体的な行動をしようとする。【知識・技能】

(イ) 地域の自然について、体験活動を通して情報を整理・分析したり、分かりやすく伝えようとしていたりしている。【思考・判断・表現】

(ウ) 地域の自然について意欲的に学び、自分たちができることを考え、行動しようとしている。【学びに向かう力・人間性】

【海洋教育の視点】 「海を知る」「海を守る」

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12・1・2・3月	
海洋科の活動の流れ	<b>単元名「水の旅～山から川へ、そして海へ～」 (30時間)</b>									
	<p>○水はどこからどこへ行くのか考え、問いをもつ。</p> <p>○前学年の海洋学習を振り返る。</p> <p><b>オリエンテーション1時間</b></p>	<p><b>A(体験)</b> <b>有家川について調べよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○有家川の水質調査の計画を立てる(1)</li> <li>○有家川の水質調査をする(3)</li> <li>○有家川の水質についてまとめる(2)</li> </ul>		<p><b>B(疑問・問題)</b> <b>どうして有家川の水をきれいにするために、木を植えるのだろう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○有家川の水質から問いをもち、課題を設定する(1)</li> <li>○課題について予想を立てる。(1)</li> </ul>		<p><b>C(探究)</b> <b>山について調べよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○植林体験の計画を立てる。(1)</li> <li>○植林体験をする。(3)</li> <li>○G Tの話聞く。(1)</li> </ul> <p><b>海について調べよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○洋野の海でとれる海産物について知る。(1)</li> <li>○洋野以外の地域の海についても調べる(5)</li> </ul>		<p><b>D(表現・活動)</b> <b>山川海のつながりについて分かったことをまとめ、伝えよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○整理・分析したことについて資料(ポスター等)を作成し、伝える(6)</li> </ul> <p><b>自然を守るために、自分達にできることに取り組もう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○洋野町の自然に対する思いや願いを交流する。また、実行可能な行動を考え、実行する。(3)</li> </ul>		<p><b>E(ふいかえい)</b> ・学習を振り返る(2)</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>プランクトン 水の循環 森と海の距離 海洋汚染 植林 など</p> </div>
関連	・算数「折れ線グラフ」	・国語「確かめながら話を聞こう」 ・社会科「水はどこから」	・理科「自然の中の水の姿」 「雨水のゆくえ」	・海はともだち	・学活「災害時の行動」		・おにぎりの日 ・海洋教育子どもサミット	・国語「調べたことを報告しよう」 ・国語「言葉で考えを伝える」		



# 洋野町立中野小学校 第5学年 ストーリーマップ

主な関連機関	内容
岩手県栽培漁業協会	ウニの生態や海洋環境，育てる人々の工夫や努力を知る。
有家さけますふ化場	サケの生態や回遊，水産業の仕組みや海洋環境を知る。

【テーマ】 水産業と環境

【目標】 ・ウニやサケについて問いをもち，探究的な活動を通して，ウニやサケの成長を支える環境や関わる人々の工夫に気付くことができる。

・ウニやサケについて，自ら課題を見つけ，疑問の解決のために情報を収集，分析・整理して，まとめることができる。

(ア) 洋野町のウニやサケは地域の海洋環境と関わって育っていることを理解している。【知識・技能】

(イ) ウニやサケの生態や，地域の環境について，自ら課題を見つけている。【思考・判断・表現】

(ウ) 洋野町のウニやサケの良さに気付き，それらを大切にしようという思いをもち，学んだことを身近な人々に発信しようとしている。【学びに向かう力，人間性】

【海洋教育の視点】 「海を知る」「海を守る」

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1・2・3月	
	<b>単元名「ぼくたち・わたしたちの海のひみつを探ろう」 (30時間)</b>										
海洋科の活動の流れ	オリエンテーション1時間 ・前学年の海洋学習を振り返る。 ・5年生の学習内容を知り、見通しをもつ。	<b>A(体験)-①</b> <b>○ウニを知ろう。</b> ・ウニ栽培センターを見学し，ウニについて知る。(2)		<b>C(探究)-①</b> <b>○洋野町でおいしいウニがたくさんとれる理由を調べよう。</b> ・宿戸増殖溝を見学し，課題解決に必要な情報を集める。(2) ・調べたことを整理し，まとめる。(1) ・まとめたことを交流する。(1)		海洋自由研究 夏休み	<b>A(体験)-②</b> <b>○洋野町のサケを知ろう。</b> ・洋野町のサケの漁獲量等の資料から問いをもち，学習計画を立てる。(1)		<b>C(探究)-②</b> <b>○洋野町のサケがよくとれる理由とは？</b> ・さけますふ化場を見学し，サケについて知る。(2) ・解決できていない課題を調べる。(3) ・調べたことを整理し，まとめる。(2)		<b>E(ふり返し)</b> ・学習したことをふり返し，新たな問いや生かしたいことについて考え，思いや願いを持つ。
		<b>B(疑問・問題)-①</b> <b>○洋野町でおいしいウニがたくさんとれる理由はなんだろう。</b> ・ウニ栽培センターの見学で知ったことを分類し，個人の課題を設定する。(1) ・個人の課題について調べる。(2) ・増殖溝見学の見通しをもつ。(1)		<b>B(疑問・問題)-②</b> <b>○洋野町でサケがよくとれる理由は？</b> ・挙げられた疑問から個人の課題を設定する。(1)			<b>D(表現・活動)</b> <b>○洋野のウニやサケを伝えよう。</b> ・洋野のウニやサケのよさや，漁獲量が多い理由等をグループでまとめる。(7) ・グループでまとめたものを発表する。(2)				
関連	・国語「事実と考えを区別しよう」 ・国語「動物たちが教えてくれる海の中の暮らし」	・国語「知りたいことを聞きだそう」 ・社会「自然条件と人々のくらし」	・国語「環境問題について報告しよう」 ・理科「魚のたんじょう」	・国語「新聞記事を読み比べよう」 ・社会「水産業のさかんな地域」	・有家浜 清掃・ひろの エモーション ・海はともだち	・社会「水産業のさかんな地域」	・理科「魚のたんじょう」 ・算数「算数で読みとこう」 ・理科「流れる水のはたらき」	・国語「伝えたい，心に残る言葉」 ・理科「流れる水のはたらき」 ・海洋教育子どもサミット	・外国語「地域のおすすめを紹介しよう」 ・算数「割合」「帯グラフと円グラフ」 ・理科「生命のつながりを考えよう」 ・社会「森林とともに生きる」「環境をともに守る」		

洋野町立中野小学校 第6学年 ストーリーマップ

主な関連機関	内容
岩手県栽培漁業組合	ウニに関わる問題や環境問題を知る。
有家さけますふ化場	サケに関わる問題や環境問題を知る。

【テーマ】 環境問題と未来

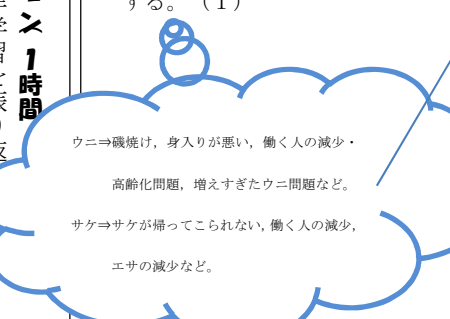
【目標】 ・洋野町の水産業が抱えている問題やこれから起こりうるであろう課題に気付き、その原因を考えたり、調べたりすることができる。  
 ・進んで地域へ関わりながら課題解決し、地域の特産であるウニ（サケ）や洋野の海を守るために自分ができるようなことを考え・表現し、実践することができる。

(ア) 洋野町の水産業が抱えている問題やこれから起こりうるであろう課題に気付き、その原因を考えたり、調べたりしている。【知識・技能】

(イ) 地域の特産であるウニ（サケ）や洋野の海を守るために自分ができるようなことを考えたり、表現したりしている。【思考・判断・表現】

(ウ) 進んで海や地域へ関わりながら、問いやその原因を考えたり、自分ができるようなことを実践したりしている。【主体的に学習に取り組む態度】

【海洋教育の視点】 「海を知る」「海を守る」「海を利用する」

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1・2・3月	
<b>単元名「洋野町の未来を考えよう～洋野の海やウニ(サケ)を守るためにできること～」 (30時間)</b>											
海洋科の活動の流れ	オリエンテーション1時間 ・前学年の海洋学習を振り返り、6年生の学習内容を知り、学習の見直しをもつ。	<b>A(体験)</b> <b>○ウニ(サケ)の学習を振り返ろう。</b> ・前年度学んだことの振り返りをする。(1) 		<b>B(疑問・問題)</b> <b>○ウニ(サケ)が直面している問題とは?</b> <b>⇒なぜ、ウニ(サケ)が獲れなくなっているのだろうか? なぜウニの身入りが悪くなっているのだろうか?</b> ・ウニ(サケ)が抱えている問題について課題意識をもち、学習計画を立てる。(2) ・ウニ(サケ)が抱えている問題の原因を考える。(2)		<b>C(探究)</b> <b>○ウニ(サケ)の抱えている問題の原因は何だろうか? ○ウニ(サケ)の抱えている問題の原因を調べよう。○調べたことを整理し、自分たちにできることを考えよう。</b> ・ウニ(サケ)が抱えている問題の原因をインターネットや本,GT等で詳しく調べる。(5) ・調べたことを整理し、自分たちにできることを考える。(2)		<b>D(表現・活動)</b> <b>○洋野のウニ(サケ)を守るために、自分たちにできることをまとめ、発表しよう。</b> ・洋野のウニ(サケ)が抱えている問題やその原因、自分たちにできることをグループでまとめる。(8) ・グループでまとめたものを全校へ発表する。(2) ・グループでまとめたものを一つにして、海洋サミットで発表する。(4)		<b>E(ふいかえり)</b> ・学習したことを振り返り、思いや願い・新たな問い・活かしたいことなどについて考え、発表し合う。(1)	
		<b>サケの稚魚を放流しよう</b> ・有家川にサケの稚魚を放流する。(2)		<b>個人研究に取り組もう</b> ・個人研究の計画を立てる。 ・個人研究に取り組む。(夏休み中) ・中間発表会をする。		地球温暖化対策、働く人を増やす方法、エサを増やす方法、海・川・山を守る方法 洋野のウニ(サケ)の知名度を上げる方法 など		<b>卒業論文を書こう (国語科との関連)</b>			
関連	・国語科「気持ちよく対話続けよう」「原因と結果に着目しよう」	・国語科「イースター島にはなぜ森林がないのか」「友達の見聞を聞いて考えよう」 ・理科「地球と私たちの暮らし」	・理科「動物のからだのはたらき」「植物のからだのはたらき」 ・社会科「わたしたちの暮らしを支える政治」 ・道徳科「チョモランマ清掃登山隊」	・書写「書く速さ」「インタビューのメモを取ろう」 ・理科「生き物の暮らしと環境」 ・社会科「災害からわたしたちを守る政治」	・音楽科「われは海の子」 ・海はともだち	・国語「海のいのち」 ・国語科「話し合っで考えを深めよう」 ・理科「大地のつくり」	・国語科「町の未来をえがこう」 ・道徳科「帰ってきたクニマス」	・国語科「世界に向けて意見文を書こう」 ・海洋教育子どもサミット	・国語科「プロフェッショナルたち」 ・理科「地球に生きる」 ・社会科「地球規模の課題の解決と国際協力」(・海洋教育カンファレンス) ・おにぎりの日 ・東大サミット		



第1学年 単元計画

単元名「つくろう あそぼう なかのの たからで」

(1) 目標

- ・身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、それらを工夫したり楽しんだりすることができ、活動のよさや大切さに気付き、自分たちの遊びや生活をよりよくできるようにする。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・森や海の自然物を使って、遊びに使うものを作ったり、遊んだりすることに関心を持ち、みんなで楽しく遊ぼうとしている。	・森や海の自然物や身の回りにあるものを利用して、遊びに使うものを工夫して作ったり、みんなが楽しく遊べるように、約束やルールを考えたりしながら、みんなで楽しく遊んでいる。	・森や海の自然物を利用して遊んだり、遊びに使うものを作ったりすることの面白さや自然の不思議さ、遊ぶことの楽しさに気付いている。

(3) 単元計画 (全29時間)

【学習段階】 ○主な学習活動 (時数)	学習課題 ◆評価規準 <観点> [方法]
<b>【A体験】</b> <u>うげはまにいこう</u> ・うげはまの砂浜で遊ぶ。(3)	・指導上の留意点 ◇教科等の関連 ◆評価規準 <観点> [方法] ・砂浜で砂遊びを楽しみ、身近にある自然のすばらしさについて気づかせる。 ◆有家浜に出かけ、砂浜で遊び、海での遊びを楽しみながら砂浜の特徴に気づいている。 ◇国語科「えにっきをかこう」 <主体的に学習に取り組む態度> [発言・観察]
<b>【A体験】</b> <u>がっこうのまわりで あきをさがそう</u> ・秋の自然の様子に気づく。(4)	・色や形、においなど、秋の学校の周りの様子と夏の様子の違いに気づかせる。 ◆夏と秋の自然の様子の違いについて気づいている。 ◇道徳科「大すき わたしたちのまち」 <知識・技能の基礎> [観察・観察カード]
<b>【D表現・活動】</b> <u>はっぱや みで あそぼう</u> ・学校の周りで見つけた木の実や葉っぱを使って遊ぶ。(2)	・集めた自然物を使って、遊び方を考えさせる。 ◆集めた自然物の中から、使ってみたい物を選び、試し、見立てたりして、遊びを工夫している。 <思考・判断・表現の基礎> [発言・観察]
<b>【A体験】</b> <u>うげはまに また いこう</u> ・流木、シーグラス、貝殻など遊びの道具になりそうな物を探す。(3)	・有家の砂浜には遊びに使える道具がないか考えさせる。 ◆砂浜で遊びに使えるような物を探している。 ◇国語科「おしらせします にっこりニュース」 <主体的に学習に取り組む態度> [発言・観察]

<p>【B思い・願い】</p> <p><u>どんなあそびが できるかな</u></p> <p>・海で見つけた物を使って、どんな遊びができるか考える。(2)</p>	<p>・砂浜で集めた自然物も使って、遊び方を考えさせる。</p> <p>◆集めた自然物の中から、使ってみたい物を選び、試し、見立てたりして、遊びを工夫している。</p> <p>〈思考・判断・表現の基礎〉[発言・観察]</p>
<p>【D表現・まとめ】</p> <p><u>つくってみよう</u></p> <p>・学校の周りや有家浜で見つけた物を使って、遊ぶ道具を作る。(6)</p>	<p>・集めた自然物を使って遊び方を考え、遊ぶ道具を作らせる。</p> <p>◆集めた自然物の中から、使ってみたい物を選び、試し、見立てたりして、遊びを工夫している。</p> <p>〈知識・技能の基礎〉[観察・作品]</p>
<p><u>あそんでみよう</u></p> <p>・遊びを交流し、更に楽しい遊びにするために意見の交換をする。(4)</p>	<p>・友達と作品を見合い、遊び、自分の作品がより面白くなるように話し合わせる。</p> <p>◆自分の工夫したところを友達に話したり、友達から聞いた工夫を自分のおもちゃで試して改良したりしている。</p> <p>〈思考・判断・表現の基礎〉[発言・観察・作品]</p> <p>◆自然物を使って、おもちゃや楽器をつくることの面白さに気付いている。</p> <p>〈主体的に学習に取り組む態度〉[発言・観察]</p>
<p>【B思い・願い】</p> <p><u>こどもえんのみんなと おもちゃたいかいをしよう</u></p> <p>・遊ぶ相手が楽しく遊ぶことができるように工夫する。(3)</p>	<p>・こども園の子供達が楽しめるように、遊び方を工夫させる。</p> <p>◆相手に合わせて、おもちゃで遊ぶ方法を工夫している。</p> <p>◇国語科「おもいだしてかこう」</p> <p>〈思考・判断・表現の基礎〉[発言・観察・作品]</p>
<p>【E振り返り】</p> <p><u>たのしかったことを つたえよう</u></p> <p>・活動を通して、楽しかったことや中野の自然について感じたことをまとめる。(2)</p>	<p>・おもちゃを改良したり、遊び方を工夫したりして、みんなで遊びを楽しむとともに、活動を通して気付いたことを振り返り、伝え合わせる。</p> <p>◆試しに遊んでみて困ったことや、友達から助言されたことをもとに、おもちゃや遊び方を工夫している。</p> <p>〈主体的に学習に取り組む態度〉[発言・観察・ふりかえりカード]</p>

第2学年 単元計画

単元名「ぼく、わたしのお気に入り○○～海や川との触れ合いを通して～」

(1) 目標

- ・海・川などへ行き、生き物や水、砂などを見たり、触ったりする活動を通して、それぞれの場所の違いや特徴を見付けたり考えたりすることができ、自分たちの住んでいる地域は豊かな自然が多くあることに気付くとともに、自然や地域への愛着をもつことができる。
- ・体験したことを伝え合う活動を通して、それらを伝える相手のことを想像したり、伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、伝えたいことが相手に伝わるよさや楽しさが分かるともに、進んで伝える相手と触れ合い、交流することができる。

(2) 評価規準

単元の評価規準		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・海・川などへ行き、生き物や水、砂などを見たり、触ったりする活動を通して、自分たちの住んでいる地域は豊かな自然が多くあることに気付いている。</li> <li>・体験したことを伝え合う活動を通して、伝えたいことが相手に伝わるよさや楽しさが分かっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海・川などへ行き、生き物や水、砂などを見たり、触ったりする活動を通して、それぞれの場所の違いや特徴を見付けたり、考えたりしている。</li> <li>・体験したことを伝え合う活動を通して、それらを伝える相手のことを想像したり、伝えたいことや伝え方を選んだりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海・川などへ行き、生き物や水、砂などを見たり、触ったりする活動を通して、自然や地域への愛着をもっている。</li> <li>・体験したことを伝え合う活動を通して、進んで伝える相手と触れ合い、交流しようとしている。</li> </ul>
小単元における評価規準	1	① 海・川などへ行き、生き物や水、砂などを見たり、触ったりする活動を通して、自分たちの住んでいる地域は豊かな自然が多くあることに気付いている。	①海・川などへ行き、生き物や水、砂などを見たり、触ったりする活動を通して、それぞれの場所の違いや特徴を見付けている。	① 海・川などへ行き、生き物や水、砂などを見たり、触ったりする活動を通して、自然の面白さや不思議さを感じている。
	2	② 体験したことを振り返る活動を通して、自分たちの住んでいる地域は豊かな自然が多くあることに気付いている。	②体験したことを振り返る活動を通して、それぞれの場所の違いや特徴を考えている。	②体験したことを振り返る活動を通して、自然の面白さや不思議さを感じている。
	3		③ 誰に、何を、どのように伝えるのか考えたり、選んだりしている。 ④ 伝える相手のことを想像しながら、発表の準備をしている。	
	4	③体験したことを伝え合う活動を通して、伝えたいことが相手に伝わるよさや楽しさが分かっている。		③体験したことを伝え合う活動を通して、進んで伝える相手と触れ合い、交流しようとしている。
	5			④単元の学びを振り返ることを通して、自然への愛着をもっている。

(3) 単元計画 (全22時間)

小単元名 (時間)	学習活動	評価規準	評価方法
1 【A 体験】 「海や川へ行き、自然と触れ合おう。」 (7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏の「生きもの なかよし 大作せん」の学習を振り返る。</li> <li>海・川へ行き、諸感覚を働かせながら、それぞれの場所の違いや特徴を見付ける。</li> </ul> ※【A 体験】の活動をして、【B 気付き】の活動をする、これらを2回繰り返す。	知① 思① 態①	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動観察, 発言分析</li> <li>行動観察, 発言分析</li> <li>行動観察, 発言分析</li> </ul>
2 【B 思い・願い・気付き】 「海や川, 山へ行き, 気付いたことを整理しよう。」 (7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>海や川へ行って, 気付いたことを書き出した, 伝え合ったりする。</li> <li>海と川の中から1番のお気に入りを決める。</li> </ul>	知② 思② 態②	<ul style="list-style-type: none"> <li>発言と表現物の分析</li> <li>発言と表現物の分析</li> <li>発言と表現物の分析</li> </ul>
3 【D 表現・活動】 「ぼく, わたしのお気に入りを伝える準備をしよう。」 (6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰に, 何を, どのように伝えるのか考えたり, 選んだりする。</li> <li>相手意識をもちながら, 発表の準備をする。</li> </ul>	思③ 思④	<ul style="list-style-type: none"> <li>発言と表現物の分析</li> <li>行動観察, 発言分析</li> <li>表現物の分析</li> </ul>
4 【D 表現・活動】 「ぼく, わたしのお気に入りを伝えよう。」 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手意識をもちながら, グループごとに本単元の学びを表現する。聞いている人に質問や感想を話してもらい, 互いに応対する。</li> <li>発表したことを振り返る。</li> </ul>	知③ 態③	<ul style="list-style-type: none"> <li>発言と表現物の分析</li> <li>行動観察, 発言分析</li> </ul>
5 【E 振り返り】 「学習したことを振り返ろう。」 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の学びを写真や動画, ノートやプリントなどで振り返る。</li> </ul>	態④	<ul style="list-style-type: none"> <li>発言と表現物の分析</li> </ul>

第3学年 単元計画

単元名「海の不思議を調べてまとめよう」

(1) 目標

- ・ 潮風トレイルを散策する活動を通して、地域の海が豊かな自然環境に支えられていることや自分たちの生活と大きな関わりがあることに気付き、見つけた課題について探究するとともに、地域の海に誇りと愛情をもって大切にしようと考えることができるようにする。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域が豊かな自然環境に支えられていることや自分たちの生活と大きく関わりがあることに気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の海に対する問いをもち、それらを解決する方法を考え、学んだことを分かりやすく伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 探究活動に進んで取り組もうとする。</li> <li>・ 地域の海の豊かさに気付き、大切にしていこうとしている。</li> </ul>

(3) 単元計画 (全30時間)

【学習段階】 ○主な学習活動 (時数)	【学習課題】	・ 指導上の留意点 ◇教科等の関連 ◆評価規準 <観点> [方法]
オリエンテーション ○海洋学習について知る。 ○学習の見通しをもつ。(1)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海洋学習について知り、学習計画を立てさせる。</li> <li>◆4年生の発表を聞き、海洋科学学習への問いをもっている。</li> </ul> <学びに向かう力・人間性> [記述]
【A体験】 潮風トレイルで海のふしぎを見つけよう ○潮風トレイルの計画を立てる。(1) ○地域の海を散策し、海の様子を知る。(2) ○潮風トレイルをふりかえり、見つけた不思議を全体で共有する。(1)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 潮風トレイルを歩き、不思議に気付かせる。</li> <li>・ 見つけた不思議を全体で共有させる。</li> <li>◆問いをもち、主体的に課題設定している。</li> </ul> <学びに向かう力・人間性> [観察・記述]
【B疑問・問題】 見つけた不思議から、詳しく調べることを選ぼう。 ○課題を設定し、調べる項目を選ぶ。(1)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見つけた不思議の中から特に興味をもったものを、調べ学習の学習課題につなげさせる。</li> <li>◆見つけた不思議の中から詳しく調べる項目を選び、解決の方法を考えている。</li> </ul> <学びに向かう力・人間性> [観察・記述]
【C探求】 見つけた不思議について詳しく調べよう		

<p>○計画を立てる。(1)</p> <p>○情報収集。(10)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 潮風トレイルに調べに行く。</li> <li>・ インターネットで調べる。</li> <li>・ 図書室で調べる。</li> <li>・ 詳しい人に尋ねる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報を得るために色々な手段で調べる。</li> <li>◆色々な調べ方を体験し、多くの情報を集めている。</li> </ul>
<p><b>【D表現・活動】</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">調べたことをまとめよう。</div> <p>○調べたことを整理し、まとめる。(9)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調べたことの中からまとめに必要な情報を選び、まとめさせる。</li> <li>◆調べたことの中から、相手意識をもって情報を取捨選択している。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt; [記述・発言]</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">調べた不思議について発表しよう。</div> <p>○調べた不思議について発表する。(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調べたことについて発表の仕方を考え、発表させる。</li> <li>◆調べたことを発表するのにふさわしい方法を考えている。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt; [記述]</p>
<p><b>【E振り返り】</b></p> <p>○学習を振り返る。(2)</p>	



第4学年 単元計画

単元名「水の旅～山から川へ、そして海へ～」

(1) 単元の目標

- ・地域の自然環境について問いをもち、体験活動を通して山・川・海のつながりを調べることで、水の循環のしくみを理解したり、洋野町で海産物が豊富にとれる理由を考えたりすることができる。
- ・地域の自然環境への誇りと愛情をもち、それらを守るために自分にできることを具体的に考え、行動することができる。

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の山や川、海が良い環境となっていることを理解している。</li> <li>・自然環境と自分の生活に関わりがあることに気付いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収集した情報の中から必要なものを選び、整理してまとめている。</li> <li>・目的や相手に応じて分かりやすくまとめたり、表現したりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・協働的に学び、地域の豊かな自然環境に誇りと愛情をもっている。</li> <li>・自然環境を守るためにできることを具体的に考えている。</li> </ul>

(2) 単元計画（全30時間）

【学習段階】 学習課題 ○主な学習活動 (時数)	・指導上の留意点 ◇教科等の関連 ◆評価規準 <観点> [方法]
<p>オリエンテーション</p> <p>○前学年の海洋学習を振り返る。</p> <p>○水はどこからどこへ行くのか考え、問いをもつ。(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度の学習との関連づけを明確にして、つながりのある学習計画を立てさせる。</li> <li>◆前学年で調べた地域の海との関連をもとに、水のゆくえへの問いをもっている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力・人間性&gt; [記述]</p>
<p>【A 体験】</p> <p>有家川について調べよう</p> <p>○有家川の水質調査の計画を立てる。(1)</p> <p>○有家川の水質や周りの環境を知る。(3)</p> <p>○有家川の水質についてまとめる。(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有家川の水質について、生息する生物の種類と数を手がかりとして調べさせる。</li> <li>◆主体的に調査の計画を立てている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力・人間性&gt; [観察・記述]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水質調査やゲストティーチャーから学ばせる。</li> <li>◆さまざまな方法で有家川の水質や、周りの環境について調べている。&lt;知識・技能&gt; [観察・記述]</li> <li>◆調査の結果をもとに、生息する生き物の種類の豊かさや自然環境や水質のよさについて気付いている。&lt;知識・技能&gt; [記述・発表]</li> </ul>
<p>【B 疑問・問題】</p> <p>どうして有家川の水をきれいにするために、木を植えるのだろう。</p> <p>○有家川の水質から問いをもち、課題を設定する。(1)</p> <p>○課題について予想を立てる。(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有家川の水がきれいな理由を予想する過程で、町の植林活動について知り、そのつながりについて問いをもたせる。</li> <li>・既習をもとに、水の視点から問いをもたせる。</li> </ul> <p>◇社会科「水はどこから」</p> <p>◇理科「雨水のゆくえ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆有家川と山のつながりについて課題意識をもつことができる。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt; [記述・発表]</p>

<p><b>【C 探究】</b></p> <p>山について調べよう。</p> <p>○植林体験の計画を立てる。(1) ○植林体験をする。(3) ○G Tの話聞く。(1)</p> <p>海について調べよう。</p> <p>○洋野の海でとれる海産物について知る。(1) ○洋野以外の地域の海についても調べる。(5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植林体験の計画を立てさせる。</li> <li>・植林体験を通して、植林の目的、森と川・海の関係について学ばせる。</li> <li>・G Tの話で、森と川・海の関係についての理解を深めさせる。</li> </ul> <p>◇理科「雨水のゆくえ」 ◇理科「自然の中の水のすがた」 ◇洋野町海洋教育事業「植林体験『森は巡る』」 ◇G T ひろのまきば天文台長 阿部俊夫さん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・洋野の海は海産物が豊富であることを知り、その理由について分析し考えをもたせる。</li> <li>・本やインターネット等も活用し、川がきれいではない場合や森を整備していない場合等の海への影響について調べさせる。</li> </ul> <p>◆山・川・海のつながりを意識してその関係を調べている、 ◆植林の意味と森からの栄養のある水が海により環境を与えていることを理解している。</p> <p>&lt;知識・技能&gt; [観察・記述・発言]</p>
<p><b>【D 表現・活動】</b></p> <p>山・川・海の手ながりについてわかったことをまとめ、伝えよう。</p> <p>○整理・分析したことについて資料（ポスター等）を作成し、伝える。(6)</p> <p>自然を守るために、自分達にできることに取り組もう。</p> <p>○洋野町の自然に対する思いや願いを交流する。また、実行可能な行動を考え、実行する。(3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間に分ける、順序立てる、関連させるなどさまざまな方法を用いて整理させる。</li> </ul> <p>◆調べたことの中から必要な情報を選び、整理してまとめている。</p> <p>&lt;思考・判断・表現&gt; [記述・発言]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整理・分析したことについて重要な順に序列化させ、それを生かして表現させる。</li> </ul> <p>◇国語「調べたことを報告しよう」 ◇国語「言葉で考えを伝える」</p> <p>◆整理・分析したことをもとにまとめ、相手意識をもって伝えている。</p> <p>&lt;思考・判断・表現&gt; [記述・発言]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海産物が育つ洋野の環境は人々の努力や工夫によって続いてきたものであり、守っていかねば、この先も続いていくことは難しいことに気付かせ、自分たちも何か行動しなければならないという必要感をもたせる。</li> </ul> <p>◆学びをもとに自然を守る方法を考え、実行しようとしている。</p> <p>&lt;学びに向かう力・人間性&gt; [発言・行動]</p>
<p><b>【E 振り返り】</b></p> <p>学習を振り返ろう。</p> <p>○学習を振り返る。(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組んだ感想を伝え合い、地域の豊かな自然環境をこれからも大切にしていきたいという思いをもたせ、継続的に取り組んでいこうとする意欲を高めさせる。</li> </ul> <p>◆学習を振り返り、改めて地域の自然環境への誇りと愛情をもつ。</p> <p>&lt;学びに向かう力・人間性&gt; [発言]</p>

第5学年 単元計画

単元名「洋野のウニやサケの秘密を探ろう」

(1) 目標

- ・ウニやサケについて問いをもち、探求的な活動を通して、ウニやサケの成長を支える環境や関わる人々の工夫に気付くことができる。
- ・進んで地域へ関わりながら課題解決をし、地域の特産であるウニやサケを守るために自分ができるようなことを実践することができる。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性
・ウニやサケの生態やとりまく環境(水産業,海流など)を理解し,ウニやサケが生きることができるようにするための地域の在り方や自己の生き方に気付いている。	・学んだことから必要な情報を整理し,自己の生き方を考え,相手意識や目的意識をもちながら表現している。	・問いをもちながら主体的・協働的に学習活動に取り組み,進んで地域に関わり,自己の生き方を考えようとしている。

(3) 単元計画 (全30時間)

【学習段階】 学習課題 ○主な学習活動 (時数)	・指導上の留意点 ◇教科等の関連 ◆評価規準 <観点> [方法]
オリエンテーション ○前学年の海洋学習を振り返る。 ○洋野町の水産業について問いをもち,1年間の学習の見通しをもつ。(1)	・前年度の学習との関連づけを明確にして,つながりのある学習計画を立てさせる。 ◆前学年との関連をもとに,5年生の海洋科学習への問いをもっている。 <学びに向かう力・人間性> [観察・記述]
【A体験-①】 洋野町のウニを知ろう。 ○洋野町のウニの漁獲量や美味しさについて,ウニ祭りや増殖溝の写真等の資料から問いをもち,学習計画を立てる。(1)	・洋野町のウニについての資料を用い,問いをもたせる。 ◆洋野町のウニについて問いをもち,進んで海や地域に関わろうとしている。 <学びに向かう力・人間性> [発言・記述]
【B疑問・問題-①】 洋野町で美味しいうなぎが良くとれる理由はなんだろう。 ○挙げられた疑問から個人の課題を設定する。(1)	・ウニの生態や特徴,関わる人々など,視点を絞って課題を設定させる。 ◆洋野町のウニについての問いをもとに,深く知りたいことについて課題を設定している。 <学びに向かう力・人間性> [観察・記述]
【C探求-①】 洋野町のウニが美味しい理由を調べよう。 ○ウニ栽培センターやウニ増殖溝を見学し,ウニについて知る。(4)	・ウニ栽培センターや増殖溝の見学を通してウニに触れ,実感的に学ばせる。 ・見学したことを通して新たな疑問やさらに深く知りたいことについて焦点を絞り,調べさせる。

<p>○解決できていない課題を調べる。(3)</p> <p>○調べたことを整理し、まとめる。(1)</p>	<p>◇理科「魚のたんじょう」</p> <p>◆調べ学習を通して、ウニの生態や洋野町の水産業、人々の努力に気付いている。</p> <p style="text-align: right;">&lt;知識・技能&gt; [記述・観察]</p>
<p>【A体験－②】</p> <p>洋野町のサケを知ろう。</p> <p>○洋野町のサケの漁獲量等の資料から問いをもち、学習計画を立てる。(1)</p>	<p>・洋野町のサケの漁獲量を表すグラフの考察や、八木漁港見学から問いをもたせる。</p> <p>◇社会科「水産業のさかんな地域」</p> <p>◇社会科「自然条件と人々のくらし」</p> <p>◆洋野町のサケについて問いをもち、進んで海や地域に関わろうとしている。</p> <p style="text-align: right;">&lt;学びに向かう力・人間性&gt; [発言・記述]</p>
<p>【B疑問・問題－②】</p> <p>洋野町でサケがよくとれる理由はなんだろう。</p> <p>○挙げられた疑問から個人の課題を設定する。(1)</p>	<p>・サケの生態や、洋野町のサケの特徴、関わる人々など、視点を絞って課題を設定させる。</p> <p>◆洋野町のサケについての問いをもとに、深く知りたいことについて課題を設定している。</p> <p style="text-align: right;">&lt;学びに向かう力・人間性&gt; [観察・記述]</p>
<p>【C探求－②】</p> <p>洋野町のサケがよくとれる理由を調べよう。</p> <p>○さけますふ化場を見学し、サケについて知る。(2)</p> <p>○解決できていない課題を調べる。(3)</p>	<p>・さけますふ化場見学において、実際にサケの様子を見たり、採卵体験をしたりして、実感的に学ばせる。</p> <p>・見学、体験を通して新たな疑問やさらに深く知りたいことについて焦点を絞り、調べさせる。</p> <p>◇理科「魚のたんじょう」</p> <p>◇算数「ならした大きさを考えよう」</p> <p>◆調べ学習を通して、サケの生態や洋野町の水産業、豊かな環境に気付いている。</p> <p style="text-align: right;">&lt;知識・技能&gt; [記述・観察]</p>
<p>洋野町のサケの秘密についてまとめよう</p> <p>○調べたことを整理し、まとめる。(2)</p>	<p>・サケの疑問について調べたことをもとに、洋野町のサケの特徴を捉え、情報を整理させる。</p> <p>◆学んだことを分析し、適切に整理してまとめている。</p> <p style="text-align: right;">&lt;思考・判断・表現&gt; [記述・観察]</p>
<p>【D表現・まとめ】</p> <p>洋野のウニやサケを分かりやすく伝える方法を考えよう。</p> <p>○洋野のウニやサケのよさ、漁獲量が多い理由等をグループでまとめる。(7)</p>	<p>・洋野町のサケやウニについて調べたことをもとに、目的や相手に合わせて情報を整理させる。</p> <p>・伝える内容や方法を吟味し、助言し合いながらより分かりやすく伝える方法について考えさせる。</p> <p>・助言をもとにグループで十分検討させ、分かりやすく伝わる方法で発表準備をさせる。</p> <p>◇国語科「問題を解決するために話し合おう」</p>

	<p>◆学んだことを伝える目的や相手に合わせて整理, 分析し, 適切な方法で伝えようとしている。</p> <p>＜思考・判断・表現＞ [記述・発言]</p>
<p>洋野のウニやサケのよさを伝えよう。</p> <p>○グループでまとめたものを発表する。(2)</p>	<p>・相手, 目的意識をもって発表等を行わせる。</p> <p>・助言したことを生かして相手グループの発表の際にそれぞれ協力し, 自分事として捉えながら発表させる。</p> <p>◇国語科「伝えたい, 心に残る言葉」</p> <p>◆相手意識や目的意識をもってそれぞれのグループでまとめ, 表現している。</p> <p>＜思考・判断・表現＞ [発表・記述]</p>
<p>【E振り返り】</p> <p>1年の学習をふり返ろう</p> <p>○学習したことをふり返り, 新たな問いや生かしたいことについて考え, 思いや願いをもつ。(1)</p>	<p>・導入時と終末時の知識や考えを比較しながら, 学びを自覚させる。</p> <p>・学びをもとに, ウニやサケの漁獲量を保ち, 守っていくために自分達ができることについて考えさせる。</p> <p>◇社会科「水産業のさかんな地域」</p> <p>◆学びをふり返り, サケについて考えたり, 新たな問いをもったりして, 進んで海や地域に関わろうとしている。</p> <p>＜学びに向かう力・人間性＞ [発言・記述]</p>

第6学年 単元計画

単元名「洋野町の未来を考えよう～洋野の海やウニ（サケ）を守るためにできること～」

(1) 目標

- ・洋野町の水産業が抱えている問題やこれから起こりうるであろう課題に気付き、その原因を考えたり、調べたりすることができる。
- ・進んで地域へ関わりながら課題解決し、地域の特産であるウニ（サケ）や洋野の海を守るために自分ができそうなことを考え・表現し、実践することができる。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性
<ul style="list-style-type: none"> <li>・洋野町の水産業が抱えている問題やこれから起こりうるであろう課題に気付いている。</li> <li>・洋野町の水産業が抱えている問題や起こりうるであろう課題の原因を考えたり、調べたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特産であるウニ（サケ）や洋野の海を守るために自分ができそうなことを考えたり、表現したりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで海や地域へ関わりながら、問いやその原因を考えたり、自分ができそうなことを実践したりしている。</li> </ul>

(3) 単元計画（全30時間）

【学習段階】 ○主な学習活動（時数）	学習課題 ◆評価規準 <観点> [方法]
<p>オリエンテーション</p> <p>○前学年の海洋学習を振り返る。</p> <p>○6年生の学習内容を知り、学習の見通しをもつ。(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導上の留意点 ◇教科等の関連</li> <li>◆評価規準 &lt;観点&gt; [方法]</li> <li>・前年度の学習との関連付けを明確にして、つながりのある学習計画を立てさせる。</li> <li>◇国語科「気持ちよく対話を続けよう」</li> <li>◇国語科「友達の意見を聞いて考えよう」</li> <li>◆6年生の学習内容に関心を持ち、進んで海や地域へ関わろうとしている。</li> <li>&lt;学びに向かう力・人間性&gt; [観察・発言]</li> </ul>
<p>サケの稚魚を放流しよう。</p> <p>○5年生時から育ててきたサケの稚魚を、2年生とともに、有家川で放流する。(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何のために放流するのかやどんな思いをもって放流するのか、目的意識や思い、願いをもたせる。</li> <li>◇国語科「気持ちよく対話を続けよう」</li> <li>◆思いや願いをもって、進んでサケの稚魚を放流している。&lt;学びに向かう力・人間性&gt; [観察・発言・記述]</li> </ul>
<p>【A体験】</p> <p>ウニ（サケ）の学習を振り返ろう。</p> <p>○前年度学んだこと（ウニやサケどちらかに絞る）の振り返りをする。(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度の作成物や海洋ノートを用いて振り返らせる。</li> <li>・可能であれば、ウニ栽培センターやさけますふ化場へ行き、前年度の学びを振り返らせる。</li> <li>◇国語科「気持ちよく対話を続けよう」</li> </ul>



	<p>◇国語科「友達の意見を聞いて考えよう」</p> <p>◆問いをもち、主体的に課題設定している。</p> <p>&lt;学びに向かう力・人間性&gt;</p> <p style="text-align: right;">[観察・発言・記述]</p>
<p><b>【B 疑問・問題】</b></p> <p>ウニ（サケ）が直面している問題とは何だろう。</p> <p>○ウニ（サケ）が抱えている問題について課題意識をもち、学習計画を立てる。（2）</p> <p>※ウニ⇒磯焼け、身入りが悪い、働く人の減少、高齢化問題、増えすぎたウニ問題など。</p> <p>※サケ⇒サケが帰ってこられない、働く人の減少、エサの減少など。</p>	<p>・前年度は、ウニ（サケ）のプラス面を学習した。しかし、マイナス面（抱えている課題）などもあることを資料を使って知り課題意識をもたせる。</p> <p>◇国語科「原因と結果に着目しよう」</p> <p>◇国語科「イースター島にはなぜ森林がないのか」</p> <p>◇理科「地球と私たちの暮らし」</p> <p>◇社会科「わたしたちの暮らしを支える政治」</p> <p>◆ウニ（サケ）が抱えている問題について問いをもち、解決するための学習計画を立てている。</p> <p style="text-align: center;">&lt;学びに向かう力・人間性&gt;</p> <p>◆洋野町の水産業が抱えている問題やこれから起こりうるであろう課題に気付いている。</p> <p style="text-align: center;">&lt;知識・技能&gt; [観察・発言・記述]</p>
<p>ウニ（サケ）が直面している問題の原因はなんだろう。</p> <p>○ウニ（サケ）が抱えている問題の原因を考える。（2）</p>	<p>・様々な問題の原因を、海洋科の既習や各教科の学びを活かしながら多面的・多角的に考えさせる。</p> <p>◇理科「動物のからだのはたらき」</p> <p>◇理科「植物のからだのはたらき」</p> <p>◆ウニ（サケ）が抱えている問題の原因を、海洋科の既習や各教科の学びを活かして考えている。</p> <p style="text-align: center;">&lt;知識・技能&gt; [観察・発言・記述]</p>
<p><b>個人研究に取り組もう。</b></p> <p>○個人研究の計画を立てる。（理科との関連）</p> <p>○個人研究に取り組む。</p> <p style="text-align: center;">（夏休み中）（理科との関連）</p> <p>○中間発表会をする。（理科との関連）</p>	<p>・夏季休業を利用して、5年生からの継続研究に取り組ませる。</p> <p>◆問いをもち、それを解決するための方法を具体的に考え、表現している。</p> <p style="text-align: center;">&lt;学びに向かう力・人間性&gt;</p> <p style="text-align: center;">&lt;思考・判断・表現&gt; [記述・発表]</p>
<p><b>【C 探求】</b></p> <p>ウニ（サケ）が抱えている問題の原因を調べよう。</p> <p>○ウニ（サケ）が抱えている問題の原因をGTやインターネット、本を使って調べる。</p> <p style="text-align: right;">（5）</p>	<p>・問題の原因を観点に沿って調べさせる。（ワークシートの活用）</p> <p>◇理科「生き物の暮らしと環境」</p> <p>◇社会科「災害からわたしたちを守る政治」</p> <p>◇道徳科「チョモランマ清掃登山隊」</p> <p>◇書写「書く速さ」「インタビューメモを取ろう」</p> <p>◆ウニ（サケ）が抱えている問題の原因を詳しく調べている。&lt;知識・技能&gt; [観察・発言・記述]</p>

<p>調べたことを整理し、自分たちにできることを考えよう。</p> <p>○調べたことを整理し、自分たちにできることを考える。(2)</p> <p>※地球温暖化対策、働く人を増やす方法、エサを増やす方法、海・川・山を守る方法、洋野のウニ（サケ）の知名度を上げる方法など。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちにできそうなことと、洋野町として考えてほしいことなど、分けて考えさせる。</li> <li>・海洋科の既習や理科、家庭科など、各教科の学びを活かして、教科横断的に考えさせる。</li> <li>・もし問題が続くと、ウニ（サケ）はどうなるのか、洋野町はどうなるのか、未来を予想させる。</li> </ul> <p>◇国語科「海のいのち」 ◇国語科「話し合って考えを深めよう」 ◇音楽科「われは海の子」◇理科「大地のつくり」</p> <p>◆調べたことを整理し、地域の特産であるウニ（サケ）や洋野の海を守るために、自分たちにできそうなことを具体的に考えている。</p> <p style="text-align: right;">＜思考・判断・表現＞ [観察・発言・記述]</p>
<p><b>【D表現・まとめ】</b></p> <p>洋野のウニ（サケ）や海を守るために、自分たちにできることをまとめよう。</p> <p>○洋野のウニ（サケ）や海が抱えている問題やその原因、自分たちにできることを、グループごとにまとめる。(8)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手意識や目的意識をもたせて、活動に取り組みせる。</li> <li>・一人一人にウニ（サケ）や海がどうなってほしいのか、思いや願いをもたせる。</li> </ul> <p>◇国語科「町の未来をえがこう」 ◇国語科「世界に向けて意見文を書こう」 ◇道徳科「帰ってきたクニマス」</p> <p>◆洋野のウニ（サケ）や海が抱えている問題やその原因、自分たちにできることを具体的に考えたり、相手意識や目的意識をもってまとめたりしている。＜思考・判断・表現＞</p> <p style="text-align: right;">[観察・記述・発言]</p>
<p>洋野のウニ（サケ）や海を守るために、自分たちにできることを発表しよう。</p> <p>○各グループでまとめたものを、全校へ発表する。(2)</p> <p>○各グループでまとめたものを、一つにして海洋教育サミットで発表する。(4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手意識や目的意識をもたせながら、発表させる。</li> <li>・一人一人にウニ（サケ）や海がどうなってほしいのか、思いや願いをもたせながら、発表させる。</li> </ul> <p>◇国語科「プロフェッショナルたち」</p> <p>◆洋野のウニ（サケ）や海が抱えている問題やその原因、自分たちにできることを相手意識や目的意識をもって表現している。＜思考・判断・表現＞</p> <p style="text-align: right;">[発表]</p>
<p>卒業論文を書こう。</p> <p>○卒業論文を書く。(国語科との関連)</p> <p>○卒業論文発表会をする。(国語科との関連)</p>	<p>◆2年間の研究を整理・分析し、自分にできることを具体的に考えている。</p> <p style="text-align: right;">＜学びに向かう力・人間性＞ ＜思考・判断・表現＞ [記述・発表]</p>

<p><b>【E振り返り】</b></p> <p>○学習したことを振り返り，思いや願い，新たな問い，活かしたいことなどについて考え，発表し合う。(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度活用した海洋ノート，まとめたものなどを活用しながら振り返らせ，中学校への学びへとつなげる。</li> <li>◇理科「地球に生きる」</li> <li>◇社会科「地球規模の課題解決と国際協力」</li> <li>◆学習したことを振り返り，思いや願いなどを持ち，進んで海や地域へ関わろうとしている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力・人間性&gt; [記述・発言]</p>
---	---

## 第1学年 生活科学習指導案

日 時 令和3年10月5日(火) 2校時  
児 童 男子8名 女子5名 計13名  
指導者 松浦 ふみか

### 1 単元名 「つくろう あそぼう なかののたからで」

#### 2 単元について

##### (1) 教材について

学習指導要領第1学年及び2学年の目標(2)は、「身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、それらを工夫したり楽しんだりすることができ、活動のよさや大切さに気付き、自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。」である。また、本単元の主たる内容(6)は、「身近な自然を利用したり、身近にあるものを使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使うものを工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら創り出そうとする。」である。本単元は、身近な自然物や、身の回りにあるものを使って、おもちゃを工夫して作ったり、遊び方を工夫したりして、遊びの面白さや自然の不思議さに気付き、安全に気を付けて、みんなで遊びを楽しむことができるようにすることをねらいとしている。

##### (2) 児童について

本学級の児童は、校地内の植物で草遊びをしたり、栽培している朝顔の花でたたき染めをしたりする活動を通して身近な自然に触れ合い楽しんできた。また、7月には有家浜へ出かけて砂浜での遊びを通して自然と親しんだ。しかし、校地内に樹木がなく徒歩で気軽に行ける公園もないため、自然豊かな地域ではあるが、「たのしいあきいっぱい」では、十分に木の葉や実を集めて触れ合う体験ができなかった。

児童は、意欲的に学習に臨む態度が身についていると言える。また、観察して気付いたことや体験して思ったことなどを書いたり発表したりして伝え合う活動も意欲的に行っている。しかし、草花遊びをしてきた児童は少なく、教師の手本がないと活動をすることが難しい。そのため、いろいろな遊びを紹介し、遊ばせ、活動を広げていく必要がある。

##### (3) 指導について

学習を進めるにあたり、本校の自然に囲まれた豊かな環境を生かし、学区で採取してきた木の実、貝殻やシーグラスなどの自然物を材料とし、それらに十分に触れさせて特徴を生かしたおもちゃを作らせたい。活動を広げるために、今までの活動を紹介します、自然を生かした遊びを楽しむことができるようにしたい。

### 3 単元の指導計画

#### (1) 単元の目標

自然と関わる活動を通して、遊びや遊びに使うものを工夫してつくったり、身近な自然の違いや特徴を見つけたりすることができ、自然の様子や四季の変化に気付いたり、遊びの面白さや不思議さに気付いたりするとともに、身近な自然を取り入れ自分の生活を楽しくしようにすることができるようにする。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然と関わる活動を通して、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること、遊びや遊びに使うものを工夫してつくることの面白さや自然の不思議さに気付いている。	自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付けたり、身近な自然を使って遊びや遊びに使う物を工夫して作ったりしている。	自然と関わる活動を通して、身近な自然を取り入れ、みんなと楽しみながら遊びを創り出し、自分の生活を楽しくしようとしている。

(3) 単元計画 (全28時間 本時14/28)

【学習段階】 学習課題 ○主な学習活動 (時数)	・指導上の留意点 ◇教科等の関連 ◆評価規準 <観点> [方法]
<b>一 たんけん なかの</b>	
<b>【A体験】</b> <u>うげはまにいこう</u> ・うげはまの砂浜で遊ぶ。(4)	・砂浜で砂遊びを楽しみ、身近にある自然のすばらしさについて気づき、砂浜での遊びを楽しもうとすることができるようにする。 ◆有家浜に出かけ、砂浜で遊ぶ活動を通して、みんなと遊びを楽しくしようとしている。 <主体的に学習に取り組む態度> [発言・観察・振り返りカード] ◇国語科「えにつきをかこう」
<b>【A体験】</b> <u>がっこうのまわりで あきをさがそう</u> ・秋の自然の様子に気づく。(4)	・夏と秋の校庭の自然の様子の違いに気づかせる。 ◆夏と秋の自然の様子の違いを感じ、自然の事象の不思議さに気付いている。 <知識・技能の基礎> [観察・観察カード] ◇道徳科「大すき わたしたちのまち」
<b>【D表現・活動】</b> <u>はっぱや みで あそぼう</u> ・学校の周りで見つけた木の実や葉っぱを使って遊ぶ。(2)	・集めた自然物を使って、遊び方を考えさせる。 ◆自分たちが集めた自然物に関心を持ち、重ねたり並べたりして楽しもうとしている。 <主体的に学習に取り組む態度> [発言・観察]
<b>【A体験】</b> <u>うげはまに また いこう</u> ・流木、シーグラス、貝殻など遊びの道具になりそうな物を探す。(3)	・秋の砂浜の様子を観察し、遊びに使える自然物ががないか考えさせたり探したりする。 ◆砂浜で遊びに使えるような物を探したり、新たな発見や遊びに使う自然物を選んでいく。 <思考・判断・表現の基礎> [発言・観察]
<b>二 おもちゃをつくろう</b>	

<p>【B 思い・願い】</p> <p>どんなあそびが できるかな</p> <p>・学校の周りや有家浜で見つけた物を使って、どんな遊びができるか考える。(1)</p> <p>本時</p>	<p>・集めた自然物の中から遊びに使う物を選び、イメージをもたせる。</p> <p>◆楽しみたい遊びを思い描きながら、遊びに使う物を選んでいく。</p> <p>〈思考・判断・表現の基礎〉 [発言・観察・作品カード]</p>
<p>【D 表現・活動】</p> <p>つくってみよう</p> <p>・学校の周りや有家浜で見つけた物を使って、遊ぶ道具を作る。(5)</p>	<p>・集めた自然物を使って遊び方を考え、遊ぶ道具を作らせる。</p> <p>◆集めた自然物の中から、予想したり、確かめたり、見直したりしながら、遊びに使う物を作っている。</p> <p>〈知識・技能の基礎〉 [観察・作品]</p> <p>◆みんなで楽しく遊びたいという願いをもち、粘り強く遊びを創り出そうとしている。</p> <p>〈主体的に学習に取り組む態度〉 [発言・観察]</p>
<p>三 みんなで あそぼう</p>	
<p>【D 表現・活動】</p> <p>あそんでみよう</p> <p>・遊びを交流し、更に楽しい遊びにするために意見の交換をする。(3)</p>	<p>・友達と作品を見合い、遊び、自分の作品がより面白くなるように話し合わせる。</p> <p>◆約束やルールが大切なことやそれを守って遊ぶと楽しいことに気付いている。</p> <p>〈知識・技能の基礎〉 [観察・観察カード]</p> <p>◆比べたり、遊んだり、見立てたりしながら、遊びを楽しんでいる。</p> <p>〈思考・判断・表現の基礎〉 [発言・観察・作品]</p> <p>◆友達のよさを取り入れたり、自分との違いを生かしたりして、遊びを楽しくしようとしている。</p> <p>〈主体的に学習に取り組む態度〉 [発言・観察・振り返りカード]</p>
<p>【B 思い・願い】</p> <p>こどもえんのみんなと おもちゃたいかいをしよう</p> <p>・遊ぶ相手が楽しく遊ぶことができるように工夫する。(4)</p>	<p>・こども園の子供達を楽しめるように、遊び方を工夫させる。</p> <p>◆みんなで楽しく遊ぶ際、道具や用具の準備や片付け、掃除、整理整頓をしている。</p> <p>〈知識・技能の基礎〉 [観察]</p> <p>◆相手に合わせて、遊びの約束やルールなどを工夫しながら遊んでいる。</p> <p>〈思考・判断・表現の基礎〉 [発言・観察・作品] ◇ 国語科「おもいだしてかこう」</p>
<p>【E 振り返り】</p> <p>たのしかったことを つたえよう</p> <p>・活動を通して、楽しかったことや中野の自然について感じたことをまとめる。(2)</p>	<p>・おもちゃを改良したり、遊び方を工夫したりして、活動を通して気付いたことを振り返り、伝え合わせる。</p> <p>◆遊びを工夫したり、友達と楽しく遊んだりしたことを振り返り表現している。</p> <p>〈思考・判断・表現の基礎〉 [発言・観察]</p>

	<p>◆みんなで遊ぶと生活が楽しくなることを実感し、毎日の生活を豊かにしようとしている。</p> <p>〈主体的に学習に取り組む態度〉[発言・観察・ふりかえりカード]</p>
--	---

#### 4 本時の学習

##### (1) 本時の目標

楽しみたい遊びや楽器を思い描きながら、遊びに使う物を選び、イメージをもつことができる。

##### (2) 展開案

	学習内容 ○発問・主な子供の反応	〈手立て〉・留意点 ◆評価規準〈観点〉[方法]
10分	<p>1 学校の周りの自然物を使って遊んだ時のことを想起する。</p> <p>○きれいなかんむりができた。</p> <p>○葉っぱで動物の顔を作った。</p> <p>○有家浜でとってきた物もつかって、何か作りたい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>もりやうみのものをつかって どんなあそびができるかな。</p> </div>	<p>・前時に葉っぱや実で遊んだ写真を提示し、それぞれの工夫を振り返る。</p>
30分	<p>2 自分たちが集めた森や海の自然物を確認し、どんなものができるか考える。</p> <p>○2, 3年生が作った物や教科書を見て、どんな遊び道具ができるか知ろう。</p> <p>○作りたい物を決めよう。</p> <p>・こま ・ジェットコースター ・迷路</p> <p>・マラカス ・的当て ・魚釣り など</p> <p>○どんな材料を使って、何を作るかで考えよう。</p> <p>・ドングリや松ぼっくりを使って的当てを作ってみたい。</p> <p>・迷路が面白そう。</p> <p>・ドングリと貝を使って作りたいな。</p> <p>・貝殻のマラカスを作ってみたい。</p> <p>3 発表しよう。</p> <p>・どんな材料で何を作るか。</p>	<p>〈手立て2〉今までの活動の写真から、遊び道具のイメージと遊びへの関心をもつ。</p> <p>・有家浜で集めた海の物を確認し、地域の自然物の豊かさを感じさせる</p> <p>・自然物を触りながら、どんな使い方があるか考えさせる。</p> <p>・作りたい物でグループ分けをし、自分で作りたい物を決める。</p> <p>〈手立て(3)〉グループでの話し合場の設定</p>
5分	<p>4 本時の振り返りをする</p> <p>○今日の学習を振り返って感想を発表しよう。</p>	<p>◆遊びの楽しさや遊びを工夫したり、遊びを創り出したたりする面白さに気付いている。</p> <p>〈思考・判断・表現の基礎〉[発言・観察]</p>





## 第 2 学年 生活科学習指導案

日 時 令和3年10月 5日 (火) 3校時  
児 童 男子10名 女子5名 計15名  
指導者 花 田 栄 順

1 単元名 「ぼく、わたしのお気に入りはお〇〇～洋野町の海・川・山との触れ合いを通して～」

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、学習指導要領の内容(5)「身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。」と内容(8)「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり、伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。」を中心に、次年度以降の特別な教科「海洋科」につながるように設定した。

この単元を学習することにより、生活科のねらいを達成するだけでなく、海・川・山など、洋野町の恵まれた自然そのものに関わることを通して、次年度以降の海洋科の学習の素地を養うことができると考える。

また、この単元は昨年度のカリキュラム見直しの時点で、設定しなかった単元である。今年度新たに計画・実施し、改善を図り、次年度以降のカリキュラムの作成・見直しにつなげていく。

(2) 児童について

児童は、1学期の生活科「生きもの なかよし 大作せん」の学習で、学校の周りや海にいる生き物を探したり、飼育したりする活動を通して、生き物の特徴や住んでいる場所に気付くことができた。また、様々な生き物へ親しみをもち、大切にしようとする姿が見られた。

しかし、この生活科の学習では、海の生き物に親しむことはできたが、海に関わるもの(海水や砂など)に親しむことは不十分であり、海そのものに愛着をもつ児童の姿はあまり見られなかった。また、海の生き物に触れ、気付いたことや感じたことを誰かに発表することもなく、学習を終えた。

(3) 指導について

上記の反省を踏まえ、子どもたちに自然や地域へ愛着をもたせ、次年度以降の特別な教科「海洋科」の学習へつなげるために、以下のように指導していく。

- ① 夏の海の生き物探しを振り返る活動から、もう一度海へ行き、海に関わるもの(海水や砂など)に目を向けさせ、見たり触れたり、様々な体験活動を通して、海の面白さや不思議さを感じさせたりしていく。
- ② 海の近くの川や山の存在に気付かせ、行ってみたい、何か活動をしたいという思いをもたせてから、実際に川や山へ行き、自然と触れ合わせる。
- ③ 川と山の面白さや不思議さなど、体験活動を通して感じさせ、気付いたことを整理することを通して、それぞれの場所の違いや特徴に気付かせていく。
- ④ それぞれの場所には違いや特徴がある中で、自分のお気に入りとその理由を決めさせ、自然に対する愛着をもたせていく。また、海・川・山が全てあるのが洋野町、中野小学校区であることに気付かせ、地域への愛着をもたせていく。
- ⑤ 単元の後半時には、誰に、どんなことを、どのように伝えるのかを考えさせ、発表させることにより思考力や表現力を高めていく。

3 単元の目標並びに評価規準

(1) 単元の目標

- ・海・川・山などへ行き、生き物や草花、水や砂などを見たり、触ったりする活動を通して、それぞれの場所の違いや特徴を見付けたり考えたりすることができ、自分たちの住んでいる地域は豊かな自然が多くあることに気付くとともに、自然や地域への愛着をもつことができる。

- ・体験したことを伝え合う活動を通して、それらを伝える相手のことを想像したり、伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、伝えたいことが相手に伝わるよさや楽しさが分かるとともに、進んで伝える相手と触れ合い、交流することができる。

(2) 単元の評価規準

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準		<ul style="list-style-type: none"> <li>・海・川・山などへ行き、生き物や草花、水や砂などを見たり、触ったりする活動を通して、自分たちの住んでいる地域は豊かな自然が多くあることに気付いている。</li> <li>・体験したことを伝え合う活動を通して、伝えたいことが相手に伝わるよさや楽しさが分かっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海・川・山などへ行き、生き物や草花、水や砂などを見たり、触ったりする活動を通して、それぞれの場所の違いや特徴を見付けたり、考えたりしている。</li> <li>・体験したことを伝え合う活動を通して、それらを伝える相手のことを想像したり、伝えたいことや伝え方を選んだりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海・川・山などへ行き、生き物や草花、水や砂などを見たり、触ったりする活動を通して、自然や地域への愛着をもっている。</li> <li>・体験したことを伝え合う活動を通して、進んで伝える相手と触れ合い、交流しようとしている。</li> </ul>
小単元における評価規準	1	①海・川・山などへ行き、生き物や草花、水や砂などを見たり、触ったりする活動を通して、自分たちの住んでいる地域は豊かな自然が多くあることに気付いている。	①海・川・山などへ行き、生き物や草花、水や砂などを見たり、触ったりする活動を通して、それぞれの場所の違いや特徴を見付けている。	①海・川・山などへ行き、生き物や草花、水や砂などを見たり、触ったりする活動を通して、自然の面白さや不思議さを感じている。
	2	②体験したことを振り返る活動を通して、自分たちの住んでいる地域は豊かな自然が多くあることに気付いている。	②体験したことを振り返る活動を通して、それぞれの場所の違いや特徴を考えている。	②体験したことを振り返る活動を通して、自然の面白さや不思議さを感じている。
	3		③誰に、何を、どのように伝えるのか考えたり、選んだりしている。 ④伝える相手のことを想像しながら、発表の準備をしている。	
	4	③体験したことを伝え合う活動を通して、伝えたいことが相手に伝わるよさや楽しさが分かっている。		③体験したことを伝え合う活動を通して、進んで伝える相手と触れ合い、交流しようとしている。
	5			④単元の学びを振り返ることを通して、海への愛着をもっている。

(3) 指導と評価の計画 (全22時間 本時 9/22)

小単元名 (時間)	学習活動	評価規準	評価方法
1 【A 体験】 「海や川、山へ行き、自然と触れ合おう。」 (7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏の「生きもの なかよし 大作せん」の学習を振り返る。</li> <li>・海・川・山へ行き、諸感覚を働かせながら、それぞれの場所の違いや特徴を見付ける。</li> <li>※【A 体験】の活動をして、【B 気付き】の活動をする、これらを3回繰り返す。</li> </ul>	知① 思① 態①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動観察、発言分析</li> <li>・行動観察、発言分析</li> <li>・行動観察、発言分析</li> </ul>
2 【B 思い・願い・気付き】 「海や川、山へ行き、気付いたことを整理しよう。」 (7) 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海や川、山へ行って、気付いたことを書き出したり、伝え合ったりする。</li> <li>・海と川、山の中から1番のお気に入りを決める。</li> </ul>	知② 思② 態②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言と表現物の分析</li> <li>・発言と表現物の分析</li> <li>・発言と表現物の分析</li> </ul>
3 【D 表現・活動】 「ぼく、わたしのお気に入りを伝える準備をしよう。」 (6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰に、何を、どのように伝えるのか考えたり、選んだりする。</li> <li>・相手意識をもちながら、発表の準備をする。</li> </ul>	思③ 思④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言と表現物の分析</li> <li>・行動観察、発言分析</li> <li>・表現物の分析</li> </ul>

4 【D 表現・活動】 「ぼく、わたしのお気に入り伝えよう。」 (1)	・相手意識をもちながら、グループごとに本単元の学びを表現する。聞いている人に質問や感想を話してもらい、互いに対応する。 ・発表したことを振り返る。	知③ 態③	・発言と表現物の分析 ・行動観察、発言分析
5 【E 振り返り】 「学習したことを振り返ろう。」 (1)	・単元の学びを写真や動画、ノートやプリントなどで振り返る。	態④	・発言と表現物の分析

#### 4 本時の学習

##### (1) 本時の目標

海へ行き、気付いたことを伝え合う活動を通して、海の特徴を考えたり、海の面白さを感じたりすることができる。

##### (2) 展開案

時間	学習内容 ○発問 ・主な子どもの反応	<手立て> ・留意点 ◆評価規準<観点> [方法]
3分	1 既習を振り返り、学習の見通しをもつ。 ○海へ行き、気付いたことを付箋紙に書き出しましたね。今日は、気付いたことをみんなで伝え合ひましょう。そして海の面白いところはどんなところか考えましょう。	・前時までのノートやプリント、板書や見学の際の写真の基に振り返り、本時の学習の見通しをもたせる。
	海で気づいたことをつたえ合ひ、海のおもしろいところを考えよう。	
37分	2 個の気付きをグループで伝え合ひ、対話をする。 ○書いた付箋紙を1枚ずつ出し合ひましょう。 ・砂は、冷たかったね。海水はどうだった？ ・夏と比べて生き物はいなかったね。どうしてかな。 ・夏に行った場所が海水で覆われていたね。	・グループは、気付きが深まるように、意図的なものとして、伝え合わせる。 ・前生活科の単元「みんなで使う町の施設」の学習でも同じように学習を進めているので、それを想起させ、グループ活動に取り組みさせる。イメージがわからない場合、その学習を例として、教師がやってみせる。 ・机間指導をしながら、対話が進むような声掛けをする。 <手立て(2)>なぜ？どうして？などの問いが生まれた場合、その発言を価値付け、その答えは、次年度の海洋科の学習で行うことを伝えて、意欲を持続させる。
	3 グループでの気付きを基にして、海の面白いところを考える。 ○気付いたことをグループで伝え合ひ、海のどんなところが面白いと思いましたか。その理由も考えましょう。 ・ぼくは、夏に行ったところが海水で覆われていたところが面白いなと思いました。海は日によって変わることが面白いと思いました。 ・私は、海にわかめが流れていることが面白いと思いました。夏に来たときはなかったのに、何が流れてくるのか面白いと思いました。	<手立て(3)>たくさんの気付きの中から、海の面白いところを理由付けて考えさせる。 ・全員に発表させ、海にはたくさんの面白さがあることを価値付ける。 ・面白いと思ったところを分類しながら板書し、注目した視点を価値付ける。 ◆体験したことを振り返る活動を通して、海の特徴を考えている。<思考・判断・表現> [行動観察・発言分析] ◆体験したことを振り返る活動を通して、海の面白さを感じている。 <主体的に学習に取り組む態度> [発言と表現物の分析]
5分	4 本時の振り返りをする。 ○海の勉強をして思ったことを振り返りましょう。 ・勉強をする前は、あまり海のことは考えなかったけれど、海が少し好きになりました。 5 次時の見通しをもつ。	・海を視点として振り返りをするので、次時以降の学習やこれからの海洋科の学習へつなげさせる。  <手立て(1)>写真から海の近くの川が存在に気付かせ、川へ行きたいという思いをもたせる。

(3) 板書計画

海で気づいたことをつたえ合い、海のおもしろいところを考えよう。

海のべんきょうをして思ったこと

グループ1

グループ4

グループ3

グループ2

グループ5

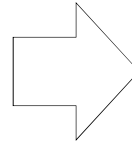
海水

ひょうちやくぶつ

海のおもしろさ

すな

風



### 第3学年 海洋科学習指導案

日時 令和3年8月31日(火) 2校時

児童 男子7名 女子8名 計15名

指導者 野田 健友

#### 1 単元名 「海の不思議を調べてまとめよう」

#### 2 単元について

##### (1) 教材について

本単元では、体験活動「潮風トレイルで海のふしぎを見つけよう」で歩くことで見つけた物や感じたことを課題に設定した探究的な学習を行うことで、課題解決の手段や情報収集、整理・分析、まとめ・表現などの学び方を身につけさせるとともに、海のある地域のよさを実感し、地域の海を大切にしていこうとする心情を持つことができるようになることをねらいとしている。

##### (2) 児童について

本校では、第3学年から海洋科に取り組んでいる。海がある地域に暮らす児童ではあるが、実際に海に入って遊んだり、海の生き物に触れたりするという経験は多くない。しかし、体験活動「潮風トレイルで海の不思議を見つけよう」では、地域の海の海岸線を約1.5kmに渡って歩き、たくさんの発見をすることができた。波の様子、風や潮のにおい、砂の感触や色、海に関する施設、砂浜の生き物、海のゴミなどを、実際に五感を通して感じ、海に対しての興味や自分なりの問いをもち、海洋科の学習に意欲的に取り組んでいる。

##### (3) 指導について

体験活動から生まれた問いをもとに課題を設定することで、海洋科の学習の導入期でもある3年生の児童に、課題解決の手段や情報収集、整理・分析、まとめ・表現などの学び方を身につけさせるとともに、海を自分たちにとって身近なものとして捉えさせ、自ら海に関わっていくことができるようにしていく。

#### 3 単元の指導計画

##### (1) 単元の目標

潮風トレイルを散策する活動を通して、地域の海が豊かな自然環境に支えられていることや自分たちの生活と大きな関わりがあることに気づき、見つけた課題について探究するとともに、地域の海に誇りと愛情をもって大切にしようと思えることができるようにする。

##### (2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性
・ 地域が豊かな自然環境に支えられていることや自分たちの生活と大きな関わりがあることに気付く。	・ 地域の海に対する問いをもち、それらを解決する方法を考え、学んだことを分かりやすく伝えることができる。	・ 探究活動に進んで取り組もうとする。 ・ 地域の海の豊かさに気づき、大切にしていこうとする

(3) 単元計画 (全30時間 本時6/30)

<p>【学習段階】 <b>学習課題</b> ○主な学習活動 (時数)</p>	<p>・指導上の留意点 ◇教科等の関連 ◆評価規準 &lt;観点&gt; [方法]</p>
<p>オリエンテーション ○海洋学習について知る。 ○学習の見通しをもつ。(1)</p>	<p>・海洋学習について知り，学習計画を立てさせる。 ◆4年生の発表を聞き，海洋科学習への問いをもっている。&lt;学びに向かう力・人間性&gt; [記述]</p>
<p>【A体験】 <b>潮風トレイルで海のふしぎを見つけよう</b> ○潮風トレイルの計画を立てる。(1) ○地域の海を散策し，海の様子を知る。(2) ○潮風トレイルをふりかえり，見つけた不思議を全体で共有する。(1) ○課題を設定し，調べる項目を選ぶ。(2) 【B疑問・問題】 <b>見つけた不思議から，詳しく調べることを選ぼう。</b> <b>本時</b></p>	<p>・潮風トレイルを歩き，不思議に気付かせる。 ・見つけた不思議を全体で共有させる。 ◆地域の海に対する問いを持ち，それを伝えようとしている。&lt;思考・判断・表現&gt; [観察・記述] ・見つけた不思議の中から学習課題につなげさせる。 ◆問いを持ち，主体的に課題設定している。 &lt;学びに向かう力・人間性&gt; [観察・記述]</p>
<p>【C探究】 <b>見つけた不思議について詳しく調べよう。</b> ○計画を立てる。(1) ○情報収集 (10) ・潮風トレイルに探しに行く ・インターネット ・図書室 ・詳しい人に尋ねる。</p>	<p>・情報収集に適した方法を考えさせる。 ・調べたことを発信する相手と方法を考えさせる。 ◆情報収集に適した調べ方を選び，調べている。</p>
<p>【D表現・まとめ】 <b>調べたことをまとめよう。</b> ○調べたことを整理し，まとめる。(9)</p>	<p>・調べたことの中から必要項目を選び，まとめさせる。 ◆調べたことの中から，相手意識をもって情報を取捨選択している。 &lt;思考・判断・表現&gt; [記述・発言]</p>
<p><b>調べた不思議について発表しよう。</b> ○調べた不思議について紹介する。(2)</p>	<p>・調べたことについて発表の仕方を考え，発表させる。 ◆調べたことを発表するのにふさわしい方法を考えている。 &lt;思考・判断・表現&gt; [記述]</p>
<p>【E振り返り】 ○学習を振り返る。(1)</p>	



#### 4 本時の学習

##### (1) 本時の目標

潮風トレイルで見つけた不思議の中から、詳しく調べる内容と方法を選ぶことができる。

##### (2) 展開案

時間	学習内容 ○発問 ・主な子供の反応	<手立て>・留意点◆評価規準<観点> [方法]
5分	<p>1 前時までに考えた、調べたいことを紹介する。</p> <p>・琥珀・ゴミ・砂浜・波・生き物（ウミウシ、ウニ）・石、岩</p> <p>2 本時の学習の流れと課題を説明する。</p> <p>イメージマップでアイデアを広げ、くわしく調べる内容を決めよう。</p>	<p>&lt;手立て&gt;・留意点◆評価規準&lt;観点&gt; [方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調べたい内容ごとにグループ分けする。</li> <li>・ 友達のイメージマップに多くの考えを書き出し、その中から詳しく調べる内容を決めることを確認する。</li> </ul>
35分	<p>2 友達のイメージマップにアイデアを広げる。</p> <p>○ 1か所につき3分間アイデアを出します。3分経ったら次のテーマのイメージマップに移動します。</p> <p>3 詳しく調べる内容を決める。</p> <p>○ イメージマップから、詳しく調べる内容を選び、選んだ理由をワークシートに書きましょう。</p> <p>○ ワークシートに調べる方法を考えて書きましょう。</p> <p>4 調べる内容を確認、修正する。</p> <p>○ 選んだ内容を発表しましょう。</p> <p>○ 調べる方法が選んだ内容を調べやすそうか確認しましょう。</p> <p>(グループ学習)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループごとに移動させ、多くのアイデアを出させる。</li> </ul> <p>&lt;手立て(3)&gt; イメージマップを活用し、様々なアイデアを出させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海に関わる言葉だけに着目させ、詳しく調べる項目を選ばせる</li> </ul> <p>&lt;手だて(3)&gt; 調べる内容と選んだ理由、調べる方法をワークシートに記入させる。</p> <p>◆ 調べる内容と調べる方法を選んでいる。 &lt;思考・判断・表現&gt;[観察・記述・発言]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達の発表を聞いて、質問や意見を伝えさせる</li> </ul>
5分	<p>5 本時の振り返りをする</p> <p>○ イメージマップを使った感想や、友達のアイデアを書いてもらった良さなど書きましょう。</p> <p>6 次時の学習内容の確認をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次時、調べる計画を立てることを確認する。</li> </ul>

## 第4学年 海洋科学習指導案

日 時 令和3年8月31日(火) 3校時  
 児 童 男子0名 女子10名 計10名  
 指導者 日影 知子

### 1 単元名 「水の旅～山から川へ、そして海へ～」

#### 2 単元について

##### (1) 教材について

地域の海は海産物が豊富である。森から流れ出る栄養のある水が、その一因となっていると考えられている。この教材は、山から川、海へと流れる水の循環の視点から、地域が豊かな自然環境となっている事実を誇りと愛情を持つとともに、人々の生活と関わり合いの大きい地域の環境を守るために、実行可能な自らの行動を考えることをねらいとしている。

##### (2) 児童について

児童は、海洋科に対して関心意欲が高い。海洋科と自分たちの生活との関わりを感じながら学びに必要感を持ち、探究的な学習のよさを感じている様子である。他教科等と関連させたり、既習を活用したりすることも少しずつ意識できるようになってきている。1学期には地域の有家川の水質調査を行い、きれいな水が流れていることを理解している。社会科「水はどこから」では、水が、水源となる山の森林から川、海へつながっていることや、人々の生活用水に利用されていることを学んでおり、水が人々の生活と密接に関わっていることに気付いている。

##### (3) 指導について

地域では多くの海産物を獲ることができることについて、水を視点とした森と海との関係を調べることによって気づかせていく。同時に、必ずしも洋野町と同じ状況ではなく、水質汚染など海洋生物にとって環境の悪い地域もあるといった多様な見方・考え方により、知識の汎用性をもたせたい。また、人々の生活と大きな関わり合いのある自然環境を守りたいという思いを持ち、自分でも実行できそうなことについて考えさせたい。

#### 3 単元の指導計画

##### (1) 単元の目標

- ・地域の自然環境について問いをもち、体験活動を通して山・川・海のつながりを調べることで、水の循環のしくみを理解したり、洋野町で海産物が豊富にとれる理由を考えたりすることができる。
- ・地域の自然環境への誇りと愛情をもち、それらを守るために自分にできることを具体的に考え、行動することができる。

##### (2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の山や川、海が良い環境となっていることを理解している。</li> <li>・自然環境と自分の生活に関わり合いがあることに気づいている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収集した情報の中から必要なものを選び、整理してまとめている。</li> <li>・目的や相手に応じて分かりやすくまとめたり、表現したりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・協働的に学び、地域の豊かな自然環境に誇りと愛情をもっている。</li> <li>・自然環境を守るためにできることを具体的に考えている。</li> </ul>

(3) 単元計画 (全30時間 本時 8/30)

<p>【学習段階】 学習課題 ○主な学習活動 (時数)</p>	<p>・指導上の留意点 ◇教科等の関連 ◆評価規準 &lt;観点&gt; [方法]</p>
<p>オリエンテーション ○前学年の海洋学習を振り返る。 ○水はどこからどこへ行くのか考え、問いをもつ。(1)</p>	<p>・前年度の学習との関連づけを明確にして、つながりのある学習計画を立てさせる。 ◆前学年で調べた地域の海との関連をもとに、水のゆくえへの問いをもっている。 &lt;学びに向かう力・人間性&gt; [記述]</p>
<p>【A 体験】 有家川について調べよう ○有家川の水質調査の計画を立てる。(1) ○有家川の水質や周りの環境を知る。(3) ○有家川の水質についてまとめる。(2)</p>	<p>・有家川の水質について、生息する生物の種類と数を手がかりとして調べさせる。 ◆主体的に調査の計画を立てている。 &lt;学びに向かう力・人間性&gt; [観察・記述] ・水質調査やゲストティーチャーから学ばせる。 ◆さまざまな方法で有家川の水質や、周りの環境について調べている。&lt;知識・技能&gt; [観察・記述] ◆調査の結果をもとに、生息する生き物の種類の豊富さや自然環境や水質のよさについて気付いている。&lt;知識・技能&gt; [記述・発表]</p>
<p>【B 疑問・問題】 どうして有家川の水をきれいにするために、木を植えるのだろう。 ○有家川の水質から問いをもち、課題を設定する。(1) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本時 (8/30)</span> ○課題について予想を立てる。(1)</p>	<p>・有家川の水がきれいな理由を予想する過程で、町の植林活動について知り、そのつながりについて問いをもたせる。 ・既習をもとに、水の視点から問いをもたせる。 ◇社会科「水はどこから」 ◇理科「雨水のゆくえ」 ◆有家川と山のつながりについて課題意識をもつことができる。 &lt;思考・判断・表現&gt; [記述・発表]</p>
<p>【C 探究】 山について調べよう。 ○植林体験の計画を立てる。(1) ○植林体験をする。(3) ○G Tの話を聞く。(1)</p> <p>海について調べよう。 ○洋野の海でとれる海産物について知る。(1) ○洋野以外の地域の海についても調べる。(5)</p>	<p>・植林体験の計画を立てさせる。 ・植林体験を通して、植林の目的、森と川・海の関係について学ばせる。 ・G Tの話で、森と川・海の関係についての理解を深めさせる。 ◇理科「雨水のゆくえ」 ◇理科「自然の中の水のすがた」 ◇洋野町海洋教育事業「植林体験『森は巡る』」 ◇G T ひろのまきば天文台長 阿部俊夫さん</p> <p>・洋野の海は海産物が豊富であることを知り、その理由について分析し考えをもたせる。 ・本やインターネット等も活用し、川がきれいではない場合や森を整備していない場合等の海への影響について調べさせる。 ◆山・川・海のつながりを意識してその関係を調べている、 ◆植林の意味と森からの栄養のある水が海によい環境を与えていることを理解している。 &lt;知識・技能&gt; [観察・記述・発言]</p>

<p><b>【D 表現・活動】</b></p> <p>山・川・海のつながりについてわかったことをまとめ、伝えよう。</p> <p>○整理・分析したことについて資料（ポスター等）を作成し、伝える。(6)</p> <p>自然を守るために、自分達にできることに取り組もう。</p> <p>○洋野町の自然に対する思いや願いを交流する。また、実行可能な行動を考え、実行する。(3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間に分ける，順序立てる，関連させるなどさまざまな方法を用いて整理させる。</li> <li>◆調べたことの中から必要な情報を選び，整理してまとめている。</li> <li>&lt;思考・判断・表現&gt; [記述・発言]</li> <li>・整理・分析したことについて重要な順に序列化させ，それを生かして表現させる。</li> <li>◇国語「調べたことを報告しよう」</li> <li>◇国語「言葉で考えを伝える」</li> <li>◆整理・分析したことをもとにまとめ，相手意識をもって伝えている。</li> <li>&lt;思考・判断・表現&gt; [記述・発言]</li> <li>・海産物が育つ洋野の環境は人々の努力や工夫によって続いてきたものであり，守っていかなければ，この先も続いていくことは難しいことに気付かせ，自分たちも何か行動しなければならないという必要感をもたせる。</li> <li>◆学びをもとに自然を守る方法を考え，実行しようとしている。</li> <li>&lt;学びに向かう力・人間性&gt; [発言・行動]</li> </ul>
<p><b>【E 振り返り】</b></p> <p>学習を振り返ろう。</p> <p>○学習を振り返る。(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組んだ感想を伝え合い，地域の豊かな自然環境をこれからも大切にしていきたいという思いをもたせ，継続的に取り組んでいこうとする意欲を高めさせる。</li> <li>◆学習を振り返り，改めて地域の自然環境への誇りと愛情をもつ。</li> <li>&lt;学びに向かう力・人間性&gt; [発言]</li> </ul>

4 本時の学習

(1) 本時の目標

有家川と山のつながりについて、課題意識をもつことができる。

(2) 展開案

時間	学習内容 ○発問 ・主な子供の反応	<手立て>・留意点◆評価規準<観点> [方法]
7分	<p>1 既習を振り返る。</p> <p>○有家川にはどんな水生生物がいましたか。そのことから水質についてどのようなことがわかりましたか。</p> <p>・～ ・～</p> <p>・どれもとてもきれいな水に住む生き物。</p> <p>・水質は、とてもきれいだとわかった。</p>	<p>・有家川での水生生物調査でわかったことを発表させる。</p>
30分	<p>2 有家川の水がきれいである理由について予想を立てる。</p> <p>○有家川の水がきれいなのは、どうしてだと思いますか。</p> <p>・～ではないか。</p> <p>・～ではないか。</p> <p>3 植林体験という洋野町の取り組みを知り、目的について問いをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>どうして、有家川の水をきれいにするために木を植えるのだろう。</p> </div> <p>4 木を植える理由について予想を立てる。</p> <p>○どうして、川のために山に木を植えるのでしょうか。</p> <p>・～ではないか。</p> <p>・～ではないか。</p>	<p>・社会科「水はどこから」や理科「雨水のゆくえ」などの既習をもとに、考えさせる。</p> <p>・昨年の植林体験の様子を、写真等で紹介する。</p> <p>&lt;手立て (2) &gt; 川とは無関係に思える山への植林について、児童がもつであろう疑問をもとに、課題を設定する。</p> <p>◆有家川と山のつながりについて課題意識をもつことができる。</p> <p>&lt;思考・判断・表現&gt; [記述・発言]</p> <p>・個々に考えた後に、グループで話し合わせる。</p> <p>&lt;手立て (3) &gt; 小グループでの話し合い活動を取り入れ、主体的に思考し、表現する場を設定する。</p> <p>・出された予想を確かめる場として、今年も植林体験の機会があることを知らせる。</p>
8分	<p>5 本時の振り返りをする。</p> <p>○今日の学習の振り返りをしましょう。</p> <p>・今日の学習で考えたことは～。</p> <p>6 次時の学習内容の確認をする。</p>	<p>・本時での児童の頑張りを認め、次時への意欲につなげる。</p>

## 第5学年 海洋科学習指導案

日 時 令和3年6月24日(木) 2校時

児 童 男子7名 女子4名 計11名

指導者 石澤 牧子

1 単元名 「ぼくたち・わたしたちの海のひみつを探ろう」

2 単元について

(1) 教材について

昨年度の6年生が稚ウニを育てている姿や現在の6年生がサケの稚魚を育てている様子を見ていた子ども達は、洋野町と言えばウニやサケと話し、ウニやサケを身近なものとして感じている。そこで本単元では、洋野町のウニやサケについて生態を学び、なぜ多くのウニやサケが洋野町で獲れるのか、なぜ美味しいのか等、ウニやサケのひみつについて問いをもち、探究する活動を行う。また、ウニ栽培センターや増殖溝、さけます孵化場等を見学して話を聞き、ウニやサケが生きるために洋野の自然環境と人々が関わっていることについて捉えることをねらいとしている。

(2) 児童について

本学級の子どもたちは、4年生の海洋科で、水を視点とした山・川・海のつながりについて調べ、洋野町で海産物が豊富にとれる理由について学んできた。また、洋野町の恵まれた環境は、人々の努力があって守られていることに気付いた。このことから、自分たちの生活と関わりのある自然環境を守りたいという思いをもち、自分にできることを考え実践してきており、洋野町の自然環境について興味・関心を抱いている。

(3) 指導について

ウニ栽培センターやさけます孵化場でウニやサケが育てられている様子を見学し、実際の体験からウニやサケについて問いをもたせたい。なぜ洋野町でウニを育てたり、サケの稚魚の放流を行ったりしているのかに触れ、漁獲状況を他の地域と比較することで、洋野町ならではのウニやサケの生育環境や人々の努力について気づかせたい。また、実際に見学へ行く際には、ウニやサケを取り巻く環境について予想し、見学の視点をもつことで、課題解決に必要な情報を、見通しをもって集められるようにしたい。

3 単元の指導計画

(1) 単元の目標

- ・ウニ(サケ)について問いをもち、探究的な活動を通して、ウニの成長を支える環境や関わる人々の工夫や努力に気付くことができる。
- ・ウニ(サケ)について、自ら課題を見つけ、疑問の解決のために情報を収集、分析・整理して、まとめることができる。

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>洋野町のウニ（サケ）は、地域の海洋環境と関わって育っていることを理解している。</p> <p>洋野町のウニ（サケ）についての調べ学習を、目的や対象に応じて実施することができる。</p>	<p>ウニ（サケ）の生態や、地域の環境について、自ら課題を見つけている。</p> <p>課題解決に必要な情報を、見通しをもって収集し、特徴をもとに分類・比較したり、関連付けたりして、解決に向けて考えている。</p>	<p>課題の解決に向けて、主体的・協働的に学習に取り組んでいる。</p> <p>洋野町のウニ（サケ）の良さに気付き、それらを大切にしようという思いをもち、学んだことを身近な人々に発信しようとしている。</p>

(3) 単元計画 小単元名「洋野町のウニの秘密を探ろう」（全11時間 本時7／11）

【学習段階】 ○主な学習活動 (時数)	学習課題	・指導上の留意点 ◇教科等の関連 ◆評価規準 <観点> [方法]
<p>オリエンテーション</p> <p>○前学年の海洋学習を振り返る。</p> <p>○ウニについて問いをもち、1年間の学習の見通しをもつ。(1)</p>		<p>・前年度の学習との関連づけを明確にして、つながりのある学習計画を立てさせる。</p> <p>・ウニ栽培センター見学のための視点をもたせる。</p> <p>◆5年生の海洋科学習への問いをもっている。</p> <p>&lt;学びに向かう力・人間性&gt; [観察・記述]</p>
<p>【A体験-①】</p> <p>ウニを知ろう。</p> <p>○ウニ栽培センターを見学し、ウニについて知る。(2)</p>		<p>・ウニ栽培センターを見学し、ウニに触れ、実感的に学ばせる。</p> <p>◆ウニについて問いをもち、進んで海や地域に関わろうとしている。</p> <p>&lt;学びに向かう力・人間性&gt; [発言・記述]</p>
<p>【B疑問・問題-①】</p> <p>洋野町でおいしいウニがたくさんとれる理由はなんだろう。</p> <p>○ウニ栽培センターの見学で知ったことを分類し、個人の課題を設定する。(1)</p> <p>○個人の課題について調べる。(2)</p> <p>○ウニを育てるための工夫を予想し、ウニ増殖溝見学のための視点をもつ。(1) <b>本時</b></p>		<p>・ウニ栽培センターの見学で知ったことを分類し、自分の関心のあることがらを、自ら課題として設定できるようにする。</p> <p>・自らの課題に応じて、インターネットや本などの調べ方を選ばせる。</p> <p>・なぜ洋野町の特産品としてウニが有名なのか、ウニの生産状況を他の地域と比較することで、洋野町ならではのウニの生育環境や人々の努力についての視点をもたせる。</p> <p>・ウニ増殖溝見学のための視点をもたせる。</p> <p>◆洋野町のウニ（サケ）についての調べ学習を、目的や対象に応じて実施することができる。</p> <p>&lt;知識・技能&gt; [記述・観察]</p> <p>◆課題の解決に向けて、主体的・協働的に学習に取り組んでいる。</p>



	<p>&lt;学びに向かう力・人間性&gt; [発言・記述]</p> <p>◆ウニの生態や、地域の環境について、自ら課題を見つけている。</p> <p>&lt;思考・判断・表現&gt; [観察・記述]</p>
<p>【C探究-①】</p> <p>洋野町でおいしいウニがたくさんとれる理由を調べよう。</p> <p>○ウニ増殖溝を見学し、必要な情報を集める。</p> <p>(2)</p> <p>○調べたことを整理し、まとめる。(1)</p> <p>○まとめたことを交流する。(1)</p>	<p>・知りたいことを解決するために、見学の視点に沿って、必要な情報を集めさせる。</p> <p>・増殖溝の見学を通してウニや、ウニを育てるために環境に触れ、実感的に学ばせる。</p> <p>・洋野町のウニについての探求的な学習を通して学んだことや、自分自身の意見をまとめさせる。</p> <p>◇理科「魚のたんじょう」</p> <p>◆洋野町のウニは、地域の海洋環境と関わって育てていることを理解している。</p> <p>&lt;知識・技能&gt; [記述・観察]</p>

#### 4 本時の学習

##### (1) 本時の目標

洋野町でおいしいウニがたくさん獲れる理由と、自分の考えを関係づけながら、具体的に調べることを、根拠をもって決めることができる。

##### (2) 展開案

時間	学習内容 ○発問 ・主な子供の反応	<手立て>・留意点◆評価規準<観点> [方法]
10分	<p>1 既習を確認する。</p> <p>○自分の課題について、インターネットで調べましたね。解決できたことは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンブにどんな栄養があるか</li> <li>・ウニがどんな場所に多いか</li> <li>・ウニの卵の産み方</li> <li>・いつから漁師さんがいるのか</li> <li>・解決できなかった</li> </ul> <p>○それは、洋野町ならではの情報ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全部のウニのこと</li> <li>・洋野町も含まれているかも</li> </ul> <p>2 本時の課題を確認する。</p> <p>洋野町でおいしいウニがたくさんとれる理由を探るために、確かめてくることを決めよう。</p>	<p>・インターネットでの調べ学習で解決した疑問に触れ、解決した疑問でも、課題解決のための疑問になっているのか、検討する必要があることを伝える。</p> <p>・自分の調べることが、「洋野町でおいしいウニがたくさんとれる理由」に迫ることができているものか考えさせる。</p>

30分	<p>3個人の調べるものが「洋野町でおいしいウニがたくさんとれる理由」に迫ることができるものかを考える。</p> <p>○自分が調べることの中で、特にどれが、「洋野町でおいしいウニがたくさんとれる理由」とつながっているか、つながっている理由も考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・洋野町の海水には、何か、ウニに必要な栄養が入っているのか。 ウニに必要な栄養が入っていれば、おいしいウニになると思うから。</li> <li>・増殖溝が無くなると、どのようなことがおきるのか。 増殖溝がなくなると、ウニをたくさん獲ることはできなくなると思うから</li> <li>・ウニを獲りやすくする方法 ウニが獲りやすいと、たくさんウニを獲って売ることができるから。</li> </ul> <p>○確かめてくると決めたことが、本当に「洋野町でおいしいウニがたくさんとれる理由」につながっているか、確認していきましょう。</p>	<p>&lt;手立て2&gt;自分の調べるものが、「洋野町でおいしいウニがたくさんとれる理由」につながっているか、根拠を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラゲチャートで具体的に自分の調べることを参考に、根拠を考えさせる。</li> </ul> <p>・全体で、「おいしい」ウニを育てることにつながっているか、「たくさん」ウニを育てることにつながっているかという観点で整理することで、増殖溝を見学する際の視点を明確にする。</p>
5分	<p>5本時を振り返る。</p> <p>○今日の学習の振り返りをしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の学習で考えたこと</li> <li>・増殖溝見学へ向けて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時での児童の考えのよさを認め、次時の学習への意欲をもてるようにする</li> </ul>

## 第6学年 海洋科学習指導案

日 時 令和3年6月24日(木) 3校時

児 童 男子7名 女子7名 計14名

指導者 小暮 美麻

1 単元名 「洋野町の未来を考えよう～洋野の海やサケのためにできること～」

2 単元について

(1) 教材について

本単元では、洋野町において多くの漁獲量を誇るサケを中心教材として扱う。サケや洋野の海が直面している問題について考えることで、既習を活かして森や川とのつながりを確認し、洋野町の未来を想像しながら自分たちにできることを考え、実行していくことをねらいとしている。

(2) 児童について

児童は、海洋科に対しての関心意欲が高い。疑問や考えを多くもちながら、他教科と関連させたり、既習を活用したりして探究的に活動することができる。また、児童は5年時にサケの生態や稚魚を育てるときの注意点等を低学年に教えたり、洋野町のサケの漁獲量やサケマスふ化場についてパンフレットにまとめたものを地域の施設に設置し、広めたりする活動を行っている。それらの活動を通して洋野町のサケについてさらに知り、自分たちにできることを考え、実行していきたいという思いを強くもっている。

(3) 指導について

本単元では、初めに前学年までの既習を活かして、洋野町のサケが抱える問題について意見を出し合い、大きく5つの視点で思考を深めさせる。グループごとに問題とその原因を考えていく中で他の問題との共通点を見付け、核となる原因を絞っていく。多角的に思考する中で洋野の海や海産資源、環境問題、水産業に関わる人々と関連付けながら自分たちにできることを見付け、実践につなげたい。また、他者へ発信するために個人の思考を全体に広げたり、グループで十分に交流したりする言語活動を取り入れ、対話的な学習を進めながら表現する場を確保していく。

3 単元の指導計画

(1) 単元の目標

- ・洋野町の水産業が抱えている問題やこれから起こりうるであろう課題に気付く、その原因を考えたり、調べたりすることができる。
- ・進んで地域へ関わりながら課題解決し、地域の特産であるサケや洋野の海を守るために自分ができるようなことを考え・表現し、実践することができる。

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・洋野町の水産業が抱えている問題やこれから起こりうるであろう課題に気付いている。</li> <li>・洋野町の水産業が抱えている問題や起こりうるであろう課題の原因を考えたり、調べたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特産であるサケや洋野の海を守るために自分ができるようなことを考えたり、表現したりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで海や地域へ関わりながら、問題やその原因を考えたり、自分ができるようなことを実践したりしている。</li> </ul>

(3) 単元計画 (全30時間 本時12/30)

<p>【学習段階】 <b>学習課題</b> ○主な学習活動 (時数)</p>	<p>・指導上の留意点 ◇教科等の関連 ◆評価規準 &lt;観点&gt; [方法]</p>
<p>【A 体験】オリエンテーション ○前学年の海洋学習を振り返る。 ○6年生の学習内容を知り、学習の見通しをもつ。(1)</p>	<p>・前年度の作成物や海洋ノートを用いて、前年度の学習との関連付けを明確にして、つながりのある学習計画を立てさせる。 ◇国語科「友達の意見を聞いて考えよう」 ◆6年生の学習内容に関心を持ち、進んで海や地域に関わろうとしている。 &lt;学びに向かう力・人間性&gt; [観察・発言]</p>
<p><b>サケの稚魚を放流しよう。</b> ○5年生時から育ててきたサケの稚魚を、2年生とともに、有家川で放流する。(2)</p>	<p>・何のために放流するのかやどんな思いをもって放流するのか、目的意識や思い、願いをもたせる。 ◆思いや願いをもって、進んでサケの稚魚を放流している。 &lt;学びに向かう力・人間性&gt; [観察・発言・記述]</p>
<p>【B 疑問・問題】 <b>サケが直面している問題は何だろう。</b> ○サケが抱えている問題について課題意識を持ち、学習計画を立てる。(1)</p>	<p>・前年度調べたサケのよさに加え、問題を抱えていることについて考え、課題意識をもたせる。 ◇国語科「原因と結果に着目しよう」 ◇国語科「イースター島にはなぜ森林がないのか」 ◇理科「地球と私たちの暮らし」 ◆サケが抱えている問題について問いをもち、解決するための学習計画を立てている。 &lt;学びに向かう力・人間性&gt; [観察・発言・記述]</p>
<p><b>サケが抱えている問題の原因は何だろう。</b> ○サケが抱えている問題の原因を考える。(2)</p>	<p>・様々な問題の原因を、海洋科の既習や各教科の学びを活かしながら多面的・多角的に考えさせる。 ・前時に挙げた問題の中で共通点を見付け、視点を絞らせる。 ◇理科「動物のからだのはたらき」 ◆サケが抱えている問題の原因を、海洋科の既習や各教科の学びを活かして考えている。 &lt;知識・技能&gt; [記述・発表]</p>
<p>【C 探究】 <b>サケが抱えている問題の原因を調べよう。</b> ○サケが抱えている問題の原因を調べる。(5)</p>	<p>・問題の原因や実際の状況について調べさせる。 ・いくつかの視点から、問題の核となるものの共通点を見付け、さらに視点を絞らせる。 ・ゲストティーチャーに現状や思いを聞き、調べたことと総合して考えさせる。 ◇理科「生き物の暮らしと環境」 ◇社会科「災害からわたしたちを守る政治」 ◆サケが抱えている問題の原因を詳しく調べている。&lt;知識・技能&gt; [観察・発言・記述]</p>
<p><b>調べたことを整理し、自分たちにできることを考えよう。</b> ○調べたことを整理し、自分たちが実際にできることや協力してもらってできることを考える。(2) <b>本時</b></p>	<p>・自分たちにできそうなことと、洋野町として考えてほしいことなどを分けて考えさせる。 ・海洋科の既習や各教科の学びを活かして、教科横断的に考えさせる。 ◇国語科「話し合って考えを深めよう」 ◇理科「大地のつくり」</p>

	<p>◆調べたことを整理し、地域の特産であるサケや洋野の海を守るために、解決策を具体的に考えている。</p> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;〔観察・発言・記述〕</p>
<p><b>個人研究に取り組もう</b></p> <p>○個人研究の計画を立てる。(理科との関連)</p> <p>○個人研究に取り組む。(夏休み中)</p> <p>○中間発表会をする。</p>	<p>・夏季休業を利用して、5年生からの継続研究に取り組ませる。</p> <p>◆問いをもち、それを解決するための方法を具体的に考え、表現している。</p> <p>&lt;学びに向かう力・人間性&gt;&lt;思考・判断・表現&gt;〔記述・発表〕</p>
<p><b>【D 表現・まとめ】</b></p> <p>洋野のサケや海を守るために、自分たちができることをまとめよう。</p> <p>○洋野のサケや海が抱えている問題やその原因、自分たちができることをグループごとにまとめる。(9)</p>	<p>・相手意識や目的意識をもたせて、活動に取り組ませる。</p> <p>・考えた案を実践し、今後の活動につながるようまとめさせる。</p> <p>◇国語科「町の未来をえがこう」</p> <p>◇国語科「世界に向けて意見文を書こう」</p> <p>◇道徳科「帰ってきたクニマス」</p> <p>◆洋野のサケや海が抱えている問題やその原因、自分たちができることを具体的に考えたり、相手意識や目的意識をもってまとめたりしている。</p> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;〔観察・記述・発言〕</p>
<p>洋野のサケや海を守るために、自分たちができることを発表しよう。</p> <p>○各グループでまとめたものを、全校(中・高学年)へ発表する。(3)</p> <p>○各グループでまとめたものを、一つにして海洋教育サミットで発表する。(4)</p>	<p>・相手意識や目的意識をもたせながら発表させる。</p> <p>・一人一人にサケや海がどうなってほしいのか、思いや願いをもたせながら発表させる。</p> <p>◇国語科「プロフェッショナルたち」</p> <p>◆洋野のサケや海が抱えている問題やその原因、自分たちができることを相手意識や目的意識をもって表現している。&lt;思考・判断・表現&gt;〔発表〕</p>
<p><b>卒業論文を書こう</b></p> <p>○卒業論文を書く。(国語科との関連)</p> <p>○卒業論文発表会をする。</p>	<p>◆2年間の研究を整理・分析し、自分にできることを具体的に考えている。</p> <p>&lt;学びに向かう力・人間性&gt;&lt;思考・判断・表現&gt;〔記述・発表〕</p>
<p><b>【E 振り返り】</b></p> <p>○学習したことを振り返り、思いや願い、新たな問い、活かしたいことなどについて考え、発表し合う。(1)</p>	<p>・海洋ノート、まとめたもの等を活用しながら振り返らせ、中学校への学びへつなげる。</p> <p>◇理科「地球に生きる」</p> <p>◇社会科「地球規模の課題解決と国際協力」</p> <p>◆学習したことを振り返り、思いや願いなどをもち、進んで海や地域へ関わろうとしている。</p> <p>&lt;学びに向かう力・人間性&gt;〔記述・発言〕</p>

#### 4 本時の学習

##### (1) 本時の目標

洋野町のサケが抱える問題について、実行可能な解決策を具体的に考えることができる。

##### (2) 展開案

時間	学習内容 ○発問 ・主な子供の反応	<手立て>・留意点◆評価規準<観点> [方法]
7分	<p>1 既習を振り返り、本時の見通しをもつ。</p> <p>○洋野町のサケが抱える問題やその原因はどのようなものがありましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知名度が低い。</li> <li>・サケが戻ってこない。</li> <li>・働く人が少ない。</li> </ul>	<p>&lt;手立て&gt;・留意点◆評価規準&lt;観点&gt; [方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さけますふ化場の澤尻さんに聞いた事実と、調べたことを根拠に発言させる。</li> </ul> <p>&lt;手立て(2)&gt; 洋野町の特産物であるサケや海産資源、海などの環境について学習してきたことを活かし、地域に住む自分たちに関わる問題として捉えさせる。</p>
5分	<p>2 サケの抱える問題から、解決策を考える。</p> <p>○それぞれのグループで、問題に対する解決策はどのようなものがあるか話し合ひましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウニが有名になった方法を参考にしてサケも有名にしたい。</li> <li>・放流するサケを増やしたらいい。</li> <li>・海の環境を良くしたい。</li> <li>・おいしいレシピを考えて広めたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解決策を実践することでどのような変化が起きるのかも予想させる。</li> <li>・調べたことやさけますふ化場の澤尻さんに聞いたことを参考に、根拠をもって解決策を考えさせる。</li> <li>・マインドマップ型を用い、拡散的な思考を促す。</li> </ul>
8分	<p>3 グループごとに解決策を提案する。</p> <p>○グループで出た解決策を発表しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに、挙げられた解決策について整理して発表させる。</li> </ul>
20分	<p>4 提案された解決策について意見を交流し、深める。</p> <p>○出た解決策について話し合ひましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浜清掃なら自分たちにもできる。</li> <li>・レシピを作るのは自分たちだけでは難しい。</li> <li>・ウニの方法を参考にするならもう少し詳しく調べたほうがいい。</li> </ul>	<p>&lt;手立て(3)&gt; 小グループでの話し合い活動を取り入れ、主体的に思考し、表現する場を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いのグループの解決策についても吟味することで、多角的・多面的な思考を育ませる。</li> <li>・新たに調べる必要があることは、どんな方法で調べればよいかも考えさせる。</li> </ul> <p>◆意見交流を通して、洋野町のサケが抱える問題について具体的な解決策を考えることができる。 &lt;思考・判断・表現&gt; [記述・発言]</p>
5分	<p>5 本時の振り返りをする。</p> <p>○今日の学習で考えたことやそれぞれのグループで生かせることを書きましよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べたことと澤尻さんの思いに合う解決策を考えることができた。</li> <li>・いくつかの方法を考えただけで、全部は難しいのでもう少し話し合ひたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を生かし、どのような点について考えていけばよいか確認する。</li> </ul>

洋野町のサケを守るための解決策を考えよう。

学年	単元名 (時数)
1年	「つくろう あそぼう なかののたからで」(28時間)
実施期日	令和3年 6月～12月
海洋教育の視点	親しむ 知る 守る 利用する (複数選択可)

### 1 単元のねらい

身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、それらを工夫したり楽しんだりすることができ、活動のよさや大切さに気付き、自分たちの遊びや生活をよりよくできるようにする。

### 2 学習活動について

自然に囲まれた豊かな環境を生かし学校の周りや砂浜へ出かけ、自然の中で遊びながら地域に親しめるようにした。児童は、自然と直接関わる体験の中で自然の変化を目で見たり触れたり新しい発見をした。学校の周りでの草花遊び、有家浜での砂遊びを経験したり、おもちゃ作りの材料の貝殻やシーグラス等を集めたり身近な自然と関わりながら遊ぶことを通して自然の不思議さや遊びの面白さに気付かせるようにした。



夏の有家浜

児童は、夏と秋の2回有家浜に行った。自然の様子や季節の変化に気づき、身近な自然を取り入れ自分の生活を楽しむことができた。夏の有家浜では、砂浜で砂遊びを楽しみ、校庭の砂場では味わうことの出来ないたくさんの砂や海水の感触を楽しみ、穴を掘ったり道を作ったりして海での遊びを満喫した。



秋の有家浜

秋には、再び有家浜に行き、おもちゃを作るための貝殻やシーグラス、流木などを集めた。大きなビニル袋いっぱい貝殻を拾う児童や、地面に顔を近づけてシーグラスや琥珀を探す児童など、時間いっぱい活動をしていた。拾った物は、きれいに洗いそれぞれの入れ物に入れた。休み時間になると、入れ物を机の上に置き貝殻やシーグラスを並べて、大事そうにする児童の姿が見られた。

その後、学区で採取した木の実も使って地域の豊かな自然環境を生かしたおもちゃ作りを行った。自分の取ってきた物を大事に扱いながら様々なおもちゃや楽器を作る児童の姿を見ることが出来た。



### 3 指導の手立てについて

#### ① 手立て地域素材を生かした教科等横断的なカリキュラムの作成、見直し

○児童の実態に合った単元だった。有家浜の豊かな自然に触れ、地域の自然の素晴らしさを感じることができた。昨年度までは、夏に1回有家浜に行っていたが、今年は秋にも行き、秋の砂浜の様子を観察したり、遊びに使える自然物を自分たちで考えさせたり探したり、夏と違った楽しみ方を味わうことができた。

○地域を探検し、自分の見つけた物を各自で入れ物に保管させた。自分の入れ物をうれしそうに見たり並べたり、大切に扱っている児童の姿もあった。山だけでなく海の集めた自然物も見て、「なかののたからものだね。」と言ったり、振り返りに「中野は、すてき」という感想を書いたりする児童もいた。活動を通して、地域の自然の素晴らしさに気付いた児童が多くいた。

#### ② 「子どもの問いに基づく授業展開」

○前年度の1年生が作ったおもちゃの写真や、教師の見本などを見て、遊び道具のイメージをもたせることができた。おもちゃ作りに必要な紙やテープ、ひもなどのコーナーを作ったり、自分たちで集めた自然物の材料をそれぞれの机の上に置いたり、材料を見ながら考えさせたため、作りたいという意欲をもたせることができた。

△児童は、今までのおもちゃの写真や目の前の材料から作りたい気持ちでいっぱいだったが、作りたい物でグループ分けをして話し合わせた。イメージをもてない児童のことを考えてグループ分けをしたが、既にそれぞれが作りたい物があり、早く作りたい気持ちのまま活動させた方が良かった。

#### ③ 「主体的、対話的で深い学びの場の設定および充実」

○自分の作りたい物を作り、友達と作品を見合い、遊び、さらに面白くなるように話し合わせた。一人で作ったり、何人かで一緒に作ったり児童同士でアイデアを出し合い、製作することが出来た。

○2年生を「おもちゃ大会」に招待し、自分達だけが楽しむのではなく、相手が楽しめるように遊び方やルールを工夫させた。

2年生から、改善点や「楽しかった」などの感想をたくさんもらうことができた。



作ったおもちゃで遊ぶ

学年	単元名 (時数)
2年	ぼく、わたしのお気に入り○○ ～洋野町の海・川との触れ合いを通して～ (全22時間)
実施期日	令和3年7月～11月
海洋教育の視点	親しむ 知る 守る 利用する (複数選択可)

### 1 単元のねらい

- ・海・川などへ行き、生き物や水、砂などを見たり、触ったりする活動を通して、それぞれの場所の違いや特徴を見付けたり考えたりすることができ、自分たちの住んでいる地域は豊かな自然が多くあることに気付くとともに、自然や地域への愛着をもつことができる。
- ・体験したことを伝え合う活動を通して、それらを伝える相手のことを想像したり、伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、伝えたいことが相手に伝わるよさや楽しさが分かるとともに、進んで伝える相手と触れ合い、交流することができる。

### 2 学習活動について

次年度以降の特別な教科「海洋科」の学習の素地を養うために、海・川など洋野町の恵まれた自然を題材として、本単元を設定した。本単元では、海や川へ直接行き、生き物や水、砂などを見たり、触ったり、遊んだりすることを通して、海や川の面白さや不思議さを感じさせていった。(海に親しむ) (海を利用する)

また、海や川で見付けた面白さを伝え合う活動を通して、洋野町には恵まれた自然が多くあることに気付かせた。(海を知る)

単元の終末時には、海や川どちらがお気に入りなのか決めさせ、グループごとに見付けた海や川の面白いところを新聞やパンフレットにまとめ、1年生や3年生へ伝える活動を行った。

本単元を行う前は、海の面白いところは生き物だけであると子どもたちは考えていた。また、自然に対する愛着をもつこともなかった。

しかし、実際に海へ行き、面白いところを見付けることにより、砂・漂着物・風など、海について考える視点の広がりが見られた。

また、海とつながっている川へ行き、面白いところを見付けることにより、海とは異なった川について考える視点の広がりが見られた。洋野町の海や川を題材とすることにより、海が好き、川が好き、洋野町が好きという気持ちを高めることができた。

さらに、本単元で海や川について考える視点が広がったことにより、次年度以降の特別な教科「海洋科」での探究学習の素地を養うことができた。(考える視点づくり)

### 3 指導の手立てについて

#### ① 手立て1「地域素材を生かした教科等横断的なカリキュラムの作成，見直し」

○海や川など，洋野町の恵まれた自然を題材にして，新たな単元を開発することにより，海や川などを考える視点の広がりが見られたり，海や川など自然への愛着をもったりするなど，次年度以降の特別な教科「海洋科」の学習の素地を養うことができた。

△単元の学習を進めていくと，再度海や川へ行きたいという思いをもつ子どもが多く見られた。設定するねらいによっては，海や川へそれぞれ2回行くという単元計画も考えられる。

#### ② 手立て2「子どもの問いに基づく授業展開」

○海や川などへ直接行き，水や砂など様々な視点を見付けることにより，面白い，不思議など，様々な思いをもつことができた。

△毎時間の振り返りは，どんなことを振り返らせるのか，具体的に視点を与えると，海や川，洋野町の自然など，学びのつながりができると考えられる。

(例 海や川について思ったこと等)

#### ③ 手立て3「主体的，対話的で深い学びの場の設定および充実」

○海や川へ行く前に，どんなことをしたいのか，どんな面白いところがありそうか考えさせることにより，行きたい，遊びたいなどの強い思いをもつことができた。

△海や川での体験活動の時間をしっかり確保する必要がある。それにより，多くの気付きが得られ，面白いところを伝えたいという主体的，対話的で深い学びにつながると考えられる。

△単元の終末時の異学年への発表方法は多々あることを教え，選ばせ，表現させることが次年度以降の特別な教科「海洋科」や総合的な学習の時間の学習へつながると考えられる。(例 劇 ポスターなど)



【海と直接関わる場面】



【見つけた面白いところを伝える場面】



【単元終末時の表現場面】

学年	単元名 (時数)
3年	潮風トレイルを歩いて見つけた海の不思議を調べよう (全30時間)
実施期日	令和3年4月～12月
海洋教育の視点	親しむ 知る 守る 利用する (複数選択可)

### 1 単元のねらい

- ・潮風トレイルを散策する活動を通して、地域の海が豊かな自然環境に支えられていることや自分たちの生活と大きな関わりがあることに気づき、見つけた課題について探究するとともに、地域の海に誇りと愛情をもって大切にしようと思えることができる。
- ・潮風トレイルで見つけた課題について、自分なりの方法で調べ、必要な情報を選び、整理してまとめることができる。

### 2 学習活動について

潮風トレイルを散策し、波の様子や砂浜にいる生き物を見たり、風や砂浜の様子を感じたり、砂浜に落ちている物や流れ着いた物について考えたりすることで、海について不思議に思うことを見つけられるようにした。(親しむ, 知る)

見つけた不思議を全体で共有し、特に興味をもったものについて、同じ課題ごとにグループ分けし、図書室・インターネット・詳しい人に聞く(自分で調べる体験を重視したため行わず)・潮風トレイルにもう一度行く(必要がなかったため行わず)など、調べる活動を体験した。(知る)

集めた情報から、まとめるために必要な情報を精選し、グループ毎に模造紙にまとめ、2年生と4年生に発表した。まとめる際に、調べた内容や知った事について、自分や自分の生活との関わりについて考えさせ、地域の海を大切にしていこうとする心情を持つことができるようにした。

子どもたちは、「海のごんじろを探す」という意識をもって潮風トレイルを散策したことで、海が地域にはあるものの、知らないことがたくさんあるという事に気づき、多くの不思議を見つ



【落ちているゴミが気になる子ども達】



【海のごんじろを見つけてメモを取る子ども達】



【児童が作成した海のごんじろのまとめ】



けることができた。

調べたことを伝える対象について、調べ学習をする前は、「家族や前担任に、成長した姿をみせたい。」という意見が多かったが、調べ学習後は、「4年生は、去年は違うテーマだったから、今年の自分たちの調べたことを伝えたい。」や「来年3年生になる2年生に、海洋の学習のことを教えたい。」という考えに変わっていた。

2年生と4年生に発表し、質問されたことについて答えられないことがあり、「もっと詳しく調べたい」と、海洋科の学習に対して意欲を持つことができた。

見つけた不思議から課題を設定する活動時は、「砂浜にはなぜ足跡ができるのか。」や「波はなぜ起きるのか。」など、素朴な疑問からのスタートだった。その後、調べ学習を進める中で、新たな知識や発見を得て、さらに調べる内容を広げ意欲的に取り組んだ。



【2年生と4年生に発表】

6年生の発表の様子を観ることで、自分たちの発表について具体的にイメージをもつことができ、見てわかるまとめ方を、グループで話し合いながら考えた。

### 3 指導の手立てについて

#### ① 手立て1「地域素材を生かした教科等横断的なカリキュラムの作成、見直し」

○潮風トレイル散策では、「風、波、砂、生き物」など多くの海の不思議を見つけることができた半面、「生き物」だけに課題を設定することは難しかったため、見つけた不思議をそのまま調べ学習の課題とした。

△有家浜の生き物調べは、必要性がなくなったため行わなかったが、調べ学習の途中や後で、もう一度潮風トレイルに行くなど、体験学習をさせたいと感じた。

#### ② 手立て2「子どもの問いに基づく授業展開」

○潮風トレイル散策で、見つけた海の不思議を、そのまま調べ学習の課題としたことで、意欲的に調べ、まとめ、発表することができた。

△図書室とインターネット以外の調べ学習も取り入れて体験させるとよかった。

#### ③ 手立て3「主体的、対話的で深い学びの場の設定および充実」

○学習前の課題設定と活動の進み具合の確認、振り返りと次の時間にすることの確認を行うことで、必要性をもって活動できた。

○活動のゴールを設定し、グループで活動したことで、より良い物を作るために多くの話し合いが行われた。

△それぞれの課題に沿ってグループに分けたことで、一人の負担が大きいグループができてしまった。

学年	単元名 (時数)
4年	水の旅～山から川へ，そして海へ～ (全 30 時間)
実施期日	令和3年4月～12月
海洋教育の視点	親しむ <u>知る</u> <u>守る</u> 利用する (複数選択可)

### 1 単元のねらい

- ・山・川・海のつながりを調べることで，洋野町で海産物が豊富にとれる理由を考えることができる。
- ・地域の豊かな自然環境に誇りと愛情をもち，それらを守るために自分にできることを具体的に考えることができる。

### 2 学習活動について

4年生では，山から川，海へと流れる水の循環の視点で学習を進めた。そのために，最初に，社会科「水はどこから」の単元で，水が水源となる山の森林から川，海へつながっていることや，人々の生活用水に利用されていることを学んだ。そこから，児童は，3年生の時に有家の海でいろいろな種類の生き物を見つけたことと，その海に流れ込む川の水とに何か関連があるかもしれないとの問いをもった。

そこで，有家川の水質調査をした。その結果，有家川の水質は「とてもきれい」だということがわかった。児童は「水が透明に見えるから，きれいなのではないか。」と予想していたので喜んでしたが，川岸にはペットボトルや空き缶等が落ちていたことから，水質に影響が出ないかと心配する声も上がった。(海を知る) (海を守る)

次に，「どうして有家川の水はきれいなのだろうか」という問いをもち，洋野町主催の植林活動と川の水との関連について，予想した。児童は，「木の根がゴミをろ過するのではないか」等と考え，詳しくは体験活動で学習する予定だったが中止となったので，ゲストティーチャー阿部俊夫さんに講義をしてもらい，海や川にとっての栄養を作るという植林の意義，森と海の距離が近くて海に栄養が届きやすい洋野の地形の良さ等を教わった。さらに，海や川にとって良い水質になるには，ゴミが混じっていないことだけでなく，栄養が豊富であることも大切だと学ぶことができた。(海を知る)

その後，洋野町で獲れるウニやサケの海産資源の量の多さについて調べ，改めて恵まれた自然環境にあることに気づき，山・川・海の手ながりについてわかったことをポスター形式にまとめて，3年生に発表した。

そして，自然環境を守るために，自分達でできることとして，有家川のゴミ拾いを考えて実行することができた。以前も拾ってきれいにした場所に，またゴミが落ちていることに驚き，ゴミ捨てが無くなる方法を考えようとする児童もいた。(海を守る)

### 3 指導の手立てについて

#### ① 手立て1 「地域素材を生かした教科等横断的なカリキュラムの作成，見直し」

○社会科「水はどこから」の単元で学んだ水が水源となる山の森林から川，海へつながっていることを，本単元の水の循環の視点の学習に関連させながら，学習することができた。

○有家川の水生生物調査を単元の最初に位置付けることで，児童の川に対する興味関心を引き起こすことができた。有家川は橋の上から見える身近な川ではあるが，実際に川岸まで下りて行ったことのある児童は10名中1名だけであった。



【有家川の水生生物調査】

△洋野町主催の植林体験は，残念ながら中止となってしまったため，児童は植林活動のイメージを前年度の画像から得るだけとなってしまった。ゲストティーチャーの阿部俊夫さんに，図解入りでわかりやすく教えていただいたが，「広葉樹」「腐葉土」「地下水」「わき水」等の言葉を真に理解するためには，やはり実際に現地で見たり触ったりすることが有効であると思われる。

#### ② 手立て2 「子どもの問いに基づく授業展開」

○洋野町や町以外の海の海産物について，積極的に調べ学習をし，洋野町は恵まれた自然環境であることとそれを守るための人々の努力について実感することができた。

△有家川の水質調査をして「とてもきれいな水質である」とわかった後に，「他の川の水質はどうなのだろう」という問いをもった子がいた。時間的な余裕があれば，その問いを取り上げ，他の学校とも協力して自然保護に取り組もうという思いを育てることができたのではないか。

#### ③ 手立て3 「主体的，対話的で深い学びの場の設定および充実」

○水生生物調査やゲストティーチャーから学ぶ場面では，事前に調べたいことや学習したいことについて，個々に考えてから臨むことで，意欲を持って参加することができた。

△学習が進むにつれて「きれいな川の水」という言葉が児童の思考を迷わせる場面があった。「きれい＝ゴミがないこと・見た目が透明」だけではなく，「生き物にとって住みやすい環境」という要素の付け加えが必要であった。



【有家川そうじ 2回目】



学年	単元名 (時数)
5年	ぼくたち・わたしたちの海のひみつを探ろう (全30時間)
実施期日	令和3年4月～12月
海洋教育の視点	親しむ <u>知る</u> <u>守る</u> 利用する (複数選択可)

### 1 単元のねらい

- ・ウニ・サケについて問いをもち、探究的な活動を通して、ウニ・サケの成長を支える環境や関わる人々の工夫や努力に気付くことができる。
- ・ウニ・サケについて、自ら課題を見つけ、疑問の解決のために情報を収集、分析・整理して、まとめることができる。

### 2 学習活動について

本単元を行う前の児童は、4年生の海洋科で、水を視点とした山・川・海のつながりについて調べ、洋野町で海産物が豊富にとれる理由について学んできた。そして、自分たちの生活と関わりのある自然環境を守りたいという思いをもち、自分にできることを考え実践してきており、洋野町の自然環境について興味・関心を抱いていた。

そこで、本単元では、洋野町の特産物であるウニやサケに焦点を絞り、学習を進めた。ウニやサケについて生態を学び、なぜ多くのウニやサケが洋野町で獲れるのか、なぜ美味しいのか等、ウニやサケのひみつについて問いをもち、探究する活動を行った。特に、洋野町の良い面に目を向けて探究することで、次年度の洋野町の水産業が抱える問題や課題から洋野町の未来を考える学習へとつなげられるようにした。

まず、ウニ栽培センターやさけます孵化場でウニやサケが育っている様子を見学し、実際の体験からウニやサケについて問いをもたせた。(海を知る)

そして、なぜ洋野町でウニを育てたり、サケの稚魚の放流を行ったりしているのかに触れ、漁獲状況を他の地域と比較することで、洋野町ならではのウニやサケの生育環境や人々の努力について気づかせた。(海を知る) (海を守る)

また、実際に見学へ行く際には、ウニやサケを取り巻く環境について予想し、見学の視点をもつことで、課題解決に必要な情報を、見通しをもって集められるようにした。(海を知る) (海を守る)

ウニ栽培センター、宿戸増殖溝、八木漁港、有家鮭鱒孵化場の見学で、洋野町の水産業に関わる仕事や環境を実際に体験することで、ウニ・サケの成長を支える環境や関わる人々の工夫や努力に気付くことができた。また、洋野町の特産物であるウニやサケに焦点を絞り、探究したことで、ウニやサケの良いところを知り、洋野町の良い面として捉えることができた。

### 3 指導の手立てについて

#### ① 手立て1「地域素材を生かした教科等横断的なカリキュラムの作成，見直し」

○ウニ栽培センター，宿戸増殖溝，八木漁港，有家鮭鱒孵化場の見学を単元の中に位置付け，洋野町の特産物であるウニ・サケについて，社会科等と関連させて学習を進めることができた。

△ウニについての小単元の「探究」の場面で，個人の課題の解決のために，宿戸増殖溝見学を位置付けたが，実際に見学に行くと児童の興味関心は様々な方向に向かい，課題解決のための見学とはならなかった。見学の位置づけは「体験」の場面の方が効果的である。

△ウニとサケの両方の題材の学習に取り組むため，深い探究ができる時数を確保することができなかつた。どちらかに絞る，または，ウニ・サケの両方の探究を同時に進めることで，深い探究ができる時数を確保できるのではないかと考える。

#### ② 手立て2「子どもの問いに基づく授業展開」

○ウニ栽培センター，八木漁港，有家鮭鱒孵化場の見学を，ウニ，サケそれぞれの小単元の「体験」に位置付けることで，児童の実感をともなった課題設定をすることができた。

△ウニ，サケそれぞれの小単元のまとめから，さらに疑問を見出した児童がいたが，新たな疑問を解決するための時間を確保することができなかつた。

#### ③ 手立て3「主体的，対話的で深い学びの場の設定および充実」

○イメージマップ，クラゲチャート等の思考ツールを使って考えを整理することで，児童は自分の考えを広げたり，焦点化したりすることができ，個人の思いをもった課題設定につながった。

△ウニ，サケそれぞれの小単元での探究を，全体のまとめへとつなげるための手立てが不十分で，ウニの小単元，サケの小単元，全体のまとめと，児童の思考が途切れてしまった。児童の振り返りを次の活動に活かすことが必要だった。



【体験の場面（ウニ栽培センター）】



【個人の課題設定の場面】



【小単元のまとめとしての新聞】

学年	単元名 (時数)
6年	洋野町の未来を考えよう～洋野の海やサケを守るためにできること～ (全30時間)
実施期日	令和3年5月～12月
海洋教育の視点	親しむ <u>知る</u> <u>守る</u> <u>利用する</u> (複数選択可)

### 1 単元のねらい

- ・洋野町の水産業が抱えている問題やこれから起こりうるであろう課題に気づき、その原因を考えたり、調べたりすることができる。
- ・進んで地域と関わりながら課題解決し、地域の特産であるサケや洋野の海を守るために自分ができそうなことを考え・表現し、実践することができる。

### 2 学習活動について

本単元では、洋野町において多くの漁獲量を誇るサケを中心として扱い、5年次より継続した学習を行ってきた。自分たちが住む地域にサケますふ化場があることで漁獲量を確保していることや採卵体験や稚魚飼育・放流を通してサケの生態についても深く学んできた。今年度はサケの学習を通して、洋野町の漁獲量全体が減少していることを知り、様々な原因について考察しながら洋野の町や特産を守ることにについて考えた。中でも環境問題や、洋野町はウニのほうがある有名でサケの知名度が低いことについて重点を絞り、2つのグループに分かれて活動した。

地域の環境問題を調べるグループは、有家浜のごみ拾いを計3回企画し、浜にあるごみの種類を中心にまとめた。プラスチック製品や外国製品が多いことに気付くとともに、自分たちの努力だけでは全てのごみを拾うことに限界があると感じたことから、町に対して提案を考えた。この提案はひろの子ども議会で町長に提案を行った。

サケの知名度を高めるグループは、サケの栄養や洋野町でよくとれるということと、浜のごみ拾いの結果や自分たちにできる4Rの取り組みについての2種類のポスターを作製した。そのポスターを地域の店や施設に貼ってもらい、広める活動を行った。また、サケを育てる人たちについても知ってもらいたいという思いから、漁業に携わる方々にアンケートを依頼し、仕事のやりがいや未来の漁業に対する思いなどについてまとめた。他にも、魚食普及活動で講師を招き、サケハンバーグなど自分たちにも作ることでできるサケ料理を教わり、自分たち自身もサケを身近に感じることもできた。

これらの活動を動画にまとめ、海洋サミットで全国に向けて発信した。自分たちの住む地域や特産を守るために自分たちにできることや協力してほしいことについて深く考え、伝えることができた。

### 3 指導の手立てについて

#### ① 手立て1「地域素材を生かした教科等横断的なカリキュラムの作成，見直し」

○サケますふ化場で働く澤尻さんにお話を聞いたり，魚食普及活動で実際のサケを扱ったりして地元のサケとふれ合うことで，「知りたい」「守りたい」という思いを高めることができた。

△5年生でサケますふ化場に見学に行っているため，今年度は見学に行かなかった。5年生での学びを振り返る場面からの導入になるが，体験活動は検討が必要。



【魚食普及活動でサケ料理を作る】

#### ② 手立て2「子どもの問いに基づく授業展開」

○漁業に携わる方々に聞いたことから，漁獲量の減少や後継者不足，環境問題など様々な点で衝撃を受け，「どうにかしなければいけない」という思いをもつことができた。また，ごみ拾いやポスター作り，町への提案など子ども達自身で考え，学習を進めることができた。

△調べる時間が少なく，情報が少ない段階で子ども達の思考に入ってしまった。考えのヒントやより深い話し合いとなるよう，新聞記事やインターネットを活用して他地域での取り組みの紹介をしてから話し合いを深めていく展開も可能だった。



【有家浜のごみ拾い】

#### ③ 手立て3「主体的，対話的で深い学びの場の設定および充実」

○ジグソー型の話し合いを取り入れ，基本のグループ活動のほかに，他グループの状況を適宜交流して意見を取り入れたことで，客観的な意見をもとにさまざまな視点で話し合いを深めることができた。

△グループ内で主体的，対話的な話し合いをする児童が数名に固定されてしまう場面があり，全員に広められなかった部分があった。ジグソー型のメンバー構成やさらに小グループを作るなど，工夫した場面設定が必要だった。



【グループでの話し合いの様子】

# 洋野町立大野小学校

## 1 1 総合的な学習の時間

### 1 目 標

地域のさまざまな「人・自然・社会・文化」について、横断的・総合的学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、協同しながら自ら調べたり体験したり、自ら考えたり判断したりする中で、物事に主体的に関わり解決する気持ちや力を育てるとともに、学び方や考え方を身につけ、自分の生き方についても考えることのできるようにし、「生きる力」を育てる。

### 2 重 点

「生きる力」を育てるためには「関わる力」「追究する力」「表現する力」の3つの力を育てる。

- (1) 「かかわる力」— 地域の人や自然、社会・文化に自ら関わろうとする態度とかかわることができる力友達と協同して、学習する力
- (2) 「追究する力」— 自ら課題を見つけ、解決のための解決の仕方を考え、体験を通して意欲的に課題を追究、解決していく力
- (3) 「表現する力」— 発表方法を考え、追究してきたことを自分の言葉でまとめて伝え、学習したことを活かして地域に貢献しようとする力

<目指す子ども像>

	かかわる力	追究する力	表現する力
中学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人々や自然、社会に接し、進んで身近な地域にかかわることができる。</li> <li>・ゲストティーチャーに進んで質問したり話を聞いたりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な自然や社会に関心を持ち、学んだことや生活の中から課題を見つけることができる。</li> <li>・友だちと協力しながら自分なりの方法で課題を追究することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表方法を工夫し、追究してきたことを、自分の言葉で分かりやすくまとめ、伝えることができる。</li> </ul>
高学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人々や自然、社会や文化に接し、興味関心を持ち、ものに積極的にかかわることができる。</li> <li>・ゲストティーチャーと連絡を取り、必要なことを質問したり話を聞いたりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広い視野に立って情報を収集し、学んだことや生活の中から課題を決めることができる。</li> <li>・友だちの意見を聞きながら計画に沿って更に深く追究することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマにあった発表方法を考え、追究してきたことを要点に分かりやすくまとめ、伝えることができる。</li> </ul>

### 3. 指導内容

ひろの学（海洋教育）として、共通テーマ「ふるさと大野大発見」に基づく学習を各学年で行う。  
 クラスタイムとして「情報」「環境」「福祉・健康」「児童の興味・関心」「地域の暮らし、伝統と文化」などの内容について、3～6年生の4年間を通して学習する。

(1) 各学年の目標

学年	目 標
3年	課題解決的な学習の体験を通して学び、協同しての追究の仕方やまとめ方を身につけ、自分の考えを持つことができる。
4年	課題解決的な学習の体験を通して学び、協同しての課題設定や追究の仕方やまとめ方を身につけ、自分の考えを持つことができる。
5年	自ら課題を設定し、協同して追究し、やまとめるとともに、多面的な見方をしながら自分の考えを持つことができる。
6年	自ら課題を設定し、協同して追究し、やまとめるとともに、多面的な見方をしながら自分の考えを持つとともに、地域貢献することができる。

(2) 各学年の内容

	3年 70時間	4年 70時間	5年 70時間	6年 70時間
ひるの学	○大野大好き ・大野の雑穀 ・大豆栽培、料理 ○大野魅力発見 ・なにやどやら、駒踊り、お祭り、パークゴルフ 35時間	○たんけん大野川 ・水質調査 ・大野川生き物調べ ・源流探索 27時間	○一人一芸の里に生まれてⅠ ・ふるさと大野大発見 ～一人一芸の村に生まれて～ ・子どもサミットでの発表 ・産業博士になろう ・職業調べ 49時間	○一人一芸の村に生まれてⅡ ・松島・仙台の町と比べよう ・旅行の計画を立てる ・旅行のまとめをする ・これからのふるさと 30時間
クラスタイム	○パソコンとなかよくなるう 10時間 ○あたまの中の地図を作ろう (マインドマップ) 5時間	○タブレットに記録を残そう 5時間 ○バリアフリーって何だろう 23時間	○パソコンやタブレットを活用しよう 6時間	○パソコンやタブレットを活用しよう 5時間 ○つくろうドリームマップ 20時間
復興教育	○「いきるかかわるそなえる」 15時間 ○社会科見学 5時間	○「いきるかかわるそなえる」 15時間	○「いきるかかわるそなえる」 15時間	○「いきるかかわるそなえる」 15時間

(3) 指導上の留意点

ア 地域の人、自然、社会・文化に子ども達から働きかける場を設定し、地域とのふれあいを大事にした体験活動を重視していく。いつどんな体験活動をするのか、前年度に計画したのを見て、見通しをもつ。

イ 自ら課題を見つけ、考え、追究し、主体的に判断して課題を解決していく問題解決的な学習は各教科で身につけた知識や技能等を相互に関連付け学習できるように指導の工夫を図る。

ウ 学習の中で、まとめたり、表現したり、発信したり、地域貢献したりすることを大切にする。その学年で使用した指導資料、学習プリント、写真、名簿などは、学年ごとファイルに綴り、次年度の担任へ引き継いでいく。外部講師についてはコーディネーターに相談の上進める。



## 総合的な学習の時間全体計画

今日的教育課題	学校教育目標	子どもの実態
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特色ある教育活動</li> <li>・基礎・基本の習得</li> <li>・確かな学力と生きる力の育成</li> <li>・個性を生かす教育</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで勉強する子ども</li> <li>・明るく素直な子ども</li> <li>・健康でたくましい子ども</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明るく素直</li> <li>・体を使う活動が好き</li> <li>・気づきを課題にする力が不十分</li> <li>・言葉での表現が苦手</li> </ul>

↓

総合的な学習の時間で育てたい力		
地域の人や自然、社会・文化に自ら関わり、わらうとする態度と関わる力	自ら課題を見つけ、自分なりの方法で意欲的に課題を追究、解決していく力	発表方法を考え、追究してきたことを自分の言葉でまとめ、伝える力

共通テーマ **ふるさと大野大発見・クラスタイム** <自ら学習活動に取り組む子どもの育成>

↓

	3年	4年	5年	6年
学年の目標	課題解決的な学習の体験を通して学び、協同しての追究の仕方やまとめ方を身につけ、自分の考えを持つことができる	課題解決的な学習の体験を通して学び、協同しての課題設定や追究の仕方やまとめ方を身につけ、自分の考えを持つことができる	自ら課題を設定し、協同して追究し、まとめるとともに、多面的な見方をしながら自分の考えを持つことができる	自ら課題を設定し、協同して追究し、まとめるとともに、多面的な見方をしながら自分の考えを持つとともに、地域貢献することができる
評価の観点	①学習への意欲関心態度 ②課題を発見する力 ③探究し、問題を解決する力 ④学び方、ものの考え方 ⑤協同して追究する力 ⑥自分の考えを持つ			
指導過程	①課題設定→②追究・体験→③情報整理・まとめ→④発信する→⑤自分を見つめる			
テーマ	「ふるさと大野大発見」			
	大野の魅力発見 ・雑穀 ・農業 ・施設 ・文化・伝統	大野川探検隊 ・水生生物調査 ・源流探索 ・鮭の放流	一人一芸の村に生まれてI ・ふるさと大野大発見 ・子どもサミット参加 ・産業博士になろう ・職業調べ	一人一芸の村に生まれてII ・松島・仙台と比べる ・旅行の計画、まとめ ・これからのふるさと
クラスタイム	・パソコンとなかよくなろう ・あたまの中の地図を作ろう	・タブレットに記録を残そう ・バリアフリーって何だろう	・パソコンやタブレットを活用しよう	・パソコンやタブレットを活用しよう ・つくろうドリームマップ
復興教育	もぐららびあ見学 副読本	副読本	副読本	副読本
合計	70	70	70	70

↓

↓

↓

生活科	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な人々、社会、自然に関心を持つ</li> <li>・集団や社会の一員として適切に行動する</li> <li>・気づいたことなど簡単な表現ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手や目的に応じて話したり聞いたりする。</li> <li>・目的に応じ資料を読み取り効果的に表現</li> <li>・言葉に対する知識・理解・技能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会の一員としての自覚と愛情を持つ</li> <li>・資料を活用したり調査事項を表現したり、社会事象について考える</li> <li>・環境保全の重要性に関心を持つ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数理的処理の良さに気づき、生活に生かす</li> <li>・長さ、かさ、重さなど測定できる</li> <li>・目的に応じて数量的に分類整理し考察する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察や実験の技能</li> <li>・動植物に愛情を持つ</li> <li>・自然事象に親しみや関心をもち、観察や実験を行い問題解決を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで表現する態度、作品や材料のよさ、美しさに関心を高め、豊かな情操を養う</li> <li>・創造的に表現する態度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活に必要な基礎知識と技能と実践的態度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な生活に対する健康で安全な生活を営む資質、態度</li> </ul>
道徳	・節度節制、自立 ・勤勉、努力、向上心 ・思いやり、親切 ・敬愛、感謝 ・敬虔な心 ・自然愛、動植物愛護、環境保全 ・生命尊重 ・郷土愛、愛国心 ・国際理解と親善 ・公德心、規則の尊重 ・社会奉仕 ・寛容、謙虚							
特別活動	・集団を高めるための自覚と意欲 ・話し合いにより協力して問題の解決を図ろうとする態度 ・自主的、自治的、実践的な態度							
外国語活動	・外国の言語、生活習慣、食文化などについて学ぶ							

## 3年 総合的な学習 単元計画

70時間

月	ひろの学（海洋教育）	時数	クラスタイム	時数	復興教育	時数	合計
4月	オリエンテーション ・3年生から学ぶ「ひろの学」について学ぶ。 ・大野の農業、酪農について	3	パソコンと仲良くなろう ・パソコンの基本操作を学習する。	1	避難経路を知ろう	1	5
5月	○大野大好き ・大野の雑穀（大豆、そば、あわ、ひえ、キビ…）を知る。 ・課題を発見する。	3	パソコンと仲良くなろう ・パソコンの基本操作を学習する。	2	副読本 「しぜんとともに」 「思いやりの心」	2	7
6月	大豆を栽培しよう。 ・ゲストティーチャーから学ぶ。 （大豆の種類、植え方、管理方法） ・成長の様子を観察する。 ・成長の記録をとる。	4	パソコンと仲良くなろう ・インターネットをやってみよう。	2	副読本 「地震のしくみとひがい」	1	7
7月	大豆を栽培しよう。 ・黄豆、青豆、黒豆の特徴や豆料理を調べる。 ・成長の様子を観察する。 ・成長の記録をとる。	3	パソコンと仲良くなろう ・プログラミングをやってみよう。	1	副読本 「岩手の主な災害」 「津波のしくみとひがい」	2	6
8月	○大野の魅力発見 ・疑問発見 ・課題設定 ・なにやどやら、パークゴルフ、駒踊り、パークゴルフ等	2			地震時の避難の仕方	1	3
9月	大野の魅力発見 ・課題追究	4			社会科見学の計画 社会科見学 ・もぐらんびあ見学 ・まとめ	3	7
10月	大豆収穫しよう ・大豆料理の計画を立てる。 ・役割分担を話し合う。	4	パソコンと仲良くなろう ・プログラミングをやってみよう。	2	副読本 「つらいとき、かなしいとき、どうする？」	1	7
11月	大豆料理を作ろう ・大豆料理（豆腐、豆しとぎ等）を作る。 ・これまでの活動をまとめる。	4	パソコンと仲良くなろう ・プログラミングをやってみよう。	2	火災時の避難の仕方	1	7
12月	まとめよう ・発表会に向けて資料を作る。 ・発表会をする。	2	あたまの中の地図を作ろう ・マインドマップ	2	副読本 地域の方へ感謝しよう	2	6
1月	○大野の魅力発見 ・まとめ ・発表会に向けて資料を作る。	2	あたまの中の地図を作ろう ・マインドマップ	1	副読本 「かえってきた、いらっしやませ」	1	4
2月	大野の魅力発見 ・発表会	3	あたまの中の地図を作ろう ・マインドマップ	1	副読本 「ひさいした犬をセラピー ドッグに育てる」 「今度は自分たちが」 「四つの教え」	3	7
3月	来年度に向けて	1	あたまの中の地図を作ろう ・マインドマップ	1	副読本 「みんなでぼうさい力を高めよう」 3.11集会	2	4
合計		35		15		20	70

## 4年 総合的な学習 単元計画

70時間

月	ひろの学（海洋教育）	時数	クラスタイム	時数	復興教育	時数	合計
4月	オリエンテーション ○大野川探検隊 ・大野川について知っていることを話し合う。	2	タブレットに記録を残そう ・基本操作や写真などの記録の残し方を学ぶ。	2	避難経路を知ろう（避難訓練）	1	5
5月	大野川探検隊 ・大野川（明寿橋付近）を観察し、記録や感想を整理する。	4	タブレットに記録を残そう ・写真等の整理の仕方を学ぶ。	1	副読本⑮ 副読本⑨	2	7
6月	大野川探検隊 ・大野川（給食センター付近）を観察し、記録や感想を整理する。 ・大野川源流を観察する。	7					7
7月	大野川探検隊 ・水生生物等を調べ、記録や感想をまとめる。	5			副読本⑩	1	6
8月	大野川探検隊 ・記録や感想をまとめる。	1	タブレットに記録を残そう ・記録を整理する。	2	地震時の避難の仕方（避難訓練）	1	4
9月			バリアフリー調査隊 ・パラリンピックについて調べる。	5	地震時の避難の仕方（避難訓練） 副読本①	1	6
10月	大野川探検隊 ・鮭について調べたことや放流体験について記録をまとめる。	6			副読本⑳	1	7
11月	大野川探検隊 ・大野川探検についてまとめる	2	バリアフリー調査隊 ・久慈平荘慰問	3	副読本 火災時の避難の仕方（避難訓練）	2	7
12月	大野川探検隊 ・報告会 ・振り返り	3			副読本 地域の方へ感謝しよう	2	5
1月			バリアフリー調査隊 ・瀧音さんのお話を聞く会 ・お礼の手紙を書く。	3	副読本㉔	1	4
2月			バリアフリー調査隊 ・キャップハンディ体験 ・体験をまとめる。 ・お礼の手紙を書く。	6	副読本⑩	1	7
3月			バリアフリー調査隊 ・感想交流 ・振り返り	3	副読本③ 3.11集会	2	5
合計		30		25		15	70

月	ひろの学（海洋教育）	時数	クラスタイム	時数	復興教育	時数	合計
4月	オリエンテーション 《ふるさと大野大発見》 ○一人一芸の村に生まれてI ・1年間の見通しをもとう	2	パソコンやタブレットを活用しよう ・パソコンを使って情報を集めてみる	2	避難経路を知ろう(避難訓練)	1	5
5月	・「一人一芸の村」について課題を確かめる ・予想する ・調べるための計画を立てる	4	パソコンやタブレットを活用しよう	2	副読本⑤	1	7
6月	・「一人一芸の村」について調べる ア 昔の広報を読む イ インターネットで調べる ウ 当時を知る方から聞く エ ヤマセについて調べる	4	パソコンやタブレットを活用しよう	2	副読本④	1	7
7月	・調べたことを深める ア 当時を知る方との交流会 イ 大野木工のルーツを調べる ウ 調べたことをまとめる	5			副読本⑦	1	6
8月	・発表会をする。	2			地震時の避難の仕方(避難訓練)	1	3
9月	○「一人一芸」な人を探そう ・「一人一芸」について課題をもつ ・調べる見通しをもつ ・大野に住む「一芸」をもつ方々をリストアップする	6			副読本⑩	1	7
10月	・「一芸」をもつ方々を分類する ・調査結果をまとめる ・交流（発表）のための準備をする ・調べたことを交流する	6			副読本⑫	1	7
11月	○産業博士になろう ・大野の産業について調べる計画 ・見学の計画を立てよう ・見学	5			副読本 火災時の避難の仕方(避難訓練)	2	7
12月	・見学のまとめをしよう ・学んだことを交流しよう	3			副読本 地域の方へ感謝しよう	2	5
1月	○これがわたしの生きる道 ・職業の種類について予想する ・職業調べの計画	3			副読本⑮	1	4
2月	・インターネットや図書で調べる ・調べたことをまとめる	6			副読本⑲	1	7
3月	・発表の準備をする ・調べたことを交流する	3			副読本⑧ 3.11集会	2	5
合計		49		6		15	70

月	ひろの学（海洋教育）	時数	クラスタイム	時数	復興教育	時数	合計
4月	オリエンテーション ○一人一芸の村に生まれてⅡ ・前年度に学習したことを振り返り、さらに深めたいことについて考える。	4	パソコンやタブレットを活用しよう ・タブレットのカメラ機能を使って調べたことの記録を残したり、パソコンに取り入れて活用したりする方法を知る。	2	避難経路を知ろう（避難訓練）	1	7
5月	一人一芸の村に生まれて ・さらなる課題を追究する。（洋野町と修学旅行地仙台を比べる等） ・まとめ、発表準備をする。	4	パソコンやタブレットを活用しよう ・タブレットのカメラ機能を使って調べたことの記録を残したり、パソコンに取り入れて活用したりする方法を知る。	2	副読本⑳	1	7
6月	一人一芸の村に生まれて ・さらなる課題を追究する。（洋野町と修学旅行地仙台を比べる等） ・まとめ、発表準備をする。	4	パソコンやタブレットを活用しよう ・タブレットのカメラ機能を使って調べたことの記録を残したり、パソコンに取り入れて活用したりする方法を知る。	3	副読本㉑	1	8
7月	一人一芸の村に生まれて ・発表をする。	4			副読本㉒	1	5
8月	一人一芸の村に生まれて ・振り返る。	4			地震時の避難の仕方（避難訓練）	1	5
9月	一人一芸の村に生まれて ・まとめる。	5			副読本㉓	1	6
10月			これが私の生きる道 ・自分の歩みについて、課題を設定する。	6	副読本㉔	1	7
11月			これが私の生きる道 ・自分の過去について振り返り、まとめる。	5	副読本㉕ 火災時の避難の仕方（避難訓練）	2	7
12月			これが私の生きる道 ・自分の過去について振り返り、まとめる。	4	副読本 地域の方へ感謝しよう	2	6
1月			これが私の生きる道 ・自分の将来について考え、就きたい職業やそれに至るまでの道のりを調べ、まとめる。	5	副読本㉖	1	6
2月			これが私の生きる道 ・発表をして、まとめをする。	3	副読本㉗	1	4
3月					副読本㉘ 3.11集会	2	2
合計		25		30		15	70

## 第5学年 海洋科学学習指導案

日 時 令和3年度11月18日(木) 5校時

児 童 男子10名 女子7名 計17名

指導者 工藤 美波

### 1 単元名 「一人一芸の村に生まれてI」

#### 2 単元について

##### (1) 教材について

5年生は、「一人一芸の村に生まれてI」というテーマで海洋教育に取り組んでいる。本教材は、大野の人々がやませの影響でどんな暮らしをしていたのかという大野の歴史について学習し、一人一芸の村づくりについて秋岡芳夫さんや時松辰夫さんの苦労や努力、願いを受け継いでいこうという気持ちをもたせ、自己の生き方を考えることをねらいとしている。

##### (2) 児童について

5学年の児童は、「一人一芸の村に生まれてI」というテーマのもと、一人一芸の村づくりについて学習を進めている。これまで、大野にはどんな産業があるのか見学し、現在の産業が栄えるまでにどんな大野の歴史があるか、一人一芸の村づくりでどんな苦労や努力、想いがあったのかをゲストティーチャーに話を聞きながら学習を進めてきた。指導を通して、児童は学んだことから新たな問いを見出す力が課題として挙げられる。

##### (3) 指導について

指導にあたっては、「ふるさと大野大発見～一人一芸の村づくりの創造～」というテーマを設け、新しい一人一芸の村づくりを目指して、大野の地域資源を使って自分のよさや得意なことや好きなことを生かして何ができるか考えていく。本単元では、一人一芸の村づくりについて見つめ直し、自分たちにできることはないか考え、実践していく。

#### 3 単元の指導計画

##### (1) 単元の目標

- ・大野の一人一芸の村づくりについて調べる活動を通して、地域の特徴やよさに気づき、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることを知り、一人一芸の村づくりを受け継いでいこうとする気持ちもつことができる。
- ・一人一芸の村づくりについて考え、自分たちにできることを考え、実践することができる。

##### (2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
一人一芸の村づくりについて詳しく知り、自分たちとの生活に関わりあることに気付いている。	情報を整理し自分の考えをもつとともに、一人一芸の村づくりで実行可能な方法を考えている。	主体的・協働的に学習活動に取り組み、大野の未来のために、考えたり行動したりしている。

(3) 単元計画

時数	主な学習活動	・指導上の留意点
2	オリエンテーション 《ふるさと大野大発見》 ○一人一芸の村に生まれてI ・1年間の見通しをもとう	・前年度の学習を想起させ、学習計画を立てる。
2	・「一人一芸の村」について課題を確かめる ・予想する ・調べるための計画を立てる	・「一人一芸の村」づくりの歴史について、課題意識をもたせる。
6	・「一人一芸の村」について調べる ア 昔の広報を読む イ インターネットで調べる ウ 当時を知る方から聞く エ ヤマセについて調べる	・大野の歴史、昔の暮らしとやませとの関わり、秋岡芳夫さんについてなど、視点をもって調べさせる。
8	・調べたことを深める ア 当時を知る方との交流会 イ 大野木工のルーツを調べる ウ 調べたことをまとめる	・GTから一人一芸の村について学ばせる。(大野の歴史、昔の暮らしとやませとの関わり、一人一芸の村についてなど)
2	○産業博士になろう ・大野の産業について調べる計画を立てる ・見学の計画を立てる	・目的意識をもって学習させる。
9	・見学 ・調べたことをまとめる	・大野の産業について学習したことを整理させる。
3 本時	○「一人一芸の村」づくりについて考えよう ・自分たちにできることを考え、まとめる。	・これまでの学習を振り返り、一人一芸の村づくりのためにこれから自分たちができることを考えさせる。
8	・「一人一芸の村」づくりで計画したことを実践する	・地域の人に手伝ってもらったりアドバイスをしてもらったりしながら実践させる。
5	・まとめたことを交流する	・実践したことを模造紙にまとめ、発表させる。
2	○海洋サミットへの参加	・他校との交流で学習を深めたり広げたりさせる。
2	・発表会をする。	・GTに向けて、学習したことを発表させる。



#### 4 本時の学習

##### (1) 本時の目標

一人一芸の村づくりで自分たちにできることの提案について友達と意見交換をし、考えを深めることができる。

##### (2) 展開案

学習内容 ○発問 ・主な子どもの反応	◇指導上の留意点 ◆評価規準<観点> [方法]															
<p>1 既習を振り返り、学習の見直しをもつ。</p> <p>○大野の産業をしている人たちの願いや思いはどんなことでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大野の産業を受け継いでほしい。</li> <li>・小学生のうちにたくさん経験してほしい。</li> </ul> <p>○一人一芸の村づくりについて、大野のまちをよりよくするために自分たちにできることはないか考えていきましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">一人一芸の村づくりの提案について意見交換をしよう。</div>	<p>◇一人一芸の村づくりで大野の地域資源を生かして自分たちにできることは何かを考えさせ、一人一人が一芸の村づくりについて自分事として捉えて学習していくことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大野の産業で働いている人の願いや思いを想起させることで一人一芸の村づくりについて意欲をもたせる。</li> </ul>															
<p>2 自分が考えた案についてグループで意見交換をする。</p> <p>&lt;付箋&gt;</p> <table border="1" data-bbox="76 1055 842 1205"> <thead> <tr> <th style="background-color: #fce4d6;">よいところ</th> <th style="background-color: #e2efda;">アドバイス</th> <th style="background-color: #fff9c4;">疑問</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・たくさんの方が座れるのがいい。</td> <td>・背もたれをつけた方がよい。</td> <td>・どこに設置するのか。</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;模造紙&gt;</p> <table border="1" data-bbox="76 1249 842 1630"> <thead> <tr> <th>よいところ</th> <th>アドバイス</th> <th>疑問</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; text-align: center;">形</td> <td style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; text-align: center;">色</td> <td style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; text-align: center;">場所</td> </tr> <tr> <td style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; text-align: center;">大きさ</td> <td style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; text-align: center;">安全</td> <td style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; text-align: center;">個数</td> </tr> </tbody> </table>	よいところ	アドバイス	疑問	・たくさんの方が座れるのがいい。	・背もたれをつけた方がよい。	・どこに設置するのか。	よいところ	アドバイス	疑問	形	色	場所	大きさ	安全	個数	<p>◇友達との対話を通して、自分と比べながら考えを広げたり深めたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで意見交換をした後、各グループのオススメを選ぶ。</li> <li>・友達の考えのよいところ、もっとこうしたらよいところを付箋にまとめて伝える。</li> <li>・模造紙にまとめるときは、項目をつけるようにする。</li> </ul> <p>◆友達が考えた案について自分の考えを付箋にまとめ、伝えている。</p> <p>&lt;思考・判断・表現&gt; [記述・発言]</p>
よいところ	アドバイス	疑問														
・たくさんの方が座れるのがいい。	・背もたれをつけた方がよい。	・どこに設置するのか。														
よいところ	アドバイス	疑問														
形	色	場所														
大きさ	安全	個数														
<p>3 グループでのおすすめを決め、全体で発表する。</p> <p>4 本時の振り返りをする。</p> <p>○今日の学習を振り返りましょう。</p>	<p>◇全体で交流し、考えを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらによりアドバイスや疑問点を全体で考える。</li> <li>・本時で取り上げなかった提案も次時で扱うことを伝える。</li> </ul> <p>◇友達との意見交換を通して考えたことや思ったことを振り返らせ、次時の学習の意欲をもたせる。</p>															

## 「大野魅力発見～パークゴルフ～」計画書

洋野町立大野小学校 3学年

### 1 目的

大野で行われているパークゴルフの由来やプレーの仕方を学んだり，実際にやってみたりしながら，大野の文化の魅力を知り，大切にしようとする心を育む。

### 2 対象者 大野小学校3年生 男子4名 女子8名 計12名

### 3 ゲストティーチャー

大野畜産公社 岩山 義明さん  
 学習支援ボランティア 松橋 栄さん  
 佐々木 祥吉さん  
 佐々木 智子さん  
 舘 サツさん

### 4 担任 教諭 少路 綾子

### 5 学習計画

日時	学習内容	ゲストティーチャー
5月下旬	大野の魅力について考える。	
6月上旬	事前学習 ・パークゴルフについて知っていることを話し合う。 ・パークゴルフをする際のルールやきまりを学ぶ。	
6月30日(水) 9:30～11:30	「パークゴルフ」体験 ・「パークゴルフの由来と発祥について」のお話を聞く。 ・5つのグループに分かれて，パークゴルフを体験する。 ・パークゴルフの魅力やルールについて学ぶ。	岩山 義明さん 松橋 栄さん 佐々木 祥吉さん 佐々木 智子さん 舘 サツさん
7月上旬	学習のまとめ ・グループごとにパークゴルフの魅力についてポスターにまとめる。	
7月中旬	学習の発表 ・報告会を行う。	

## 大野魅力発見～パークゴルフ～体験

### 1 ねらい

大野で行われているパークゴルフの由来やプレーの仕方を学んだり、実際にやってみたりしながら、大野の文化の魅力を知り、大切にしようとする心を育む。

2 日 時 令和3年6月30日(水) 【雨天時後日、日程調整】

3 場 所 おおのキャンパス内 大野パークゴルフ場

4 対 象 者 大野小学校3年生 男子4名 女子8名 計12名

5 ゲストティーチャー

大野畜産公社 岩山 義明さん  
学習支援ボランティア 松橋 栄さん  
佐々木 祥吉さん  
佐々木 智子さん  
舘 サツさん

6 引 率 者 教諭 少路 綾子

支援員 澤山 早苗

支援員 関向 麻美

現地案内：地域コーディネーター 関口 ミエ子

### 7 活動内容

時 間	活 動 内 容
9 : 2 0	学校出発 (スクールバス)
9 : 2 5	大野パークゴルフ場 到着 ・パークゴルフのルール説明 ・グループに分かれてパークゴルフ体験
1 0 : 4 0	休憩
1 1 : 1 5	大野パークゴルフ場 出発
1 1 : 2 0	学校到着 (スクールバス)

8 持 ち 物 汚れてもよい動きやすい服装 (靴)、帽子、タオル、水筒、着替え

9 参加者送迎 スクールバス使用

10 その他 連絡先：大野小学校 洋野町大野9-1 TEL 77-2122

「森の恵み～源流から海への旅～」計画書

洋野町立大野小学校 4学年

1 学習のねらい

- (1) 源流を探検したり、森の恵みや地域の川に住む水生生物の調査をしたりすることによって、自分たちが住む大野の自然を大切にしようとする心を育む。
- (2) 川の流れは山から海におかって姿をかえていくことに気づき、そこから自然環境と私たちの暮らしについて考えを深める。

2 学習の計画

日 時	学習内容	ゲストティーチャー等
～6月18日(金)	<b>事前学習</b> ・川の水や生き物の様子、川についての関心を高め、疑問をもつ。 ・自分たちが住む大野の森や川、海、そして人びとのくらしや自然環境について考える。	
6月21日(月) 8:45 学校発 9:00 向田川源流付近着 源流見学～ 久慈平岳登山 10:45 源流発 11:00 大野浄化センター着 見学 11:45 大野浄化センター発 12:00 学校着 【予備日6月23日(水)】	<b>向田川源流の森探検</b> ・私たちの身近な場所にある川はどこから始まり、どのように海へとつながっていくのかを知る。 ○源流→久慈平岳山頂 ○大野浄化センター	大野の自然を守る会 佐々木祥吉さん 松橋栄さん 野田松男さん 他会員の皆さん  大野浄化センターの皆さん
7月2日(金) 8:40 学校発 9:00 現地着 11:30 現地発 11:50 学校着 【予備日7月5日(月)】	<b>大野川探検</b> ・場所：大野川 上川原地区 ・大野川に住む水生生物を調べる。	大野の自然を守る会 佐々木祥吉さん 松橋栄さん 野田松男さん
7月中旬	<b>学習のまとめをする。</b> ・これまで学習や見学、体験したことを写真や絵などを用いて模造紙等にまとめる。	

<p>10月11日(月) ※雨天決行 8:40 学校発 ～中野 (途中下車あり) 9:40 サケのふ化場着 10:20 サケのふ化場発 有家の海岸 10:45 有家発 11:15 学校着</p>	<p>川の流れ(大野～中野(太平洋))について知る。 ・川の合流地点等の見学 (明戸、林郷、中野 有家) ・河口見学 ・サケの遡上の様子 の見学 ・サケのふ化場見学</p>	<p>大野の自然を守る会 佐々木祥吉さん 松橋栄さん 野田松男さん  サケのふ化場</p>
<p>学習のまとめ「ありがとうの会」 <del>2月22日(火)</del> →延期 3月 9:30～10:15 大野小学校 食堂</p>	<p>学んだことを発表・実践する ・まとめたものを、学習でお世話になった方々に発表する。 ・大野川の学習を通して学んだ、自分たちにできることに実際に取り組む。→看板づくり、設置等</p>	<p>大野の自然を守る会 佐々木祥吉さん 松橋栄さん 野田松男さん  ふ化場場長 澤尻幸男さん  環境アドバイザー 松尾 亨さん</p>

### 3 源流の森探検・大野川探検(6月・7月)について

#### (1) 見学児童

4学年 男子8人 女子6人 計14人

#### (2) 引率者

副校長 要永 道昭

教諭 大沢 菜摘

現地案内 地域コーディネーター 関口 ミエ子

#### (3) ゲストティーチャー

大野の自然を守る会

#### (4) 交通手段

スクールバス、徒歩等

### 4 その他

活動の内容等の詳細につきましては、実施計画に基づき随時連絡調整をしながらご指導いただきたくご理解ご協力をお願いいたします。

## 「大野の産業博士になろう」実施計画書

(大野の産業に関する学習・キャリア教育)

洋野町立大野小学校

### 1 学習のねらい

大野の産業について学習課題を設定し、実際に産業に携わっている方のところへ出かけ、仕事についての見学や体験、インタビューなどの学習を通して、その産業に対する思いや願いについて理解を深め、ふるさとに対する誇りと愛情を育てる。

### 2 現地見学の計画

#### (1) 日 時

令和3年10月1日(金) 学校発8:30~学校着15:30

#### (2) 見学先と日程

見学日時	見学先	内容	連絡先
8:45~9:30	(株) 北部産業 代表取締役 佐々木 松一 大野70-2	木炭生産に関する仕事 についての見学や体 験、インタビュー	☎ 77-2361 Fax77-2362
9:45~10:30	佐々木工芸 佐々木 正徳 大野58-12-188	木工に関する仕事につ いての見学や体験、イ ンタビュー	☎ 77-3112 Fax77-3112
10:45~11:30	大野林産加工業協同組合 理事長 下館 孝一 大野58-12-29	林産加工に関する仕事 についての見学や体 験、インタビュー	☎ 77-2800 Fax77-2805
14:30~15:15	野菜農家 川崎 和志 大野28-2	野菜農家に関する仕事 についての見学や体 験、インタビュー	☎ 77-3784 携帯 090-5356-8163

### 3 見学児童数

5 学年 17名

### 4 引率者

教諭 工藤 美波 教諭 菅野 光晴 地域コーディネーター 関口ミエ子

### 5 交通手段

スクールバス

## 「ふるさと大野大発見」実施計画書

### 1 学習のねらい

秋岡芳夫さんが構想した「一人一芸の村」への思いや、村の人々が歩んできた歴史について調べることを通して、ふるさとに対する誇りをもたせる。大野の歴史や産業、町づくりを地域の方々から学ぶ。また、知恵と努力で乗り越えてきた村おこしの背景、大野とやませのつながりについて地域の方の知恵と技を学び、これからの大野について考える。

### 2 学習の計画

日時	学習の目的	具体的活動	ゲストティーチャー等
10月1日	・大野の産業に対する思いや願いについて理解を深める。	1 実際に産業に携わっている方のところへ出かけ、仕事についての見学や体験、インタビューをする。 ・(株) 北部産業 ・(一社) 大野畜産公社 (10/22) ・デザインセンター ・大野林産加工事業協同組合 ・(一社) 大野ふるさと公社 ・ほうれん草ハウス	
9月上旬～ ----- 10月8日	・秋岡芳夫さんが構想した「一人一芸の村」への思いや、やませについて学ぶことで、村の人々が歩んできた歴史について知る。	1 一人一芸の村について調べるための計画を立てる。 2 昔の広報や本を読む。 3 秋岡芳夫さんを知る。 4 やませについて調べる。 ----- 5 当時を知る方と交流し、一人一芸の村づくりについて知る。	【交流会】 松橋 栄さん 中家 正一さん 関口 邦雄さん 木村 智暁さん 東大野 一男さん 佐々木 祥吉さん
10月13日	・海成段丘について学ぶことで大野とのつながりを知る。	1 海成段丘について調べ、大野とのつながりに気づく。 2 海成段丘について詳しい方と交流し、大野の歴史について知る。	【交流会】 阿部俊夫さん
10月下旬～ 海洋教育サミット 11月26日(金)	・調べてきたことをまとめ、発表する活動を通して、ふるさとに対する誇りをもたせる。	1 学んだことを発表する準備をする。 ・海洋教育子ども(オンライン)	【発表会を予定】

3 対象学年 5学年(男子10名,女子7名 計17名)

4 担当職員 教諭:工藤 美波 地域コーディネーター:関口 ミエ子

5 その他

活動の内容等の詳細につきましては、実施計画に基づき、随時連絡調整をしながらご指導いただきたくご理解ご協力をお願いいたします。



## 一人一芸の村に生まれてⅡ

# 「引き継いでいきたい大野のよさ PR プロジェクト」実施計画書

洋野町立大野小学校

### 1 学習のねらい

大野の産業や文化、自然などについて学習課題を設定し、見学や体験、インタビューなどの取材活動を通して、大野の産業や文化、自然などに対する思いや願いについて理解を深め、ふるさとに対する誇りと郷土愛を育む。

取材活動をもとにプレゼンテーションや動画、パンフレットなどを制作し、大野のよさや魅力を全校児童や保護者、地域に伝える。

### 2 活動計画

日時	活動内容		備考
9月	問いを見出す	・大野の課題について児童同士で話し合う。	
10月	課題の設定	・PRする内容や方法を決める。 ・取材する場所を決める。	
11月 12月	情報の収集	・インターネットや本を活用してPRの材料を集める。 ・取材をしてPRの材料を集める。	ゲストティーチャー
1月	整理・分析	・取材した内容を整理・分析して、PRすべき事項を決める。	
2月	まとめ・表現	・PRをする。(方法・内容は検討していく)	

### 3 事前学習

日時 令和3年12月13日(月) 13:30~14:30

講師 一般社団法人 fumoto 「取材・発信の仕方について。町外から見た大野の魅力などについて」

GT 佐々木祥吉さん 松橋栄さん 中家正一さん

### 4 現地見学の計画

日時 令和3年12月15日(水) 学校発10:30 ~ 学校着12:00

グループ 児童数	見学先 (見学時間の目安)	内容	案内GT (学習支援ボランティア)	引率者
自然 (星) 5人	ひろのまきば天文台 台長 阿部 俊夫さん (10:45 ~ 11:45)	天文台や海成段丘についての 見学やインタビュー	関口 ミエ子	
食 (牛乳) 6人	大野畜産公社 場長 林 茂樹さん (10:45 ~ 11:45)	酪農についての見学やイン タビュー	松橋 栄さん	小田 亮
工芸 (木工) 6人	大野ふるさと公社 (10:40 ~ 11:45)	大野木工についての見学や インタビュー	中家 正一さん	永瀬 康知
文化 (ナニヤ) 5人	洋野町立大野図書館 木村 智暁さん 東大野 一男さん (10:35 ~ 11:50)	ナニヤドヤラについてのイン タビュー	佐々木 祥吉さん	三地澤 麻美

# 洋野町立林郷小学校

# 令和3年度 海洋教育 年間指導計画

洋野町立林郷小学校

## 1 目標

海の豊かな自然と親しむ活動や身近な地域社会の中で海とのつながりを感じることができるような体験活動、海や地域について調べる活動、その保全活動などの体験を通して、海や地域に対する関心を高めるとともに、海洋環境、水産資源、船舶運輸など海洋と人間の関係及び海を通じた世界の人々との結びつきについて理解させ、社会の形成者としての資質・能力を養う。

## 2 4つの視点

- (1) 海に親しむ・・・海の自然に親しみ、海に進んで関わる
- (2) 海を知る・・・海に関わる自然、人、社会に関心をもち、進んで調べようとする。
- (3) 海を守る・・・調べる活動や体験活動を通して、海や地域の環境保全に関わろうとする。
- (4) 海を利用する・・・運輸や世界の人々との結びつきを理解し、持続的に利用することの大切さを理解し、考えをもつ。

## 2 学年ごとの指導計画

【全校】 「海に行こう」 全校遠足（体験的行事 5時間）

- ・海が林郷の近くにあることを感じる
- ・海は楽しい所だと実感を伴う体験をする
- ・美しい海を守らなければいけないという思いをもつ（高学年）

【低学年】 「海は楽しいところだね」

学年	教科等	単元名	学習内容
1年生	生活科	海となかよくなろう (なつがやってきた)	・海岸や海辺で遊ぶ ・海で宝物を見つける ・海で遊んだことをお友達に話す
2年生	生活科	海の思い出を残そう (ときどきわくわくま ちたんけん)	・1年生と海で遊ぶ ・お気に入りの場所を見つける ・海での思い出を絵に表そう ・拾ってきた物で宝物をつくる

令和3年度

【中学年】【高学年】

単元名	洋野の海を知ろう	
時数	12時間	
ねらい	自分が住んでいる洋野町の海の素晴らしさを知る	
時期	6月～7月	
段階	学習内容（○主な内容 ・具体的な活動や配慮事項）	時数
課題把握	○洋野の海を見に行く（学校行事の海遠足） ○洋野の海の素晴らしさを見学・体験する（ヒーローの旅） ・ウニ、コンブなど	2時間
追究	○洋野の海の素晴らしさについて調べる ・海産物 ・景観 など視点を明確にする	3時間
まとめる	○ポスター等にまとめて発表をする ・洋野の海に来たことがない人が来たくなるようなポスターやパンフレットを作成するという視点で取り組ませる	2時間
ふりかえり	○洋野の海の素晴らしさについて学習してきたことを振り返り、自慢できるものだという実感を持たせる	1時間

【中学年】

単元名	有家川の自然を調べよう	
時数	18時間	
ねらい	学校の近くを流れる有家川の様子や源流を探索することとおして、川のはたらきと暮らしに与える環境について理解する。	
時期	7月～10月	
段階	学習内容（○主な内容 ・具体的な活動や配慮事項）	時数
課題把握	○有家川の様子を観察しに行く。 ・地図に絵を描くなどしてメモをとる ・川の中の様子を観察する（生き物がいるのはきれいな水なのだと気づかせる） ○大野の川を中心とした自然のお話を聞く。 ・有家川を中心とした大野の川が、昔からどのように人々の生活に結びついてきたかを聞く。 ※講師招聘 大野の自然を守る会 松橋栄さん ○川と人々との生活について、調べたい課題を見つける ・まとめてきた絵地図を見ながら、自分が調べたいテーマを見つけさせる。（児童が課題解決できるテーマになるように配慮する）	2時間
追求	○有家川にいた生き物をまとめる。（4時間）	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に有家川に入り、生き物を採集して水質を調べる。</li> <li>○源流、大野ダム、旧水沢小学校の見学に行く。(2時間)</li> <li>※スクールバス利用 ※講師招聘 大野の自然を守る会 松橋栄さん 佐々木祥吉さん</li> <li>・大野の川の水が農業用水として使われていることを知る。</li> <li>・旧水沢小学校で土器を見学し、川と昔の人々の生活のつながりを知る。</li> <li>○サケの生態について事前に調べる。(2時間)</li> <li>○有家の海岸とサケの養殖場に行き、有家川からつながっていることと、サケの一生を知る。(3時間)</li> <li>・太平洋と海のつながりを実感する。</li> </ul>	1 1時間
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○調べたことをまとめる。</li> <li>・個人新聞にまとめる。</li> </ul>	4時間
ふりかえり	○わかったことをまとめて、ミニ発表会を開く。	1時間

### 【高学年】

単元名	有家川と海をつなげよう	
時数	1 8時間	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山、川の海に与える影響を知る</li> <li>・海に起きている問題から自分の生活に関連づけて考える</li> </ul>	
時期	8月～12月	
段階	学習内容 (○主な内容 ・具体的な活動や配慮事項)	時数
課題把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>○海遠足、ヒーローの旅からの気付き</li> <li>○有家川について調べる (地図、インターネット) (2時間)</li> </ul>	2時間
追求	<ul style="list-style-type: none"> <li>○有家川の源流見学 (上流) で川の様子を調べる。(3時間)</li> <li>※スクールバス利用</li> <li>○水生生物調査 (中流) で水質や川の様子を調べる。(4時間)</li> <li>○有家川サケマスふ化場見学 (下流) でサケのふ化の様子を知り働いている人の願いや苦勞を知る。(3時間)</li> <li>※スクールバス利用</li> <li>○環境問題や海洋ゴミについて調べる。(1時間)</li> <li>○地球規模の視点、SDGsの視点から考えさせる。</li> </ul>	1 1時間
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○調べたことをまとめる (4時間)</li> <li>・ポスター、新聞にまとめる</li> <li>※地域カンファレンスや海洋サミットを見据えたまとめにする</li> </ul>	4時間
ふりかえり	○1年間の海洋教育で学んだことをふりかえる。	1時間

## 令和3年度全校海遠足実施計画

### 1 ねらい

- (1) 海の豊かな自然に触れあうことで、海に対する関心や海に進んで親しむ態度を育てる。
- (2) 望ましい集団行動のあり方とともに公共の施設を利用する望ましい態度を身に付けさせる。

2 期日 令和3年6月9日(水) ※予備日なし

3 場所 種市海浜公園

4 実施学年 全児童26名

5 引率者 校長 (統導長) 田村 (児童指導 3班)  
副校長 (渉外、緊急車両) 小保内 (保健安全指導)  
高橋 (児童指導 2班) 松浦 (児童指導 5班)  
向明戸 (児童指導 4班)  
佐藤 (全体指導、児童指導 1班)

6 教科時数 学校行事5時間

### 7 日程

出発 9:00

到着 9:40

(全体での指示・日程の確認後)

学級での活動 9:50～11:40

※例→砂浜遊び、シーグラス・貝がら拾い、磯や河口付近での生き物観察等

(全体指示の後)

昼食(縦割り班ごと) 11:50～12:30

縦割り班で遊ぶ 12:40～13:30

出発 13:40

到着 14:20

下校 1年生 14:30

2～6年生 15:30

## 8 持ち物

お弁当 水筒（水かお茶） 雨具（カッパが望ましい） タオル 敷き物  
ビーチサンダル（脱げにくいサンダルまたは靴でも可） おやつ（216円以内）  
ハンカチ ちり紙 ビニール袋 （※靴下、下着等の着替え）

## 9 服装 林郷小ジャージ

### 10 利用交通機関等

1号車	向田スクールバス	1、2年生	校長 高橋 向明戸 小保内	13名
2号車	帯島スクールバス	3、4年生 5、6年生	佐藤 田村 松浦	20名

### 11 その他

- ・天候が悪い場合は当日の朝に中止・日程変更等校長、副校長、教務で判断をする。また、途中で悪化した場合は予定を切り上げて、帰ることもあり得る。
- ・学級での活動で使用する場合、持ち物を加えてもよい。



## (別紙)海遠足活動計画

※合計80分

	内 容	場 所	時 間
ひまわり学級 1, 2年	① 海を眺める。トイレの場所を確かめる。 ② 砂遊び ③ 休憩をはさんで砂に絵を描く。 ④ 遊びながら貝殻などを集める。 ⑤ 後かたづけをする。	見晴台 砂浜 トイレ	① 10分 ② 25分 ③ 25分 ④ 10分 ⑤ 10分
3, 4年	①シーグラス、貝がら拾い ②トイレ休憩 ③河口付近の生き物探し	・砂浜 ・トイレ付近 ・河口付近	①30分 ②10分 ③40分
5, 6年	①漂流物、生き物探し (タブレットで記録) ②休憩 ③磯場で生き物探し	・砂浜 ・トイレ ・右側の磯場	①30分 ②10分 ③40分

## 令和3年度「ヒーローの旅」(体験学習)の実施計画

### 1 ねらい

- (1) 体験を中心とした学びを通して、各教科や、総合的な学習の時間など学校における日常の学習活動の充実発展の場とする。
- (2) 実際に海に関わる仕事を体験することを通して、今後の洋野町の海洋教育「ひろの学」の学習に生かす。
- (3) 集団活動を通して公衆道徳を学ぶ機会とする。また、多くの方とのふれあいを通してコミュニケーションを育成する場とする。

### 2 内容

#### (1) 実施日

令和3年6月24日(木)と25日(金)

#### (2) 主な活動場所

洋野町種市地区

#### (3) 利用交通機関

洋野町バス

#### (4) 具体的内容(日程)

##### 【6月24日(木) 1日目】

- |       |                     |
|-------|---------------------|
| 8:15  | 普通登校                |
| 8:45  | 出発式(学校)             |
| 9:00  | バス乗車 出発             |
| 9:40  | 増殖溝の見学              |
| 12:00 | 移動、昼食(ひろの水産会館ウニーク)  |
| 13:00 | 移動、岩手県水産技術センターで施設見学 |
| 13:30 | 北三陸ファクトリー工場見学       |
| 14:00 | ウニの殻むき体験            |
| 15:30 | 学校へ向けて出発            |
| 16:00 | 学校到着、下校             |

##### 【6月25日(金) 2日目】

- |       |                             |
|-------|-----------------------------|
| 8:15  | 普通登校                        |
| 8:30  | 出発                          |
| 9:30  | 県立種市高校で震災学習・海洋学習・南部潜りに関する学習 |
| 12:30 | 昼食(マリンサイドスパ種市)              |
| 13:30 | シーサイドアクセサリー作り               |
| 15:30 | 学校へ向けて出発                    |
| 16:00 | 解散式                         |
| 16:10 | 学校到着、下校                     |

### 3 参加人員

第3学年	3人（男子2人、女子1人）
第4学年	7人（男子3人、女子4名）
第5学年	2人（男子1人、女子1人）
第6学年	5人（男子2人、女子3人）

### 4 引率者の職・氏名・事務分担

校長	今西 顕 隆（引率責任者）
教諭	佐藤 裕 希（総務・児童指導）
教諭	田村 真 弓（児童指導）
養護教諭	小保内 智 美（救護・庶務）

### 5 実施のための安全計画

#### (1) 見学場所や体験学習での安全な行動

- ・見学の仕方を指導する。（大きな声を出さない、説明を静かに聞く、触らない）
- ・体験の仕方を指導する。（指示通りに体験する）
- ・集団での移動の仕方（並んで歩く）

#### (2) 食事についての留意点

- ・感染症予防の徹底  
（手洗いうがいをする、無言で食べる、距離をおいて食べるなどの徹底）
- ・食に関するアレルギーへの配慮

#### (3) 事故発生時の対応

- ・引率長・担任・養護教諭・学校・家庭間の連絡を密にし、素早い対応ができるようにする。

### 6 服装

- ・はき慣れた靴
- ・紅白帽子（学校で渡します）
- ・学校指定の運動着

### 7 持ち物

- ナップサック（ナップサックの中に荷物を入れて登校します）
- 健康カード（朝昇降口で提出するピンクのカード）  
※必ず検温して記入してから登校させてください。
- マスク（朝から着用してくる）
- マスク入れケース（学校で渡します）
- しおり（学校で渡します）
- 長靴
- 軍手
- 雨具（カッパ）
- 探検バック
- 筆記用具

- 水筒（暑そうな時は多めに持たせてください）
- ハンカチ・ちり紙
- タオル
- ビニール袋（ゴミ入れなどに使います）
- ジャンパー（気温が上がらないと予想される場合）
- 虫よけスプレー（必要な人）
- 酔い止め薬

## 8 支援団体

海と高原のまち・ひろの体験交流推進協議会（窓口：大野ふるさと公社 TEL77-3202）

# 洋野町立帯島小学校

# 海洋教育推進計画

## 1 目的

本校は、太平洋側の隆起による海成段丘（大野段丘）の上に立つ中山間地域にある。海岸線までは30kmほどあり、一見、海洋に親しみ生活しているとは言い難い地域である。しかしながら地域の中心産業（農・畜産業）は海洋の影響により形成された段丘と太平洋から吹き上げる山背を利用して拡大してきた経緯がある。従来、負の影響が大きく取り上げられる山背を最大限利用し、さらに段丘地形を見事に活用し、発展してきたこの地域の知恵と志の高さに目を向け、ふるさとの伝統や文化、自然を愛する児童を育てると共に産業と自然、社会との関わりを追究することにより多面的・総合的に物事を考えることができる児童の育成を目指すものである。

## 2 目標

地球の成り立ちに始まる海の影響により創成された洋野町の大地に生き、ともに歩んできた洋野町の歴史や文化に「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の4つの観点で目を向け、自分たちの生まれ育ってきた地域に喜びと誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる子どもを育てる。

## 3 基本的考え方

海洋教育はこれまで本校で行われてきた教育課程を「海・海洋・地球」を切り口に見直し、各教科・領域で「海・海洋・地球」（＝身の回りの出来事）と関連させて取り組むことで、実生活を意識し、より主体的に「海に生き、海とともに歩む地域に喜びと誇りをもち郷土の豊かな自然や地域の特色を学ぶ」ことを基本とする。

## 4 具体的な観点

### (1) 海に親しむ

町内に広がる豊かな海や川、山での体験学習を行い豊かな心と郷土を愛する心をはぐくむ。（ふるさとで過ごす喜び）

### (2) 海を知る

身近な郷土について「水」を視点に見直し、発見したことをもとに郷土の特色を学び、郷土の発展に努める。（地域の特色を学ぶ）

### (3) 海を守る

「森林愛護少年団」の活動や「森林学習」の目的を明らかにし、「海や水」「産業」とのつながりを意識することで、強度を大切にすることを心がける。  
（ふるさとを愛する心）

### (4) 海を利用する

先人たちは、どのようにして海の恵みを享受してきたのか。地域に根ざした産業を学び、地域社会に尽くす人材を育成する。（地域社会に尽くす）

## 5 今年の重点

- ・現在の教育活動（※総合的な学習の時間を中心として）を「水」「海」「地球」「世界とのつながり」という視点で見直し、海洋教育の関連を明らかにする。
- ・関連性のある学習において「水・海との関連」という視点を児童に投げかけ、考える機会を持つ。
- ・来年度から実施される「海洋科」に向けて、単元や学習内容の見直しを図る。

## 6 具体的実践領域

- ①体験活動全般
- ②自然科学全般（気象・水の循環・四季・地形・気候・地学・物理・化学）
- ③産業学習全般（農業・林業・工業・商業・物流・特産）
- ④地域学習全般（人・もの・土地）
- ⑤伝承活動

## 7 学習の具体的視点

- (1) 「海成地形の影響」 (利点・欠点)
- (2) 気候と海の影響、暮らし、産業との関係 (山背、ほうれん草、酪農、米作)
- (3) 「水」との関わり (森林と水 源流 水の循環 海への影響)
- (4) 起源をさぐる (えんぶりの起こり、願い、踊りの意味)  
(産業の起こり、特徴、自然環境との関連)
- (5) 比べる (海と山との違い 海と山との関連)  
(他の地域との違い 他の地域との関連)

## 8 各学年における今年度の学習内容 (予定)

### 【3年生】

- 海辺で遊ぼう
- 洋野のウニを観察しよう
- ウニや海の生き物について調べよう
- ウニや海の生き物について発表しよう

### 【4年生】

- イサダとりにチャレンジしよう
- 海のごみはどこからくるか調べよう
- 海釣りを楽しもう
- 海釣り体験を紹介しよう
- 海のごみについて紹介しよう

### 【5年生】

- 高家川の源流を観察しよう
- 高家川の水質を調べよう
- 高家川の水質からわかることをまとめよう
- ハナカジカについて調べよう
- 高家川の水質について発表しよう

### 【6年生】

- 海的环境について調べよう
- 海のごみを減らすための取り組みについて調べよう
- 森林のはたらきを知ろう
- 海と森のつながりを知ろう
- 海洋教育子どもサミットに向けた発表準備をしよう (資料作りなど)

## 9 総合的な学習の時間と海洋学習に関連する活動計画

- |        |  |
|--------|--|
| 5月     | 田植え体験 (5年生)  |
| 6月     | 酪農・野菜作り・工房見学・地域のゲストティーチャーによる授業開始                                     |
| 7月     | 高家川源流探検・大野ダム見学・森林愛護少年団活動開始 (4～6年生)<br>(指導者を招いての) 水生生物調査 パックテスによる水質調査 |
| 11月    | 海洋教育子どもサミットへの参加 (6年生)  |
| 10月    | 稲刈り体験 (5年生)  |
| 10月・1月 | 地域へのえんぶり披露 (5～6年生)   |
| 2月     | 授業参観での発表会による地域・保護者への学習のまとめ発表   |

## 校外活動実施計画書（1・2・3年生遠足）

1 実施期日            令和3年6月16日（水）                            9：00～14：15

2 ねらい

（1） 洋野町の特産品であるウニに関心を持ち、海や土地の特徴を活かしたウニ栽培について知る。  
（3年生 海洋教育）

（2） 身近な自然を観察したり、自然と直接触れ合ったりして、自然に興味をもつ。  
（1・2年生 生活科）

3 対象児童

1年生 9名    2年生 7名    3年生 10名    計26名

4 活動場所（日程および見学箇所）

（1） 見学場所

洋野町役場種市庁舎（65-2111）

ウニ栽培漁業センター（3年生）（65-4750）

海浜公園（水産商工課）（65-2111）

（2） 日 程

1・2年生	3年生
9：00	帯島小学校発
9：40～	トイレ休憩・種市庁舎展望台見学
10：15	種市庁舎発
10：40～ 海浜公園で活動	10：30～ ウニ栽培漁業センター見学
	11：00    ウニ栽培漁業センター発
	11：15～ 海浜公園で活動
12：00～	昼食
12：45頃～	海浜公園で活動・帰りの準備
13：35	海浜公園発
14：15	帯島小学校着

5 利用交通機関等

スクールバス

6 引率者

校長 阿部 俊一    教諭 奥 富士子    教諭 古戸 久子    教諭、中居 ゆかり

講師 大久保まゆ子    支援員 米内 ひとみ    支援員 細越 郁美

7 経 費

0 円

8 安全計画

- ・バスの乗車、見学時の行動についての注意事項の指導を行う。
- ・手洗い等の保健衛生面の指導を行う。
- ・見学場所でのマナーについて事前指導を行う。
- ・非常時に備え、携帯電話を所持し緊急連絡が取れるようにする。



## 第4学年 海洋教育（魚釣り）実施計画

### 1. ねらい

- (1) 魚釣りの楽しさを味わう。
- (2) ごみ拾いの活動を通して、海を大切にすることの大切さに気付かせる。

### 2. 期 日

令和3年10月21日（木）

### 3. 場 所

種市海浜公園

### 4. 日 程

8:25	学校発
9:00	海浜公園着
9:00～10:00	ごみ拾い
10:00～11:20	魚釣り体験
11:25	海浜公園発
12:00	学校着

### 5. 参加児童

第4学年 13名

### 6. 引率者

統導長 岩越 裕史 4年担任 石井 雅彦 わかくさ学級担任 藏谷 桂子

### 7. 講 師

環境アドバイザー 中野 雅幸  
森の船会員 辻鼻 均 山内 七重

### 8. 安全計画

- ・事前の現地確認
- ・前日までと当日の朝の健康状態の把握
- ・救急処置品の携帯
- ・危険箇所、危険物の確認と処置
- ・集団行動の際の約束の徹底
- ・緊急事態への対応（学校へ連絡・家庭へ）

### 9. 服装と持ち物

- ・服装：学校指定の運動着、紅白帽子
- ・持ち物：水筒、長靴、手袋

## 第5・6学年 海洋教育(森林学習)実施計画

### 1 ねらい

- (1) 山・木の役割を知り、自然を大切に心情を育てる。
- (2) 裏山での伐採活動等を通して自分たちの身近にある山を手入れし、自然を守り育てる方法を知る。

### 2 期日

令和3年11月11日(木) 2・3・4校時

### 3 場所

学校裏山

### 4 日程

9:10		校庭集合
9:15	～ 9:30	ドローンによる山の観察
9:30	～ 9:45	森と川と海の関係について(講義)
9:55	～ 11:50	森林体験(伐採・ブランコ)
11:50	～	振り返り

### 5 参加児童

第5学年 11名 第6学年 14名

### 6 引率者

箱石 和真 6年担任 湊 麻美 5年担任 (児童指導・学習指導)

### 7 講師

環境アドバイザー 中野 雅幸  
森の舟会員 辻鼻 均 山内 七恵 橋上 智

### 8 安全計画

- ・ 前日までと当日の朝の健康状態の把握
- ・ 救急処置品の携帯
- ・ 危険箇所・危険物の確認と処置
- ・ 集団行動の際の約束の徹底
- ・ 緊急事態への対応(学校へ連絡・家庭へ)

### 9 服装・持ち物

・ 服装 動きやすい服装 ヘルメット 軍手 長靴 のこぎり(中野さん準備)

# 洋野町立向田小学校

1 ねらい

- ・これからの未来をよりよく生きる力の育成のために、向田の自然環境や人的環境のよさを生かし、横断的・総合的な学習や児童の興味・関心などに基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行う。

2 目標

- (1) 自らの課題を見つけ、自ら学び、考え主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること
- (2) 学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること

3 今年度の重点

- ・年間計画の整備を行い、総合的な学習の時間と、海洋教育「ひろの学」と、教科学習等との関連を図り、自ら学び、考える力の育成を目指す。
- ・体験的な学習だけにとどまらず、それを通して自分がどのように考え、どのようにしたいのかを明らかにし、のステップに進めるよう大きなサイクルでの学習構成を試みる。

4 具体的な学習計画

- (1) テーマ 『地域のよさを見直し、その地域の中で育つ自分をみつめる。』
- (2) 育てたい力

育てたい力		中学年	高学年
学び方	問題発見力	・身の回りの事象に関心をもち、自分なりに問題をつかむ。	・身の回りの事象から、自分の解決する問題をつかむ。
	問題追究力	・自分の問題についておおまかな見通しをもって追究する。	・自分の問題について、見通しをもって自力で追究する。
	問題解決力	・調べたことを整理して自分の考えをまとめる。	・調べた事実を関連づけ、自分の考えをまとめる。
	継続してやりぬく態度	・自分の思いや考えを生かし、粘り強く活動に取り組む。	・試行錯誤しながら、粘り強く問題解決に取り組む。
関わり方	表現する力	・相手に分かりやすく整理して伝え合う。	・主張点をしぼり、分かりやすく伝え合う。
	他者と関わる力	・相手の立場や思いを考えて進んで関わる。	・相手の立場や思いを考えて、継続して関わる。
生き方	生き方を考える力	・自分の考えを生活に生かしていこうとする。	・自分の考えを生活や生き方に生かし、より良いものを求めていこうとする。
	社会へ参加・貢献しようとする態度	・地域に目を向け、自分のできることから参加しようとする。	・社会の一員として、自分にできる活動に取り組もうとする。

(3) 評価の観点

○知識及び技能

- ・他教科等と総合的な学習の時間で習得する知識及び技能を相互に関連付けて学んだり身に付けたりしていたか。
- ・社会の中で生きて働く知識や理解、それまでの経験と関連付けて学んだり身に付けていたりしていたか。

○思考力、判断力、表現力等

- ・探求的な学習の過程において発揮され、未知の状況においても活用できるものとして身に付けられていたか。

○学びに向かう力、人間性等

- ・主体的に活動に取り組んでいたか。
- ・協働して課題解決に取り組んでいたか。
- ・活動を通して、自分と他者及び社会との関わりについて見直そうとしていたか。

※評価については、児童一人一人のカルテを作ったり、学習活動の観察自己評価と相互評価の併用、成果や作品、レポートなどの方法を組み合わせたりして、一人一人を多面的にとらえるようにする。

(4) 実施計画

R3 海洋教育「ひろの学」 & 「総合的な学習の時間」 年間活動計画

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
「生活（標準時数）」	102	105				
「総合的な学習時間」（標準時数）			70	70	70	70
海洋教育「ひろの学」			30	30	30	30
「総合的な学習の時間」			40	40	40	40

海洋教育「ひろの学」

	1年生	2年生	3年生	4年生	30h	5年生	6年生	30h
学団別目標	【生活科】 地域（海）のすばらしさに気付く。		【海洋科・総合的な学習の時間】 地域（海）のすばらしさと、暮らしとのかかわりに気付く。			【海洋科・総合的な学習の時間】 地球規模で海洋環境を考え、実行しようとする。		
学年別テーマ	1年生 地域（海）への親しみ ・楽しい地域 ・地域や海での遊び		3年生 地域（海）の環境 ・地域の特産 ・川にすむ生き物			5年生 水産業と環境 ・農林水産業と海洋の関係 ・地域の環境、洋野の海洋環境		
	2年生 地域（海）への親しみ ・自分の住む地域にあるもの ・生命尊重		4年生 水の循環と環境 ・防災 ・安全 ・環境保全			6年生 環境問題と未来 ・環境問題の実態 ・保全の方法 ・自分にできること		

実施月	活動名	時数	活動名	時数	活動名	時数
4月			稲種まき	2		
5月	森林観察学習		森林観察学習	2	森林観察学習	2
	田植え		田植え	2	田植え	2
6月			大豆種まき	2		
			大豆植え替え	2		
	久慈平岳山開き（学行5h）		久慈平岳山開き（学行5h）		久慈平岳山開き（学行5h）	
			水生生物調査	2	山の働き	3
7月					海の働き	3
8月					山と海とのつながり	3
9月	稲刈り		稲刈り	2	稲刈り	2
10月					森は巡る	2
			大豆収穫・乾燥	2		
					久慈平岳源流探索	2
11月			大豆豆打ち	2		
			豆腐作り	2	中間発表会	1
			活動のまとめ	4	こどもサミットに向けて	4
			中間発表会	1	こどもサミット	2
12月			活動のまとめ	3	未来を創るわたしたち	3
			発表会	1	1年間の活動の振り返り	1
			1年間の活動の振り返り	1		
		0		30		30

教科/領域	生活科		総合的な学習の時間				
	実施月	活動名	時数	活動名	時数	活動名	時数
5月	森林観察学習		2				
	なにやどやら		2	なにやどやら	2	なにやどやら	2
	田植え		2				
	栽培活動（農園）		8	栽培活動	8	栽培活動	8
	植栽活動（花壇）		4	植栽活動	4	植栽活動	4
				特産品を調べよう（大野、向田）	2		
6月				特産品を調べよう（大野、向田）	2		
7月	海遊び		4			洋野町のよさを紹介しよう	6
9月	稲刈り		2			洋野町のよさを紹介しよう	6
	パンづくり		2	特産品を調べよう（大野、向田）	4		
10月				特産品を調べよう（大野、向田）	4		
	豊年太鼓		8	豊年太鼓	8	豊年太鼓	8
11月	収穫祭		2	収穫祭	2	収穫祭	2
				パソコンスキル	4	パソコンスキル	4
			34		40		40

令和3年度 3・4年生 海洋教育「ひろの学」単元計画

1 単元名「向田の未来を創る私たち」(30時間)

2 単元のねらい

- ・森林の働きや地域の気候の特徴を調べ、向田の自然の美しさを素晴らしさに気付かせる。
- ・地域の特産品の豆腐づくりや米作りを通して、向田の人や自然の豊かさ、資源と海とのかかわりに関心をもち、地域のすばらしさと自分たちのくらしとのかかわりについて気付かせる。

3 単元指導計画

時	☆学習課題 ○主な学習活動	・指導上の留意点 ◆評価規準<観点> [方法] ◇教科等の関連 ※ゲストティーチャー
2	☆稲の種をまこう ○稲の種まき体験をする。(2)	・稲の苗づくりの様子を知る。 ・丈夫な苗を作るためにどんな工夫や世話が必要か教わっている。<主体的に取り組む態度> [発言・観察] ※川原由次郎さん (三本木悠真さんの祖父) ◇社会5年「未来を支える食料生産」
2	☆向田の自然の今を知ろう。 ○向田地域に住む私たちは、今どんな自然に囲まれて生活しているのか話し合う。(1) ○学校周囲の自然を観察する。(1) (森林観察学習)	・動植物、山、川、土、空気、太陽等、視点を与えて考えさせることで、自然と私たちとの関わりについてより深く考えさせる。 ◆どんな自然に囲まれて生活しているのか、主体的に話し合い活動に取り組んでいる。<学びに向かう力> [発言・観察] ※洋野町農林課
2	☆おいしいお米になるように上手に田植えをしよう ○苗の植え方を教わり、田植え体験をする。(2)	・地域の方から田植えの仕方を教わり、縦割り団ごとに協力しながら、上手に苗を植える。 ◆進んで苗を植えているか。教わった通りに最後まで真剣に田植えを行っているか。<主体的に取り組む態度> [発言・観察] ※地域の方々、保護者 ◇社会5年「未来を支える食料生産」
2	☆大豆の種まきをしよう ○きれいな大豆を種にするので、選別をする。(1) ○パラパラと蒔いて、苗を作る。(1)	・前年度収穫した大豆の傷や色の付いていないきれいな大豆を選別する。 ・小動物に芽が食べられないように苗床に網のト

		<p>ンネルをかける。</p> <p>◆丁寧に選別しているか。良い大豆がたくさん収穫できるように、主体的に苗づくりを行っているか。＜学びに向かう力＞ [発言・観察]</p> <p>※坂川スミさん、村田チエさん（豆風鈴さん）</p> <p>◇理科5年「植物の成長」</p>
2	<p>☆大豆の植え替えをしよう</p> <p>○成長した大豆の苗を畑に植え替える。（2）</p>	<p>・60cmくらいの広めの間隔で、2本ずつ大豆の苗を畝に植え替える。</p> <p>・根を切らないように丁寧に植え替える。</p> <p>◆苗の植え方を教わり、丁寧に植え替えているか。＜主体的に取り組む態度＞ [発言・観察]</p> <p>※坂川スミさん、村田チエさん（豆風鈴さん）</p> <p>◇理科5年「植物の成長」</p>
(学校行事5)	<p>☆山開きに参加して地域の特徴を知ろう</p> <p>○久慈平岳の山開きに参加する。（学校行事5）</p>	<p>・山開きの意味を知る。森林学習や神事に関心が持てるようにし、参加意欲を高められるようにする。</p> <p>◆久慈平岳やその周辺の自然の様子を観察し、地域の美しい自然について関心をもつ。</p> <p>＜主体的に取り組む態度＞ [発言・観察・観察カード]</p>
2	<p>☆水生生物を調べよう</p> <p>○有家川の水生生物を調べる。（2）</p>	<p>・地域に流れる有家川の水生生物を調べることで関心をもたせる。</p> <p>◆有家川の水生生物を進んで調べ、採取した生き物から水質の様子に気付くとともに、川がきれいな理由を森林の働きと関連付けて考える。＜思考・判断・表現力＞ [発言・観察・観察カード]</p> <p>※久慈広域</p>
2	<p>☆稲刈りをしよう</p> <p>○育てたお米の稲を刈り収穫体験をする。（2）</p>	<p>・地域の方から稲の刈り方を教わり、縦割り団ごとに稲を刈り、藁で結ぶ。</p> <p>・安全に作業させる。</p> <p>◆進んで稲を刈ったり、教わった刈り方を教え合ったりしながら、収穫の喜びを感じている。＜主体的に取り組む態度＞ [発言・観察]</p>

		※地域の方々、保護者
2	<p>☆育てた大豆を収穫し、乾燥しよう</p> <p>○育てた大豆を収穫し、一掴みずつ藁で束ねて干す。(2)</p>	<p>・大豆の収穫の仕方を教わり、丁寧に土を落とし、一掴みずつ藁で結び、自転車置き場に張ったロープに干す。</p> <p>・作業後、土や葉で汚れたところを掃く。</p> <p>◆進んで収穫している。成長した大豆の様子に気付くとともに、収穫の喜びを感じている。＜思考・判断・表現力＞ [発言・観察・観察カード]</p> <p>※坂川スミさん、村田チエさん（豆風鈴さん）</p>
2	<p>☆大豆の豆うちをしよう</p> <p>○乾燥した大豆を殻から取る体験をする。(2)</p>	<p>・大豆の収穫の仕方を教わり、丁寧に大豆を殻から外す。使う道具に関心をもつ。</p> <p>◆進んで収穫作業に参加している。使う道具に関心をもっている。＜主体的に取り組む態度＞ [発言・観察]</p> <p>※坂川スミさん、村田チエさん（豆風鈴さん）</p>
2	<p>☆豆腐をつくろう</p> <p>○収穫した大豆を使って、豆腐づくり体験をする。(2)</p>	<p>・豆腐の製造工程を知る。</p> <p>・どんな思いを込めて作っているか、工夫や苦労を聞く。</p> <p>◆製造工程に関心をもつとともに、おいしい豆腐を作るためにどんなこだわりをもっているか関心をもちながら見学している。＜知識・技能・主体的に取り組む態度＞ [発言・観察]</p> <p>※豆風鈴（坂川スミさん、村田チエさん他）</p>
4	<p>☆活動のまとめをしよう</p> <p>○体験したことや調べて分かったことをまとめる。(4)</p>	<p>・これまでの学習を振り返り、学んだことを想起させる。</p> <p>・稲作のまとめのリーフレットを作成する。</p> <p>◆課題解決に向けて、工夫してリーフレットを作っている。＜思考・判断・表現力＞ [発言・観察]</p>
1	<p>☆まとめたことを発表しよう（中間発表会）</p> <p>○調べてわかったことや感じたことがわかりやすく書けているか、発表したり</p>	<p>・各自のテーマに沿って、わかったことが見やすく伝わるか、絵や図などが効果的かお互いに見</p>



	読み合ったりする。(1)	合う。 ◆自分のまとめと比べながら見たり読んだりして、主体的に話し合いに参加している。＜主体的に取り組む態度＞ [発言・観察]
3	☆活動のまとめをしよう ○活動のまとめを見直し、よりよいリーフレットになるように修正する。(3)	・出された意見をもとに、発表内容を修正させる。 ◆よりよいまとめになるように工夫している。＜思考・判断・表現力＞ [発言・観察]
1	☆発表会をしよう ○わかったことをまとめ、向田の自然のすばらしさや環境の良さを伝える。 (1)	・米作りの工夫を通し地域の人々の願いや向田の自然を生かした米作りを知る。 ◆向田の自然や環境の良さに気付いている。＜思考・判断・表現力＞ [発言・観察]
1	☆1年間の活動を振り返ろう ○活動のまとめをしよう (1)	・これまでの学習を通して学んだ知識や体験を価値づけて、これからの学習や生活に生かすように促す。 ◆海洋教育で学んだことを学習や生活に生かそうとしている。＜主体的に取り組む態度＞ [発言・観察]

令和3年度 5・6年生 海洋教育「ひろの学」単元計画

1 単元名「向田の未来を創る私たち」(30時間)

2 単元のねらい

- ・森林の働きや地域の気候の特徴を調べ、向田の自然の美しさを素晴らしさに気付かせる。
- ・向田の人や自然、資源と海の関わりについて関心を持ち、進んで調べ、海洋保全について自分たちに出来ることは何か考え、実践しようとする児童を育成する。

3 単元指導計画

時	☆学習課題 ○主な学習活動	・指導上の留意点 ◆評価規準<観点> [方法] ◇教科等の関連 ※ゲストティーチャー
2	<p><b>【森林観察学習】</b></p> <p>☆向田の森林の特徴を調べよう</p> <p>○向田小学校の周りの森林の様子を観察したり、それらの働きを調べたりする。(2)</p>	<p>・動植物や山, 川, 土, 空気, 太陽など, 視点を与えることで, 自然と自分の関わりについてより深く考えられるようにする。</p> <p>◆どんな自然に囲まれて生活しているか, 主体的に話し合い活動に取り組んでいる。〈主体的に学習に取り組む態度〉 [発言・観察]</p> <p>◇理科⑤「植物の発芽と成長」「花から実へ」 ※洋野町農林課</p>
2	<p><b>【田植え】</b></p> <p>☆おいしいお米ができるように上手に苗を植えよう。</p> <p>○向田の主産業である稲作(田植え)活動の体験をする。(2)</p>	<p>・地域の方々との関わりや縦割り団での活動を通して, 自分の住む地域の中で果たす役割を感じられるように意識させる。</p> <p>◆進んで苗を植えたり, 植え方を教わったり教えたりしている。〈主体的に学習に取り組む態度〉 [発言・観察]</p> <p>◇理科⑤「植物の発芽と成長」「花から実へ」 ※地域の方々, 保護者</p>
(学校行事5)	<p><b>【久慈平岳山開き】</b></p> <p>☆山開きに参加して地域の特徴を知ろう。</p> <p>○久慈平岳山開きに参加する(学校行事5)。</p>	<p>・山開きの意味を確かめることで, 参加することの意義を理解し, 参加意欲を高められるようにする。</p> <p>・森林探索や植樹体験を通して, 自然を大切にしようとする意欲を高める。</p> <p>◆久慈平岳やその周辺の土地の様子に関心を持ち, 山開きに参加している。〈主体的に学習に取り組む態度〉 [発言・観察]</p>

3	<p><b>【山の働き】</b></p> <p>☆向田の山の特徴を調べよう。</p> <p>○向田周辺の様子について調べ、森林や川などの資源や産業などの様子を理解しまとめる。(3)</p>	<p>・森と川、海につながりだけでなく、向田の特色を生かした産業など、視点を変えて様々な面から考えられるようにする。</p> <p>◆山の働きについて、多面的・多角的に捉え、その特徴や課題に気付く〈知識・技能〉[観察・発言・ノート]</p> <p>◇社会⑤「未来をつくり出す工業生産」</p> <p>※洋野町農林課, 三本木恒廣さんなど</p>
3	<p><b>【海の働き】</b></p> <p>☆洋野町の海の特徴を調べよう。</p> <p>○洋野町の海の様子について調べ、洋野町の沿岸の様子や海産物、環境問題などの課題に気付く。(3)</p>	<p>・インタビューやインターネットを活用して、洋野町の海には豊富な資源があると同時に、抱えている様々な問題があるということに気付かせる。</p> <p>◆海の働きについて、多面的・多角的に捉え、その特徴や課題に気付く〈知識・技能〉[観察・発言・ノート]</p> <p>◇社会⑤「未来を支える食糧生産」</p> <p>※洋野町水産商工課, 漁協組合など</p>
3	<p><b>【山と海つながり】</b></p> <p>☆洋野町の豊かな自然を守るために出来ることを考えよう。</p> <p>○これまで学習した向田の特徴と海洋の様子を関連させて、海洋保全のために出来ることは何か考える。(3)</p>	<p>・自然だけでなく産業や人的資源など、様々な面から考えられるように視点を変えさせる。</p> <p>◆海洋保全のために出来ることは何か、多面的・多角的に考えている〈思考・判断・表現力〉[観察・発言・ノート]</p> <p>◇社会⑤「未来を支える食糧生産」「未来をつくり出す工業生産」理科⑥「地球に生きる」</p> <p>※洋野町水産商工課, 漁協組合など</p>
2	<p><b>【稲刈り】</b></p> <p>☆育てたお米を収穫しよう。</p> <p>○育てた稲を刈り採り収穫する。(2)</p>	<p>・地域の方々との関わりや縦割り団での活動を通して、自分の住む地域の中で果たす役割を感じられるように意識させる。</p> <p>◆進んで稲を刈ったり、刈り方を教わったり教えたりしている。〈主体的に学習に取り組む態度〉[発言・観察]</p> <p>◇理科⑤「植物の発芽と成長」「花から実へ」</p> <p>※地域の方々, 保護者</p>

2	<p><b>【森は巡る】</b>  ☆植樹体験をしよう。  ○植樹を体験し、その必要性について理解する。(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植樹が森林を守り、海を豊かにすることを意識させる。</li> <li>◆自然を守ろうとする思いをもち、進んで植樹活動に参加している。〈主体的に学習に取り組む態度〉[発言・観察]</li> <li>◇社会⑤「未来をつくり出す工業生産」</li> <li>※洋野町農林課</li> </ul>
2	<p><b>【久慈平岳源流探索】</b>  ☆源流探索をしよう。  ○久慈平岳の源流を探索し、その様子を確かめるとともに、山と川、海のつながりを理解する。(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校付近の森林や川の様子と源流を比べさせて、その違いを意識させる。</li> <li>◆源流の様子やその働きについて気付く。〈知識・技能〉[観察・発言・ノート]</li> <li>◇社会⑤「未来をつくり出す工業生産」</li> <li>※洋野町農林課，三本木恒廣さんなど</li> </ul>
1	<p><b>【中間発表会】</b>  ☆調べたことをまとめて発表しよう  ○これまで学習した内容をまとめて発表する。(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習を振り返り、学んだことを想起させ、サミットで発表する内容をどうするか考えさせる。</li> <li>◆これまでの学習で学んだことを整理し、発表することができる〈知識・技能〉[観察・発言・ノート]</li> </ul>
4	<p><b>【海洋教育こどもサミットに向けて】</b>  ☆こどもサミットに向けて準備をしよう。  ○これまで学習した内容を整理し、発表資料の作成や発表練習をする(3)  ○発表内容を見直し、より良い発表になるように修正する(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・壁新聞や PowerPoint など、発表する場や形式に合わせて発表資料の作り方を工夫するように意識させる。</li> <li>・発表を聴く側の立場になって、どのような発表だと聞きやすいか、どのような質問が来るか考えさせる。</li> <li>◆より良い発表の仕方を考え、工夫して資料を作っている。〈思考・判断・表現力〉[観察・発言]</li> </ul>
2	<p><b>【海洋教育こどもサミット】</b>  ☆学んだことを発表し、海洋について考えを深めよう。  ○これまで学習した内容を発表したり、他校の調査や実践を聞いたりする。(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインでの発表の場合は、ネットマナーを意識させる。</li> <li>・他校の発表から分かったことをメモさせる。</li> <li>◆自分たちの発表と他校の発表を比べながら進んで参加している。〈主体的に学習に取り組む態度〉[発言・観察]</li> </ul>

3	<p><b>【未来を創るわたしたち】</b></p> <p>☆これからの私たちに出来ることは何か考えよう。</p> <p>○サミットを通して学んだことを基に、これから自分たちが出来ることは何か考える。(3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サミットで学んだことを基に、自分たちに出来ることを考え、整理させる。場合によっては実践する機会を設ける。</li> <li>◆これからの生活で実践できることを考え、表現している。〈思考・判断・表現力〉[観察・発言・ノート]</li> </ul>
1	<p><b>【1年間の活動の振り返り】</b></p> <p>☆海洋教育のまとめをしよう</p> <p>○1年間で取り組んだ活動や学んだことを振り返る。(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習を通して学んだ知識や体験を価値づけて、これからの学習や生活に活かすよう促す。</li> <li>◆海洋教育で学んだことを学習や生活に活かそうとしている。〈主体的に学習に取り組む態度〉[発言・観察]</li> </ul>

## 向田小学校 第4学年 ひろの学 学習指導案

### 1 単元名「向田の未来を創る私たち」

### 2 本時の指導計画

#### (1) 目標

学習してきた情報をもとに、稲作作りのまとめリーフレットに必要な情報を整理・分析することを通して、向田でおいしいお米を栽培できる理由を考えることができる。

#### (2) 展開

段階	学習活動	・指導上の留意点◆評価規準<観点> [方法] ◇教科等の関連 ※ゲストティーチャー
導入 (10分)	<p>1. 前時までの活動を振り返り、本時の学習課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     メモや写真を整理して、おいしいお米を栽培できる理由を考えよう。                 </div> <p>○これまでの活動をメモや写真をもとに振り返る。</p> <p>2. 見通しをもつ。</p>	<p>・これまでの活動を振り返ることで、単元の課題意識をもって活動を行うことができるようにする。</p> <p>・メモや写真を整理することが、単元の課題解決に向けて必要なことだと気づかせる。</p>
展開 (30分)	<p>3. 情報を観点に沿って整理・分析する。</p> <p>○グループごとにこれまでの活動の情報を観点に沿って整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・稲作の育てるにはそれぞれの工程で大変さがある。</li> <li>・地域の方は田植えをしたあとは水の管理が大切と言っていた。</li> <li>・向田地区には有家川があり、水生生物調査できれいな水だということが分かった。</li> </ul>	<p>・整理する内容を「稲作の育て方」「地域の方へのインタビュー」「向田の自然」の3観点到に分けることで、児童が思考しやすい状況をつくる。</p>

<p>展開 (30分)</p>	<p>4. グループで整理した情報を全体で共有する。 ○グループごとに整理した情報を発表する。</p> <p>5. 共有したものをもとに全体で話し合う。 ○共有した情報から、向田でおいしいお米を栽培できる理由を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おいしいお米を作るためには、作る人の大変さがあるが、その手間がポイントだと思う。</li> <li>・向田はきれいな水が流れているから、おいしいお米ができると思う。</li> <li>・向田地区はおいしいお米を栽培する環境が整っていると思う。</li> </ul> <p>6. 本時の学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>おいしいお米を栽培できるのは、向田地区の環境と栽培する人の工夫や思いがあるから。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構造的な板書にすることで、児童が考えを再構成する際の手がかりとなるようにする。</li> <li>・事実と考えをつなげたり、友達の考えと比較したりする発問をすることで、本時の課題解決に向けた意識をもつことができるようにする。</li> <li>◆収集した情報を比較したり、関連付けたりしながら稲作作りについて自分の考えを整理している。＜思考・判断・表現力＞ [発言・観察]</li> <li>・おいしいお米を栽培できる理由をまとめて示すことで、本時の学びを自覚できるようにする。</li> </ul>
<p>終末 (5分)</p>	<p>7. 本時の学習を振り返る。 ○本時の学習をまとめから、次時からはリーフレット作りをしていくことを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学びをもとにリーフレット作りをしていくことを伝え、次時への活動に期待がもてるようにする。</li> </ul>

第5, 6 学年海洋教育「ひろの学」学習指導案

令和3年10月29日(金)

指導者 戸舘 美智子





G T 林野庁久慈支署 石塚 将貴

テーマ「豊かな海を守る森林づくり」

1 本時の主な活動

- ・自分たちの今までの観察や実験のまとめを発表し、わからなかったことを質問する。

2 展開

	学習内容	留意点
導入	<p>1 あいさつと講師紹介</p> <p>2 学習課題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>山に木を植えただけで、森は守られているのだろうか</p> </div>	<p>・林野庁東北森林管理局 三陸北部森林管理署 久慈支署の方をお招きして、自分たちが調べたことやわからないことを質問することを確認する。</p>
展開	<p>3 調べたことを発表する。</p> <p>4 林野庁の石塚さんに質問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・植えた後、どんな仕事があるのか。</li> <li>・久慈平岳は、誰が整備しているのか。</li> <li>・林業に携わっている人は減っているか。</li> <li>・林業ではどんな機械を使っている。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p>&lt;ドローンや360度カメラを紹介&gt;</p>	<p>・森林の働きについて、源流を探索して分かったことや土壌実験について聞いていただく。</p> <p>・調べた過程でわからなかったことなど児童が質問し答えていただく。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p>&lt;タブレットの向きで見える所が変わる。山の様子を点検&gt;</p>
終末	<p>4 感想発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日光が良く当たるようにたくさんの仕事があった。</li> </ul>	<p>・わかったことや驚いたことなどを具体的に発表させる。</p>



# 洋野町立種市中学校

# 海洋科 年間計画

洋野町立種市中学校

## 1 ねらい

海とともに生きること（海との共生）を大切にし、海洋についてはもちろん、人が自然とともに生きるために築き上げてきた知恵について探求する学習を通して、洋野の海とどのように生きていくのか、未来の洋野を考えさせ、自分たちの生まれ育ってきた地域に喜びと誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる生徒の育成を目指す。（「海洋教育『ひろの学』」副読本（案）より引用）

## 2 学習テーマ 「海に生き、海とともに生きる」

### 〔1学年〕「地域・海を知る」

- 講演会、ウニ栽培センターなどの見学、漁業体験（ウニとり、塩ウニづくり）などを通して、講師の方や地域の方々の話を聞いたり、体験したりして、海について学ぶ。小学校での学習を基に海に対する理解を深める。

### 〔2学年〕「地場産業の良さを知り、働くことの意義を考える」

- 職場体験における職場体験や地域の方々との触れ合いを通して、勤労に対する関心意欲を高めるとともに、洋野町が地域の方々への努力や工夫による産業活動に支えられていることに気づきながら、自ら進んで地域社会に関わろうとする態度を養う。
- 漁業体験（鮭とばづくり）を通して、海についての理解を深めるとともに、地域の課題や良さについて考える。

### 〔3学年〕「地域・自身の未来について考える」

- これまでの学習をもとに、地域に対する理解をより深め、自分と地域とのこれからのかかわりについて考えながら、自己の進路（将来）について考え、適切な進路選択ができるようにする。

## 3 年間活動計画

月	第1学年	時間	第2学年	時間	第3学年	時間
4	オリエンテーション		オリエンテーション		オリエンテーション	
5						
6	種市高校津波出前授業 防災・復興講演会	1 2	防災・復興講演会	2	防災・復興講演会	2
7	地域産業見学 浜清掃 訪問合唱	6 4 2	浜清掃 訪問合唱	4 2	地域伝統芸能講習 浜清掃 訪問合唱	2 4 2
8	漁業体験(ウニとり・加工)	15	職場体験計画・学習	18	夏祭りへの参加	
9			宿泊研修計画・学習	18	修学旅行計画・学習	26
10	まとめ・発表	10	まとめ・発表	10	まとめ・発表	10
11	海洋サミット	2	漁業体験（鮭とば）	2		
12						
1			漁業体験（鮭とば）	1		
	第1学年合計	42	第2学年合計	57	第3学年合計	46

※「復興に思いを寄せる日」毎月11日、避難訓練（津波想定）6月実施予定

## 4 評価の観点

○海に関する知識・技能    ○海を通じた思考・判断・表現    ○主体的に学習に取り組む態度

令和3年度 種市中学校海洋科「海に生き、海とともに生きる」

1年「地域・海を知る」

【実践のねらい】

- ・ 講演会、ウニ栽培センターなどの見学、漁業体験（ウニとり、塩ウニづくり）などを通して、講師の方や地域の方々の話を聞いたり、体験したりして、海について学ぶ。小学校での学習を基に海に対する理解を深める。

○時数 5月～11月（42時間）

[主な連携機関と内容]	
連携機関	内容
宿戸南漁業協同組合	漁業体験（ウニとり、加工）
宿戸地区婦人部	漁業体験（ウニ加工）
種市高等学校海洋開発科	漁業体験（ウニとり）、津波出前授業
ウニ栽培漁業センター	施設見学、ウニについて
ひろの屋	施設見学、ウニについて、流通
町内福祉施設	訪問合唱

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学 校 行 事 等	紹介式 始業式 入学式 身体測定 交通安全教室 生徒会入会式 生徒大会 授業参観	体育祭 中間テスト 避難訓練 全国学調 新入生学調	壮行式 地区中総体 オリンピック 聖火リレー 復興講演会 避難訓練 期末テスト 県通信陸上 大野高校体験 入学	町民芸術劇場 高校説明会 県中総体 期末面談 終業式 地区駅伝 久慈工業、久 慈、種市高校 体験入学	種市夏祭り 始業式 実力テスト 地区陸上大会	私の主張 英語暗唱大会 町民体育祭 地区新人戦 修学旅行 宿泊研修 中間テスト	生徒会役員選 挙 文化祭 町駅伝大会 県新人戦 町文化祭	授業参観 卒業生に学ぶ 会 避難訓練 町音楽会 入試説明会 町教研 県新人 期末テスト 海洋サミット	総合学力調査 期末面談 終業式	子ども議会 始業式 実力テスト 中1英語確認 調査 岩手推薦入試 三送会	新入生説明会 期末テスト	岩手入試 青森入試 実力テスト 修了式 卒業式 離任式
活 動 の 流 れ	オリエンテーション	種市高校津波出前授業（1時間） ・津波のメカニズムを知る。	防災・復興講演会（全校・2時間） ・講話を通して、震災と復興、地域の 防災について考える。	訪問合唱（全校・2時間） ・地域貢献について考える。	浜清掃（全校・4時間） ・学校から海岸までのゴミ拾いを通して、地域 や地域の自然を知る。 ・地域の環境保全について考える。	漁業体験（15時間） ・ウニとり、殻むき、塩ウニづくりを体 験する。 ・体験を通して、地域の自然や産業につ いて知る。 ・働くことについて考える。 ・地域の方との触れ合いを通して、地域 産業を支える人の思いを知る。	地域産業見学（6時間） ・ウニ栽培漁業センター、ひろの屋を見学し、 ウニについて知る。	まとめ・発表（10時間） ・学習のまとめをする。 ・学んだことを発信する。	海洋子どもサミット（2時間） ・学んだことを発信する。 ・学びを深める。			

# 令和3年度 種市中学校海洋科「海に生き、海とともに生きる」

## 2年「地場産業の良さを知り、働くことの意義を考える」

### 【実践のねらい】

- ・ 職場体験における職場体験や地域の方々との触れ合いを通して、勤労に対する関心意欲を高めるとともに、洋野町が地域の方々の努力や工夫による産業活動に支えられていることに気づきながら、自ら進んで地域社会に関わろうとする態度を養う。
- ・ 漁業体験（鮭とばづくり）を通して、海についての理解を深めるとともに、地域の課題や良さについて考える

○時数 4月～1月 57時間

[主な連携機関と内容]	
連携機関	内容
宿戸南漁業協同組合	漁業体験（鮭とば）
町内事業所	職場体験
岩手大学	海洋講話
町内福祉施設	訪問合唱

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学 校 行 事 等	紹介式 始業式 入学式 身体測定 交通安全教室 生徒会入会式 生徒大会 授業参観	体育祭 中間テスト 避難訓練 全国学調 新入生学調	壮行式 地区中総体 オリンピック 聖火リレー 復興講演会 避難訓練 期末テスト 県通信陸上 大野高校体験 入学	町民芸術劇場 高校説明会 県中総体 期末面談 終業式 地区駅伝 久慈工業、久 慈、種市高校 体験入学	種市夏祭り 始業式 実力テスト 地区陸上大会	私の主張 英語暗唱大会 町民体育祭 地区新人戦 修学旅行 宿泊研修 中間テスト	生徒会役員選 挙 文化祭 町駅伝大会 県新人戦 町文化祭	授業参観 卒業生に学ぶ 会 避難訓練 町音楽会 入試説明会 町教研 県新人 期末テスト 海洋サミット	総合学力調査 期末面談 終業式	子ども議会 始業式 実力テスト 中1英語確認 調査 岩手推薦入試 三送会	新入生説明会 期末テスト	岩手入試 青森入試 実力テスト 修了式 卒業式 離任式
活 動 の 流 れ	オリエンテーション	防災・復興講演会（全校・2時間） ・講話を通して、震災と復興、地域の防災について考える。	訪問合唱（全校・2時間） ・地域貢献について考える。	浜清掃（全校・4時間） ・学校から海岸までのゴミ拾いを通して、地域や地域の自然を知る。 ・地域の環境保全について考える。	職場体験（18時間） ・体験を通して、地域の自然や産業について知る。 ・働くことについて考える。 ・地域の方との触れ合いを通して、地域産業を支える人の思いを知る。	宿泊研修（18時間） ・海洋講座を通して、海や地域について知る。	まとめ・発表（10時間） ・学習のまとめをする。 ・学んだことを発信する。	漁業体験（3時間） ・鮭とばづくりの方法を知る。 ・体験を通して、地域の自然や産業について知る。 ・働くことについて考える。 ・地域の方との触れ合いを通して、地域産業を支える人の思いを知る。				

令和3年度 種市中学校海洋科「海に生き、海とともに生きる」

3年「地域・自身の未来について考える」

【実践のねらい】

- ・これまでの学習をもとに、地域に対する理解をより深め、自分と地域とのこれからのかかわりについて考えながら、自己の進路（将来）について考え、適切な進路選択ができるようにする。

○時数 4月～1月 46時間

[主な連携機関と内容]	
連携機関	内容
平内婦人部	地域伝統芸能講習（ナニヤドヤラ）
町内福祉事業所	訪問合唱
洋野町役場	夏祭り参加、水質調査
東京大学	海洋講話
県北広域振興局	水質調査

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事等	紹介式 始業式 入学式 身体測定 交通安全教室 生徒会入会式 生徒大会 授業参観	体育祭 中間テスト 避難訓練 全国学調 新入生学調	壮行式 地区中総体 オリンピック 聖火リレー 復興講演会 避難訓練 期末テスト 県通信陸上 大野高校体験入学	町民芸術劇場 高校説明会 県中総体 期末面談 終業式 地区駅伝 久慈工業、久慈、種市高校 体験入学	種市夏祭り 始業式 実力テスト 地区陸上大会	私の主張 英語暗唱大会 町民体育祭 地区新人戦 修学旅行 宿泊研修 中間テスト	生徒会役員選挙 文化祭 町駅伝大会 県新人戦 町文化祭	授業参観 卒業生に学ぶ会 避難訓練 町音楽会 入試説明会 町教研 県新人 期末テスト 海洋サミット	総合学力調査 期末面談 終業式	子ども議会 始業式 実力テスト 中1英語確認調査 岩手推薦入試 三送会	新入生説明会 期末テスト	岩手入試 青森入試 実力テスト 修了式 卒業式 離任式
活動の流れ	オリエンテーション	<p><b>防災・復興講演会</b>（全校・2時間） ・講話を通して、震災と復興、地域の防災について考える。</p> <p><b>地域伝統芸能講習</b>（2時間） ・地域の伝統芸能（ナニヤドヤラ）について知る。 ・地域の方との触れ合いを通して、地域伝統芸能を支える人の思いを知る。 ・地域と自分自身のとのかかわりについて考える。</p> <p><b>訪問合唱</b>（全校・2時間） ・地域貢献について考える。</p> <p><b>浜清掃</b>（全校・4時間） ・学校から海岸までのゴミ拾いを通して、地域や地域の自然を知る。 ・地域の環境保全について考える。</p>	<p><b>修学旅行</b>（26時間） ・講習を通して、地域の自然や産業、人の暮らしについて考える。 ・自分と地域とのこれからのかかわりについて考えながら、自己の進路（将来）について考える。</p> <p><b>夏祭りへの参加</b> ・地域の方との触れ合いを通して、地域伝統芸能を支える人の思いを知る。 ・地域と自分自身のとのかかわりについて考える。</p> <p><b>まとめ・発表</b>（10時間） ・学習のまとめをする。 ・学んだことを発信する。</p>	<p><b>水生生物による川の水質調査</b>（理科） ・水質調査を通して、地域の自然環境について知り環境保全について考える。</p>								

1年【海に親しむ】漁業体験 15時間		
【単元のねらい】		
(1) 浜の仕事を体験することで、働くことの楽しさと厳しさを学ぶ。 (2) 人間関係の大切さを理解し、コミュニケーション能力を高める。 (3) 互いに支え合いながら作業をすることで、協調性を養う。 (4) 海洋や漁業活動について学ぶことで、地元を大切にすることを育成し、復興の一助を担う。		
【本時のねらい】 6,7時間/17時間		
(1) 増殖溝で育つウニをとる作業を通して、地域の自然・産業について具体的に知る。 (2) 漁業・種市高校の方のアドバイスのもと、仲間と協力して安全に作業する。		
学習活動		指導・援助
8:15	1 集合・整列・移動 班ごとに整列し、バスに乗車する。 宿戸学区の生徒は、宿戸中に集合。	・安全指導、避難場所の確認を行う。
8:30	2 始めの会 挨拶をする。服装等の準備をする。	・濡れてもよい靴（サンダル不可）、軍手、ゴーグル等の準備をする。
8:45	3 磯観察・ウニ採捕 漁業・種市高校海洋開発科の生徒と先生の方の話をよく聞いて、作業をする。一人20個程度とる)	・切り傷に気を付けさせる。
10:45	4 作業終了・片付け 5 終わりの会 感想発表、お礼の言葉	・相手意識（食べてくれる人、教えてくれる人）を持って活動させる。
11:30	6 学校到着・下校 宿戸学区の生徒は、宿戸中で解散。	・わからないところは、質問するように促す。 ・適宜、休憩・水分補給を行わせる。 ・忘れ物、ごみのないように声を掛ける。  (振り返り用紙への記入を宿題とする。)

# 令和3年度 種市中学校 1 学年 漁業体験学習について

## 1 ねらい

- (1) 浜の仕事を体験することで、働くことの楽しさと厳しさを学ぼう。
- (2) 人間関係の大切さを理解し、コミュニケーション能力を高めよう。
- (3) 互いに支え合いながら作業をすることで、協調性を伸ばそう。
- (4) 海洋や漁業活動について学ぶことで、地元を大切にすることをもち、復興について考えよう。

このプリントをよく読んで、持ち物の忘れ物がないようにしましょう！

2 実施場所 宿戸漁協地先等（漁協荷さばき施設、増殖溝、岩盤漁場）

3 日 時 令和3年7月25日（日）～27日（火） 26・27日は雨天決行です。

**※25日の雨天中止の場合は、マチコミ等で連絡します。**

4 実施内容 増殖溝ウニ採取、ウニ剥き身作業、塩ウニ作り

5 指導・引率者 種市南漁協の方々、岩手県立種市高等学校海洋開発科の先生と生徒さん）  
種市中職員（1学年職員、小森先生、支援員さん）

6 対 象 種市中学校第1学年（計48名）

7 学校で準備するもの  白衣（不織布ツナギ）  帽子（不織布）  ゴム手袋

**学校で配付したツナギなどは、26日と27日に使います。ビニル袋に入れて忘れずに持参しましょう。（26日に汚れたら、洗ってくること）**

## 8 日程と持ち物

### 【1日目】 7月25日（日）【海洋2時間】

時刻	活動内容		場所	留意点
	種市学区の生徒	宿戸学区の生徒		
8:15	種市中学校玄関前 集合・バス乗車			※水着は着てくる・学級ごとに整列する
8:30	宿戸漁協荷さばき 施設到着 (お願いの挨拶・始 めの会)	宿戸漁協荷さばき 施設集合		※ぬれてもよい靴(サンダルは不可)、軍手、ゴーグル(持っている人) ※グループは学級の生活班
8:45	磯観察、増殖溝ウニ採補 (1名20個程度)		漁港隣接増殖溝	
10:45	終了(挨拶、終わりの会)			※バスに乗る人は着替える
11:15	バス乗車	現地解散		
11:30	学校到着、解散・下校			

※ 持ち物：軍手、水着、ぬれてもよい靴（サンダル以外）、着替え、ある人はゴーグル、飲み物

**【2日目】 7月26日（月）【海洋2時間】 ※城内・角浜の生徒は朝の送迎をお願いします。**

時刻	活動内容		場所	留意点
	<b>種市・角浜学区の生徒</b>	<b>宿戸学区の生徒</b>		
7:15	種市中学校玄関前 集合・バス乗車			
7:30	宿戸漁協荷さばき 施設到着 (挨拶・始めの会)	宿戸漁協荷さばき 場集合	荷物を指定の場 所に置く	・クラスごとに整列
7:45	ウニの剥き身作業		宿戸漁協荷さば き場	・白衣を着用し、準備する ・指示に従って作業する (4人グループ)
9:30	終了(挨拶、終わりの会)			・お礼の挨拶をする
9:45	バス乗車	現地解散		
10:00	学校到着、解散・下校			

**※ 持ち物：軍手、白衣、長靴、飲み物 S.B下校便 11:20**

(長靴は、履いてきてもいいし、荷さばき場に移動してから履き替えてもよい。)

**【3日目】 7月27日（火）【海洋2時間】 ※全員学校に登校します。**

時刻	活動内容		場所	留意点
	<b>A 組</b>	<b>B 組</b>		
8:15	種市中学校玄関前 集合・バス乗車	種市中学校に登校		クラス毎に前半、後半に分 かれて活動する。
8:30	宿戸漁協荷さばき 施設到着 (挨拶・始めの会)	朝の会 ・課題チェック ・前日までのまと め	A: 宿戸漁協荷 さばき場 B: 学校	
8:45	塩ウニ瓶詰め作業 (1)ラベル貼り (2)ウニの瓶詰め	塩ウニ瓶詰め作業 (1)ラベル貼り (2)ウニの瓶詰め 挨拶・終わりの会		A組 ・白衣を着用し、準備する ・指示に従って班毎に作業 する
9:45	挨拶・終わりの会			A組降車→B組乗車
10:25	学校着(10:10発)	学校発 10:30		
10:45	・課題チェック ・前日までのまと め	宿戸漁協荷さばき 施設到着 (挨拶・始めの会)	A: 学校 B: 宿戸漁協荷 さばき場	B組 ・白衣を着用し、準備する ・指示に従って班毎に作業 する
11:00		塩ウニ瓶詰め作業 (1)ラベル貼り (2)ウニの瓶詰め		
12:00		挨拶・終わりの会		
12:25		学校着(12:10発)		全員揃ったら昼食

**※ 持ち物：軍手、白衣、飲み物(長靴は履いていく)**



## 9 生徒の係分担等について

### (1) 朝の会、移動、帰りの会の分担

※移動前と移動後の点呼（班長→委員長→担任）

- ①整列指示 全体（学年執行部：                    ）
- ②健康観察（各学級の保健委員：                    ）
- ③連絡

### (2) 開・閉会行事の分担

【開会業時】	進行（1日目：            / 2日目：            / 3日目： A            B            ）
①はじめの言葉・あいさつ（進行係が言う）	
②お世話になる方々から	
③連絡	
④あいさつ「よろしくお願ひします。」	
漁業体験が終わったら、整列指示は学年執行部が行う	
【閉会行事】	進行（1日目：            / 2日目：            / 3日目： A            B            ）
①はじめの言葉（進行係が言う）	
②感想発表	・1日目（1 A            ）（1 B            ） ・2日目（1 A            ）（1 B            ） ・3日目（1 A            ）（1 B            ）
③お世話になった方々から	
④お礼の言葉（1日目：            / 2日目：            / 3日目： A            B            ）	
⑤連絡	
⑥終わりの言葉・あいさつ「ありがとうございました。」（進行係が言う）	

## 10 その他

- (1) 27日（火）については、午後から授業（終業式）があることから、**全員学校に集合して荷物を置いてから移動、クラスごとに前後半に分かれて活動する。**
- (2) コロナウイルス感染症拡大防止の指針に従い、参加の有無については事前に保護者に承諾を取るとともに、作業場では適切な距離をとる。
- (3) マスクの着用、手洗い、うがいを徹底する。作業中は私語をしない。
- (4) 雨天決行。（よっぽど海が荒れない限りは実施）
- (5) ウニ採りがどうしてもできない状況のときは1日目だけ中止となり、学校で授業。
- (6) 地震、津波の際には、資材倉庫に避難する。

## 11 事後の活動について

- ① 活動の振り返り（自己評価、学級反省）

**※個人の振り返りシートは8月5日（木）に担任の先生に提出**

- ② 調べたことや体験したこと、学んだことを班ポスターにしてまとめる。

【2学期の総合の時間】

- ③ 塩ウニの販売（参観日で販売予定）
- ④ 文化祭及び海洋サミットで発表する。

2年【地域での交流】漁業体験 3時間		
【単元のねらい】		
(1) 地域の特徴やよさについて、小学校での海洋学習や1学年での漁業体験をふまえ、理解を深める。 (2) 漁協の方々との触れ合いを通して、地域を支える活動に取り組む人々が多くいることを知り、自分自身の生き方を考える。		
【本時のねらい】 2,3時間/3時間		
(1) 衛生面に気をつけて鮭とばを加工する過程を知る。 (2) 漁業の方のアドバイスのもと、仲間と協力して作業する。		
学習活動		指導・援助
13:05	1 集合・整列・移動 班ごとに整列し、バスに乗車する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全指導、避難場所の確認を行う。</li> </ul>
13:20	2 始めの会 挨拶をする。身なりを整える。手指消毒をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白衣、マスク、手袋、長靴を身につける。</li> <li>・衛生面に気を付けさせる。</li> </ul>
13:30	3 作業 漁協の方の話をよく聞いて、作業をする。 怪我に注意して、作業をする。 [作業の流れ] ①鮭を清潔なタオルの上に置く(タオルのお陰で滑らなくなり、捌きやすくなる)。 ②鮭を3枚におろす。 ③身を細長く切り、数本をスズランテープでまとめる。 ④学校で干す(帰校後の作業)。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道具の使い方を確認する。</li> <li>・相手意識(食べてくれる人、教えてくれる人)を持って活動させる。</li> <li>・わからないところは、質問するように促す。</li> <li>・適宜、休憩・水分補給を行わせる。</li> </ul>
15:00	4 片付け 周りを見て全員で素早く行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・忘れ物、ごみのないように声を掛ける。</li> </ul>
15:10	5 終わりの会 感想発表、お礼の言葉	
15:15	6 移動	
15:30	7 学校到着	(振り返り用紙への記入を宿題とする。)
16:15	8 干す作業後下校	

# 令和3年度 2学年漁業体験「鮭とばづくり」オリエンテーション

R3.11.26 種市中学校 第2学年

## 1 ねらい

- (1) 地域の特徴やよさについて、小学校での海洋学習や1学年での漁業体験をふまえ、さらに理解を深める。
- (2) 地域の方々との触れ合いを通して、自分たちの生活や地域を支える活動に取り組む方々が多くいることを知り、自分自身の生き方を考える。

2 期 日 令和3年11月29日(月)

3 参加者 種市中学校 2学年55名  
引率 種市中学校2学年職員(大矢、佐藤、谷藤、荒木田、工藤)

4 内 容 鮭をさばく、名札付け、干し方作業(鮭トバのみ、新巻はなし)

5 会 場 宿戸漁港 新荷さばき場

6 指導者 宿戸漁業研究会、県北広域振興局、種市南漁協、種市南漁協宿戸女性部の方々

## 7 服装・持ち物

○服装……マスク着用、運動着、防寒着

○持ち物……**長靴、長靴を入れるビニル袋、タオル2枚(手拭き用、鮭拭き用)**

※鮭用タオルは、鮭を直接拭くタオルである。食品用なので、きれいなものを準備する。

ただし、血だらけになるので、捨てることになる。

○学校で用意するもの……カップ、不織布帽子、軍手、ビニル手袋、ビニル袋2枚、ひも2本、名札(ガムテープ2枚)

8 移動 スクールバス

## 9 当日の日程

1～4校時 午前短縮授業(4校時:道具準備、帰りの会、準備ができ次第早めに給食準備)

5～6校時 総合的な学習の時間

13:05 宿戸漁港へバス移動 宿戸の生徒は帰る準備をして

13:20 開会行事/作業手順説明(鮭についての説明含む)

作業開始……生の鮭を、マキリ(カッター)で3枚におろす

15:00 道具、作業台を洗う、片づけを行う

<集合写真・クラスごと>

15:10 閉会行事

15:15 バス移動 宿戸の生徒は現地で解散

15:30 学校着 駐輪場で干し竿につるし、網をかける

※学校に戻った生徒で協力して干す(駐車場に網の準備をしてあります)

16:00 下校 (部活動なし・SBあり)

## 10 開・閉会行事 司会進行（学年委員会）

### <開会行事>

- 1 はじめのことば
- 2 学年委員長から
- 3 学年の先生から
- 4 指導者の方から
- 5 指導者の方々にあいさつ
- 6 連絡
- 7 おわりのことば

### <閉会行事>

- 1 はじめのことば
- 2 感想発表（各学級から1人ずつ）
- 3 学年の先生から
- 4 指導者の方々から
- 5 お礼のあいさつ
- 6 連絡
- 7 おわりのことば

## 11 注意事項

◎ 体験活動のねらいをよく理解し、真剣に活動すること。

◎ 多くの地域の方の協力を得て行う活動です。感謝の気持ちを忘れず、

**『返事やあいさつをしっかりとる』・『話をしっかりと聞く』・『指示されたとおりに動く』・『私語や勝手な行動をしない』**を徹底すること。

※当日は刃物を使っての作業なので、全神経を集中してケガのないように気をつける！

◎ 作った鮭トバ（荒巻鮭）は、商品としてお客様の手に渡ります。衛生面に気をつけることはもちろん、心を込めて丁寧に作ろう。

◎ 帰宅後、『振り返りシート』を書き、30日（火）の朝、担任の先生に提出。

## 12 作業後の予定

- ・ 11月29日（月）～12月中旬 鮭の乾燥

日直2名（A組1名、B組1名）が、毎日交代で干してある鮭トバをくっつかないようにのはがし、写真を撮って『鮭トバ日誌』を書く（PCで）。

- ・ 3学期（2月ごろ？） 午後2h総合（教務と後日相談）：とばの袋詰め→冷凍

①調理室チーム10名（切るチーム）・・・A組・B組の各班から1名ずつ

②コモンスペースチーム他45名（袋詰めチーム）・・・重さを図って袋詰め

③作業日までに、ラベルの作成

- ・ R4 参観日またはバザーで販売

## 【種中海鳴太鼓】練習会実施要項

### 1 目的

- (1) 種市中学校文化祭で種市に伝わる伝統芸能“種市海鳴太鼓”を盛大に演奏し、文化祭を盛り上げるとともに、地域に根ざした学校を目指そう。
- (2) 太鼓の音で『心』を伝えることを目指し、観る人、聴く人に感動してもらい演奏を創り上げよう。また、生徒会スローガン「繋唱」のもと、先が見通せない社会状況ですが種中生の元気や思いを地域や保護者の方々に届けよう。
- (3) 一瞬の感動のために努力を惜しまない姿勢を身につけ、仲間と共に一つの作品を創り上げることの達成感と自信を味わおう。

**2 練習会場** 種市武道館＊宣言解除まで種市中学校 commonspace

**3 指導者** 岩手県太鼓連盟副会長 種市海鳴太鼓会 中里 利則 様

**4 参加生徒** 別紙参照

### 5 練習までの流れ

9月13日(月)：太鼓希望者打ち合わせ 昼 多目的室

9月16日(木)：練習開始 ＊15日太鼓搬入予定

**6 持参品** タオル、飲み物 その他練習に必要と思われるもの

**7 服装** 種市中学校指定ジャージ

### 8 練習にあたって

- (1) 太鼓奏者に応募するための一番の条件は、「挑戦してみたい・人を感動させてみたい」という熱い思いを持った人です。加えて、日常生活・学習など、自分で計画的に取り組むことができる人です。
- (2) 練習が始まったならば**当番制で「太鼓ノート」を記入し、みんなで課題の確認や次回の目標などを話し合い、当番が反省や感想を記入します。太鼓ノートは配布します。**
- (3) 現地集合・現地解散とします。生徒の安全を考慮し、平日練習日の終了時には、保護者の皆様の送迎のご協力をお願い致します。＊学校で行う場合は、三学年の先生に相談すること。
- (4) 都合が悪く欠席する場合は、**事前に担当上大澤まで連絡**を入れて下さい。
- (5) 先生方は交替で練習を見守る予定です。
- (6) 指導者の中里さんは、皆さんのために時間を割いて指導して下さいます。**練習中は太鼓のことに集中して下さい。**
- (7) 指導者の都合で若干日程を変更する場合がございますのでご理解下さい。
- (8) 名のメンバーで**最高の演奏を披露し、最高の思い出をつくりましょう。**

# 洋野町立中野中学校

【総合的な学習の時間の目標】

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。
- (2) 自分たちが暮らす実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

【学校教育目標】

- ・自ら考えて努力し知性を高める生徒
- ・生活の向上を目指し自主的に判断して行動する生徒
- ・健康明朗でたくましく心豊かな生徒

【校訓】

自ら学び、自ら修める

【生徒の実態より】

- ・素直で真面目に課題に取り組む。
- ・落ち着いた学習態度であるが、家庭学習が不十分である。
- ・部活動や清掃などに積極的に取り組んでいる。
- ・言語知識に落ち込みが見られ、自分の考えや思いを分かりやすく伝えることが苦手な生徒が多い。
- ・地域のよさについて理解が浅し、地域を誇りに思う気持ちが育っている。その反面、地域でのボランティア活動に、目的を持って自主的に取り組む姿がやや乏しい。

【本校で定める総合的な学習の時間の目標】

探究的な見方・考え方を働かせ、「海」を視点に体験活動や学習活動、保全活動などの横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、実生活と海・地域・社会とのつながりについて考えを深めさせ、自己の生き方や地域の在り方を考えていくための資質・能力を育成する。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。【知識及び技能】
- (2) 自分たちが暮らす実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析してまとめ、相手に伝わるように表現することができるようにする。【思考力・判断力・表現力】
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養うとともに、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の継承・発展と、自己の望ましい生き方・在り方を考え続けることができるようにする。【学びに向かう力、人間性】

本校で定める総合的な学習（海洋科・追Q）の時間の内容

探究課題		探究課題を解決することを通して育てようとする資質・能力			
		(1) 知識及び技能	(2) 思考力、判断力、表現力	(3) 学びに向かう力、人間性	
1年生	全校浜清掃・伝統芸能「ナニヤダヤ」取り組み	「地域を知ろう ～洋野町の山と海の関係と地域産業から見える洋野の海の課題～」 ・洋野の海の問題を知ろう ・地域産業と海との関わり ・海と山の関わりについて ・洋野町 PR 大作戦（文化祭） ・洋野の幸を使ったメニュー作り ・洋野町の山と海の関係と地域産業についてまとめ、発表しよう 「自分を見つめる」	・洋野の海の問題を知った上で、地域の企業、自然を活用した様々な活動を知り、洋野の海と山の関係から地域のよさを見つけることができる。 ・既習事項を生かした、情報収集、まとめ、発表をすることができる。 ・小学校での既習事項を想起しながら、洋野町の海の問題を広い側面から取り上げ、全校や地域の人に知ってもらおう。	・「海」を視点とし、様々な問題状況の中から、課題を発見・設定することができる。 ・課題解決の方法や手順を考え、見直しをもって計画を立てることができる。 ・情報収集の手段を選択することができる。 ・必要な情報を収集、蓄積することができる。 ・問題状況における事実や関係性を把握し、理解することができる。 ・多様な事柄にある特徴を見付けることができる。 ・各教科で身に付けた専門知識や情報を比較したり関連付けたりして問題解決に向けて考えることができる。 ・分析した情報や調査・体験したこと、自分の考えを、相手や目的に応じてわかりやすくまとめることができる。 ・他者の発表を聞き、質問・評価し合うことで、聞き手を意識した発表をすることができる。 ・学習の進め方等を振り返り、実生活に生かそうとすることができる。	・グループでの教え合いなどを通して、他者と協働して課題を解決しようすることができる。 ・自己評価や相互評価により、自分の活動内容について振り返り、改善点を意識して生活することができる。 ・地域と自分とのかかわりを踏まえて、自己の将来の生き方について考えることができる。 ・地域の一員としての自覚を持ち、郷土を愛する心を培い、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の発展を考えることができる。
		「地域を考えよう ～洋野町と他地域との比較から探る洋野の海の問題解決～」 ・キャリアアップ研修 ・洋野町 PR 大作戦 ・洋野町と他地域を比較しよう ・他地域から学んだこと、洋野のよさから洋野の海の問題解決策を探り、まとめ、発表しよう 「地域の一員として生きる」	・洋野の海の問題を多角的に捉え、キャリアアップ研修を通して他地域と洋野の取組を比較することで、洋野の海の問題解決方法を見付けることができる。 ・洋野の海の問題について考えた解決策をICT機器を活用しまとめ、発表することができる。 ・地域での職場体験を通し、働くことの意味や働く人の思いについて考えを深め、目的を持って行動することができる。	・これまでの学習を元に、洋野のよさを生かした未来を考え、洋野町外に効果的に発信することができる。 ・地域を誇りに思い、将来を創造する能力を高め、洋野の未来についてあらゆる角度から自分の言葉で語る事ができる。	【表現する力・将来について考える力】 ・様々な課題解決の過程で人との出会いに感謝しながら、学び方や考え方を身に付けるとともに、自分から進んであいさつを行ったり、質問に対する受け答えや自分の考えを相手に分かるように堂々と伝えたりすることができる力。 ・他者と協働し、情報（非連続型テキスト）を収集・分析し、自分の考えをまとめ、資料やICT機器などを使って同学年や他学年・外部機関に発表・発信することができる力。 ・地域のよさを知ることと地域の問題解決について考え、地域の一員としての自覚や誇りを持ち、洋野町を愛し、地域や岩手の復興・発展を支えるために何が出来るかを考え、行動する力。 ・様々な行事を通し、他者と協働しながらよりよく課題を解決し、自己の生き方や地域の在り方を考え行動する力
		「洋野の未来を考えよう ～洋野町の発信・将来の創造～」 ・洋野町 PR 大作戦 ・洋野のよさを知ろう ・洋野の魅力発信プロジェクト 「社会の一員として生きる」	・これまでの学習を元に、洋野のよさを生かした未来を考え、洋野町外に効果的に発信することができる。 ・地域を誇りに思い、将来を創造する能力を高め、洋野の未来についてあらゆる角度から自分の言葉で語る事ができる。	【表現する力・将来について考える力】 ・様々な課題解決の過程で人との出会いに感謝しながら、学び方や考え方を身に付けるとともに、自分から進んであいさつを行ったり、質問に対する受け答えや自分の考えを相手に分かるように堂々と伝えたりすることができる力。 ・他者と協働し、情報（非連続型テキスト）を収集・分析し、自分の考えをまとめ、資料やICT機器などを使って同学年や他学年・外部機関に発表・発信することができる力。 ・地域のよさを知ることと地域の問題解決について考え、地域の一員としての自覚や誇りを持ち、洋野町を愛し、地域や岩手の復興・発展を支えるために何が出来るかを考え、行動する力。 ・様々な行事を通し、他者と協働しながらよりよく課題を解決し、自己の生き方や地域の在り方を考え行動する力	【表現する力・将来について考える力】 ・様々な課題解決の過程で人との出会いに感謝しながら、学び方や考え方を身に付けるとともに、自分から進んであいさつを行ったり、質問に対する受け答えや自分の考えを相手に分かるように堂々と伝えたりすることができる力。 ・他者と協働し、情報（非連続型テキスト）を収集・分析し、自分の考えをまとめ、資料やICT機器などを使って同学年や他学年・外部機関に発表・発信することができる力。 ・地域のよさを知ることと地域の問題解決について考え、地域の一員としての自覚や誇りを持ち、洋野町を愛し、地域や岩手の復興・発展を支えるために何が出来るかを考え、行動する力。 ・様々な行事を通し、他者と協働しながらよりよく課題を解決し、自己の生き方や地域の在り方を考え行動する力
中野中学校の付けたい力		【表現する力・将来について考える力】 ・様々な課題解決の過程で人との出会いに感謝しながら、学び方や考え方を身に付けるとともに、自分から進んであいさつを行ったり、質問に対する受け答えや自分の考えを相手に分かるように堂々と伝えたりすることができる力。 ・他者と協働し、情報（非連続型テキスト）を収集・分析し、自分の考えをまとめ、資料やICT機器などを使って同学年や他学年・外部機関に発表・発信することができる力。 ・地域のよさを知ることと地域の問題解決について考え、地域の一員としての自覚や誇りを持ち、洋野町を愛し、地域や岩手の復興・発展を支えるために何が出来るかを考え、行動する力。 ・様々な行事を通し、他者と協働しながらよりよく課題を解決し、自己の生き方や地域の在り方を考え行動する力			

# 洋野町立中野中学校海洋科1年「地域を知ろう ～海と山の関係と地域産業から見える洋野の海の課題～」ストーリーマップ 30 時間

## 【実践のねらい】

地域の企業、自然を活用した様々な活動を通して、洋野の海と山の関係から地域のよさを知り、地域に対する興味・関心を深めさせる。そのために、地域企業の方に講師になっていただき、山と海の関係についての学習活動の他に、地域企業で取り組んでいる冷涼な気候を生かしたきのこの植菌作業や、洋野町の海の問題や取組調査、長根商店経営「きのこの駅」での採用を目指し、洋野の海の幸、山の幸を融合させた新メニュー考案とプレゼン、レシピカード作りなどの体験的活動を行う。それらの活動を通し、自分たちの生きる地域の魅力について知り、地域に対する愛着を深める。また、小学校での既習事項と合わせ、洋野町の海の課題を広い側面から捉え、全校や地域の人に提起する。

○時数 4月から3月（総合的な学習の時間、特別活動、国語科、理科、社会科、技術・家庭科）

○関連 国語、理科、社会科、英語科、美術科、技術・家庭科

○目標 (1) 地域の企業、自然を活用した様々な活動を通して、洋野の海と山の関係から地域のよさを知り、地域に対する興味・関心を深めることができる。

(2) 他者と協働しながら、課題設定や課題解決・追究活動に主体的・対話的に取り組むことができる。

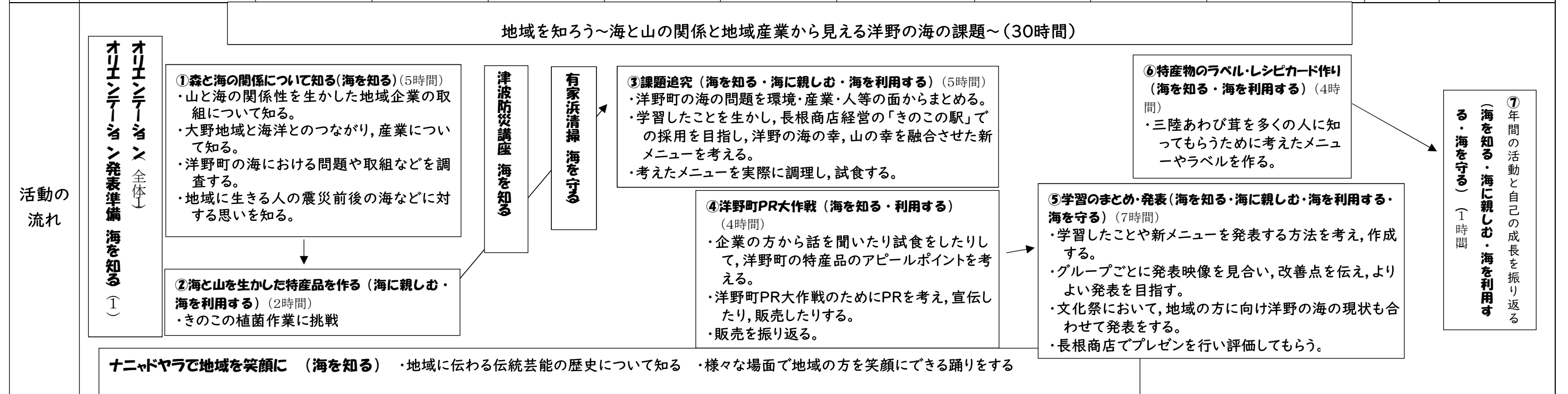
(3) 目的にふさわしい情報収集の仕方を知り、様々な方法で情報収集を行うことができる。

(4) まとめ方のプロセスを知り、学習の成果をまとめることができる。

(5) 学習、体験活動や発表を通して知った洋野町の魅力と、自分らしさや自己の成長を発見することができる。

主な連携機関	内容
長根商店	地域企業の事業と山と海の関係の学習、きのこの植菌作業、商品のラベル・メニュー考案
小子内漁協、種市漁協、種市南漁協、角浜魚市場、八木魚市場、水産商工課	洋野町の各漁協(魚市場)を中心に、漁業関係者から、洋野町の海の問題や取組、願いについて様々な角度から話を聞く。
ひろのまきば天文台	大野地区の産業と海洋の係わりについて講義
種市南漁協、館豆富店、北部産業 北三陸ファクトリー	洋野町物産品の販売 文化祭での洋野町物産品の販売
洋野町保健センター	新メニュー、レシピカード作り
洋野町立中野小学校	海岸清掃、授業参観、拡大校内研修会
中野ふじの会	伝統芸能「ナニヤドヤラ」の学習会、練習会
中野地区コミュニティ協議会	海岸清掃、地域貢献活動

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	紹介式・始業式 入学式・身体測定 新入生学調 交通安全教室 生徒会入会式 授業参観	知能検査 運動会 町教研 地区通信陸上 530運動	地区中総体 期末テスト 津波防災講座	思春期講演会 地区合唱交流会 県中総体 町民芸術劇場 期末面談 終業式・地区駅伝	始業式 実力テスト 漢字検定 地区陸上大会 身体測定 生徒会役員選挙	英語暗唱大会 地区新人戦 中間・前期テスト	修学旅行 文化祭 町駅伝大会 子ども議会 県新人戦(テニス) 町音楽発表会	実践区大会 県新人(バド・卓球) ベネッセテスト 期末テスト 町教研 海洋カンファレンス	期末面談 終業式	子ども議会 始業式 実力テスト 漢字検定 中1英語確認調査 三送会	期末・後期 テスト	実力テスト 修了式 卒業式 離任式



各教科で伸ばしたい能力	【国語】 ・社会生活に必要な国語の知識や技能 ・筋道立てて考える力や感じたり想像したりする力 ・日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにする力 ・思いや考えを伝え合おうとする力	【社会】 ・日本の国土と歴史、政治、経済、国際関係等に関して理解する力 ・調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる力 ・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題解決に向け選択・判断したりする力 ・思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力	【数学】 ・数量や図形などについての基礎的な概念や原理、法則などの理解 ・事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈、表現、処理する力 ・事象の特徴を表などで考察したり、データの分布から傾向を読み取り批判的に考察、判断したりする力	【理科】 ・問題を見だし見通しを持って観察、実験を行う力 ・規則性、関係性、共通点や相違点、分類するための観点や基準を見だし表現する力	【英語】 ・日常的な話題について必要な情報を聞き取る力 ・日常的な話題について簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取る力 ・関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合ったり発表したりする力 ・関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書く力。	【音楽】 ・表現を創意工夫したり、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わう力 ・音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしようとする力	【美術】 ・意図に応じて表現方法を工夫して表す力 ・美術の観点から、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったりする力 ・創造活動の喜びを味わい、心豊かな生活を創造する力	【保健体育】 ・運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力 ・運動における競争や協働の経験を通し、公正、協力、役割を果たす、個々の違いを認める力	【技術】 ・生活や社会で利用されている事物、情報の技術についての基礎的な理解力 ・生活や社会の中から技術に関わる問題を見だし課題を設定する力 【家庭】 ・家族・家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な基礎的な理解力 ・家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だし課題を設定する力	【道徳】 ・自分を見つめ、自分の生き方を模索する力 ・物事を広い視野から多面的・多角的に考える力 ・人間としてよりよい生き方について考える力	【特別活動】 ・様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要なことを理解し行動する力 ・集団や自己の生活の課題を見だし、解決する力 ・よりよい生活や人間関係を形成するとともに、自己実現を図ろうとする力
-------------	---	--	---	---	--	--	--	---	--	---	---



# 洋野町立中野中学校 2学年海洋科 「地域を考えよう ～洋野町と他地域との比較から洋野の海の課題解決～」ストーリーマップ 45時間

## 【実践のねらい】

他地域と洋野を比較することを通して、他地域と洋野町のそれぞれの特性を生かした産業などについて学ぶとともに、洋野町の魅力や課題点を焦点化させる。そのために、キャリアアップ研修の際には洋野町以外の地域での地域特産品の販売体験活動、観光、環境、住、食の視点で他地域での学習活動などを行う。また、地域企業協力の下、職場体験学習を行い、職業観や勤労観を養いながら、将来を考える能力を高める。これらの活動を通し、自分たちの生きる地域の課題を見つめ、洋野町の特性を生かした課題解決の道を探る。

○時数 4月から3月（総合的な学習の時間、特別活動、国語、理科、社会科、技術・家庭科）

○関連 国語、理科、社会科、英語科、技術・家庭科

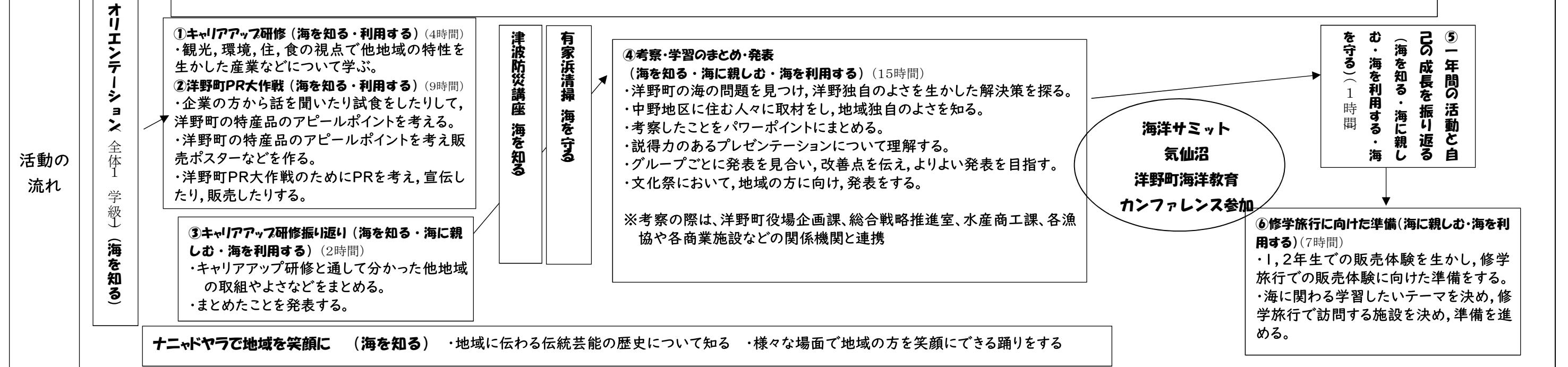
○目標 ・キャリアアップ研修を通して他地域と洋野を比較し地域の課題を見付け、洋野町独自のよさを生かした町づくりについて考えることができる。

- ・地域での職場体験を通し、働くことの意味や働く人の思いについて考えを深めることができる。
- ・「海」を視点とし、様々な問題状況の中から、課題を発見・設定することができる。
- ・各教科で身に付けた専門知識や情報を比較したり関連付けたりして問題解決に向けて考えることができる。
- ・地域の一員としての自覚を持ち、郷土を愛する心を培い、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の未来を考えることができる。

主な連携機関	内容
長根商店、種市南漁協、川食、館豆富店、洋野町商工会議所	キャリアアップ研修(町外)での洋野町物産品の販売 修学旅行(東京都中野区)販売準備
洋野町役場企画課、水産商工課	洋野町の地域の現状と町が取り組んでいる計画
ひろの屋、洋野水産会館	洋野町の海の特産物に関わる取材
中野地区を中心とした企業	職場体験学習
洋野町立中野小学校	海岸清掃、授業参観、拡大校内研修会
中野ふじの会	伝統芸能「ナニヤドヤラ」の練習会
中野地区コミュニティ協議会	海岸清掃、地域貢献活動
洋野町保健センター、食生活改善推進協議会	郷土食、調理実習、地産地消の学習

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	紹介式・始業式 入学式・身体測定 交通安全教室 生徒会入会式 授業参観	運動会 町教研 地区通信陸上 530運動	地区中総体 期末テスト 津波防災講座	キャリアアップ研修 思春期講演会 地区合唱交流会 県中総体 町民芸術劇場 期末面談 終業式・地区駅伝	種市夏まつり 始業式 実力テスト 漢字検定 地区陸上大会 身体測定 生徒会役員選挙	英語暗唱大会 地区新人戦 中間・前期テスト	県学調 修学旅行 文化祭 町駅伝大会 子ども議会 県新人戦(テニス) 町音楽発表会	実践区大会 県新人(バド・卓球) ベネッセテスト 期末テスト 町教研 海洋カンファレンス	期末面談 終業式	子ども議会 始業式 実力テスト 漢字検定 中1英語確認調査 三送会	期末・後期テスト	実力テスト 修了式 卒業式 離任式

## 「地域を考えよう～洋野町と他地域との比較から洋野の海の課題解決～」(45時間)



各教科で伸ばしたい能力	【国語】	【社会】	【数学】	【理科】	【英語】	【音楽】	【美術】	【保健体育】	【技術】	【道徳】	【特別活動】
海洋科学習につながる	・社会生活に必要な国語の知識や技能 ・論理的に考える力や共感したり想像したりする力 ・社会生活の中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする力 ・思いや考えを伝え合おうとする力	・日本の国土と歴史、政治、経済、国際関係等に関して理解する力 ・調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる力 ・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題解決に向け選択・判断したりする力 ・思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力	・数量や図形などについての基礎的な概念や原理、法則などの理解 ・事象を数値化したり、数学的に解釈したり、表現・処理したりする力 ・図形の性質や関係を論理的に考察し表現する力 ・複数の集団のデータ分布に着目し、比較して読み取り、批判的に判断したり考察したりする力	・問題を見いだして見通しを持って観察、実験を行う力 ・規則性、関係性、共通点や相違点、分類するための観点や基準を見いだして表現する力	・日常的话题について話の概要を捉える力 ・日常的话题について簡単な語句や文で書かれたものから概要を読み取る力 ・日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを伝えたり、質問に答える力 ・日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとまりのある文章で書く力。	・ふざかしい表現を創意工夫したり、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わう力 ・音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しもうとする力	・意図に応じて表現方法を追求し、創造的に表す力 ・美術の観点から、独創的・総合的に物事を考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったりする力 ・主体的に創造活動の喜びを味わい、心豊かな生活を創造する力	・運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力 ・運動における競争や協働の経験を通して、公正、協力、役割を果たす、個々の違いを認める力	・生活や社会で利用されている事物、情報の技術についての基礎的な理解力 ・生活や社会の中から技術に関わる問題を見だし課題を設定する力【家庭】 ・家族・家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な基礎的な理解力 ・家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だし課題を設定する力	・自分を見つめ、自分の生き方を模索する力 ・物事を広い視野から多面的・多角的に考える力 ・人間としてよりよい生き方について考える力	・様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要なことを理解し行動する力 ・集団や自己の生活の課題を見だし、解決する力 ・よりよい生活や人間関係を形成するとともに、自己実現を図ろうとする力

# 洋野町立中野中学校 3学年海洋科 「洋野の未来を考えよう ～洋野町の発信・将来の創造～」 40時間

## 【実践のねらい】

洋野町の課題を分析し、修学旅行で見聞きしてきたことと洋野のよさを融合し、洋野の未来の発展について考える。そのために、首都圏の産業から洋野町に役立てられることはないかという視点を持ちながら参加する修学旅行において、地域特産品の販売体験活動や、海に関わる個人テーマを学習する施設見学などを行う。また、他地域出身の洋野町移住者による講演会で、自分たちの住む洋野の魅力や再確認し、地域を誇りに思う心を育む。洋野の未来について考え広く発信することを通し、将来を想像する力を高め、最終的に「洋野について自分たちの言葉で語ることでできる人間」の育成を目指す。

○時数 4月から3月（総合的な学習の時間、特別活動、国語、理科、社会科、英語科、技術・家庭科）

○関連 国語、理科、社会科、英語科、技術・家庭科

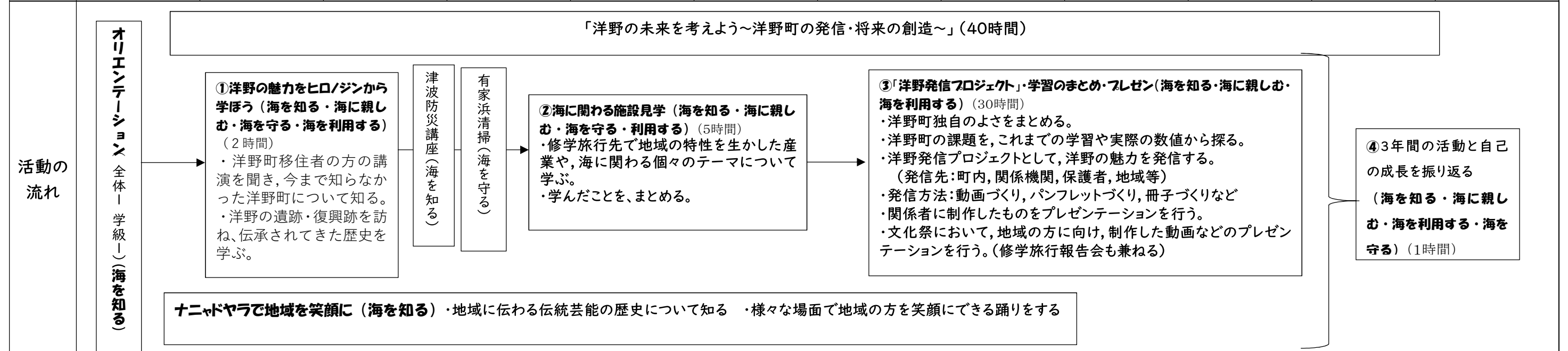
○目標 ・修学旅行で訪れる東京の文化・産業などから、洋野町の町づくりに生かせるものを見つけるとともに、洋野の課題を見付け、地域のよさも生かした洋野の町づくりについて考えることができる。

・洋野のよさを生かした洋野の未来を考え発信することを通し、地域を誇りに思い、将来を創造する能力を高め、洋野の未来についてあらゆる角度から自分の言葉で語るすることができる。

・「海」を視点とし、様々な問題状況の中から、課題を発見・設定し、各教科で身に付けた専門知識や情報を比較したり関連付けたりして問題解決に向けて考えることができる。

主な連携機関	内容
長根商店、種市南漁協、川食、館豆富店	洋野町PR大作戦（修学旅行先）での洋野町物産品の販売
個人テーマに関わる施設	海に関わる個人テーマの追究
洋野町役場	町づくりにかかわる職員との派遣
洋野町立中野小学校	海岸清掃、授業参観、拡大校内研修会
中野ふじの会	伝統芸能「ナニヤドヤラ」の学習会、練習会
中野地区コミュニティ協議会	海岸清掃、地域貢献活動
遺跡群 三陸ジオパーク 大野海成段丘 有家川 漁港	地域の魅力や歴史を伝承するための取材

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	紹介式・始業式 入学式・身体測定 交通安全教室 生徒会入会式 授業参観	運動会 町教研 地区通信陸上 530運動	地区中総体 期末テスト	思春期講演会 地区合唱交流会 県中総体 町民芸術劇場 期末面談 終業式・地区駅伝 高校体験入学	種市夏まつり 始業式 実力テスト 漢字検定 地区陸上大会 身体測定 生徒会役員選挙	英語暗唱大会 地区新人戦 中間・前期テスト 津波防災講座 実力テスト	修学旅行 文化祭 町駅伝大会 子ども議会 県新人戦（テニス） 町音楽発表会 実力テスト	実践区大会 県新人（バド・卓球） 実力テスト 期末テスト 町教研 海洋カンファレンス	実力テスト 期末面談 終業式	子ども議会 始業式 実力テスト 漢字検定 中1英語確認調査 三送会	期末・後期テスト	実力テスト 修了式 卒業式 離任式



各教科で伸ばしたい能力 海洋科学習につながる	【国語】 ・社会生活に必要な国語の知識や技能 ・論理的に考える力や深く共感したり想像したりする力 ・社会生活の中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする力 ・思いや考えを伝え合おうとする力	【社会】 ・日本の国土と歴史、政治、経済、国際関係等に関して理解する力 ・調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる力 ・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題解決に向け選択・判断したりする力 ・思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力	【数学】 ・数量や図形などについての基礎的な概念や原理、法則などの理解 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理したりする力 ・図形の構成要素の関係に着目し、論理的に考察し表現する力 ・事象を相互に関連づけて考察、傾向の推定力 ・調査の方法や結果を批判的に考察する力	【理科】 ・問題を見だし見通しを持って観察、実験を行う力 ・規則性、関係性、共通点や相違点、分類するための観点や基準を見いだして表現する力	【英語】 ・社会的な話題について、短い説明の要点を捉える力 ・社会的な話題について簡単な語句や文で書かれた文章の要点を読み取る力 ・社会的な話題について、考えたことや感じたこと、理由などを述べる力 ・社会的な話題について、考えたことや感じたこと、理由などを書く力。	【音楽】 ・ふさわしい表現を創意工夫したり、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わう力 ・音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しもうとする力	【美術】 ・意図に応じて表現方法を追求し、創造的に表す力 ・美術の観点から、独創的・総合的に物事を考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったりする力 ・主体的に創造活動の喜びを味わい、心豊かな生活を創造する力	【保健体育】 ・運動についての自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力 ・運動における競争や協働の経験を通し、公正、協力、役割を果たす、参画、個々の違いを認める力 ・健康、安全を確保する力	【技術】 ・生活や社会で利用されている事物、情報の技術についての基礎的な理解力 ・生活や社会の中から技術に関わる問題を見だし課題を設定する力【家庭】 ・家族・家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な基礎的な理解力 ・家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だし課題を設定する力	【道徳】 ・自分を見つめ、自分の生き方を模索する力 ・物事を広い視野から多面的・多角的に考える力 ・人間としてよりよい生き方について考える力	【特別活動】 ・様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要なことを理解し行動する力 ・集団や自己の生活の課題を見だし、解決する力 ・よりよい生活や人間関係を形成するとともに、自己実現を図ろうとする力
---------------------------	---	--	--	---	--	---	--	---	--	---	---

# 令和3年度 洋野町立中野中学校 海洋科学習指導案

日 時	令和3年6月4日(金) 5校時
学 級	1年A組(男子14名、女子7名 計21名)
場 所	1年A組教室
授業者	平賀純(T1) 高橋沙季(T2)

- 1 単元名 地域を知ろう ～海と山の関係と地域産業から見える洋野町の課題～
- 2 教材名 「ヒロノジンを知ろう」～自然と歴史から身近な地域の特色を知る～

### 3 単元設定の理由

#### (1) 教材について

学習指導要領「第4章総合的な学習の時間 第1目標」には、「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。」とある。

また、洋野町の海洋教育「ひろの学」の目標は「洋野町の魅力を実感するとともに、進んで海や地域に関わり、海洋の機能と役割、海の歴史や民族、産業に関心を持ち、自分なりに分析したり解釈したりして表現することを通して、生態系のバランスや海洋環境保全などについて考え、直面している危機を回避し、持続的・発展的に未来に向かって、地域や社会とともに取り組もうとする態度を育てる。」、さらに、小中学校9年間のうち「小学校の学習を基礎に地域を考える」ことが、中学校1年生の探求テーマ【種市地区】となっている。

中学1年生の海洋学習において、身近な地域の魅力や課題を題材に、小学校での学習を基礎にしてより深く掘り下げて学習していくことは、持続的・発展的に未来に向かって、地域や社会とともに取り組もうとする態度を育てることや、探求的な学習のよさを理解することにつながるができる教材である。

#### (2) 生徒の実態から

生徒は、小学校の海洋科学習で「～私たちの教室は『洋野の自然と世界一の太平洋～』というテーマのもと、一人ひとりが個人テーマを設定して追究し、卒業論文を作成し発表している。また、海洋教育サミットでの発表では、「洋野のウニが危ない～洋野の宝と恵みを守るために～」と題して、洋野町のウニに関わる課題と解決方法について発表するなど、海洋科学習に対する興味関心や、海洋に関する基礎知識は高いものと考えられる。しかし、生徒のアンケート結果からは、郷土に対して深い愛情を持っているとは感じたいのが現状である。

小学校の学習を基礎とし、洋野町の魅力を実感できる学習をすることによって、郷土に誇りと愛着を持ち、持続的・発展的に未来に向かって、地域や社会とともに取り組みを実行しようと態度を育みたいと考える。

#### (3) 指導観

生徒は洋野町に住んでいながらも、洋野町や身近な地域の魅力については、まだまだ知らないことが多く、魅力が少ないと感じている生徒も少なくない。そこで、特色ある自然や産業をもつ洋野町中野・有家だからこその体験学習を行い、身近な地域には豊かな自然と誇れる産業が多くあることを実感させ、郷土に誇りと愛着を持たせたい。

まずは中学1年生の海洋科学習の導入として、洋野町中野・有家にある自分たちがまだ知らない特色ある豊かな自然や産業等の魅力を知りたいという気持ちを持たせたい。そのために、多くの資

料の提示や資料提示方法の工夫をするなどして、生徒の興味関心を高めたい。

#### 4 単元目標（単元で育成したい資質や能力及び態度）

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
①身近な地域の魅力について、効率的に調べることができる。 ②身近な地域には魅力ある自然や産業があることを理解できる。	③身近な地域の発展の在り方を自分なりに考えたり判断したり表現できる。	④身近な地域の魅力を理解し、身近な地域の良さや発展の在り方を自分なりに考えようとしている。 ⑤身近な地域に、誇りと愛着を持つことができる。

#### 5 単元の評価規準

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①身近な地域の魅力について、効率的に調べることができている。 ②身近な地域の魅力や課題を理解している。	③身近な地域の発展の在り方を自分なりに考えたり判断したり表現したりしている。	④身近な地域の魅力を理解し、身近な地域の良さや発展の在り方を自分なりに考えようとしている。 ⑤身近な地域に、誇りと愛着を持って活動しようとしている。

#### 6 主体的・対話的で深い学びに向けた実現に向けて

第一次	ICT等の工夫した資料提示により、身近な地域にある自然や産業への興味・関心を高める。
第二次	ICTの活用や周囲と関わり合いを通して、身近な地域の魅力について効果的に調べさせる。
第三次	身近な地域への思いや学びたいこと、体験したいことなどを共有し、海洋科学習への興味・関心を高めると同時に、身近な地域への誇りと愛着を深める。

#### 7 単元の指導と評価の計画（オリエンテーション）

時間	○○主な学習活動と■学習課題 ※学習活動を複数記述した場合 重点◎，それ以外○ □小学校の社会的事象の見方・考え方を働かせている姿	指導上の留意点	【評価の観点】 ・評価規準 〔評価方法〕
1	■海洋学習全校オリエンテーションのねらいと流れを確認しよう。 ◎小学校での個人研究発表資料を再確認し、リハーサルを行う。□	・伝え方に留意し、より相手に伝わりやすくするためにはどうしたら良いか考えさせる。	【思考力・判断力・表現力等】 ③身近な地域の発展の在り方を自分なりに考えたり判断したり表現したりしている。 〔観察〕

2	<p>■海洋科学習全校オリエンテーションで、聞く人に伝わりやすく、小学校での個人研究成果発表をしよう。</p> <p>◎小学校での個人研究を、より分かりやすく発表する。□</p>	<p>・より伝わりやすい伝え方を意識させる。</p> <p>・上級生の発表を聞き、中学校の海洋科学習の概要をつかませる。</p>	<p>【思考力・判断力・表現力等】</p> <p>③身近な地域の発展の在り方を自分なりに考えたり判断したり表現したりしている。</p> <p>〔観察〕</p>
3	<p>■海洋科アンケートに答えながら、身近な地域の特色について考えてみよう。</p> <p>◎海洋科アンケートに回答しながら、身近な地域の魅力と課題について考える。</p>	<p>・身近な地域の魅力や課題を、自分なりに考えさせる。</p>	<p>【思考力・判断力・表現力等】</p> <p>③身近な地域の魅力や課題について、自分の考えをまとめることができている。</p> <p>〔観察・アンケート用紙〕</p>
4 本 時	<p>■海洋科では、どのようなことを学習するのだろう。</p> <p>○自分が身近な地域についてどれくらい知っているかを知る。□</p> <p>◎海洋科学習の一人ひとりの目標を共有する。</p>	<p>・身近な地域の魅力を理解させた上で、さらに新たな魅力に触れたいという意欲付けを図る。</p> <p>・まなびポケットの活用</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>④身近な地域の魅力を理解し、身近な地域の発展の在り方を自分なりに考えようとしている。</p> <p>〔観察・ワークシート〕</p>

## 7 本時の指導

### (1) 本時の目標

- ①身近な地域には特色ある自然や産業があることを理解し、海洋科学習に主体的に取り組もうとする意識を持つことができるようにする。【学びに向かう力・人間性等】

### (2) 本時の評価規準

身に付けさせたい 資質や能力	評価規準	支援を要する生徒への手だて
身近な地域の特色ある自然や産業を新たに知り、さらに深く探ろうとする意欲を持つ。	身近な地域の特色ある自然や産業を新たに知り、さらに深く探ろうとする意欲を持つことができる。	興味のある分野から、身近な地域の特色ある自然や産業に関連づけられるよう支援を行う。

(3) 展開案

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の工夫 ☆留意点 ◎評価
導入 5分	1. 小学校での学習を振り返る。	・おおまかに小学校での海洋科学習の内容を確認する。	☆まなびポケット
<b>海洋科ではどんなことを学習するのだろうか？</b>			
展開 40分	2. 事前アンケート結果を共有する。	・身近な地域にはもっと多くの魅力があるのではないか問う。	☆プレゼンテーション
	3. 「ヒロノジン検定」を行う。	・班隊形(対面しない)になり「ヒロノジン検定」問題を解く。	◎①班員と協力し、効率的に調べることができている。 〔観察〕
	4. 答え合わせをする。	・解説を聞きながら、身近な地域の魅力について知らないことが多かったと実感させる。	◎②身近な地域の魅力や課題を理解している。〔ワークシート〕 ☆プレゼンテーション
	5. 海洋科で学習したいことを考える。	・「自分がまだ見たりしていない所があるので行ったり、見てみたい。」 ・「身近な地域に多くの魅力があることが分かったので、詳しく調べていきたい。」	☆まなびポケット ◎身近な地域の特色ある自然や産業を新たに知り、さらに深く探ろうとする意欲を持つことができています。 〔観察・まなびポケット〕
	6. 学習したいことを共有する。		☆発表・画面共有
終末 5分	7. 海洋科学習の主な内容について示す。	・学習したいことが今後の学習内容と繋がっていることを確認し、学習意欲を高める。  ・感想用紙に記入する。	☆プレゼンテーション

(4) 板書計画 (案)

海洋科 6 / 4

海洋科ではどのようなことを学習するのだろうか

事前アンケート 結果	ヒロノジン 検定	海洋科 学習計画	【テレビ】 海洋科学習で 学びたいこと
---------------	-------------	-------------	---------------------------

## 令和3年度 2学年キャリアアップ研修実施要項(最終決定)

### 1 ねらい

- ・他地域と洋野のそれぞれの特性を生かした産業、環境、住、食、産業などについて比較することで、洋野の魅力や課題点を発見し、課題解決の糸口を見つける機会とする。
- ・企業訪問を通して、流通・販売のキャリア教育を学ぶ
- ・集団行動を通して、互いに協力し合いながら主体的に行動できる生徒を育成する。

2 日時 令和3年7月7日(水)・8日(木)

3 参加者 中野中学校 2 学年 男子5名 女子10名 計 15名

### 4 引率者

校 長	佐々木英幸	統 導 長
教 諭	村松 康司	全体計画 交渉
教 諭	高橋 年和	生徒指導
養護教諭	岩崎 翔華	保健安全指導

### 5 研修場所・宿泊場所

〈研修場所〉 岩手大学 杭田教授（人文社会科学部 三陸水産復興・地域貢献人材の育成など）  
南教授（理工学部・街づくりや防災、復興についてなど）

マリオス展望台

盛岡卸売中央市場（鮮魚・青果の流通の仕組み）

いわて生協ベルフ牧野林店（流通や生産されたものが消費者に届くまで）

〈宿泊場所〉 一般財団法人 岩手県青少年会館

盛岡市みたけ三丁目38-20 (019)641-4550

10 人部屋に5名宿泊(男子1部屋、女子2部屋)

### 6 日程

#### 1 日目

学校集合	7:00
学校出発	7:20
岩手大学(杭田教授講話)	10:30~12:00
昼食(岩手大学)	
岩手大学(南教授講話)	13:00~14:30
盛岡オリエンテーリング	
出発地 盛岡城跡公園	15:00~17:30
マリオス展望台	~18:00
夕食	18:30~19:30
班長会議・入浴	20:00~21:00
一日のまとめ	21:30~22:00
就寝	22:00

#### 2 日目

起床	6:00~
朝食	7:00~7:30
出発	8:00
盛岡卸売中央市場	9:00~11:00
昼食(市場食堂)	

いわて生協ベルフ牧野林店	13:00～14:00
盛岡発	14:30
中野中学校着	17:00
解団式	
解散予定	17:30

7 交通手段                   AKB バス(運転手シルバー人材センター竹居さん)

8

持ち物・服装

<服装> 制服

<持ち物> 身分証明書、しおり、筆記用具、二日分の着替え、洗面道具、運動着、マスク、  
 テレホンカード(公衆電話用の10円数枚)、雨具(折りたたみ傘、カッパ)  
 研修の時の交通費・昼食費(3,000 円)、セカンドバック(研修時貴重品やバインダー)  
 必要な人は常備薬 デジカメ(班 1 台) 帽子 長くつ

10 実施のための安全計画

- (1) バスの乗降時に十分注意させる
- (2) 研修場所や公共の場で、その場にふさわしく、落ち着いた行動をするよう指導する。
- (3) 学校と常に連絡がとれるように体制をととのえておく。

11 その他

保険証について

万一、病気や怪我などが発生したときのために、保険証の持参をお願いします。



## 令和3年度 洋野町立中野中学校3学年海洋科学習（追Q）について

### 1. 3学年海洋科テーマ 「洋野の未来を考えよう～洋野町の発信・将来の創造～」

#### 2. ねらい

- (1) 洋野の良さを生かし、洋野の未来を考え発信することを通して、洋野の魅力について、自分たちの言葉で語ることでできる力を培う。〔海に親しむ・海を利用する〕
- (2) 身近な地域の魅力に触れることで郷土への愛情と、故郷の発展に貢献しようとする人材を育成する。〔海を知る・海を守る〕
- (3) 情報手段を効果的に活用して新たな知識や情報などの創造・発信や問題の解決につなげていく能力を育成する。

#### 3. 内 容

##### (1) テーマ

洋野の魅力を実感し、発信しよう！ → 「洋野やってみた動画」作成

- ① 観光・・・洋野の〇〇（レジャー施設とか）を体験してみた。。。
- ② 食・・・洋野の〇〇（特産品）で〇〇を作って食べてみた。。。
- ③ 環境・・・洋野の〇〇（自然、観光名所とか）を清掃してみた。。。

##### (2) 動画完成後（ゴールは…）

文化祭で流す、福祉施設で見てらう、観光協会や役場ホームページに載せてもらう？

##### (3) 動画作成・配信までの流れ

- ① 動画の内容・構成を考える（6月中）
  - ・どんな場所で、何を利用して、何をやるのか。
  - ・どんなことが伝わってほしいのか。
- ② 撮影の準備（6月中）
  - ・撮影計画 ・必要なものの準備
- ③ 撮 影（7月～8月）
  - ・観光 / ( )
  - ・食 / ( )
  - ・環境 / ( )
- ④ 編 集（9月中）

※実際にやってみて、心から楽しんでいる、心から感動している姿を発信したい。  
さらに、洋野町の情報や魅力をしっかり伝えたい！

#### 4. その他

修学旅行…

# 洋野町立大野中学校

# 海洋教育全体計画

## 1 実践の概要・ねらい

洋野町内陸部にある大野地区は太古において三陸の海底にあり、現在、その平坦な地形を活用し、林業・酪農・畑作などを中心に地域の人々の生活が営まれている。海成段丘を利用した牧草地、海から吹いてくるやませの影響で夏でも冷涼な気候であることから盛んとなった椎茸栽培やほうれん草栽培など海との関係は深く、水産資源の利用を含め海から受けている恩恵は大きい。しかし、日常生活の中で海を目にすることは少ないため、海について学んだり考えたりする機会は少ない。そこで、この海洋学習を通し、海に親しみ、海に関わる産業について学ぶ意義は大きく、海の影響で成り立っているこの地場産業を通して、地域の人々の願いや想いを学ばせ、海のすばらしさや良さを体感させたい。

また、「海と人との共生」を考える上で、重要な観点である「防災」についても、震災・復興学習を通して、海のもたらす恐怖・災害の可能性を考え合わせ、生徒の地域における防災・減災の意識を高めさせたい。地域を愛し、地域に貢献できる人材の育成と将来の持続可能な海洋利用に向け、復興・発展を支える人材育成を目指したい。

## 2 実践計画

大テーマ「海と人との共生」			
	1 学年	2 学年	3 学年
① テ ー マ	○震災・復興・防災・海洋について考え学んだことを伝える。 ○地域の産業を知る。	○海に関わる産業を通して働くことの意義について考える。	○海や人との関わりを通して生き方を考える。
② 概 要	【震災・復興・防災学習】 三陸鉄道震災学習列車や宮古市田老地区での「学ぶ防災プログラム」での学習を通して、将来にわたる防災意識を高める。 【大野地区産業体験】 実際に大野地区の地場産業を体験し、地域の人たちの思いや願い、海との関わりを学ぶ。	【海洋関連施設訪問学習】 地域の様々な施設と連携を取りながら、地域と海との関わりについて考える。 【大野地区地域学習】 海成段丘を利用した地域で盛んに行われているスポーツ・パークゴルフ体験を通し、地域の特性を知る。	【防災学習】 海からの恩恵と自分たちの生活の関わりを考え、大きな災害から身を守る方法と海との共生を考える。 【高校体験学習】 種市高等学校海洋科の学習の様子を見学し、自分の将来や働くことの意義を考える。
③ 評 価	・自ら課題を見つけ、課題解決に対して意欲的に活動できたか。 ・防災の知識を深め、自分の生活に役立てようとする意識を高めたか。	・海に関わる職業についての知識を深め、自分の将来の職業について考えることができたか。 ・持続可能な海洋利用について意識できたか。	・海に親しみ、海とともに生きていこうとする意識を高めることができたか。 ・地域を愛し、地域に貢献しようとする態度を育てることができたか。

# 令和3年度 洋野町立大野中学校ひろの学 「大野を知り、世の中に発信する」ストーリーマップ

## 1年「地域の豊かさを受けとめる」

〔実践のねらい〕

洋野町内陸部に位置する大野地区は太古において三陸の海底にあり、現在その平坦な地形を活用し、林業、酪農、畑作などを中心に地域の人々の生活がはぐくまれている。ひろの学を通して、大野地域の産業や沿岸地域との違いを調べたり、実際に体験したりしながら、郷土の特性や大野の良さを改めて知ることをねらいとしている。3年間の系統的な活動を目指すために学期末には、大野の地域における「産業・工芸」、「商業」、「環境」など自分の興味に合わせてカテゴリごとに分かれ、より深い調べ学習へとつなげていく。

○時数 4月から3月（総合的な学習の時間、特別活動、社会科、国語科、英語科）

○関連 社会科、国語科、英語科

○目標 (1)洋野と海と山の関係から大野の良さに気づき、興味関心を深めることができる。

(2)他者と協働しながら、課題設定や課題解決に向けて主体的・対話的に取り組むことができる。

(3)学習、体験活動や発表を通して自己の伸長につなげることができる。

〔主な連携期間と内容〕	
連携期間	内容
八木防災センター	津波防災
三陸鉄道	震災学習列車
宮古市観光文化交流協会	防災・震災学習
北三陸ファクトリー	漁業体験（ウニ加工）
洋野町役場	産業体験

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<b>学校行事</b>	紹介式 始業式 入学式 身体測定 交通安全教室 生徒会入会式	授業参観 避難訓練 全国学調 新入生学調 地区通信陸上 中間テスト	激励会 地区中総体 県通信陸上 期末テスト	町民芸術鑑賞 復興海洋学習 県中総体 期末面談 終業式 地区駅伝	ナニヤドヤラ大会 大野まつり 始業式 実力テスト 身体測定	洋野町英語暗唱 大会 地区新人戦 中間テスト	文化祭 町駅伝大会 県新人戦 町文化祭 中間テスト 英検 IBT	生徒会選挙 避難訓練 町音楽会 期末テスト	総合学力調査 期末面談 生徒総会 終業式	子ども議会 始業式 実力テスト 中1英語確認 調査 三送会	期末テスト	実力テスト 修了式 卒業式 離任式
<b>体験的な活動</b>												
<b>探究的な活動</b>												
<b>表現活動</b>												

# 令和3年度 洋野町立大野中学校ひろの学 「大野を知り、世の中に発信する」ストーリーマップ

## 2年「大野と、それを取りまく地域との比較」 (30時間扱い)

〔実践のねらい〕

「環境」「職業」などのカテゴリにおいて、他地域との共通点や違いを発見し、1年生で学んだ大野地区の良さをさらに探究していく。特に、国が指定する三陸ジオパークとしての側面に着目し、世界有数の化石の宝庫である地域との関わりについて理解を深める。また、職場体験学習を通し、職業における他地域との違いや、働く人々の共通した思いを学んでいく。

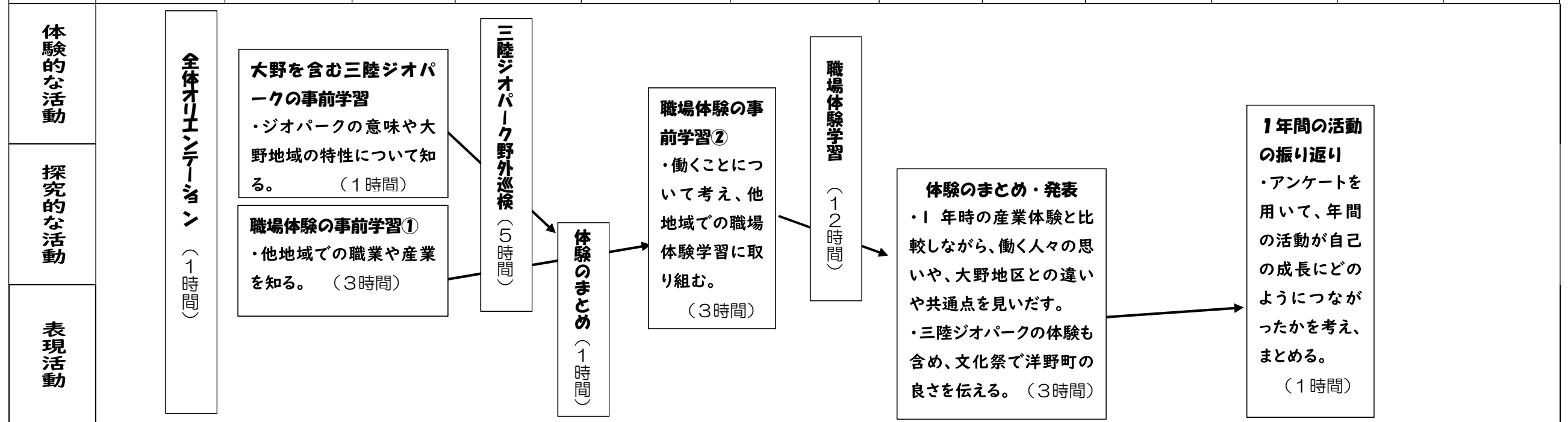
○時数 4月から3月(総合的な学習の時間、特別活動)

○関連 理科、社会科、国語科

- 目標 (1)三陸ジオパークや、職場体験から大野の良さに気づき、興味・関心を深めることができる。  
 (2)他者と協働しながら、課題設定や課題解決に向けて主体的・対話的に取り組むことができる。  
 (3)学習、体験活動や発表を通して自己の伸長につなげることができる。

〔主な連携機関と内容〕	
連携機関	内容
ひろの天文台長 阿部先生 久慈琥珀博物館	三陸ジオパーク野外巡検
他地域の各職場 (工芸関係、1次産業関係、 3次産業関係など)	職場体験学習

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<b>学校行事</b>	紹介式 始業式 入学式 身体測定 交通安全教室 生徒会入会式	授業参観 避難訓練 全国学調 新入生学調 地区通信陸上 中間テスト	激励会 地区中総体 県通信陸上 期末テスト	町民芸術鑑賞 復興海洋学習 県中総体 期末面談 終業式 地区駅伝	ナニヤドヤラ大会 大野まつり 始業式 実力テスト 身体測定	洋野町英語暗唱 大会 地区新人戦 中間テスト	文化祭 町駅伝大会 県新人戦 町文化祭 中間テスト 英検 IBT	生徒会選挙 避難訓練 町音楽会 期末テスト	総合学力調査 期末面談 生徒総会 終業式	子ども議会 始業式 実力テスト 中1英語確認 調査 三送会	期末テスト	実力テスト 修了式 卒業式 離任式



# 令和3年度 洋野町立大野中学校ひろの学 「大野を知り、世の中に発信する」ストーリーマップ

## 3年「地域の未来について考える」

### 〔実践のねらい〕

この県北地区はやませの影響で農業だけでは生計が成り立たず、酪農や村外（旧大野村）への出稼ぎが主な収入源だった。そんな中1979年東北工芸大学の秋岡義夫先生が自作自用ができる自立した地域社会「自立した大野」を創立するという思いで村づくりに取り組んだ。

大野デザインセンター建設し、木工・そば・豆腐・パン・畜産などの工房を作り、技術指導を行ってきた。地域の身近な資源に気付くきっかけになったが、その本当の意味を知らない世代が増えている。また、後継者不足による課題も出ている。市町村統合により、大野独自の魅力を発信する機会も減ってきている。新しい未来を切り開いていく原動力となる中学生には、都市部にはない地域の魅力の理解を深め、これまで地域のために活躍してきた方の思いに触れ、自分たちの世代で何ができるかを考える機会としたい。

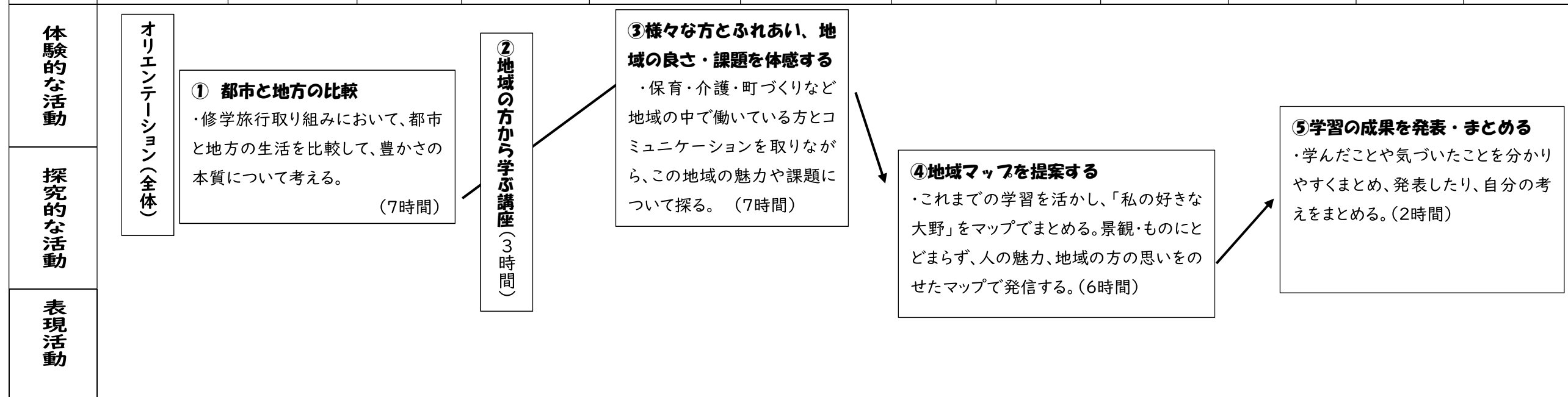
○時数 4月から3月（総合的な学習の時間、特別活動、社会科、国語科、英語科）

○関連 社会科、国語科、英語科

- 目標
- (1) 都市と地方の比較をして、地域の豊かさの本質について考える。
  - (2) 地域コミュニティの再生に向けた取り組みについて考える。
  - (3) 地域の方々や専門機関などと連携・協働し町づくりに参画する。
  - (4) これまでの学習を土台とした地域の魅力を発信する地域マップを提案する。
  - (5) 中学生の視点から地域の未来について団体と意見交換する。

〔主な連携期間と内容〕	
連携期間	内容
八木防災センター	津波防災
三陸鉄道	震災学習列車
宮古市観光文化交流協会	防災・震災学習
北三陸ファクトリー	漁業体験（ウニ加工）
洋野町役場	産業体験

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<b>学校行事</b>	紹介式・始業式 入学式・身体測定 修学旅行 交通安全教室 生徒会入会式	授業参観 避難訓練 全国学調 地区通信陸上 中間テスト	激励会 地区中総体 県通信陸上 期末テスト	町民芸術鑑賞 県中総体 期末面談 終業式 地区駅伝	ナニヤドヤラ大会 大野まつり 始業式 実力テスト 身体測定	洋野町英語暗唱大会 地区新人戦 中間テスト	文化祭 町駅伝大会 町文化祭 中間テスト 英検 IBT	生徒会選挙 避難訓練 町音楽会 期末テスト	総合学力調査 期末面談 生徒総会 終業式	子ども議会 始業式 実力テスト 三送会	期末テスト	実力テスト 修了式 卒業式 離任式



1 ねらい

- (1) 東日本大震災の被災地を訪れ、震災の状況や復興の状況を学習するとともに、防災・復興への意識を高める。
- (2) 現在の被災地の様子や復興への道筋を現場の方々から聞いたり、自分たちの目で確かめたりすることを通し、今後の自己の生き方を考える機会とする。
- (3) 洋野町内の水産業について学び、地域に誇りを持ちたくましく生き抜く力を育成する。
- (4) 集団生活のルールやマナーを身につけ、自分自身の行動に対しての責任を果たそうとする態度を育成する。

2 期 日 令和3年7月7日(水)・8日(木)

3 参加生徒 1 学年生徒 男子20人 女子17人 計37人

4 引率教員 学年主任 筒井 久美 A組担任 旭 紘太  
E組担任 伊藤 瞭 副担任 村上 信明  
支援員 佐々木千穂子 (8日のみ)  
地域コーディネーター 柏木 翔吾 (8日午後のみ)

5 学習内容

- (1) 三陸鉄道北リアス線久慈駅～田野畑駅間「震災学習列車」乗車しての震災・復興学習
- (2) 北山崎断崖クルーズ遊覧船による海洋学習
- (3) 浄土ヶ浜散策による震災・海洋学習
- (4) 宮古市立田老第一中学校震災資料展示室「ボイジャー」見学による震災学習
- (5) 宮古市田老地区での「学ぶ防災」プログラムによる復興・防災学習
- (6) 洋野町八木防災センター見学による震災学習
- (7) 洋野町北三陸ファクトリー見学による海洋学習

6 主な日程

<1日目> 貸切バス(県北バス)・・・ 鉄道— 徒歩 =

学校出発・・・久慈駅着～久地駅発<震災学習列車>—田野畑駅着・・・北山崎断崖クルーズ遊覧船
8:00            8:40            9:00                            10:10                            10:30 ～ 11:20

・・・浄土ヶ浜着<レストランで昼食>浄土ヶ浜発・・・田老一中着・田老一中見学 =道の駅着・学ぶ防災 =
12:20                            13:20                            13:40    13:50～14:20                            14:30 ～15:30

田老道の駅発・・・田野畑道の駅(休憩)・・・大野中着・解散
15:45                            16:10    17:30

<2日目> スクールバス(2台)・・・

学校出発・・・八木防災センター着(センター見学・防波堤見学)・・・北三陸ファクトリー着
8:30            9:00                            9:00 ～ 10:30                            11:00

<養殖場・ウニ牧場見学>    <ウニむき体験>    <昼食・休憩>    <講話>
11:00 ～11:30                            12:00～12:30                            12:30～13:30                            13:30～14:20

北三陸ファクトリー発・・・大野中着・解散
14:30    15:00

## 7 職員の役割分担

役割	担当者	主な活動内容
総務	筒井	全体指導・全体の行動調整・渉外・計画・生活のきまり
生活指導	伊藤・旭	学年執行部指導・行動訓練・生徒指導
学習指導	旭・村上	しおり作成・事前学習・研修中の学習・事後のまとめ
会計	筒井・旭	予算立案・会計処理

## 8 服装・持ち物

(1) 服装：大野中学校指定のジャージ（指定の半袖・ハーフパンツを中に着用する。）

(2) 持ち物

- |  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> ザック   | <input type="checkbox"/> しおり              |
| <input type="checkbox"/> 筆記用具  | <input type="checkbox"/> 腕時計（班で一つ。持っている人） |
| <input type="checkbox"/> 雨具（カッパ又は折り畳み傘）  | <input type="checkbox"/> 帽子               |
| <input type="checkbox"/> ゴミ袋（1～2）  | <input type="checkbox"/> ハンカチ・ティッシュ       |
| <input type="checkbox"/> 汗拭き用タオル   | <input type="checkbox"/> 酔い止め（必要な人のみ）     |
| <input type="checkbox"/> マスク   | <input type="checkbox"/> 消毒用品（全体でも用意します）  |
| <input type="checkbox"/> 2日目の昼食（むいたウニと食べます）  | <input type="checkbox"/> 中ズック（1日目のみ）      |
| <input type="checkbox"/> 飲み物（ペットボトル又は水筒。中身は水かお茶。水筒には記名する）  |   |
| <input type="checkbox"/> 小さめのバック・ナップサックなど（バスから降りるときに使います。しおり（A5サイズ）・筆記用具・水筒やペットボトルなどが入るくらいのもので、ザックに入るもの） |   |

## 9 安全上の注意

事前に以下の事項を指導し、安全に研修を行わせる。

- (1) 教師や講師の指示をよく聞き勝手な行動を取らない。
- (2) バスや列車など、乗り物から手などを出すなど危険な行為をしない。
- (3) 朝に必ず検温し、感染対策をとり、見学地においても手洗いや手指消毒につとめること。
- (4) 見学地では落ち着いた行動を心がけ、不慮の事故や怪我のないようにする。
- (5) 見学地では、許可された以外の場所に立ち入ったり、許可なく展示物等を触ったりしない。
- (6) 雨天決行とするが、豪雨などの天候状況や緊急事態により安全に研修を継続できない場合は、協議の上予定の変更を考える。

## 10 費用

- (1) 研修にかかる費用は、学年集金と補助金から支出。
- (2) 保険は1年間有効の保険に加入予定。

## 11 予算について

支出項目	費用	
貸切バス代金	133,408 円	(県北バス・ガイドさんつき)
震災学習列車	35,300 円	
北山崎クルーズ	46,250 円	((船 1,050 円 + カモメパン 200 円) × 37)
学ぶ防災	4,000 円	
ウニむき体験	18,500 円	(北三陸ファクトリー 500 円 × 37)
1日目昼食	55,500 円	(浄土ヶ浜・瓶ドン定食 1,500 円 × 37)
1日目飲み物代	5,180 円	(140 円 × 37)
予備費	6,862 円	
合計	310,000 円	



 日本 THE NIPPON  
財団 FOUNDATION

海洋教育センター  
CENTER FOR OCEAN LITERACY AND EDUCATION



 笹川平和財団

 海洋政策研究所